

八代平野干拓遺跡群

高田手永旧堤防・四百町開旧堤防

宮地小畑遺跡・宮地観行寺遺跡

— 九州新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査 —

2009

熊本県教育委員会

八代平野干拓遺跡群

高田手永旧堤防・四百町開旧堤防

宮地小畑遺跡・宮地観行寺遺跡

— 九州新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査 —

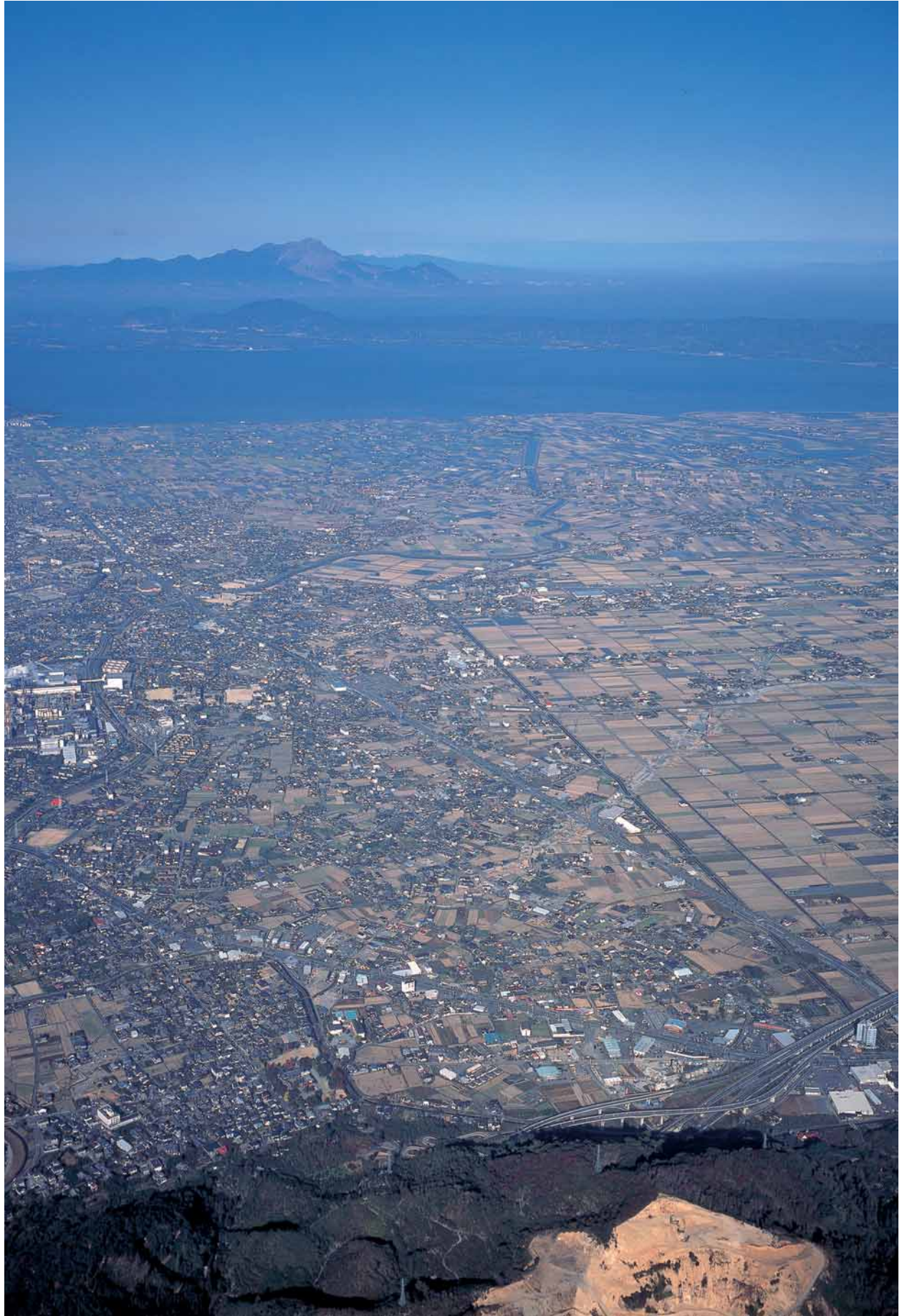
2009

熊本県教育委員会



現在の八代神社（妙見宮）

PL. 2 遺跡の鳥瞰（1）



八代平野から八代海、雲仙普賢岳を望む



九州山地末端部に現れる『日奈久断層線』



宮地小畑遺跡 F・G-14～17Grid



宮地小畑遺跡 F・G-14～17Grid 7層上面(古代)完掘状況



1. 宮地小畑遺跡 F-15.16Grid 西壁土層断面
3. 宮地小畑遺跡 F-12Grid 西壁土層断面

2. 宮地小畑遺跡 G-15Grid 東壁土層断面
4. 宮地小畑遺跡 G-9Grid 礫層断面



宮地観行寺遺跡 1区 7層(古代)遺構検出状況(北より)



宮地観行寺遺跡 2区 8層(古代)遺構検出状況(北西より)

序 文

本書は、九州新幹線建設工事に伴い実施した八代平野干拓遺跡群・宮地小畑遺跡、宮地観行寺遺跡の調査報告書です。

熊本県では平成23年春の九州新幹線開業に向け、平成12年から県内の埋蔵文化財発掘調査に取り組んでおり、平成16年には全線開業に先立ち、新八代・鹿児島中央間の開業を迎えることが出来ました。

ここで報告する八代平野干拓遺跡群は県下でも有数の平野を形づくっている干拓堤防の調査を実施したもので、県内でも類例を見ない調査です。

樋門など主要施設の調査ではありませんが、堤防の成り立ちを考える上で非常に重要な調査結果を得ることができました。

また、「宮地小畑遺跡」、「宮地観行寺遺跡」は近世まで八代の文化の中心であった八代市宮地町に所在する遺跡で、平成13年から14年に本線部で実施した調査分と合わせると、これまで知られていなかった古い宮地町の歴史を物語る資料が多く出土しました。

その結果、八代市域でも遺跡の密度が最も多く重要な地域であることが確認されました。

最後に、本書の刊行にあたって多大のご協力をいただいた関係者、関係機関の方々に深く感謝申し上げます。

平成22年3月31日

熊本県教育長 山本隆生

八代平野干拓遺跡群・宮地小畑遺跡・宮地観行寺遺跡発掘調査報告書

―九州新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査―

目次

第1章 序言	1
1 調査の経緯	1
2 調査組織	3
3 報告書の作成	4
第2章 調査	6
1 調査地域	6
A 遺跡の位置	B 歴史的背景
1 遺跡の地理的環境	
2 八代平野の地下地質	
(1) 堆積物の概要	
(2) 自然科学分析の結果	
(3) 八代平野の形成史	
C 既往の調査	D 測量
2 調査日誌抄	15
A 八代平野干拓遺跡群	B 宮地小畑遺跡
C 宮地観行寺遺跡	
第3章 遺構	20
1 八代平野干拓遺跡群	20
A 調査の方法	B 干拓の沿革
C 遺跡の概要	
2 宮地小畑遺跡	26
A 遺跡の概要	B 出土遺物
3 宮地観行寺遺跡	98
A 遺跡の概要	B 出土遺物
附編	130
新幹線建設に伴う宮地地区の発掘調査がもたらした成果と今後の課題	130
八代宮地地区における自然科学分析業務報告	139

写真図版

報告書抄録

奥付

挿 図 目 次

- Fig.1 熊本県域における地形表記と九州新幹線建設に伴い発掘調査を実施した遺跡
- Fig.2 八代平野干拓遺跡群・宮地小畑遺跡・宮地観行寺遺跡周辺地形図（1/50,000）
- Fig.3 自然科学分析柱状図
- Fig.4 宮地小畑遺跡・宮地観行寺遺跡周辺遺跡図（1/10,000）
- Fig.5 周辺地形図（西海道ライン）（1/2,500）
- Fig.6 四百町開旧堤防座標点
- Fig.7 高田手永旧堤防座標点
- Fig.8 宮地小畑遺跡・宮地観行寺遺跡座標点
- Fig.9 八代平野年代別干拓略図
- Fig.10 高田手永旧堤防検出石敷き平面図と断面図
- Fig.11 四百町開旧堤防検出石敷き平面図と断面図
- Fig.12 土坑SK003・SK004平面図と断面図
- Fig.13 土坑SK029平面図と断面図
- Fig.14 宮地小畑遺跡5層上面（古代1）遺構図
- Fig.15 土坑SK030平面図と断面図
- Fig.16 宮地小畑遺跡7層上面（古代2）遺構図
- Fig.17 土坑SK031・SK032平面図と断面図
- Fig.18 土坑SK033平面図と断面図
- Fig.19 土坑SK035・SK036平面図と断面図
- Fig.20 土坑SK044平面図と断面図
- Fig.21 土坑SK048平面図と断面図
- Fig.22 墓ST001平面図と断面図
- Fig.23 宮地小畑遺跡土層推移模式図
- Fig.24 宮地小畑遺跡8層上面（古代3）遺構図
- Fig.25 土坑SK051・SK053・SK054平面図と断面図
- Fig.26 土坑SK051・SK053・SK054出土遺物実測図
- Fig.27 宮地小畑遺跡調査区土層断面図
- Fig.28 溝SD002出土遺物実測図
- Fig.29 土坑SK001・SK007・SK008・SK011・SK012・SK016・SK018・SK019・SK023出土遺物実測図
- Fig.30 土坑SK027・SK029出土遺物実測図
- Fig.31 土坑SK030出土遺物実測図
- Fig.32 土坑SK033出土遺物実測図
- Fig.33 土坑SK035出土遺物実測図
- Fig.34 土坑SK036出土遺物実測図
- Fig.35 土坑SK037・SK038・SK039・SK040出土遺物実測図
- Fig.36 土坑SK041・SK043出土遺物実測図
- Fig.37 土坑SK044出土遺物実測図
- Fig.38 土坑SK045出土遺物実測図
- Fig.39 土坑SK046・SK047・SK049・SK050出土遺物実測図
- Fig.40 土坑SK051出土遺物実測図－①
- Fig.41 土坑SK051出土遺物実測図－②
- Fig.42 土坑SK053・SK054・SK055・SK056出土遺物実測図
- Fig.43 墓ST001出土遺物実測図
- Fig.44 不明遺構SX001出土遺物実測図－①
- Fig.45 不明遺構SX001出土遺物実測図－②
- Fig.46 不明遺構SX001出土遺物実測図－③
- Fig.47 不明遺構SX001出土遺物実測図－④
- Fig.48 不明遺構SX001出土遺物実測図－⑤
- Fig.49 不明遺構SX001出土遺物実測図－⑥
- Fig.50 不明遺構SX002出土遺物実測図－①

挿 図 目 次

- Fig.51 不明遺構SX002出土遺物実測図－②
Fig.52 調査区出土遺物実測図－①
Fig.53 調査区出土遺物実測図－②
Fig.54 調査区出土遺物実測図－③
Fig.55 調査区出土遺物実測図（須恵器）－④
Fig.56 調査区出土遺物実測図－⑤
Fig.57 調査区出土遺物実測図－⑥
Fig.58 調査区出土遺物実測図－⑦
Fig.59 調査区出土遺物実測図－⑧
Fig.60 調査区出土遺物実測図－⑨
Fig.61 調査区出土遺物実測図（土師器へら書き）－⑩
Fig.62 調査区出土遺物実測図（土師器へら書き）－⑪
Fig.63 調査区出土遺物実測図（須恵器・墨書・へら書き）－⑫
Fig.64 調査区出土遺物実測図－⑬
Fig.65 調査区出土遺物実測図（平瓦）－⑭
Fig.66 調査区出土遺物実測図（平瓦・丸瓦）－⑮
Fig.67 土坑SK005・SK012・SK026出土遺物実測図（銅銭）
Fig.68 調査区出土遺物実測図（鉄製品）－⑯
Fig.69 調査区出土遺物実測図（紡錘車）－⑰
Fig.70 調査区出土遺物実測図（石製品）－⑱
Fig.71 調査区出土遺物実測図（トチン）－⑲
Fig.72 宮地観行寺遺跡遺構配置図（1/500）
Fig.73 宮地観行寺遺跡 1区 5層（古代）遺構配置図
Fig.74 宮地観行寺遺跡 1区 7層（古代）遺構配置図
Fig.75 宮地観行寺遺跡 2区 4層遺構配置図
Fig.76 宮地観行寺遺跡 2区 7層（古代）遺構配置図
Fig.77 宮地観行寺遺跡 2区 8層遺構配置図
Fig.78 2区溝SD002平面図と断面図
Fig.79 2区溝SD004平面図と断面図
Fig.80 2区土坑SK002平面図と断面図
Fig.81 2区土坑SK003平面図と断面図
Fig.82 宮地観行寺遺跡 1区・3区土層断面図および土層推移模式図
Fig.83 宮地観行寺遺跡 2区土層断面図および土層推移模式図
Fig.84 1区土坑SK001・SK003・SK004出土遺物実測図
Fig.85 1区 3層・4層・5層・6層出土遺物実測図
Fig.86 1区F-27Grid 4層出土遺物実測図（中空円面硯）
Fig.87 1区 4層・5層出土遺物実測図
Fig.88 2区溝SD003出土遺物実測図
Fig.89 2区土坑SK001出土遺物実測図
Fig.90 2区土坑SK002出土遺物実測図－①
Fig.91 2区土坑SK002出土遺物実測図－②
Fig.92 2区土坑SK003出土遺物実測図
Fig.93 2区土坑SK004・SK005・SK013・SK014・SK015出土遺物実測図
Fig.94 2区調査区出土遺物実測図－①
Fig.95 2区調査区出土遺物実測図－②
Fig.96 3区出土遺物実測図

図 版 目 次

- Tab.1 八代・水俣地区調査一覧
Tab.2 周辺遺跡一覧
Tab.3 八代平野干拓遺跡群・宮地小畑遺跡・宮地観行寺遺跡4級基準点測量成果
Tab.4 不知火干拓の沿革―①
Tab.5 不知火干拓の沿革―②
Tab.6 宮地小畑遺跡出土遺物観察表―①
Tab.7 宮地小畑遺跡出土遺物観察表―②
Tab.8 宮地小畑遺跡出土遺物観察表―③
Tab.9 宮地小畑遺跡出土遺物観察表―④
Tab.10 宮地小畑遺跡出土遺物観察表―⑤
Tab.11 宮地小畑遺跡出土遺物観察表―⑥
Tab.12 宮地観行寺遺跡出土遺物観察表―①
Tab.13 宮地観行寺遺跡出土遺物観察表―②

写 真 目 次

- PL.1 現在の八代神社（妙見宮）
PL.2 八代平野から八代海、雲仙普賢岳を望む
PL.3 九州山地末端部に現れる『日奈久断層線』
PL.4 宮地小畑遺跡 F・G-14～17Grid
PL.5 宮地小畑遺跡 F・G-14～17Grid 7層上面（古代）完掘状況
PL.6 1. 宮地小畑遺跡 F-15・16Grid西壁土層断面 2. 宮地小畑遺跡 F-15Grid東壁土層断面
3. 宮地小畑遺跡 F-12Grid西壁土層断面 4. 宮地小畑遺跡 G-9Grid礫層断面
PL.7 宮地観行寺遺跡1区7層（古代）遺構検出状況（北より）
PL.8 宮地観行寺遺跡2区8層（古代）遺構検出状況（北西より）
PL.9 1. 四百町開旧堤防全景（上空より） 2. 四百町開旧堤防石積み検出状況
PL.10 1. 宮地小畑遺跡 E・F-11・12Grid 5層遺構検出状況
2. 完掘状況
PL.11 1. 宮地小畑遺跡 溝SD001完掘状況
2. 宮地小畑遺跡 F・G-14・15Grid 5層遺物出土状況
3. 宮地小畑遺跡 土坑SK003・SK004遺物出土状況
4. 宮地小畑遺跡 G-15Grid 5層遺構完掘状況
PL.12 1. 宮地小畑遺跡 7層遺構検出状況
2. 宮地小畑遺跡 土坑SK029遺物出土状況
3. 宮地小畑遺跡 土坑SK030・SK033・SK034遺構検出状況
4. 宮地小畑遺跡 土坑SK031・SK032完掘状況
PL.13 1. 宮地小畑遺跡 土坑SK030検出調査状況 2. 宮地小畑遺跡 土坑SK030土層断面
3. 宮地小畑遺跡 土坑SK033遺物出土状況 4. 宮地小畑遺跡 土坑SK033遺物出土状況
PL.14 1. 宮地小畑遺跡 土坑SK035遺物出土状況 2. 宮地小畑遺跡 土坑SK036遺物出土状況
3. 宮地小畑遺跡 土坑SK044遺物出土状況 4. 宮地小畑遺跡 土坑SK048完掘状況
PL.15 1. 宮地小畑遺跡 墓ST001検出調査状況 2. 宮地小畑遺跡 墓ST001遺物出土状況
3. 宮地小畑遺跡 墓ST001、Pit2完掘状況 4. 宮地小畑遺跡 不明遺構SX001遺物出土状況
PL.16 宮地小畑遺跡 7層上面（古代）完掘状況
PL.17 宮地小畑遺跡 土坑SK051～SK054 1. 検出状況 2. 完掘状況
PL.18 宮地小畑遺跡 G-14・15Grid土層断面、検出状況
PL.19 1. 宮地観行寺遺跡1区4層遺構完掘状況
2. 宮地観行寺遺跡1区5層遺構検出状況
3. 4. 宮地観行寺遺跡1区土坑SK003遺物出土状況

写真目次

- PL.20 1. 宮地観行寺遺跡1区土坑SK004土層断面
2. 宮地観行寺遺跡1区5層遺物出土状況(中空円面硯)
3. 宮地観行寺遺跡1区7層検出状況
4. 宮地観行寺遺跡1区7層完掘状況
- PL.21 宮地観行寺遺跡2区4層遺構 1. 検出状況 2. 完掘状況
- PL.22 宮地観行寺遺跡2区溝SD002 1. 2. 礫出土状況 3. 土層断面 4. 完掘状況
- PL.23 宮地観行寺遺跡2区土坑SK002 1. 3. 遺物出土状況 2. 土層断面 4. 完掘状況
- PL.24 1. 宮地観行寺遺跡2区溝SD004礫列出土状況
2. 宮地観行寺遺跡2区溝SD004礫出土・SK009完掘状況
3. 宮地観行寺遺跡2区作業風景
4. 宮地観行寺遺跡2区古代完掘状況
- PL.25 宮地観行寺遺跡2区溝SD004 1. 検出状況 2. 土層断面 3. 礫出土状況 4. 完掘状況
- PL.26 1. 宮地小畑遺跡溝SD002出土遺物 2. 宮地小畑遺跡土坑SK027出土遺物
- PL.27 1. 宮地小畑遺跡土坑SK030出土遺物 2. 宮地小畑遺跡土坑SK033出土遺物
- PL.28 1. 2. 宮地小畑遺跡土坑SK035出土遺物
- PL.29 1. 宮地小畑遺跡土坑SK036出土遺物 2. 宮地小畑遺跡土坑SK044出土遺物
- PL.30 1. 宮地小畑遺跡土坑SK027出土遺物 2. 宮地小畑遺跡土坑SK050出土遺物
3. 宮地小畑遺跡土坑SK036出土遺物 4. 宮地小畑遺跡土坑SK054・SK055出土遺物
- PL.31 1. 宮地小畑遺跡土坑SK051出土遺物 2. 宮地小畑遺跡土坑SK045出土遺物
3. 宮地小畑遺跡土坑SK056出土遺物 4. 宮地小畑遺跡土坑SK054出土遺物
- PL.32 1. 宮地小畑遺跡土坑SK041(80)・不明遺構SX001出土遺物
2. 宮地小畑遺跡不明遺構SX001出土遺物
- PL.33 1. 2. 宮地小畑遺跡不明遺構SX001出土遺物
- PL.34 1. 宮地小畑遺跡不明遺構SX001出土遺物 2. 宮地小畑遺跡不明遺構SX002出土遺物
- PL.35 1. 宮地小畑遺跡不明遺構SX002出土遺物 2. 宮地小畑遺跡不明遺構SX001出土遺物
3. 宮地小畑遺跡調査区出土遺物 4. 宮地小畑遺跡F・G-13Grid出土遺物
- PL.36 1. 宮地小畑遺跡調査区出土遺物(転用硯)
2. 宮地小畑遺跡土坑SK030(37)・調査区出土遺物(瓦)
- PL.37 1. 宮地小畑遺跡調査区出土遺物(鉄製品)
2. 宮地小畑遺跡土坑SK012・SK026出土遺物
3. 宮地小畑遺跡土坑SK005出土遺物
4. 宮地小畑遺跡土坑SK019出土遺物(軒丸瓦)
5. 宮地小畑遺跡調査区出土遺物(鉄滓)
6. 宮地小畑遺跡調査区出土遺物(甑、胴部)
- PL.38 1. 宮地小畑遺跡調査区出土遺物(紡錘車) 2. 宮地小畑遺跡調査区出土遺物(砥石)
- PL.39 1. 宮地小畑遺跡調査区出土遺物(土錘) 2. 宮地小畑遺跡調査区出土遺物
- PL.40 1. 宮地観行寺遺跡1区土坑SK001(1)・調査区出土遺物
2. 宮地観行寺遺跡1区土坑SK003出土遺物
- PL.41 1. 宮地観行寺遺跡1区土坑SK003出土遺物
2. 宮地観行寺遺跡1区調査区出土遺物(中空円面硯)
3. 宮地観行寺遺跡2区土坑SK002・SK016出土遺物
- PL.42 1. 2. 宮地観行寺遺跡2区土坑SK003出土遺物
3. 宮地観行寺遺跡2区土坑SK005出土遺物
4. 宮地観行寺遺跡2区土坑SK002出土遺物
5. 宮地観行寺遺跡3区調査区出土遺物
- PL.43 参考資料(江上コレクションより八代市立博物館未来の森ミュージアム所蔵)
- PL.44 宮地小畑遺跡出土遺物(へら書き)ー①
- PL.45 宮地小畑遺跡出土遺物(へら書き・へら記号)ー②
- PL.46 宮地小畑遺跡出土遺物(へら書き)ー③
- PL.47 1. 宮地小畑遺跡出土遺物(墨書)
2. 3. 宮地観行寺出土遺物(へら書き・へら記号)
- PL.48 宮地小畑遺跡出土遺物(霊符焼、窯道具)

八代平野干拓遺跡群・宮地小畑遺跡・宮地観行寺遺跡 発掘調査報告書

— 九州新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査 —

第1章 序言

本書は、熊本県教育委員会が九州新幹線建設工事に先立ち独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構鉄道建設本部九州新幹線建設局（旧：日本鉄道建設公団、以下、「鉄道・運輸機構」という。）より依頼を受け、熊本県八代市宮地町から宇城市松橋町までに所在する、八代平野干拓遺跡群（四百町開旧堤防、高田手永旧堤防）及び宮地小畑遺跡・宮地観行寺遺跡の発掘調査成果をとりまとめたものである。

干拓遺跡群は、急峻な九州山地を源とする多くの小河川から運ばれる堆積物により、長期間にわたり自然の作用によって八代海に向って形成された干潟を人工的に仕切り、その内部を淡水化し耕作地を広げると言う新たな新田開発により建設された潮受け堤防の一部である。干拓は藩による積極的な推進により干拓面積の大型化が始まり、飛躍的に耕作地が広がった。それを支えたのが「肥後の石工」と呼ばれる石橋を中心に高度な規矩術を有する技術集団の存在であった。彼らは、干拓で最も重要とされる樋門を始め潮受け堤防の建設に携わり、事業を推進する上で重要な一端を担う事となった。

現在、当時の干拓潮受け堤防や樋門は、生活道路や住宅地として使用され、当時の姿を残しているものは少ない。

今回の本地域における新幹線建設工事は、新八代駅を発し八代平野を北上する間は主に干拓地上を北上し、宇土半島基部を経由して熊本駅に至るという経路で計画・施工された。そこで、古い干拓の単位となる潮受け堤防の一部が工事により破壊されることとなったため調査を実施した。

遺跡名は当時の名称ではなく、通称であったり、現在の行政区名を取り入れたものであり、現在は通称として呼称されているものである。

宮地小畑遺跡・宮地観行寺遺跡は八代市宮地町に所在し、九州三大祭り²で、熊本県指定無形重要文化財に指定されている「妙見祭」を奉納する妙見宮（通称妙見さん）の南側に位置する。

現在の社殿は近世に遷宮されてきたもので、古代には背後の八丁山中に上宮が置かれ、中世には現在の社殿の南側を西流する水無川上流部の妙見町に置かれていたとされる。上宮が置かれていた山中には現在も布目瓦が散布しており、水場と伝えられる場所では湧水を見ることができる。宮地小畑遺跡・宮地観行寺遺跡は、本来は一つの広がりとしてとらえることができるが、便宜上字名を境に遺跡名を分けて使用している。

1 調査の経緯

宮地小畑遺跡・宮地観行寺遺跡が存在する宮地町町内からは、古代の瓦や土器が散布することは、以前から一部では知られていたが、中世から現在に至るまで妙見宮を中心とする町屋の広がりがそれらを厚く覆い、大規模な開発もなかったことから、広く周知の埋蔵文化財包蔵地として知られることは少なかった。

近年、八代市妙見町在住の故 江上利勝氏が報告されていた「観行寺跡出土瓦」等が、埋蔵文化財包蔵地「観行寺跡」として遺跡地図へ登録され周知されたことから、本事業における工事着工前の埋蔵文化財発掘調査へと繋がった。

また、調査地を含む球磨川北岸域には、『延喜式』『和妙抄』『駅路通』等に記載される「西海道」が南北に縦貫しており、豊向一片野一朽網一佐職一水俣一仁主と続く線上に位置し、片野駅家推定地に比定されている地域³でもある。

1 江戸時代末期から明治中期まで県内を中心に数多くの眼鏡橋を架けた石工集団

2 九州三大祭りは「長崎くんち」（長崎市諏訪神社）、「博多祇園山笠」（福岡市宮崎宮）、「妙見宮大祭」（八代市妙見宮）を言う。

3 熊本県文化財調査報告第45集『興善寺Ⅰ』熊本県教育委員会 1980

九州新幹線事業は、平成3年9月に新八代～西鹿児島（現鹿児島中央）間が起工したのを受け最終的に路線が決定し、八代市宮地町においても工事計画が公表された。八代市城では、2000年（平成12年）8月から西片町において「西片百田遺跡」の調査を皮切りに、断続的に調査に着手した。

宮地町では、平成13年10月に本線部調査で宮地観行寺遺跡に最初に着手し、平成14年2月から宮地小畑遺跡調査（本線部）を実施している。

No.	遺跡名及び面積	所在地	調査期間	調査員	遺跡の時代	遺跡の性格	報告書番号
1	長野遺跡(本) 1,500㎡(×2面)	水俣市長野町	H9.12.8～H10.3.31	村崎 孝宏 中川 裕二	縄文・弥生 中世	水俣川左岸、段丘上に所在する集落跡	第189集
2	古麓城跡(本) 3,800㎡	八代市古麓町	H12.12.5～H13.5.31	出田 久齊 米村 大	中世	大型五輪塔を中心とする墓域	第227集
3	古麓城跡(本) 2,200㎡	八代市古麓町	H13.10.9～H14.4.30	古城 史雄・水野 哲郎 青柳 博晃・松尾 茂 宮崎 拓	中世	中世古麓城の郭の一部	
4	古麓能寺遺跡(本) 4,528㎡(×3面)	八代市古麓町字能寺	H13.4.28～H14.3.20	青木 勝士 松尾 茂	古代・中世 近世	水無川左岸に位置し、古代は集落跡、中世は寺院跡(能寺)	第216集
5	古麓城跡遺跡(本) 505㎡(×2面)	八代市古麓町低崎	H14.1.8～H14.4.20	青木 勝士・米村 大 松尾 茂・本田 麻紀	古代・中世	水無川に接し位置する。古代は集落縁辺部、中世は古麓城跡城下集落域	
6	宮地観行寺遺跡(本) 1,802.7㎡(×4面)	八代市宮地町 字観行寺	H13.10.9～H14.6.30	山城 敏明・池田 朋生 角田 賢二・宇田 員将 豊原加奈子・濱田 教晴	古代・中世 近世	水無川右岸に位置し掘立柱建物、石敷遺構等、官衙的性格を有すると考えられる遺構を多数検出。併せて川に近い場所から小鍛冶に伴う特殊遺構を検出。また、古墳時代の竪穴住居跡を検出し、西側に位置する階下古墳群等との関連も考えられる。	第235集
	宮地観行寺遺跡(側) 352.4㎡(×3面)		H15.5.6～H15.9.30	高田 英樹、宇田 員将		1区では包含層中より、中空円面磁が出土。本線44・45区に隣接する2区からは小鍛冶跡周辺部と考えられる溝、土坑等を多く検出。	第254集
7	宮地小畑遺跡(本) 1,072.1㎡(×4面)	八代市宮地町 字小畑	H14.2.1～H14.6.3	坂田 和弘・水野 哲郎 坂口圭太郎・宮部 武典 長谷部善一・中村 幸弘 米村 大・宇田 員将 上高原 聡・和田 敏郎 内田 成香・本田 麻紀 洲崎 明子・村中 智絵	古墳・古代 中世・近世 近代	妙見宮参道から小畑道間の8本の橋脚部調査。29区で中世貝層下面から埋葬された犬を3頭分検出。34区から35区は8世紀第三四半期から9世紀第二四半期の遺物を中心とする掘立柱建物跡を多数検出。出土遺物中にはへら書き土器が多数出土。官衙または馬駅の可能性あり。	第235集
	宮地小畑遺跡(側) 1,530.4㎡(×3面)		H15.4.1～H15.10.12	長谷部善一、和田 敏郎 三宅 一生		本線部の調査結果(主に土層)を検証する調査を実施することができた。 8世紀第三四半期から9世紀第二四半期の出土遺物の良好な一括資料が出土。	第254集
8	宮地池尻遺跡(本) 597㎡(×3面)	八代市宮地町字池尻	H14.1.31～H14.4.30	八代市教委(民間委託)	古墳～中世	—	
9	キリシタン寺院跡(本) 635㎡(×3面)	八代市宮地町 字五反田・池尻	H13.11.26～H14.5.31	八代市教委(民間委託)	古代～近世	—	
10	宮地年神遺跡(本) 912㎡(×3面)	八代市宮地町 字年神・源八	H13.11.1～H14.5.31	八代市教委(民間委託)	弥生～中世	—	
11	中片小路遺跡(本) 3,800㎡(×2面)	八代市中片町字小路	1・2区 H12.8.1～H13.3.31 3・4区 H13.10.1～H14.2.28	出田 久齊・米村 大 坂口圭太郎・森 貴史	古墳・中世 近世	近世の大型掘立柱建物を始め、中世掘立柱建物等を検出。	第228集
	中片小路遺跡(側) 1,200㎡(×3面)		H14.12.4～H15.3.12	長谷部善一・高田 英樹 松尾 茂・村中 智絵		江戸後期から昭和30年代までの土葬木棺墓、甕墓の調査、中世の流路その周囲に広がる土坑、溝の調査、最下層で古墳時代の東西に伸びる大型溝を検出。	第224集
12	西片稲村遺跡(本) 2,800㎡	八代市西片町字稲村	H13.4.15～H13.9.28	坂口圭太郎・森 貴史	弥生・古代 中世	沖積平野上へ伸びる低丘陵上に位置する集落跡。	第228集
13	西片百田遺跡(本) 6,282㎡(×2面)	八代市西片町字百田	H12.7.1～	長谷部善一・上高原 聡 荒木 隆宏・緒方 智子 洲崎 明子	弥生・古墳	沖積平野上に位置する弥生後期前半から古墳時代前期に至る。6区で検出した浅い枝状の溝群は古墳時代の水田跡の可能性あり。また、土坑SK000出土古墳時代前期土器は、壺内部に入れ子状に小型丸底壺を有し、埋納遺構の可能性あり。	第242集
14	上日置女夫木遺(本)	八代市上日置町 字女夫木	H13.10.1～H14.1.31	中村 幸弘・高谷 和生 後藤貴美子・古閑 敬士 濱田 教晴	弥生前期・ 後期	沖積平野上にあり、微高地上に所在する集落及び墓域。 方形・円形周溝墓の調査を実施。下層に弥生前期の集落を確認。	第236集
15	島田遺跡(本) 1,530.4㎡(×2面)	八代市島田町	H13.8.6～H14.3.29	野田 英治・西山由美子 内田 成香	弥生前期・ 後期	刻目突帯文を口縁及び胴部に張り巡らす鉢型土器を主体とした遺物を出土する住居跡群を検出。また、掘立柱建物部材である鼠返し等も出土。	第241集

※遺跡名横に記す、(本)(側)はそれぞれ、本線部調査、側道部調査を示す。

Tab.1 八代・水俣地区調査一覧

2 調査組織

今回報告する調査報告は、八代市鏡町に所在する干拓旧堤防跡及び、八代市宮地町における新幹線本線及び新幹線本線側道、高架下横断道路建設のため実施した埋蔵文化財発掘調査報告である。

堤防名称及び遺跡名称は、「高田手永¹旧堤防」、「四百町開旧堤防」はそれぞれ、干拓を実施し入植した住民の出身地名、干拓により開かれた面積を表す名称等を取り入れ、当時から付されていた名称を継承し遺跡名としている。

「宮地小畑遺跡・宮地観行寺遺跡」は現在、当該地域に残されている行政区名をもとに大字名に小字名を組み合わせ、遺跡名称としている。

また、新幹線本線に伴い実施した調査分を「宮地小畑遺跡（本線）」「宮地観行寺遺跡（本線）」とし、今回実施した側道部分を「宮地小畑遺跡（側道）」「宮地観行寺遺跡（側道）」と区別し表記している。

以下、各々の発掘調査・整理業務担当の責任者と調査担当者を掲げる。

(*は調査非常勤職員、**は整理非常勤職員)

熊本県教育委員会

【発掘調査】 2003年（平成15年）

調査責任者	文化課長	成瀬烈大
調査総括	教育審議員（課長補佐） 主幹（文化財調査第1係長）	島津義昭 高木正文
調査担当	主任学芸員 主任主事 調査員	長谷部善一 高田英樹 宇田員将*、和田敏郎*、三宅一生*
専門調査員	熊本県立大津養護学校長	松本健郎

【整理業務】 2009年（平成21年）

整理責任者	文化課長	米岡正治
整理総括	課長補佐 文化財調査第1係長	木崎康弘 村崎孝宏
整理担当	参事（文化財資料室長） 参事 非常勤職員 整理作業員（二次整理）	坂田和弘 長谷部 善一 唐木ひとみ**、稲葉貴子** 土田みどり、中村直美

調査協力者

牛嶋 茂、杉本和樹、吉永 明、米崎 寿、坂井義哉、猿渡真弓、鳥津亮二、西山由美子
荒木隆宏、藤川智絵、上高原 聡、米村 大、角田賢二、青木勝士、池田朋生、坂本千恵

調査協力機関

独立行政法人文化財機構 文化財研究所 奈良文化財研究所

熊本県立装飾古墳館

八代史談会、八代市教育委員会、八代市立博物館未来の森ミュージアム、宇城市教育委員会
大牟田市教育委員会、みやま市教育委員会

1 肥後細川藩では、村落の単位を「手永」と称した。

3 報告書の作成

報告書の作成は、熊本県文化財資料室にておこなった。八代平野干拓遺跡群は2008年に整理・原稿作成を実施し、2009年に編集した。

宮地小畑遺跡・宮地観行寺遺跡は、発掘調査終了後の2005年度に一次・二次整理を、2009年に原稿の作成及び編集をおこなった。出土遺物については、熊本市教育委員会文化財課の網田龍生氏、美濃口雅朗氏により御指導頂いた。篤く感謝の意を表したい。

宮地小畑遺跡・宮地観行寺遺跡に関する報告中には、発掘調査を実施した当時、主任主事として調査を担当した高田英樹、当県非常勤職員（調査員）であった宇田員将（現：株式会社埋蔵文化財サポートシステム）が執筆した分を含む。内容については、長谷部善一、高田英樹、宇田員将で当時、討議した内容を踏まえ、主に長谷部、宇田が執筆し、一部を高田が担当している。

また、八代平野干拓遺跡群は坂口圭太郎（現：県立装飾古墳館）執筆の原稿に、長谷部が加筆・修正して掲載した。編集は長谷部が行った。

1. 本書の執筆分担は、以下のとおりである。

第1章 序言 長谷部

第2章 調査 長谷部

- 1 八代平野干拓遺跡群 坂口
- 2 宮地小畑遺跡 長谷部・高田
- 3 宮地観行寺遺跡 宇田・高田・長谷部

第3章 考察 宇田・長谷部

2. 八代平野干拓遺跡群の遺構写真は主に調査担当であった青柳博晃、坂口が撮影した。

宮地小畑遺跡・宮地観行寺遺跡については、遺構の写真撮影を宇田、長谷部が担当し、遺物写真撮影及び印刷用原稿を西大寺フォトに委託した。

3. 八代平野干拓遺跡群の報告は平成20年度に坂口の主導のもと、非常勤職員の補助を受け作成した。

宮地小畑遺跡・宮地観行寺遺跡の遺物実測図は、唐木ひとみ・稲葉貴子が担当し、土田みどりが補助をした。製図は株式会社埋蔵文化財サポートシステム熊本支店に委託し、Adobe Illustrator CS3を用いデジタルトレースを実施した。掲載に際しての編集作業は同ソフトを使用し、唐木・稲葉がレイアウトをおこなった。

4. 遺構図の座標値は、平面直角座標系Ⅱ系による。高さは東京湾平均海面を基準とする海拔高であらわす（日本水準点：H=24.4140m）。なお、2002年4月1日からの改正測量法の施行にともない、日本測地系から世界測地系へ移行することとなったが、九州新幹線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査はすべて日本測地系になっているので、本書の平面座標も日本測地系で表示した。

5. 発掘遺構は、遺構の種別を示す以下の記号と、一連の番号の組み合わせにより表記した。

SA（塀） SB（建物） SC（回廊） SD（溝） SE（井戸） SF（道路） SG（池） SI（竪穴住居跡）
SK（土坑） SP（柱穴） SS（足場） SX（その他）

※本遺跡で、一部検出していない遺構もあるが、記号は表記している。

※本表記を用いるのは本報告書では、宮地小畑遺跡・宮地観行寺遺跡のみである。

6. 遺物観察表に記している色調については「新版標準土色帖」（1999）、DICカラーガイド「中国の伝統職」（第2版）、標準色カード230©日本色研1988を使用した。

7. 本書中での人名はすべて敬称を省略させていただいた。

8. 註は、各頁ごとの下段に記している。

9. 本書の編集は、熊本県文化財資料室長 坂田和弘（平成21年度）の指導のもとに、長谷部善一がおこなった。

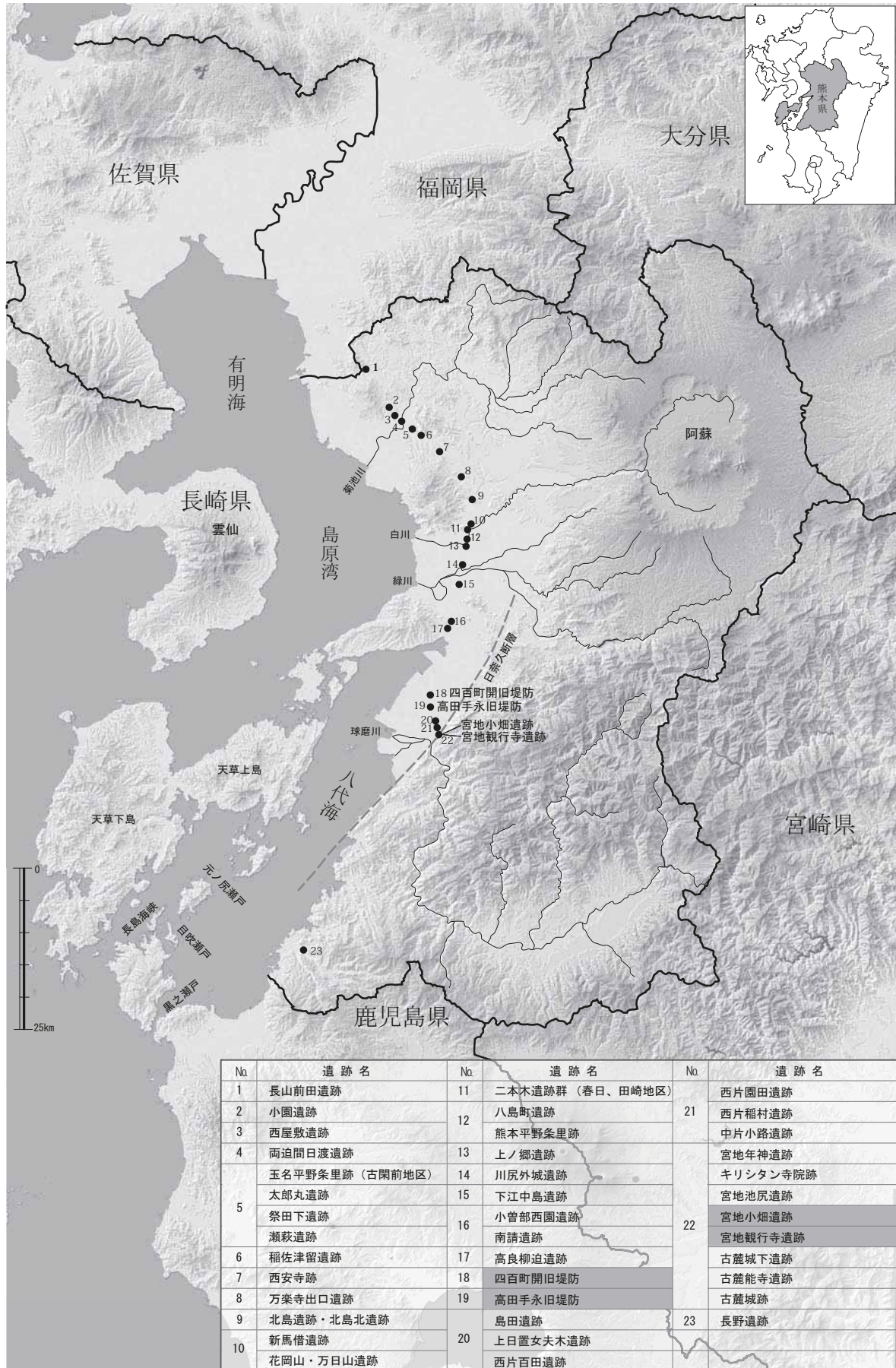


Fig.1 熊本県域における地形表記と九州新幹線建設に伴い発掘調査を実施した遺跡

第2章 調査

1. 調査地域

A 遺跡の位置

1 遺跡の地理的環境

宮地小畑遺跡・宮地観行寺遺跡は、熊本県八代市宮地町字小畑・観行寺に所在し、八代平野南部に位置している。八代平野は不知火海東岸に発達した沖積平野であり、九州山地から流下する球磨川、水無川、氷川、砂川によって形成された複合三角州とその先に発達した干潟を人工的に埋めた干拓地によって構成されている。

平野部分の西端からほぼ3km付近までが自然に陸化した地域であるが、球磨川の河口付近はその堆積量が大きいため、約4.5kmまで陸化しており、八代市街地西端まで広がっている。

平野東側には熊本市東部に位置する益城町小池から芦北町海浦沖に延びる日奈久断層（Fig. 1中に記載、巻頭PL.3参照）が存在しており、九州山地西側に直線的な断層崖を形成し三角末端面を見ることができる。この断層崖には幾筋もの谷が形成され、崖錘や小規模な扇状地が発達している。また、大分県白杵市から竜峰山の東側を通り八代市宮地町にかけて、中央構造線の延長部として内帯と外帯を分ける「白杵―八代構造線」がある。この構造線の北側には内帯である白亜系の堆積岩類や古生界の変成岩類からなる肥後帯、南側には外帯である中生界の黒瀬川構造帯や三宝山帯等の堆積岩類がある。水無川の流路はこの構造線に伴う破碎帯の影響を受ける一方、球磨川は外帯の複雑な構造体の地域を、深く谷を削り込みながら八代平野に出る。平野に出た球磨川は北向きの流れを西に大きく蛇行し、八代海に注いでいる。

今回調査した宮地小畑遺跡、宮地観行寺遺跡はその大きく蛇行した球磨川のカーブから外側へ約700m、水無川から北に約100mの所に位置し、二つの河川の幾度となく発生した土石流や洪水による堆積物により形成された標高約8mの陸地に所在する。

2 八代平野の地下地質

鉄道・運輸機構は九州新幹線本線建設に先がけ、平成12年から平成13年にかけて妙見トンネル出口から新八代駅までのボーリング調査を行っている。熊本県教育委員会ではそのボーリングコア試料の提供を受け、宮地地区のボーリングコアの自然科学分析を委託し実施した。

(1) 堆積物の概要

今回、自然科学分析を行ったボーリングNo.164870からNo.226570までの4本と、資料提供を受けたが分析を行わなかったNo.038000とNo.257335の計6本のボーリングコアの柱状図（Fig. 3）を作成した。（ボーリングNoの数字は新八代駅起点からの距離）

地表から数メートルは表土や粘性土～砂があり、その下に球磨川の氾濫によると見られる層厚16m～7mの玉石混じりの砂礫層、その下位に礫混じり砂～シルト質層、更にその下位にはシルトや砂を挟みながら砂礫層が厚く堆積している。

九州山地側のNo.257335の12m以深には流紋岩がある。この流紋岩は白杵―八代構造線上に存在し、宮地東小学校近くの水無川左岸では、風化して陶石（リソイダイト石）となった露頭が見られる。また、古麓町では中生代の宮地層である砂岩頁岩互層が九州山地につながる山帯を形成している。

(2) 自然科学分析の結果

標高マイナス10mからマイナス13mに堆積しているシルト質層の炭化物から、年代測定で7,000～7,500年前（放射性炭素年代測定による）の数値が得られた。これらのシルト質層は縄文海進と呼ばれる高海面期に堆積したと考えられ、鬼界アカホヤ火山灰（K-Ah:6.3千年前）は上位の砂礫層の堆積時に流れ去ってしまったことになる。また、始良Tn火山灰（ATn:約2.5万年前）や阿蘇4火砕流堆積物（Aso-4:8.5～9万年前）は今回のボーリング深度からは見出すことができなかった。

各地点のシルト堆積物から、海水～海水生種及び汽水生種によって特徴づけられる珪藻が見出された。河

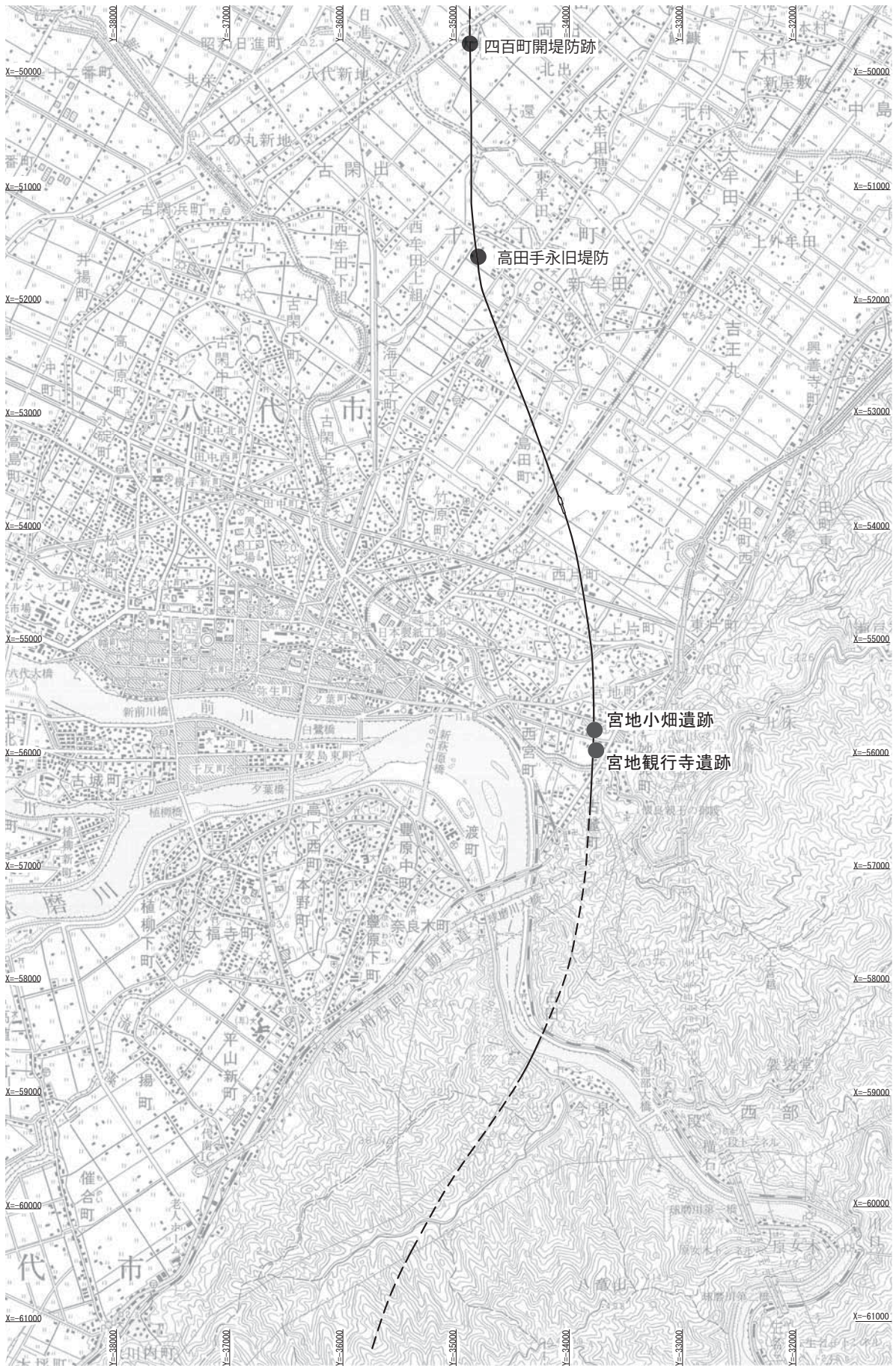


Fig. 2 八代平野干拓遺跡群・宮地小畑遺跡・宮地観行寺遺跡 周辺地形図 1/50,000

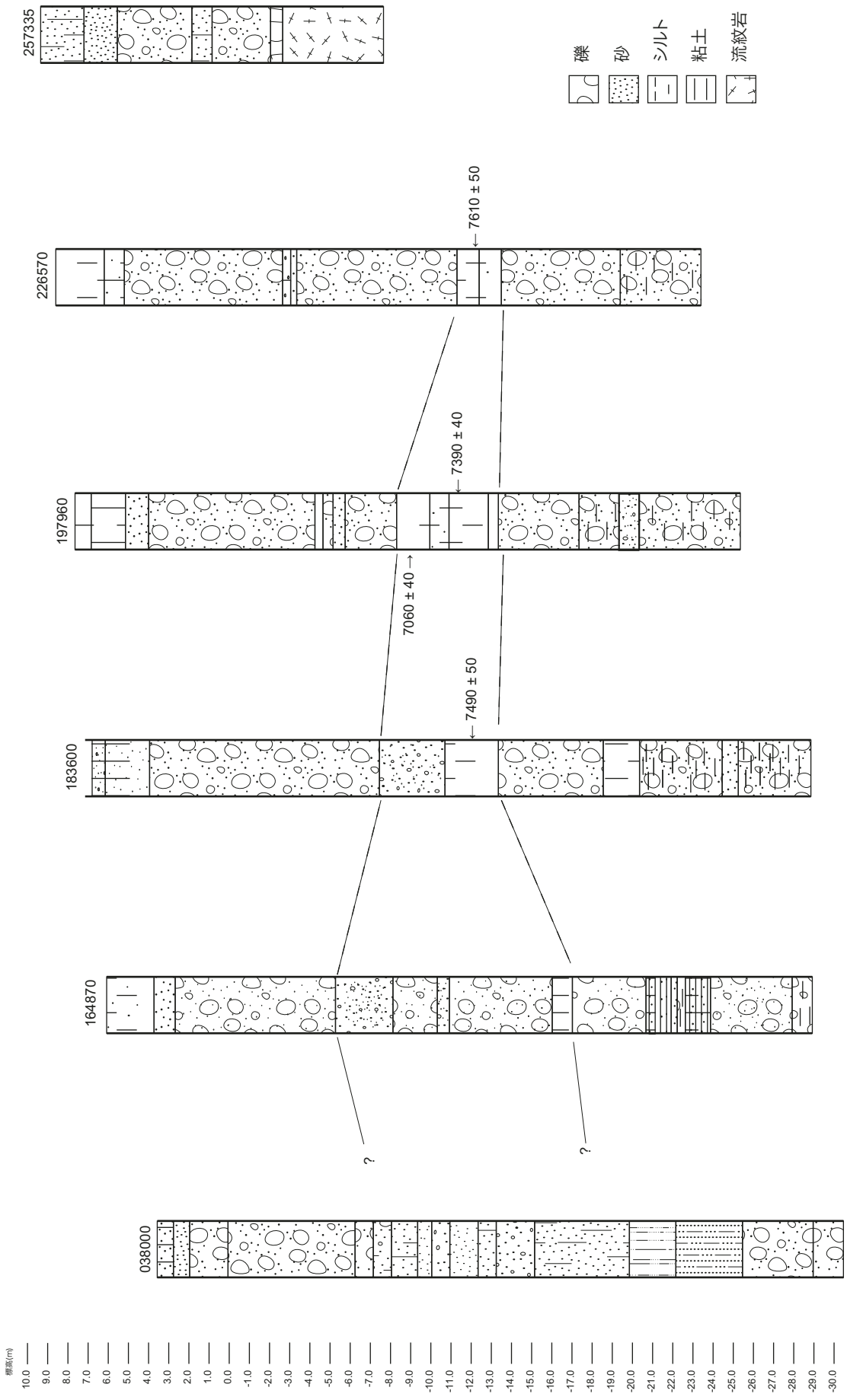


Fig. 3 自然科学分析柱状図

口周辺の泥質海底あるいは、常に海水が流入する海岸近くの湿地のような堆積環境を想定することができる。

(3) 八代平野の形成史

八代平野形成の大きな要因には、地殻変動と海水準変動との二つが考えられる。八代平野東部の日奈久断層の活動で、数万年の間に平野側が少しずつ落ちては河川の洪水堆積物や崖錘堆積物に埋められてきた。熊本県の調査では、日奈久断層の活動が鉛直方向で0.1～0.4m/1,000年と報告されており、過去7,500年で最大3.0mの沈降が想定される。

しかし、沖積地の断層変位データが不足しているため、断層活動がどの程度平野の形成に影響を与えているか、不明な部分が多い。

海水準変動により、八代地域でも過去に海水面の上昇と下降を繰り返している。ギュルム氷期と呼ばれる7万年前から始まり1万年前に終わった最終氷期のうち、約2万年前頃の最終氷期最盛期には、海水面が現在より約100m下がり、気候も現在の東北地方程度に寒冷化していたと考えられる。当時の海岸線は牛深沖まで後退しており、八代海は完全に陸化し、九州山地や天草諸島に囲まれた盆地になっていたと思われる。球磨川をはじめ、盆地を流れる河川は元ノ尻瀬戸や目吹瀬戸を通り、一本の川となって長島海峡を通過して東シナ海へ注いでいたのであろう。この頃は、後期旧石器時代になるが、当時の人々の海岸線における営みの場は、今はすでに海底に埋もれているだろうと思われる。

最終氷期最盛期以降、海水準は上昇を始め、約6千年前までに100mほど上昇し（縄文海進）、最高潮期には現在より約3m高くなっていたと考えられている。気候も今よりわずかに温暖化しており、人々は豊かな自然を背景に生活を営み、その痕跡は八代平野の周囲に存在する貝塚として残っている。

この時代の堆積物が、標高マイナス12m～13mのシルト層である。今回の自然科学分析では、当時の海水準や海岸・海底地形を正確に復元することは困難であるが、少なくとも当時の八代平野では、満潮時に九州山地の近くまで海水が流入し、美しい海岸線が広がっていたに違いない。

その後、海退が始まって初期の八代平野が形成され、人間が生活できる環境へと変化していった。河川の氾濫による土砂が堆積することで、平野低地も少しずつ乾き始め、人々の生活が盛んになり、宮地小畑遺跡・宮地観行寺遺跡付近に定着していったものと考えられる。（高田英樹）

B 歴史的背景

宮地小畑遺跡・宮地観行寺遺跡は先に記した日奈久断層が南北に縦断する山地際からやや平野上にあたる場所に位置し、山地から広がる低小丘陵の連続する中に所在する。（Fig. 1 参照）

また、遺跡の南には、熊本四大河川の一つの球磨川があり、その支流の水無川が宮地観行寺遺跡の南端に接する。

古代大和朝廷により全国に整備された主要道の一つ、「西海道」が日奈久断層と並行し南北に走る。調査区はその西海道推定線に近い部分で数十メートルの場所に位置し、最も離れる部分でも100メートル以内に位置する。ちなみに、西海道には各地に駅家が置かれ、当遺跡に最も近い駅家推定地は「片野駅」とされ、現在の地名から言うと、当遺跡から北へ約1kmに位置する「上片町」「西片町」「東片町」周辺と推定されている。また、同時期の瓦を出土している「興善寺」²は調査地から北東へ約4kmに位置する。

C 既往の調査

ここで、今回報告する調査以前、または今回整理報告するまでにおこなわれた、宮地小畑遺跡・宮地観行寺遺跡周辺の発掘調査を簡単に振り返っていく。

まず、2001年（平成13年）から2002年（平成14年）にかけ、今回調査を実施した西側に平行に新幹線本線の橋脚部の調査を実施している³。この調査では橋脚部分のみの調査を行い、宮地小畑遺跡で29区から36区間

1 『古代国家と道路（考古学からの検証）』近江俊秀2006 青木書店

2 熊本県教育委員会『興善寺1』熊本県文化財調査報告第45集 1980

3 熊本県教育委員会『宮地小畑遺跡・宮地観行寺遺跡』熊本県文化財調査報告第235集 2006

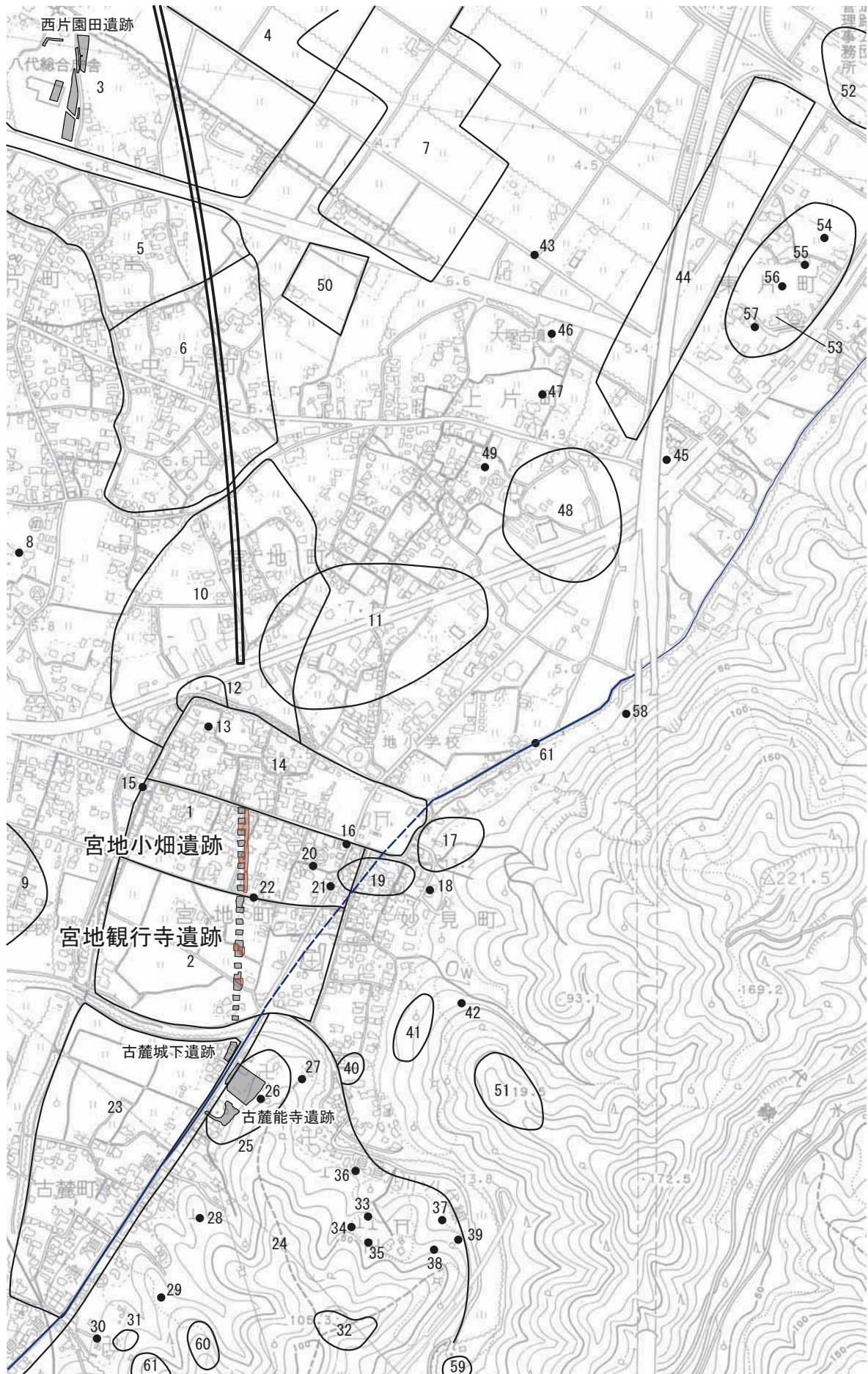


Fig. 4 宮地小畑遺跡・宮地観行寺遺跡 周辺遺跡図 1/10,000

番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備考
1	宮地小畑遺跡	宮地町 小畑	古墳～近世	集落		
2	宮地観行寺遺跡	宮地町 観行寺	古墳～古代	集落		
3	西片園田遺跡	西片町 園田				
4	西片百田遺跡	西片町 百田	弥生	包蔵地		黒髪・免田式土器、須恵器、土師器、青・白磁
5	西片稲村遺跡	西片町 稲村				
6	中片小路遺跡	中片町 小路	古墳～中世	集落		
7	条里跡	中片町	古代、中世	生産		
8	源六遺跡	西宮町	古墳			
9	階下古墳群	西宮町 西階下 他	古墳	古墳		
10	宮地年神遺跡	宮地町 年神	弥生～古墳	集落		
11	乙丸古墳群 (第1号～第10号墳)	宮地町 乙丸	古墳	古墳		第3号墳(土師器、須恵器、白磁、青磁、天目) 第5号墳 石室一部残存 前方後円墳 墳丘一部残存
12	キリシタン寺院跡	宮地町				
13	村上河内屋敷跡	宮地町 池尻	近世	包蔵地		五輪塔一部残存
14	宮地池尻遺跡	宮地町 池尻	古墳～中世	集落		
15	荒神塚遺跡	宮地町 石原	弥生～古墳	包蔵地		黒髪式土器、須恵器
16	神宮寺跡	宮地町 池尻	中世～近世	寺社		宮地小学校敷地内
17	池尻遺跡	宮地町 池尻	中世～近世	包蔵地		土師器、須恵器、円面硯、五輪塔
18	符山焼窯跡	宮地町 池尻	近世	生産		符山焼
19	宮前遺跡	宮地町 小畑	近世	包蔵地		
20	一乗坊跡	宮地町 小畑	中世～近世	寺社		土師器、須恵器、宮地公民館敷地内
21	院主跡	宮地町 小畑	中世～近世	寺社		
22	観行寺跡	宮地町 小畑	中世～近世	寺社		土師器、須恵器、布目瓦
23	古麓城下遺跡	古麓町 砥崎	中世	集落		土師器、須恵器、瓦質土器、陶磁器、建物跡多数
24	古麓城跡	古麓町 上り山	中世	城	市	曲輪、堀切、陶磁器、五輪塔
25	古麓能寺遺跡	古麓町 能寺	古代、中世	集落		土師器、須恵器、瓦質土器、陶磁器、建物跡多数
26	能寺廃寺跡	古麓町 能寺	中世	寺社		布目瓦
27	加藤正方父母菩提所安養寺	古麓町 能寺	中世	寺社		妙慶禪尼(加藤正方の母)墓
28	片岡云正墓	古麓町 新城	中世	墓		五輪塔
29	山下古墳	古麓町 新城	古墳	古墳		須恵器、円墳
30	江東山春光寺 実相院の庚申碑	古麓町 地領	近世	石造物	市	五輪塔、板碑、古廟・新廟
31	春光寺製鉄跡	古麓町 地領	平安～中世	生産		鉄滓
32	勝尾城跡	古麓町 上り山	中世	城		中世城跡
33	中宮山悟真寺	宮地、妙見町 谷	中世	建造物	市	
34	悟真寺宝篋印塔	宮地、妙見町 谷	中世	石造物	市	懷良親王自筆
35	加藤忠正墓	妙見町 谷	近世	墓	市	五輪塔、泉福山本成寺
36	泉福山本成寺跡	妙見町 谷	近世	寺社	市	
37	中宮山護神寺跡 (塔心礎)	妙見町 中宮	中世	寺社	市	布目瓦、礎石群、塔心礎石、スラグ
38	護神寺製鉄跡	妙見町 中宮	平安～中世	生産		鉄滓
39	懷良親王御墓	妙見町 中宮	中世	石造物	市	宝篋印塔 墓内に移設
40	木村喜三次屋敷跡	妙見町 山下	近世	包蔵地	市	
41	護国山顕孝寺跡	妙見町 悉知院	中世	寺社		五輪塔 懷良親王創建の両親の菩提所
42	御小袖塚	妙見町 悉知院	中世	墳墓	市	五輪塔 無縫塔 懷良親王建立の両親の陵墓
43	長塚古墳	東片町	古墳			土師器、須恵器、円筒埴輪
44	条里跡	東片町	古代・中世			
45	方見堂遺跡	上片町	近世			弥生土器、土師器、須恵器、瓦、陶磁器
46	大塚古墳	上片町	古墳			人物埴輪、須恵器、石製品
47	茶白山古墳	上片町	古墳			石材
48	上片町鬼の岩屋古墳群	上片町	古墳			石室
49	高取上ノ山古墳	上片町	古墳			横穴式石室、土師器、須恵器、馬具、銚、刀
50	中片町寛渡遺跡	中片町	古代			
51	大平山遺跡	妙見町	中世			堀切
52	西川田古墳群	川田町西				
53	東片町古墳群	東片町	古墳			石材
54	天神古墳	東片町	古墳			石材
55	岡ノ上古墳	東片町	古墳			
56	むかいやぼ古墳	東片町	古墳			石材
57	御経塚古墳	東片町	古墳			
58	妙見中宮跡	妙見町	中世			布目瓦
59	新城跡	妙見町				
60	丸山城跡	妙見町				

Tab.2 周辺遺跡一覧

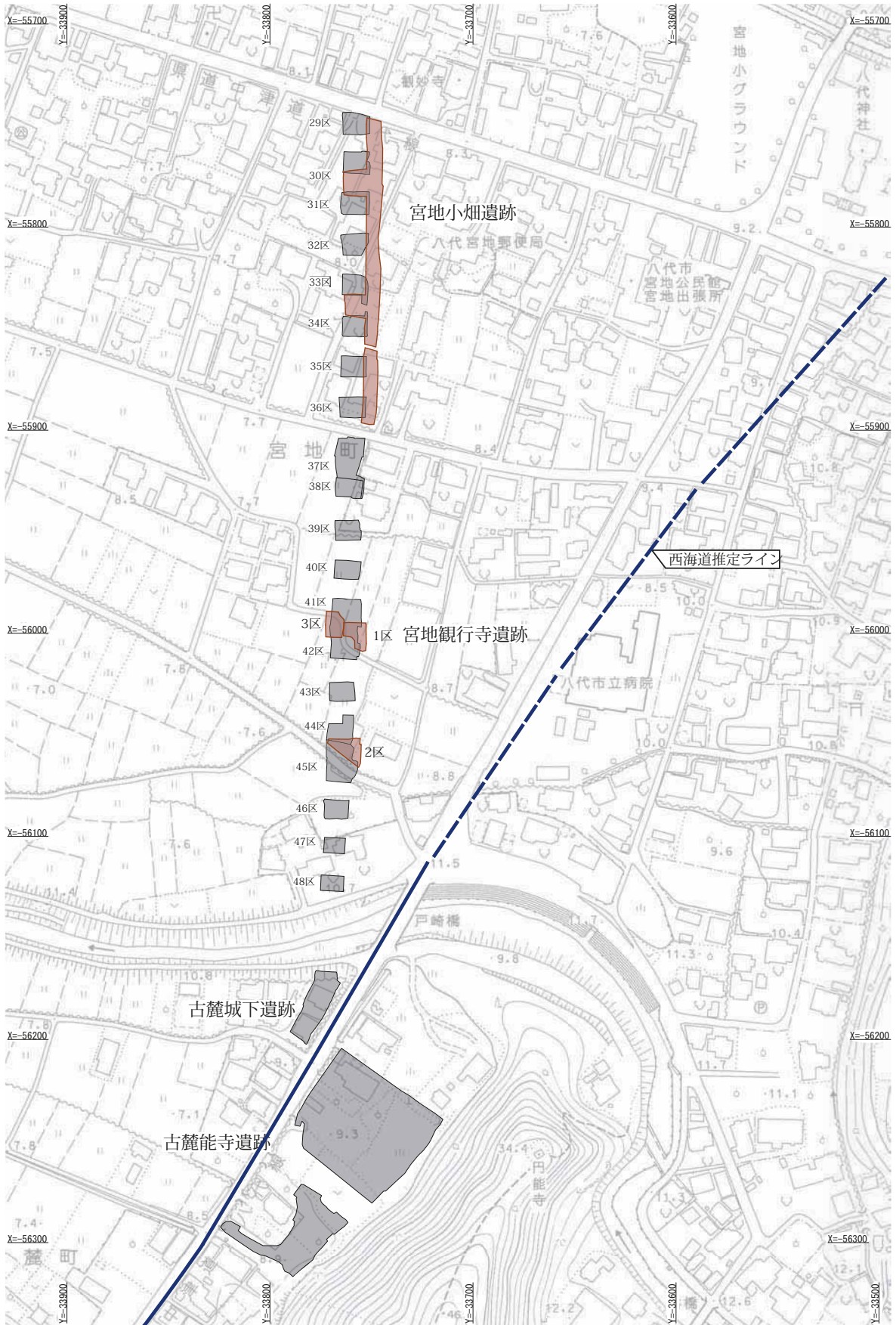


Fig.5 周辺地形図 (西海道ライン) (1/2,500)

の調査区、宮地観行寺遺跡で37区から42区（調査区番号は両遺跡通して連番）の全14調査区で発掘調査を実施している。

そのうち、宮地小畑遺跡34区・35区、宮地観行寺遺跡37区から39区間で大規模な掘立柱建物及び柱穴群、敷石状遺構を多数検出している。出土遺物としては、8世紀末から9世紀前半にかけて宇城産の須恵器が中心に搬入され、それと共伴し八代地域独特の調整技法を用いた土師器が出土する。また、主に外面底部に漢字をへら書きする一群の土器が見られ、これら遺構・遺物から「官衙」的遺跡の存在とも考えられる重要な遺跡である。

D 測量

八代平野干拓遺跡群、宮地小畑遺跡・宮地観行寺遺跡の調査を開始するにあたっては、事前に基準点測量と水準測量を実施した。基準点は、鉄道・運輸機構が着工時に設置した1級基準点ならびに3級基準点をを起点として導き出した。測量成果はそれぞれの調査区平面図中にX・Y表記で明示し、将来、所在を確認できるようにしている。また、2002年4月1日からの改正測量法の施行にともない、日本測地系から世界測地系へ移行することとなったが、九州新幹線建設工事に係る埋蔵文化財発掘調査はすべて日本測地系に基づく。そのため、本書の平面座標は日本測地系で表示し一部、表を作成のうえ世界測地系へ変換し示している。

遺跡名	点名	日本測地系		世界測地系	
		X座標	Y座標	X座標	Y座標
四百町開旧堤防	座標数値No.1	-49675	-34905	-49303.2522	-35125.7843
高田手永旧堤防	座標数値No.1	-51550	-34885	-51178.3111	-35105.7674
宮地小畑遺跡	座標数値No.1	-55780	-33750	-55408.3805	-33970.7711
	座標数値No.2	-55870	-33750	-55498.3823	-33970.7724
宮地観行寺遺跡	座標数値No.1	-56000	-33755	-55628.3849	-33975.7749
	座標数値No.2	-56055	-33760	-55683.3866	-33980.7761
	座標数値No.3	-55995	-33770	-55623.3857	-33990.7756

Tab.3 八代平野干拓遺跡群・宮地小畑遺跡・宮地観行寺遺跡4級基準点測量成果

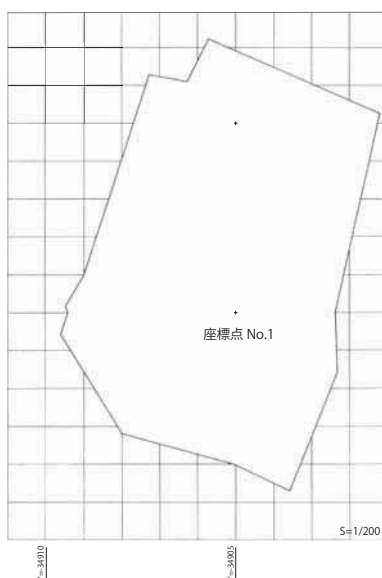
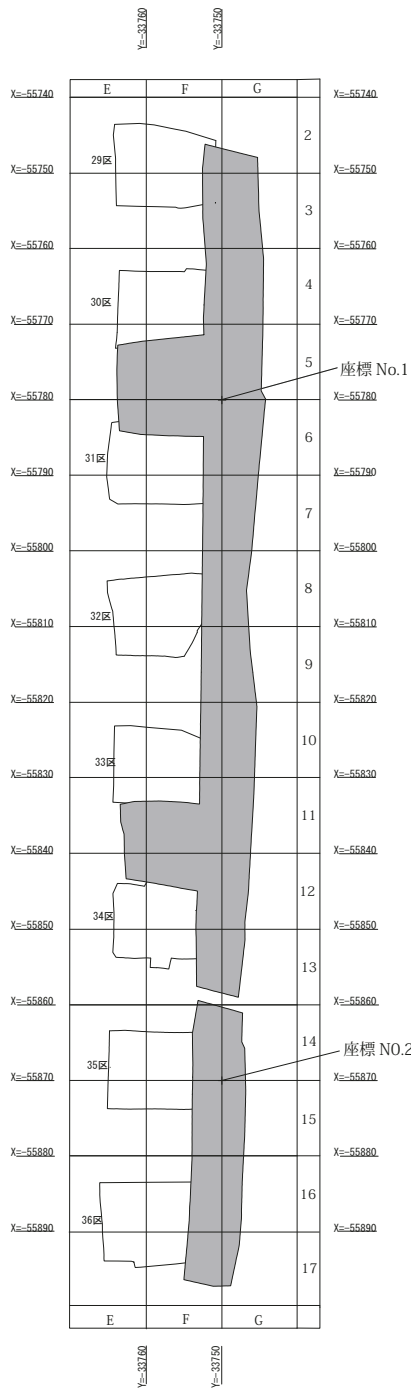


Fig.6 四百町開旧堤防座標点

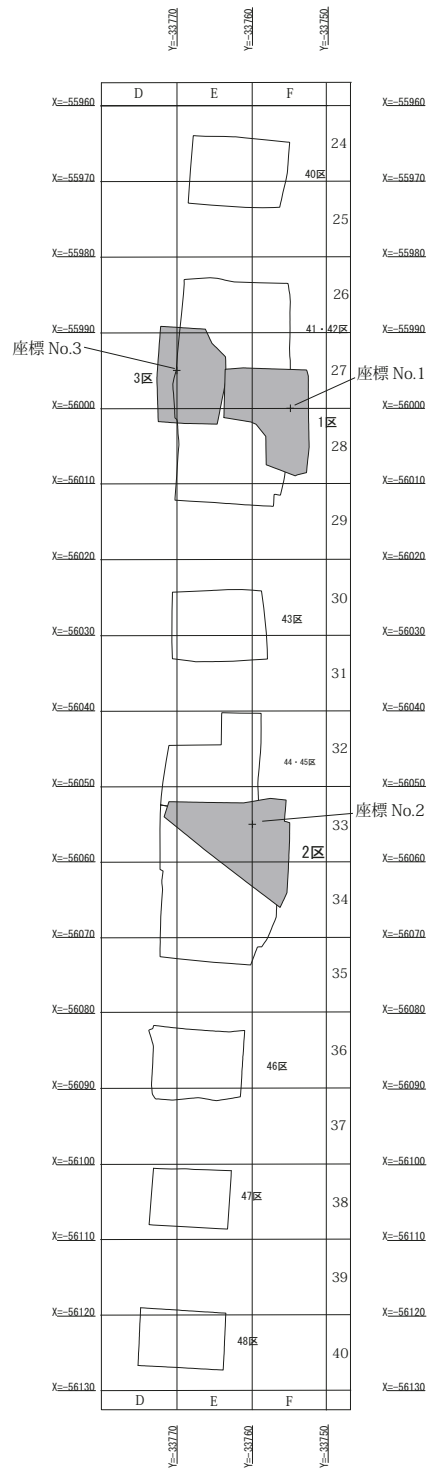


Fig.7 高田手永旧堤防座標点



宮地小畑遺跡

*宮地観行寺遺跡 37区～39区間は側道部調査とは隣接していないため掲載していない。



宮地観行寺遺跡

Fig.8 宮地小畑遺跡・観行寺遺跡座標点

2 調査日誌抄

A 八代平野干拓遺跡群

【四百町開旧堤防】

平成14年

- 11.5 器材の調整等の準備
- 11.8 表土剥ぎを開始。
- 11.10 試掘時に確認した石灰岩を確認したが、同時に近代のごみも確認したため、更に掘下げを行う。
- 11.11 午前中、降雨のため表土剥ぎを中止し排水作業を実施。
- 11.12 石灰岩石列の頂部を確認。
- 11.15 石列が東に広がるのを確認。
- 11.16 木杭が出土。築堤の際に使用されたものかもしれないため、取り上げる。
- 11.19 石列周辺で計5本の木杭を確認。
- 11.22 旧堤防の決壊の際に散乱した石材を除去し、残存する石列の検出を行う。同時に、石列の断面図実測も開始。
- 11.24 散乱している石材の除去を終了する。その結果、石列の東側で新たに石灰岩の集中する範囲を確認。
- 11.25～28 石列と礫群の清掃を実施。
- 11.29 石列、礫群の全体写真撮影。
- 11.30 石列、礫群の実測を開始。
- 12.6 石列の実測終了。
- 12.13 石列にトレンチを設定し掘削。
- 12.14 石材の赤外線カメラによる調査を実施。
- 12.15 石列の断面実測。
- 12.20 完掘状況の写真撮影。
- 12.22 調査区の埋め戻し。
- 12.24 撤収。

【高田手永旧堤防】

平成15年

- 1.14 調査開始。
- 中旬 攪乱の除去が終了。
- 2月 石灰岩の敷石を確認。実測を実施。
- 3月 実測作業終了。敷石検出を空撮。下部構造の調査へと移る。下部構造は検出できなかったため、年度末をもって調査終了。

(坂口圭太郎)

B 宮地小畑遺跡

2003年(平成15年)5月6日～

2003年(平成15年)10月31日

- 5.6 本線部橋脚No.29からNo.32間の東側、側道建設予定地の表土剥ぎを行う。
- 5.7 昨日に引き続き、表土剥ぎ作業。本線橋脚No.33区隣接で砂礫層が顔を出し、本線部調査時との整合を確認。
- 5.8 降雨のため表土剥ぎは中止。
- 5.12 調査区壁面清掃開始。
- 5.13 午前壁面、調査区清掃。午後からは降雨のため調査は中止。
- 5.19 攪乱部掘削と調査着手前の調査区撮影。
- 6.2 F-13Grid、G-13Grid調査。SK003、SK004調査後、完掘写真撮影。
- 6.3 F・G-13GridにてSK007、SK006、SK008、S017、S018を検出。F・G-14Grid遺構検出撮影。
- 6.4 F・G-14Grid遺構調査、F・G-15Grid遺構検出。SK006土層断面写真撮影及び実測。
- 6.5 S018土層断面撮影及び実測。
- 6.9 F・G-15Grid SK006、S018調査。SK008、S017土層断面撮影及び実測。
- 6.10 柿塚総括教育審議員視察。F・G-12Grid掘下げ。S019、S018、S024調査。
- 6.12 降雨のため調査休止。
- 6.13 F・G-12・15Grid遺構検出のため掘下げ。S026、SK039遺構検出状況撮影。
- 6.16 降雨のため調査休止。
- 6.17 降雨のため調査休止。
- 6.18 降雨のため調査休止。
- 6.19 台風のため調査休止。
- 6.20 台風一過の快晴。午前中は雨水除去作業。F・G-12Grid、G-15・16Grid遺構検出のため掘下げ。
- 6.25 F・G-12・13Grid遺構検出。
- 6.26 F・G-12Grid S026からS028半裁。F・G-7Grid遺構検出撮影。
- 6.27 E・F-11・12Grid遺構検出のため掘下げ、清掃。
- 6.30 E・F-11・12Grid掘下げ及び清掃、遺構検出作業。S030～S031まで遺構を検出。E・F-11・12Grid遺構検出撮影。調査範囲の一部が橋脚の下にあたるため、雨天でも調査をおこなうことができる。
- 7.1 F-12Grid遺構検出及びS032調査。F・G-12Grid

- 遺構検出のための掘下げ、清掃。
- 7.2 E・F-11・12Grid、S033、S036、S039、S040の調査を実施。G-12Grid、SX001調査。
F-11・12Grid遺構実測。E・F-11・12Grid遺構完掘状況撮影。F-11、G-12Grid土層断面撮影。
- 7.3 SX001、S043調査。E・F-11・12Grid実測。
F-13Grid、S027土層断面実測。
- 7.7 E・F-11・12Grid、E-11Grid掘下げ、検出状況撮影。
- 7.8 E・F-11・12Grid遺構検出のため掘下げ。自然流路壁面清掃、精査。
- 7.9 E・F-11・12Grid遺構検出のため掘下げ。SX001調査。
- 7.10 S044からS048調査。F-13Grid掘下げ。
E・F-12Grid遺構検出後調査。
E・F-11・12Grid、G・F-13Grid遺構検出状況撮影。
- 7.11 F・G-13Grid遺構検出後、調査。
- 7.14 E・F-11・12Grid遺構検出のため掘下げ。S049からS056調査。
- 7.16 S058、S059、S055調査。S058、S059遺構検出状況撮影。
- 7.17 F・G-12Grid遺構検出のため掘下げ。
S055、S058、S059調査。
- 7.22 F-12Grid、F・G-13Grid遺構検出のため掘下げ。
G-13Grid、S062調査。
- 7.23 S058、S059調査。G-13Grid遺構検出のため掘下げ。S063遺構検出撮影。
- 7.25 F-12Grid、G・F-12Grid調査。
- 7.28 F・G-8Gridトレンチ掘り。本日までで古代(8世紀末から9世紀初頭)の面、調査終了。
- 7.29 F-11・12Grid、SK035調査。遺構検出実測、遺物出土状況撮影。砂礫流路により切られている状況が確認でき、土砂の年代を探るうえで重要と考えられる。
- 7.30 SK035、SK036調査完掘。実測、遺物出土状況写真撮影まで終了。
- 8.4 F-12Grid遺構検出作業。
- 8.5 S077、S078、S080、S082完掘。
F・G-12Grid遺構実測。S078完掘状況撮影。
- 8.6 S080、S077、S078調査。F・G-12Grid実測。
- 8.7 F-12Grid、古墳時代遺物出土。F・G-12Grid土層断面図実測。F-12Grid古墳時代遺物出土状況撮影。
- 8.8 台風10号来襲のため調査休止。
- 8.11 宮地小畑遺跡、先に引き渡し分調査終了。
- 8.12 降雨のため調査休止。土層断面のみ実測をおこなう。午後からは雨が激しくなったため、事務所にて図面整理。
- 8.13 八代地区は8月盆のため調査は休止。
- 8.18 G・F-14・15Grid復旧作業、遺構検出。宮地小畑遺跡、先に引き渡し分、工事開始。また、F・G-2～5Gridにも着手。
- 8.19 F・G-14・17Grid、復旧及び遺構検出。G-14・15Grid土層断面実測のための清掃。F・G-2～5Grid遺構検出。
- 8.20 F・G-16・17Grid掘下げ、遺構検出。
F・G-2～5Grid遺構検出。
- 8.21 F・G-14Grid、F-16・17Grid掘下げ、遺構調査。
F・G-2～5Grid遺構検出、遺構調査。
- 8.22 G-16・17Grid遺構検出。S091からS094調査。
F・G-2～5Grid遺構検出、遺構調査。
- 8.25 F・G-16Grid S095からS101の遺構調査及び近世面完掘撮影。F・G-5Grid攪乱掘。
- 8.26 降雨のため調査休止。
- 8.27 F・G-16・17Grid遺構検出のため掘下げ。
F・G-4・5Grid、3・4層掘下げ。
- 8.28 G-16・F-17Grid遺構検出。F・G-4・5Grid、3・4層掘下げ。午後から降雨のため作業中止。
- 8.29 降雨のため調査休止。
- 9.1 午前中は昨日の降雨の復旧作業。F-14・15・16・17Grid、G-14・15・16Gridにて遺構検出及び調査。F・G-14Grid平面実測。
- 9.2 F-14～17Grid、G-14～16Grid遺構検出及び遺構調査。F・G-14、F-17Grid平面実測。
- 9.3 F・G-14Grid、F-17Grid遺構検出及び遺構調査。
F-15・16Grid、G-15・16Grid平面実測。SD001完掘。F・G-4Grid、4層掘下げ。
- 9.4 F・G-4Grid、4層掘下げ。
- 9.5 F-G-14Grid 4層掘下げ。F-15・16Grid、F-15・16Grid 4層掘下げ。F・G-4Grid、4層掘下げ。
- 9.8 F-17Grid、礫層掘削。F-15・16、G-15・16Grid遺構検出及び遺構調査。F・G-4・5Grid、5層掘下げ。
- 9.9 F-14・15・16Grid、G-14・15・16Grid遺構検出及び遺構調査。F-15Grid平面実測。F・G-4・5Grid、5層掘下げ。
- 9.10 降雨のため作業休止。
- 9.11 F-17Grid遺構検出及び遺構調査。F-15・16、G-15・16Grid平面実測。F・G-1～4Gridトレンチ掘り。

- 9.12 F-15・16Grid、G-15・16Grid遺構検出及び遺構調査。台風接近のため、現場周辺の片づけ。
- 9.16 F-15・16Grid、G-15・16Grid遺構検出及び遺構調査。F・G-1～4Grid、5層掘下げ。F・G-5Grid、6層掘下げ。
- 9.17 F-15・16Grid、G-15・16Grid遺構検出及び遺構調査。F-15、G-15平面実測。F・G-1～4Grid、5層掘下げ。F・G-5Grid、6層掘下げ。
- 9.18 F-15Grid、G-15・16Grid遺構検出及び遺構調査。G-16Grid平面実測。F・G-1～4Grid、5層掘下げ。F・G-5Grid、6層掘下げ。F・G-5Grid実測。再び台風接近。
- 9.19 F-16Grid、G-16Grid全面掘下げ。F-15・16Grid、G-15・16掘下げ後の清掃。F・G-1～4Grid、5層掘下げ。F・G-5Grid、6層掘下げ。
- 9.22 作業員日数調整のため現場休止。事務所にて図面整理。
- 9.23 F・G-2～4Grid、5層掘下げ。F・G-5Grid、6層掘下げ。
- 9.24 F・G-14・15Grid遺構検出及び遺構調査。F・G-3・4Grid遺構検出及び遺構調査。F・G-2～4Grid、5層掘下げ。F・G-5Grid、7層掘下げ。
- 9.25 F・G-14・15Grid包含層掘削及び遺構検出。F-14・15Grid中世面の掘下げ。F・G-2～4Grid、5層掘下げ。F・G-5Grid、7層掘下げ。
- 9.26 作業員が少ないため、F・G-2～5Gridのみ調査を実施。
- 9.29 F・G-14・15Grid中世面を掘下げながら遺構検出。作業員が少ないため、F・G-2～5Gridは休止。
- 9.30 F・G-14・15Grid包含層掘下げ。作業員が少ないため、F・G-2～5Gridは休止。
- 10.1 F-14・15Grid、G-14・15Grid、F・G-3～5Grid遺構検出及び遺構調査。G-7Grid 7層掘下げ。G-3・4Grid 6層上面での遺構検出。
- 10.2 F・G-2・3、F・G-14・15Grid遺構検出及び遺構調査。G-5 7層掘下げ。G-3・4Grid東側土層掘下げ。
- 10.3 F・G-2～5、F・G-14・15Grid遺構調査。G-5Grid 7層掘下げ。G-3・4Grid東側トレンチ掘下げ。
- 10.6 F-15・16、G-15・16Grid遺構調査。F-14・15Grid、G-14・15Grid平面実測。F-5Grid礫面まで掘下げ。G-5Gridトレンチ掘り。
- 10.7 G-5Grid全体清掃、遺構検出、撮影。
- 10.8 F-14・15Grid、G-14・15Grid 遺構調査。F-14・15Grid掘下げ。F-15・16Grid、G-15・16Grid平面実測。G-4Gridトレンチ掘削。
- 10.9 F-14・15Grid、G-14・15Grid掘下げ。F-14・15Grid平面実測。G-5Gridトレンチ掘下げ。
- 10.10 E-14・15Grid、F-14・15Grid掘下げ。G-5Grid礫層上面まで掘下げ。
- 10.15 F-14・15Grid、G-14・15Grid遺構検出及び遺構調査。G-5Grid地形確認のためトレンチ掘削。
- 10.16 F・G-16Grid砂礫粘性砂層まで掘下げ。G-5Gridを中心に丁寧に清掃をかけ最後の遺構検出に務める。特に壁面土層部は丁寧に。行。
- 10.17 F-15Grid、G-15Grid砂層の掘下げ。G-5Grid周辺は実測及び撮影を実施。
- 10.20 八代市立代陽小学校生(4人)が社会科見学のため来訪。F・G-14Grid、15Grid掘下げ及び遺構検出。F・G-3・4Gridトレンチ掘削。G-5Grid等高線入れ。
- 10.21 F-14・15Grid、G-14・15Grid掘下げ。
- 10.22 F・G-14・15Grid砂礫層掘下げ。G-14Grid遺構実測、新規レベル杭設置。
- 10.24 F・G-14・15Grid遺構調査。SK052、S415、S416の遺構の性格までは判断できなかった。
- 10.27 重機により砂礫層の掘下げ。G-5Grid土層確認のため重機を用いて深掘りを実施。F・G-15・16・17Grid遺構検出及び遺構調査。SK052・SK055土層断面実測。
- 10.28 F・G-14Grid遺構調査。SK054、SK051、SK053検出及び撮影、調査。G-5Grid壁面清掃、礫層落ち込み状況の撮影。
- 10.29 F・G-15Grid掘下げ。本層を除去後に遺構が検出がなかったため、調査終了。G-5Grid壁面実測。実測終了後、現場作業の見直し、図面の見直しを実施後、工事側へ現場引き渡し。
- 10.30 F・G-15Grid遺構調査。S432及び調査区土層断面実測。高所作業車を用いて調査区古代面完掘撮影。
- 10.31 宮地小畑遺跡調査終了。撤収作業。
(宇田、長谷部)

C 宮地観行寺遺跡

2003(平成15年)5月1日～同年8月25日

- 5.1 調査準備
- 5.6 重機を用いて表土剥ぎ作業
- 5.7 表土剥ぎ作業
- 5.8 降雨のため表土剥ぎ休止
- 5.9 表土剥ぎ再開
- 5.12 1区、2区清掃開始
- 5.13 1区、2区清掃開始。午後から降雨のため作業中止。
- 5.14 降雨のため作業休止。
- 5.15 降雨のため作業休止。
- 5.16 1区トレンチ掘下げ。2区中世遺物包含層掘下げ。
- 5.19 1区S001～S009遺構調査。攪乱及びトレンチ掘下げ続行。2区中世遺物包含層掘下げ。1区遺構検出状況撮影(上高原)
- 5.20 1区攪乱掘下げ、S010検出、調査。2区中世遺物包含層掘下げ。
- 5.21 調査区内メッシュ杭設置。1区トレンチ掘下げ、撮影前の清掃。2区中世遺物包含層掘下げ。1区近世から中世面完掘撮影。
- 5.22 2区3層掘下げ。S001～S009まで調査。第1面遺構配置図作成。
- 5.23 1区3層掘下げ、2区S001～S009調査。S006完掘状況撮影。
- 5.26 降雨により作業休止。
- 5.27 2区S006～SK007調査。S010、S005実測。
- 5.28 1区、3層掘下げ。
- 5.29 1区、3層掘下げ。S001～S014完掘状況撮影。
- 6.2 5.30に通過した台風4号の降雨のため、2区水没。
- 6.3 1区、3層掘下げ。2区東側へ土層確認用のトレンチ設定。
- 6.4 1区、4層掘下げ。2区、No.4トレンチ掘下げ。F-33・34Grid、10層掘下げ。2区の土層層序番号は本線44区の層序番号と合わせることをとする。
- 6.5 1区、4層掘下げ。2区F-33・34Grid掘下げ。S010完掘状況撮影。
- 6.6 1区、4層掘下げ。2区、遺構検出。
- 6.8 1区、4層掘下げ。2区、No.5・6トレンチ掘削。調査区東側トレンチ周辺、遺構検出。
- 6.10 1区、5層掘下げ。2区S016、No.4トレンチ掘削。
- 6.11 1区、5層掘下げ。2区S017・S019調査。S018土層断面、S019遺構検出撮影。
- 6.12 降雨のため作業休止。
- 6.13 1区は昨日の降雨により、法面が崩れたため土留め作業を実施。2区、S017、S018、019～S023調査。S017完掘撮影。
- 6.16 降雨のため作業休止。
- 6.17 降雨のため作業休止。
- 6.18 降雨のため作業休止。
- 6.19 降雨のため作業休止。
- 6.20 2区、E-33Grid遺構検出。
- 6.23 降雨のため作業休止。
- 6.24 降雨のため作業休止。
- 6.25 1区、調査区法面補強工事終了、調査開始。2区E-33Grid遺構検出 S024～S027調査
- 6.26 1区、5層上面でS010～SK006遺構検出。2区No.8トレンチ掘削。S024～S027平面実測。
- 6.27 1区、S015～S015調査。
- 6.30 1区、SK006調査。2区、No.7・8トレンチ掘削。
- 7.1 1区、SK006、S016調査。2区No.7・8トレンチ掘削。S029、S030、SK003調査。
- 7.2 1区、SK006、SK008調査。2区S030調査、撮影。
- 7.3 1区、SK006、SK008調査。SK006遺物出土状況撮影。2区S030実測。
- 7.4 午前中、降雨、午後からは係会議のため終日作業は休止。
- 7.5 1区、6層掘下げ。6層中から用途不明須恵器(後に中空円面硯と判明)出土。出土状況撮影。
- 7.8 1区、6層掘下げ。2区、S030調査。
- 7.9 1区、6層掘下げ。SK006実測。
- 7.10 2区、製鉄(小鍛冶)遺構調査指導のため、大津養護学校 松本健郎氏、来跡。
- 7.11 1区、6層掘下げ。
- 7.14 1区、6層掘下げ。2区S030完掘撮影
- 7.15 降雨のため作業休止。
- 7.16 2区、S034、S036、S029、S039調査。
- 7.17 1区、6層上面で清掃、古代遺構面撮影。2区、No.12・13トレンチ掘削。
- 7.23 1区、調査終了。

- 7.24 降雨のため作業休止。先日の松本専門調査員により指導を受けた鍛造鉄片を確認するため、ブロックで取り上げた土の洗浄作業を事務所で行う。
- 7.25 2区製鉄（小鍛冶）遺構について、愛媛大学村上助教授、指導のため来跡。
- 7.28 2区、S037、S038、SX001～S046調査。
- 7.29 2区、S018、S011調査。
- 7.30 2区、S038、S039、SX001～S046調査。
S018完掘。
- 7.31 2区、S037、S038調査。
- 8.1 2区、S037、S038調査。
- 8.4 2区、柱穴（S050～S062）調査。3区、表土剥ぎ開始。
- 8.5 2区、S065～S068調査。3区、表土剥ぎ、清掃開始。
- 8.6 2区、S038、E-33Grid調査。3区、西側断面清掃。
- 8.7 2区、E-33Grid調査。
- 8.11 2区、S038、F-33Grid掘下げ。3区、調査終了。
- 8.12 降雨のため作業休止。
- 8.18 前日までの降雨のため、午前中は復旧作業。
2区F-33・F34Grid掘下げ。
- 8.19 2区、4面目遺構検出。
- 8.20 2区、4面目、調査。
- 8.21 2区、S072まで調査。
- 8.22 2区、S072～S095遺構完掘。
- 8.25 2区、4面目遺構完掘実測、撮影終了をもって本調査区の調査を終了。

（高田、宇田）

※S番で記載しているものについては調査の結果、遺構と判断できなかった為そのまま掲載している。



第3章 遺構

1 八代平野干拓遺跡群

八代市域で新幹線の工事に着手した平成12年に、新八代駅以南において多くの埋蔵文化財包蔵地を確認したのと併せて、新八代駅以北での予備調査にも着手した。その結果、新八代駅と宇土半島基部にあたる松橋町（現、宇城市松橋町）までの間に近世に干拓された際の潮受け堤防が文献調査、聞き取り、現地踏査の結果、確認された。その結果、「高田手永旧干拓堤防」「四百町開旧堤防」「櫛場新地旧堤防」「中道往還跡」「築添新地旧堤防」「松橋新開旧堤防」の5ヶ所で工事着手に先立ち予備調査が必要な旨を12月に鉄道・運輸建設機構あて回答した。

その結果を受け、平成14年8月から6ヶ所の旧堤防推定地及びその周辺の予備調査を実施した。

最初に、宇城市松橋町南豊崎において「松橋新開旧堤防」で予備調査を実施した。堤防跡本体と思われる箇所は現在も河川堤防として利用されていることから掘削出来ないため、隣接地を掘削し遺構の広がりを確認した。その結果、遺構等は確認なかった。

次に、「築添新地旧堤防」も予備調査を実施したが、多くの破碎された石灰岩の広がりを確認したのみで、石列をなさないこと、工事によると見られる攪乱が入ることなどから遺構の残りは無いと判断した。また、周辺の聞き取りや文献調査の結果を併せて判断すると、松橋新開旧堤防が決壊したことから、その補強のために築添新開旧堤防が築かれたことが史実として判明した。よって、調査の必要はないと判断した。

同年、11月から八代郡千丁町（現、八代市千丁町）古閑出において、予備調査を実施し石灰岩の石列を確認した。併せて文献調査を実施した結果、当該地域が「高田手永旧堤防」推定地であることから発掘調査が必要と判断し、鉄道・運輸機構あて通知した。その結果を受け、千丁町教育委員会と協議し、同年12月19日付けで周知の埋蔵文化財包蔵地『高田手永旧堤防』として新規登録し、鉄道・運輸機構から同年12月24日に発掘調査の依頼書が提出された。

県文化課では平成15年1月10日付けで文化財保護法第58条の2の規定に基づき発掘調査に着手する旨を千丁町、鉄道・運輸機構あて通知し、平成15年1月14日に調査に着手し同年3月20日まで発掘調査を実施した。

平成15年12月からは、八代市「櫛場新地旧堤防」推定地において予備調査を実施した。同旧堤防は現在の県道14号線（八代鏡線）にあたる。今回の橋梁建設予定は同道路を跨ぎ横断すること、また幹線道路である県道14号線を止めての調査が実施できないことから、隣接する畑地で予備調査を実施した。調査結果、浅い流路を確認したが、堤防に伴う遺構とは判断できなかったことから調査は不要と判断した。

ついで、平成16年1月27日から「中道往還」推定地の予備調査に着手した。この往還については、隣接する市道がその推定地にあたるが、本体部分と思われる範囲は橋脚で跨ぐこと、また、市道であるため調査が出来ないことから隣接地の橋脚建設工事予定地を掘削した。調査では、近世の区画溝を検出した。

最後に、同年6月23日から「四百町開旧堤防」推定地の予備調査に着手した。この調査で石灰岩の石列を確認したことから、「四百町開旧堤防」跡と判断し、鏡町教育委員会協議のうえ周知の埋蔵文化財包蔵地『四百町開旧堤防』として新規登録し、鉄道・運輸機構から同年10月27日付けで県文化課に対し、発掘調査の依頼が提出された。

県文化課では、文化財保護法第58条の2の規定に基づき11月4日付けで鏡町教育委員会ならびに鉄道・運輸機構に対し発掘調査を実施する旨を通知した。同月5日から調査に着手した。（坂口）

1 鏡町干拓史編纂委員会『鏡地方における干拓のあゆみ』鏡町教育委員会 平成15年10月1日

A 調査の方法

調査に際しては、現状の路盤となる表土を重機を用いて剥ぎ、堤防の基底部となる石列等の遺構検出に努めた。調査に際して、事前に国土座標Ⅱ系測量（日本測地系）を行い、それを基準に5mメッシュ杭を設置した。石列等、確認された遺構は調査員が1/20で平面・断面実測をおこなった。また、航空写真撮影も併せて実施した。（坂口）

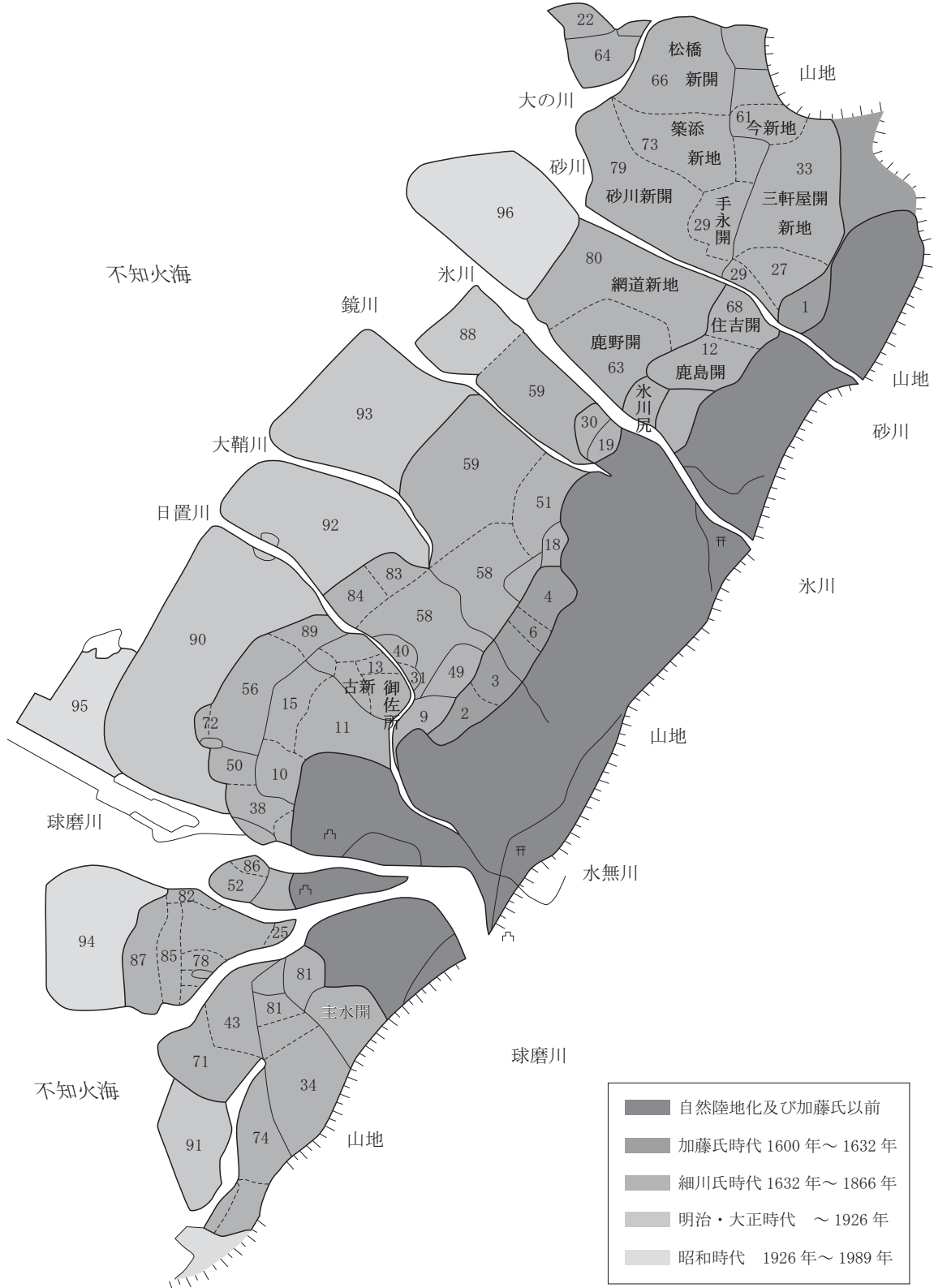


Fig. 9 八代平野年代別干拓略図

不知火海干拓の沿革

番号	干拓地名	築造年	位置	面積	築造主
1	新田村新地	慶長 13 (1608)	小川河江	67 町 2 反 9 畝	加藤氏
2	海士江開	慶長年中	八代市海士江附近		
3	新牟田開	慶長年中	千丁新牟田	89 町 3 反 9 畝	加藤氏
4	外牟田開	慶長年中	千丁町太牟田	95 町	加藤氏
5	下江中間開	慶長年中	松橋町		
6	浄信寺墾田	元和年中	千丁太牟田	20-30 町	加藤正方
7	竹崎新地	寛永年中	松橋町竹崎		
8	大野前田新地	慶安 4 (1651)	松橋町大野		細川氏
9	海士江新地	明暦元 (1655)	八代市八千把	13 町 1 反 2 畝	松井興長
10	松崎新地	明暦元 (1655)	八代市松高	34 町 1 反 2 畝	松井興長
11	明暦古閑	明暦 2 (1656)	八代市八千把	39 町 1 反 2 畝	松井興長
12	鹿島開	寛文 7 (1667)	竜北町柳の江	51 町 6 反 4 畝	細川氏
13	寛文古閑	寛文 8 (1668)	八代市八千把	48 町	松井直之
14	住吉新地	寛文 12 (1672)	小川町河江	186 町	細川氏
15	高子原新地	延宝元 (1673)	八代市松高	121 町 2 反 7 畝	松井直之
16	久具寄田新地	延宝 4 (1676)	松橋町久具	5 町 6 反 5 畝	長岡監物 (米田氏)
17	北新地	元禄 2 (1689)	八代市植柳		松井直之
18	下村御開	元禄 4 (1691)	鏡町下村	11 町 8 反 6 畝	細川氏
19	鏡町御開	元禄 11 (1698)	鏡町鏡村	31 町	細川氏
20	忠臣蔵新地	元禄 14 (1701)	竜北町鹿野	33 町 1 反 5 畝	細川氏
21	宝永古閑	宝永 4 (1707)	八代市八千把	4 町 7 反 8 畝	松井豊之
22	亀崎新地	享保 2 (1717)	不知火町亀崎	23 町 9 反 7 畝	宇土細川氏
23	建馬地区	享保 3 (1718)	八代市建馬		
24	出来須	享保 5 (1720)	八代市植柳新町一帯	34 町 3 反	
25	江筋		八代市植柳新町附近	13 町 3 反 2 畝	
26	北岡開	享保年中	八代市金剛	98 町	
27	南新田	元文元 (1736)	小川町河江		細川氏
28	宝暦古閑	宝暦 3 (1753)	八代市八千把		松井豊之
29	川尻新地	宝暦 4 (1754)	小川町河江		細川氏
30	鏡町沖開	宝暦 7 (1757)	鏡町鏡村	31 町 7 反 4 畝	細川氏
31	十町開	宝暦 10 (1760)	千丁町古閑出	12 町 3 反 2 畝	子飼細川氏
32	揚新地	明和元 (1764)	八代市金剛	104 町	
33	三軒屋新地	明和 3 (1766)	松橋町豊福から小川町河江	283 町 2 畝	細川氏・有吉大蔵・宇土細川氏
34	敷川内新地	明和 6 (1769)	八代市金剛	132 町	松井啓之
35	山本新地	明和 6 (1769)	八代市植柳		
36	浜成地区	明和 6 (1769)	八代市塩屋		
37	源太開	安永 2 (1773)	八代市八千把	10 町	
38	北浜塩屋新地	安永 6 (1777)	八代市塩屋		
39	安永古閑	安永 7 (1778)	八代市八千把	23 町 9 反 6 畝	松井啓之
40	東浜開	安永 9 (1780)	千丁町古閑出	36 町 1 反 1 畝	高田手永
41	北村御開	寛政元 (1789)	千丁町太牟田	16 町 9 反 3 畝	細川氏
42	麦島村新地	寛政元 (1789)	八代市麦島		
43	築添新地	寛政 4 (1792)	八代市築添町	16 町 2 反 5 畝	松井啓之
44	寛政古閑	寛政 5 (1793)	八代市八千把		
45	新浜地区	寛政 6 (1794)	八代市新浜町		
46	十二町開	寛政 6 (1794)	千丁町新牟田	14 町 6 反 7 畝	
47	下郷北割	寛政 10 (1798)	松橋町下郷	32 町	
48	下郷南割	寛政 11 (1799)	松橋町下郷	69 町 1 反 9 畝	
49	高田手永	寛政 11 (1799)	千丁町新牟田	41 町	高田手永
50	築添新地	文化元 (1804)	八代市金剛	109 町 4 畝	松井微之

Tab. 4 不知火干拓の沿革－①

不知火海干拓の沿革

番号	干拓地名	築造年	位置	面積	築造主
51	百町開	文化2(1805)	鏡町内田	101町5反	野津手永
52	中牟田新地	文化3(1806)	八代市麦島	23町8反	高田手永
53	八町開	文化4(1807)	千丁町古閑出	9町9反9畝	
54	三町開	文化10(1813)	千丁町古閑出	3町3反1畝	
55	七町開	文化13(1816)	千丁町古閑出	8町2畝	
56	高島新地	文化13(1816)	八代市松高	234町6反2畝	松井微之
57	浜田新地	文政元(1818)	松橋町大野	6町7反7畝	
58	大牟田新地	文政2(1819)	千丁古閑出から鏡両出	408町5反9畝	細川氏
59	七百町新地	文政4(1821)	鏡町文政	640町1反5畝	細川氏
60	下り松新地	文政7(1824)	不知火町高良	10町	松山手永
61	今新地	天保7(1836)	松橋町下郷		有吉氏
62	高下差樋・鷗洲新地	天保8(1837)	八代市金剛	17町8反	松井督之
63	鹿野新地	天保9(1838)	竜北町鹿野	201町3反5畝	細川氏
64	亀松新地	天保10(1839)	不知火町長崎	94町	宇土細川氏
65	松橋新地	天保10(1839)	松橋町大野	12町	
66	松橋新開	天保10(1839)	松橋町豊川	135町1反7畝	
67	八千把・二の丸新地	天保11(1840)	八代市八千把	47町5反	細川興増
68	下住吉新地	天保11(1840)	小川町河江	96町	細川氏
69	新田出新地	天保11(1840)	小川町河江	105町	河江手永
70	葭牟田新地	天保13(1842)	八代市金剛	105町1反	
71	水島新地	天保14(1843)	八代市金剛	147町9反1畝	松井章之
72	築延新地	天保14(1843)	八代市松高		
73	築添新地	天保14(1843)	松橋町豊川	112町7反1畝	
74	催合新地	弘化2(1845)	八代市金剛	52町6反7畝	松井章之・細川氏
75	日奈久新地	弘化2(1845)	八代市日奈久	34町8反1畝	田浦手永
76	岩崎新地	弘化2(1845)	八代市日奈久	2町5反1畝	広瀬
77	小三新地	弘化4(1847)	八代市塩屋	6町5反7畝	小三兵衛
78	沖の洲新地	弘化4(1847)	八代市金剛	41町7反3畝	松井章之
79	砂川新地	嘉永5(1852)	松橋町豊川	302町6反	
80	網道新地	嘉永5(1852)	竜北町網道	592町3反5畝	野津手永
81	蛇籠新地	安政元(1854)	八代市植柳	24町2反3畝	米村金右衛門
82	北原新地	安政元(1854)	八代市金剛	26町7反8畝	松井章之
83	八代新地	安政2(1855)	千丁町古閑出	30町2反2畝	細川氏
84	千丁・二の丸新地	安政2(1855)	千丁町古閑出	86町4反7畝	細川氏
85	三江湖	安政2(1855)	八代市金剛	74町8反7畝	松井章之
86	北牟田新地	安政2(1855)	八代市麦島	14町3反	松井章之
87	三江湖・築添新地	慶応元(1865)	八代市金剛	103町5反5畝	松井章之
88	野崎新地	慶応2(1866)	鏡町野崎	183町	宇土細川氏
89	岡本新地	明治20(1887)	八代市八千把	6町3反5畝	岡本又喜
90	郡築新地	明治37(1904)	八代市郡築	1046町7反1畝	八代郡
91	明治新田	明治37(1904)	八代市金剛、日奈久	258町8反	民間共同
92	南新地	大正11(1922)	八代市昭和	570町4反5畝	熊本県
93	北新地	大正15(1926)	鏡町北新地	687町7反2畝	熊本県
94	金剛干拓	昭和28(1953)	八代市平和町	425町6反4畝	国営
95	八代港干拓	昭和39(1964)	八代市港町	255.02ha	代行
96	不知火干拓	昭和41(1966)	竜北町・小川町地先	528ha	国営
97	高田手永開	寛政11(1799)	千丁町新牟田	41町	高田手永

(干拓地・築造年代・位置・面積については、資料によって異なる)

Tab. 5 不知火干拓の沿革－②

B 干拓の沿革

八代平野は総面積の9割以上が干拓により作り出された人口の平野である。その歴史は古く、中世には初期の干拓が作られたと伝えられている。

干拓の最盛期は江戸時代になる。藩営の干拓事業がこれにあたる。更に、明治から大正、昭和にかけて次々と作られ多くの入植者が干拓地に入り、八代地域ひいては熊本県全体の発展に寄与した。(坂口)

C 遺跡の概要

1 高田手永旧堤防

本堤防跡の調査は、県内で初めての事例である。旧堤防は現在宅地化されて上部構造が全く残っていない中で、手探りの状態で調査を進めた。予備調査で石灰岩質の岩石が検出され、沖積平野上に自然には見ることのできないものであることから、干拓工事により持ち込まれた石材であることを想定し調査を実施した。

調査の結果、南北に伸びる配石群を確認できた。乱雑でありながらも一定の方向性を持つこの遺構の性格は狭小な調査区の関係から判明しなかった。(坂口)



Fig.10 高田手永旧堤防検出石敷き遺構平面図と断面図

2 四百町開旧堤防

本堤防跡は、江戸時代後期の文政二年に完成したと伝えられている。今回の調査地は大鞆池の近傍である。この池は、堤防完成後の大潮で決壊した際に堤防を大きく迂回する形でつくられたもので、その役割を果たし終えた後に溜池と変化したもので、地元では「大鞆回し」と呼ばれている。

予備調査で確認されていた石列は、調査の結果、直置きされているものではなく、逆台形状の掘り込みを有する溝状遺構の中に敷き詰められたものと確認された。また、石列はほぼ水平に置かれ石畳状に規則性を有し積み上げられ、これ自体が堤防の基礎構造物であった可能性がある。

この石列東側にも石灰岩の集中する箇所を確認した。また、石列両側に木杭が打ちこまれているのを確認したが、調査の結果からは堤防構造中に伴うものかは確認できなかった。

最終的に、遺構の性格を考えるうえで干拓遺跡の調査事例がある岡山県の児島湾干拓資料現地見学や堤防に関する文献資料等の調査により、本調査区で確認した石列は堤防全面に設置された消波ブロックである可能性も出てきた。干拓堤防の築造にあたっては地域性や土壌条件により違いがあると思われるため、性格は断定はできないが、干拓堤防の下部構造を知る上で一定の成果は上げられたものと思われる。

狭小な面積での調査であったため、遺構の性格まで判断できる材料を揃えることはできなかったが一応の成果を提示するまで出来た意義は大きいと言えよう。(坂口)



Fig.11 四百町開旧堤防検出石敷き遺構平面図と断面図

2 宮地小畑遺跡

A 遺跡の概要

(1) 5層上面検出遺構

溝SD001 36区に隣接し、F-17Grid 5層上面から掘り込まれ東西に延びる遺構。遺構東端が削平され、西側は調査区外に出るため全長は不明。本調査区内での検出長は約2.60m、幅0.75m、深さは0.08mを測る。断面は浅く逆台形で、下端はほぼ水平を呈す。

土坑SK001 34区に隣接し、F-13Grid 5層上面から掘り込まれる。方形の掘り込みを呈する。

土坑SK003・SK004 (Fig.12) 34区に隣接し、F-13Grid 5層上面から掘り込まれる。調査段階で両遺構とも主軸を同じくする。平面形はいずれも隅丸長方形、断面は傾斜の緩やかな掘り方を有し、方形を呈する。SK003は長径1.72m、短径0.83m、深さ0.26m、SK004は長径0.92m、短径0.5m、深さ0.16mを測る。埋土から遺物も出土しているが、小片であること、出土部位が図示できないことから図化はしていない。

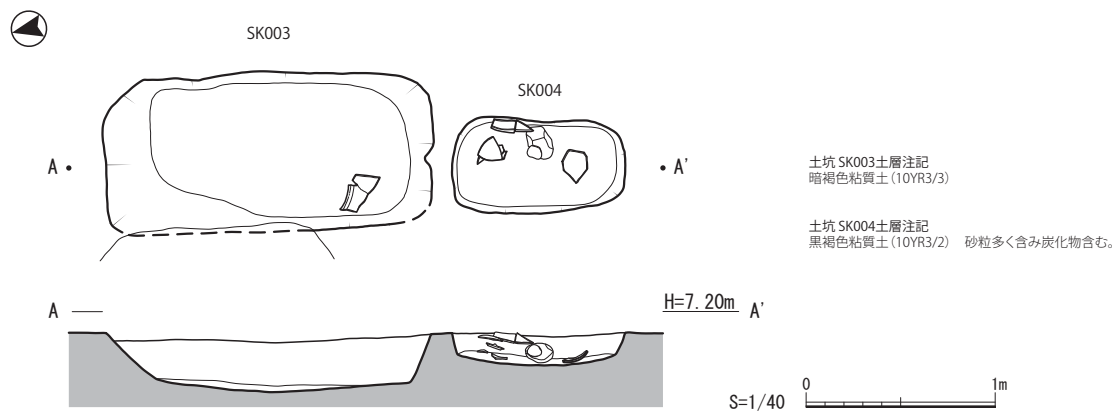


Fig.12 土坑 SK003・SK004平面図と断面実測図

土坑SK007 G-13Grid 5層上面から掘り込まれた楕円形の掘り方を呈する。埋土から須恵器蓋（8）、土師器杯（9）が出土する。

土坑SK008 F・G-13Grid 5層上面から掘り込まれ楕円形の掘り込みを呈し、柱穴の可能性もある。須恵器高台付杯（10）が埋土中から出土する。

土坑SK011 G-15Grid 周囲の遺構に切られているが、円形の掘り込みを呈す。須恵器皿（11）が埋土中から出土する。

土坑SK012 F-15Grid 方形掘り込み呈する。埋土中より須恵器杯（12）が出土する。

土坑SK016 F・G-15Grid 周囲の遺構に切られており、本来の形状は不明だが検出時には不定形の土坑として検出している。龍泉窯系青磁碗（13）が埋土中より出土する。

土坑SK018 F-15Grid 長方形の掘り込みを有する遺構だが、周囲の遺構により一部を切られる。埋土中より土師器杯（14）が出土する。

土坑SK019 F-15・16Grid 長方形の掘り方を有する遺構。埋土中より軒丸瓦（15）が1点出土する。

土坑SK023 G-16Grid 楕円形の掘り方を有する土坑。土師器杯（16・17）が埋土中より出土する。

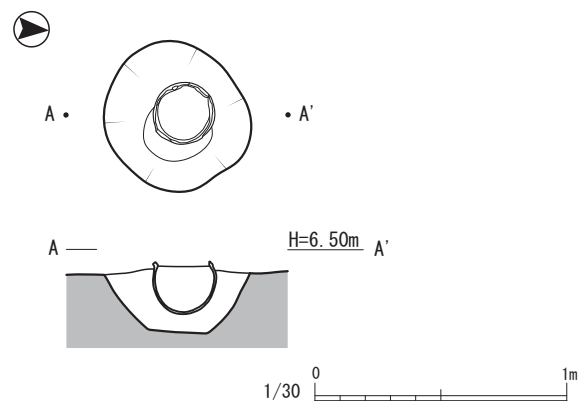


Fig.13 土坑 SK029 平面図と断面実測図

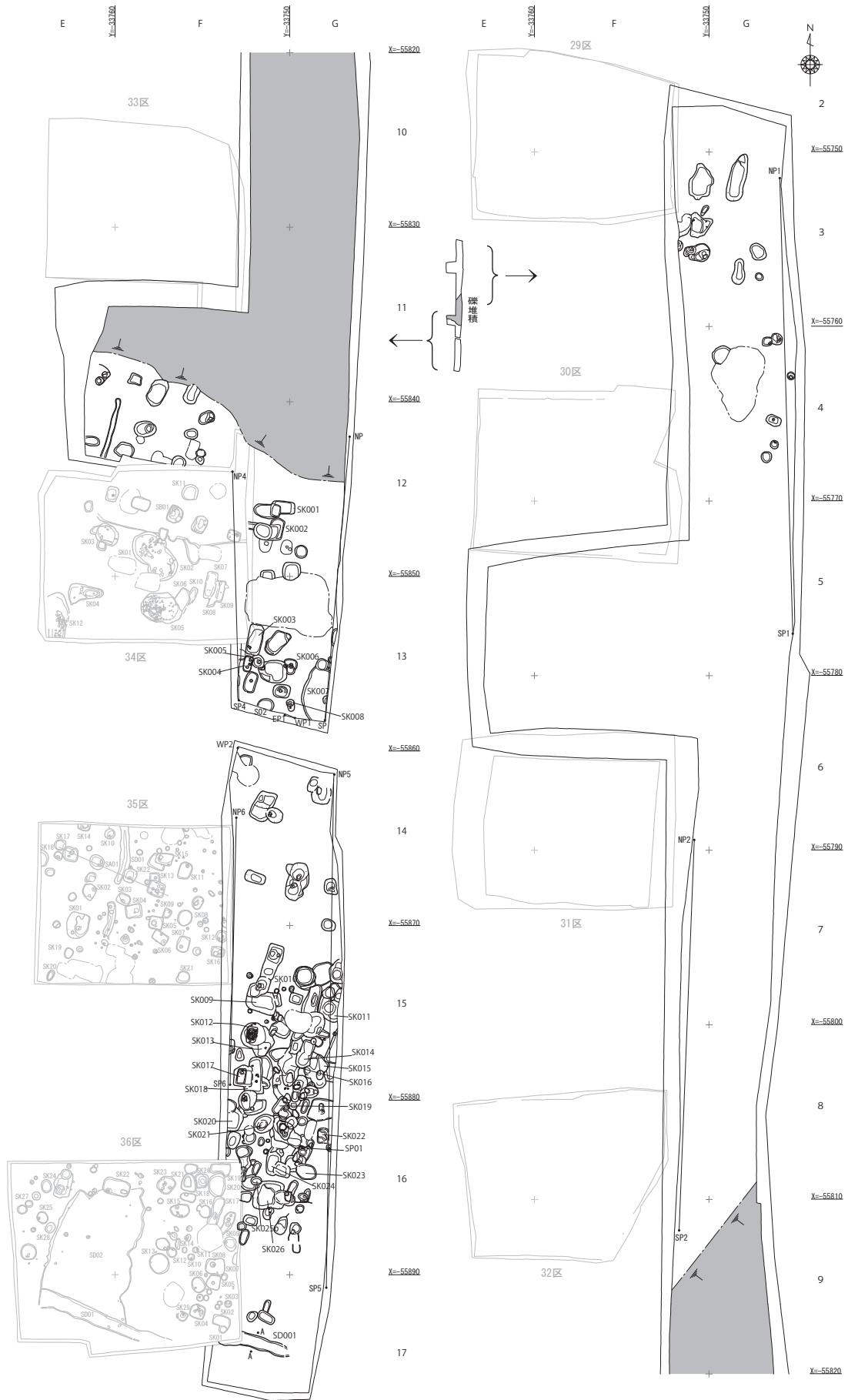


Fig.14 宮地小畑遺跡 5層上面(古代1)遺構図

(2) 7層上面検出遺構

土坑SK027 F-4・5Grid 遺構の西側が調査区の外に出る遺構。平面形は楕円形を呈す。土師器杯 (18～20)、皿 (21)、黒色土器 (22)、須恵器杯 (23)、広口壺 (24) 等多数の遺物が埋土中より出土する。

土坑SK029 (Fig.13) G-5Grid 長径0.58m、短径0.60m、深さ0.26mの掘り方を有する中に土師器 (25) が据え置かれた状態で出土する。

土坑SK030 (Fig.15) F・G-7Grid 西側調査区外に伸びる楕円形を呈する遺構。複数の遺構掘り込みが窺えるが、調査時には切り合い等は確認できなかった。断面形は緩やかに丸みを帯びる。出土遺物は主に3層から5・6層までに含まれる。土師器杯 (26～28)、黒色土器 (30～35) で、うち30・34は杯、高台付き杯 (32・33・35)、椀 (29)、緑釉陶器椀 (36)、平瓦 (37) が出土する。

土坑SK033 (Fig.18) F・G-7Grid 長楕円形で、長径2.9m×短径1.64mを測る。下端は狭く緩やかなU字状を呈する。北側を柱穴状の遺構に切られる。土師器杯 (38～47)、椀 (48)、高台付き杯 (49)、黒色土器杯 (50)、土師器甕 (51)、須恵器杯 (52・53) 高台付き椀 (54)、壺 (55) が出土する。

土坑SK035 (Fig.19) F-11Grid 遺構上面が土砂により切られている遺構。土砂により傾斜する面上に位置し本来の形状は失われている。検出形状では長方形を呈し、長径2.34m×短径約1.18m、深さ0.38mを測る。埋土中からは土師器杯 (56～58)、鉢 (59)、甕 (60・61)、須恵器蓋 (62・63) 高台付き杯 (64・65) 皿 (66) が出土する。

土坑SK036 (Fig.19) F-11Grid SK035同様に遺構の一部が土砂により切られる。本来は方形の土坑であったと考えられる。遺物は、一部SK035へ落ち込むが、区別して取り上げたものを掲載している。長径約1.82m、短径約0.58m、深さ0.32mを測る。土師器杯 (67・68) 甕 (69)、須恵器蓋 (70～72)、高台付き杯 (73・74) 皿 (75) が出土する。

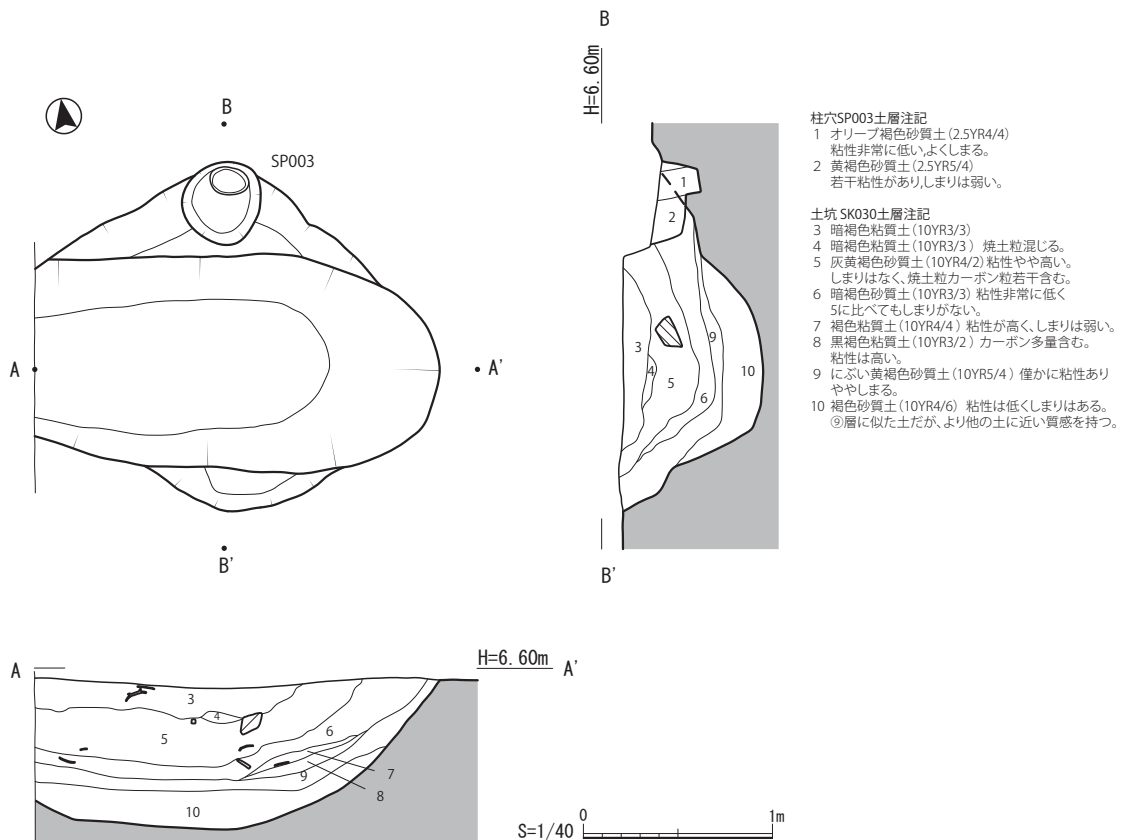


Fig.15 土坑 SK030 平面図と断面実測図

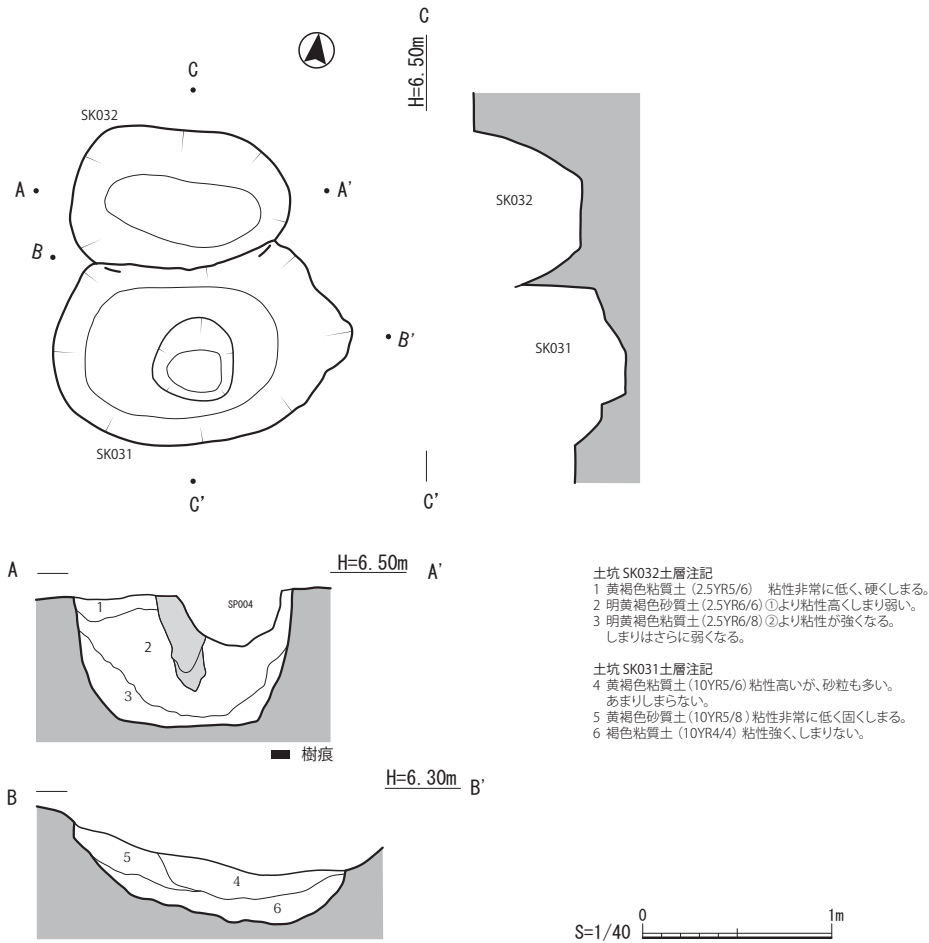


Fig.17 土坑 SK031・SK032 平面図と断面実測図

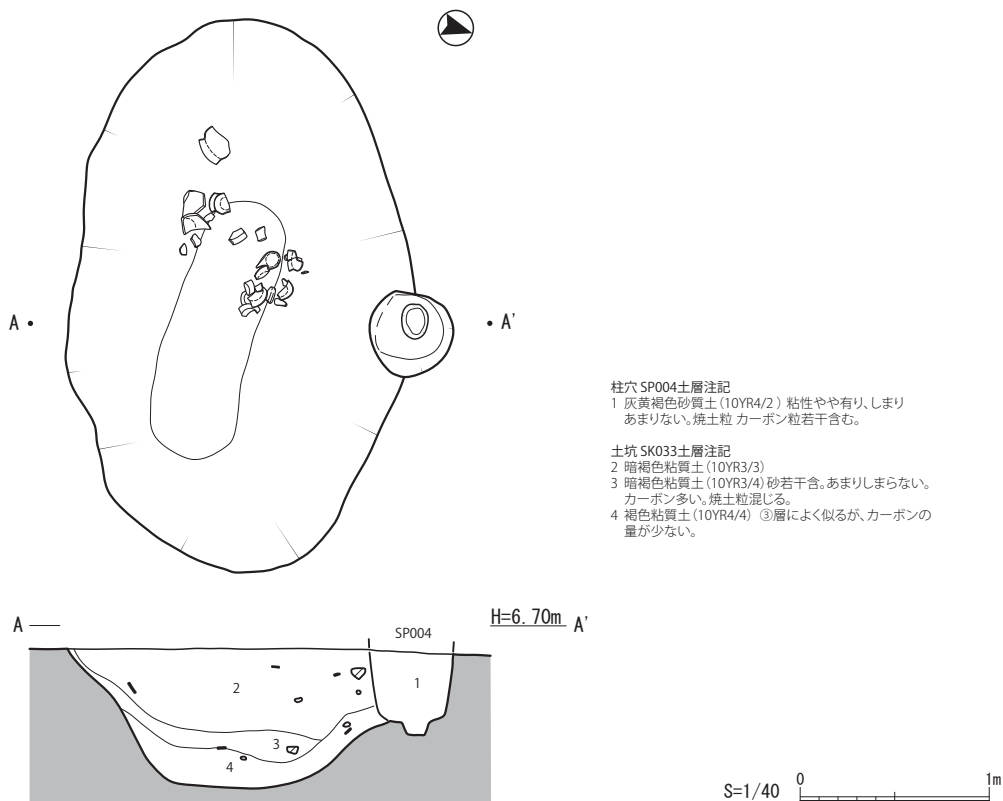


Fig.18 土坑 SK033 平面図と断面実測図

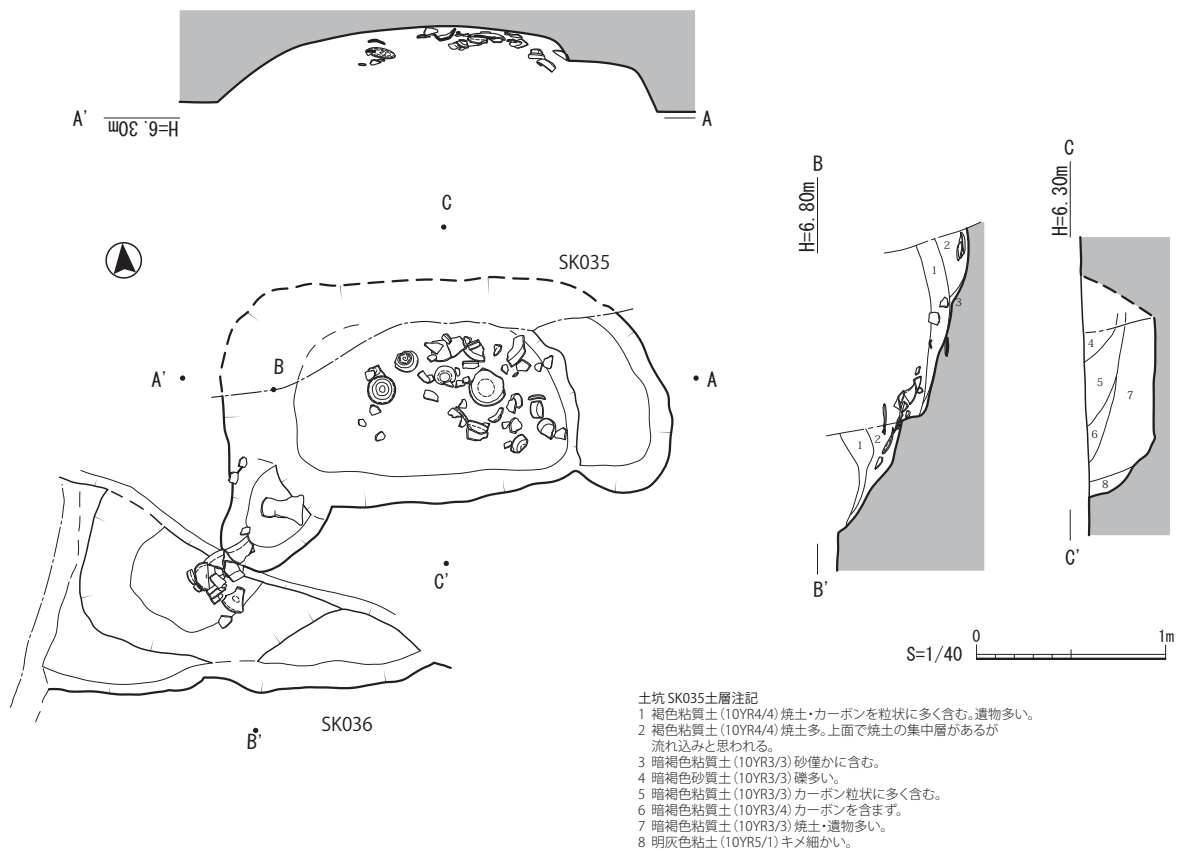


Fig.19 土坑 SK035・SK036 平面図と断面実測図

土坑SK037 F-12Grid 7層上面で検出した遺構で、溝SD002東側に隣接する。平面形は円形を呈する。須恵器高台付き杯(76)が出土する。

土坑SK038 F-13Grid 7層上面で検出した遺構。平面形は長方形を呈する。須恵器高台付き杯(77)が出土する。

土坑SK039 G-13Grid 本線調査区34区東側に隣接し、7層上面で検出した遺構。平面形は楕円形を呈する。須恵器高台付き杯(78)が出土する。

土坑SK040 F-14Grid 本線34区、35区間の東側に位置し、7層上面で検出した遺構。平面形は長方形を呈する。須恵器杯(79)が出土する。

土坑SK041 F-14Grid 本線35区北側に位置し、7層上面で検出した遺構。遺構の一部は調査区外へ伸びる、不定形の土坑。土師器蓋(80)、須恵器蓋(81)、杯(82)が出土する。

土坑SK043 F-14Grid 7層上面で検出し、不明遺構SX002に切られる。楕円形の掘り込みを呈する。土師器杯(83)を埋土中から出土する。

土坑SK044 F.G-14Grid 本線35区東側で検出した楕円形を呈する遺構。7層上面で検出し、長径約1.08m、短径約0.88m、深さ0.27mを測る。遺物がやや浮いた状態で検出したが、埋土の状況から本遺構の遺物と判断し記録した。遺物は土師器が重ねられ斜めに置かれた状態で出土。土師器杯(84~88)、(89~102)が出土する。

土坑SK045 G-14Grid 7層上面で検出。平面形は細長く底部は緩くU字状を呈する。東側に柱穴状の掘り込みを有するが、性格は不明。須恵器杯(103)、甕(104)が出土する。

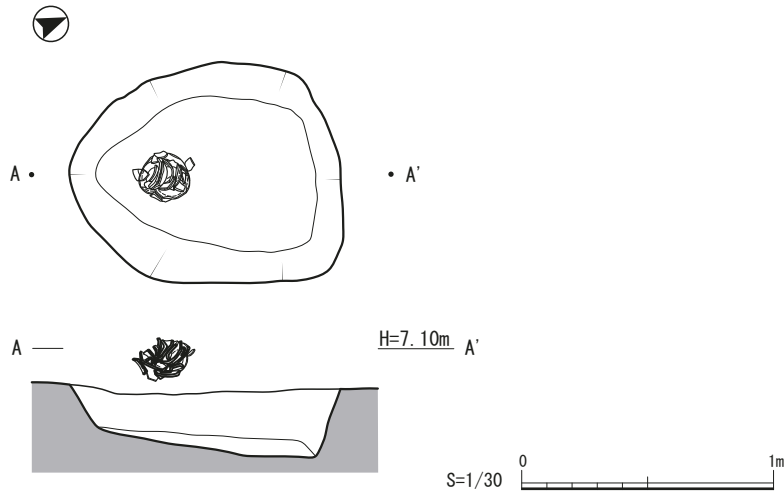


Fig.20 土坑 SK044 平面図と断面実測図

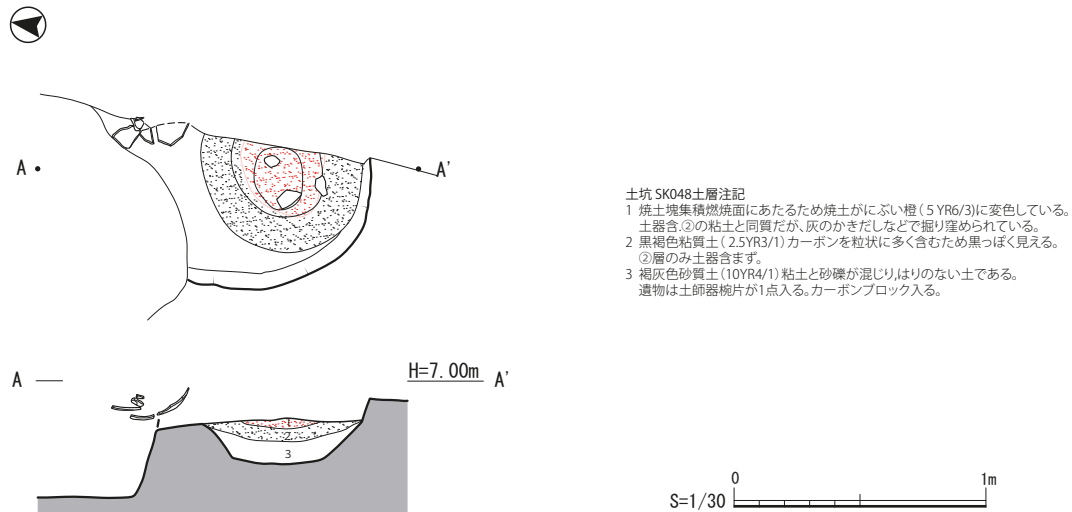


Fig.21 土坑 SK048 平面図と断面実測図

土坑SK046 F-15Grid 7層上面で検出。本線部35区隣接で検出した円形の遺構。埋土中から土師器杯(105)が1点出土する。

土坑SK047 G-15Grid 7層上面で検出 調査区東側で他の遺構に切られた状態で検出した遺構。底部は緩やかにU字状を呈する。埋土中から須恵器蓋(106)が出土。

土坑SK048 G-15Grid 7層上面で検出した遺構 調査区東側へ遺構が伸び全体形は不明。また、5層からの掘り込みにも切られる。残る形状から円形の土坑状の遺構と思われる。断面径は緩やかなU字状を呈する。遺構埋土中には1層に焼土塊集積燃焼面があり、長時間使用されていたことが窺える。2層面は粘質土を中心とする土で、上層を燃焼面とすると、防湿を兼ねたカーボンベッドである可能性が高い。

土坑SK049 G-15Grid 7層上面で検出 攪乱や他の遺構に切られ全体形は不明であるが、長楕円形の掘り込みを有する土坑状の遺構と考えられる。埋土中から土師器壺(107)が出土する。

土坑SK050 F-15Grid 7層上面で検出 長段径を呈する遺構。本調査区の最も南に位置する遺構。埋土中より土師器釜(108)が出土する。

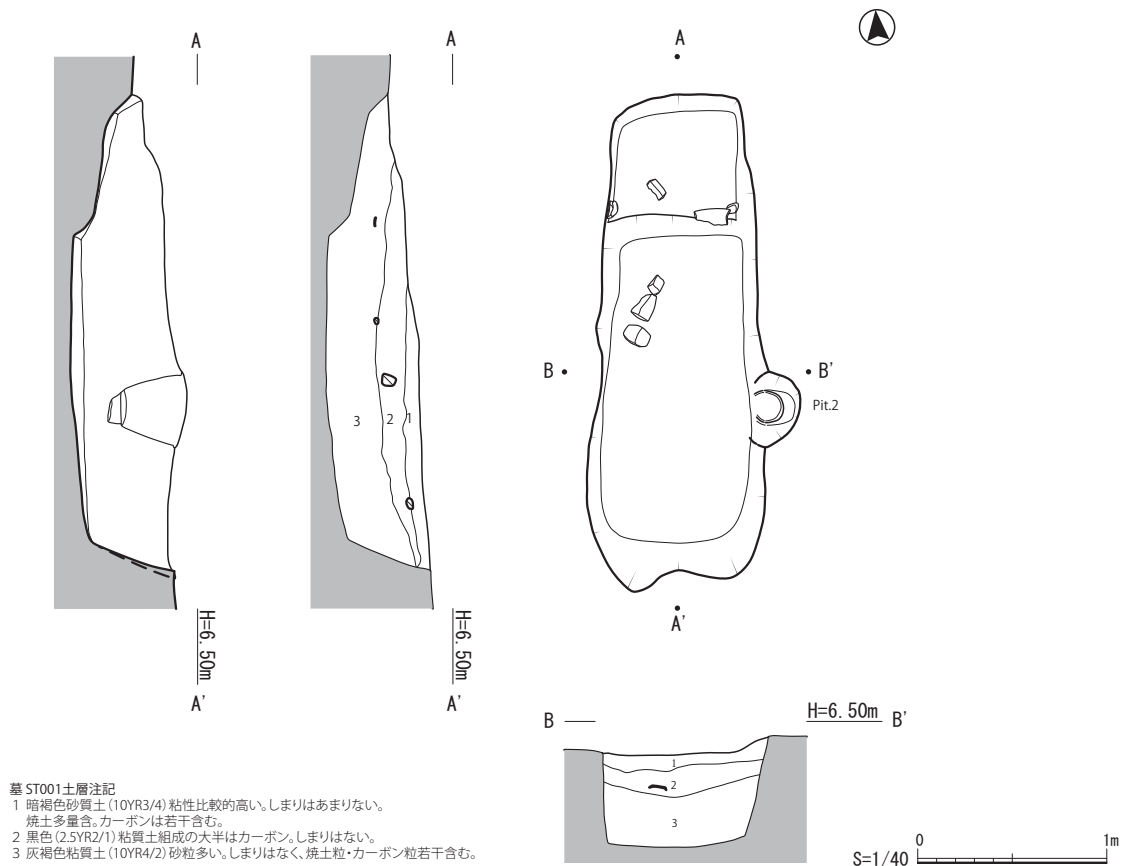


Fig.22 墓 ST001平面図と断面実測図

墓ST001 7層上面検出遺構 G-7Grid 長径2.5m、短径0.89m、深さ0.49mを測る。北側1/3の範囲で1段平坦面を有する。木棺等の痕跡、人骨等は認められていないが、遺構の形状から土坑墓であったと判断し、遺構の性格付けをおこなった。埋土床面から土師器杯 (137～142)、甕 (143)、須恵器杯 (144)、鉢 (145) が出土する。

不明遺構SX001 G-12・13自然地形の落ちにも見て取れるが、本来は浅く掘り窪められた土坑状の遺構であった可能性が高い。検出した状態は掘り込みも浅く、他の遺構、攪乱等により切られ、全体形を見て取ることができない。出土遺物は、土師器蓋 (146～149)、杯 (150～159)、椀 (160)、甕 (161～167)、石製品 砥石 (168)、須恵蓋 (169～184)、杯 (185～192)、高台付き杯 (193～204)、皿 (205～209)、短頸壺 (210)、甕 (211・212) など多数の遺物が一括性高く出土している。

不明遺構SX002 F-14・15Grid 調査区西側、本線部35区との間に位置する溝状を呈する遺構。遺構の全容を確認することが出来ないことから不明遺構として取り扱う。埋土中からは土師器蓋 (213～215)、杯 (216～223)、鉢 (224・225)、小型壺 (226)、甕 (227)、須恵器蓋 (228)、杯 (229)、高台付き杯 (230)、皿 (231) など多数出土している。

(3) 8層検出遺構

土坑SK051 G-14Grid 一部が調査区東側へ伸びるため正確な長さは把握できないが、東西に約2.9mを測る。検出した平面形では2基の土坑状の遺構が切り合っているように見えるが、調査時には区別しては確認できていない。土師器杯（109～125）、高杯（126～128）、須恵器蓋（129・130）広口壺（131）が出土する。

土坑SK053 G-14Grid 遺構の南側でSK052（円形土坑）に切られ検出した楕円形を呈する遺構。土層は自然堆積による廃絶の過程を窺うことができる。短径は0.85mを測る。出土遺物は須恵器高杯（132）が出土する。

土坑SK054 G-14Grid 遺構の一部が調査区東側へ伸びる。下端は調査区内で収まるため不定形の土坑と見られる。土層断面は自然堆積による廃絶が想定される。中心を切っていないが調査区内で長径約2.0mを測る。土師器杯（133）が出土する。

土坑SK055 F-15Grid 本線部35区東側で検出した遺構。上端、下端とも不定形を呈する遺構。埋土中より土師器杯（134）が出土する。

土坑SK056 G-15Grid 上端の一部が調査区東側へ延びる遺構。下端は調査区内で収まるため楕円形の土坑と思われる。埋土中より須恵器高杯（135）、土師器甕（136）が出土する。

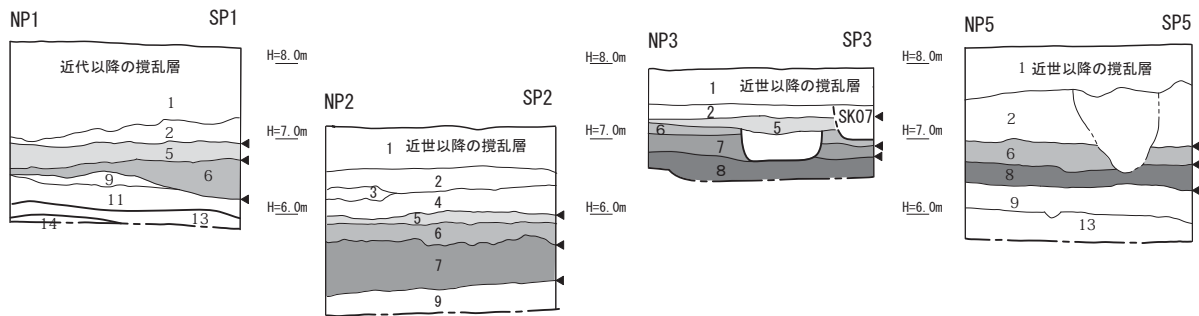


Fig.23 小畑遺跡土層推移模式図

宮地小畑遺跡土層変遷図について

調査区各土層断面図作成箇所から柱状に抽出し図示した。(Fig.23)

現状では、平坦な地形が広がる宮地の町であるが、古代には山側からの小規模な土石流などで細かく分断され、それぞれの平坦部には高低差があったことを土層図等から見てとることができよう。

古代には標高約6～7m前後で東西に延びる緩斜面上に今回調査した遺跡は広がっている。

新幹線本線調査区No.33区では、土石流の礫の中から、古墳時代後期から古代（9世紀前半）にかけての須恵器が、また、今回調査した側道部 F-11Grid、土坑 SK035,036 は土石流により削平を受けているのを見て取ることができる。

本調査区のなかで最も大きな土石流は西側で G-9～G-11Grid にかけてほぼ東から西にかけて幅約32mに渡り検出している。調査時に重機を用いて掘削を行ったが、下端を確認する前に脆い土砂のため断念せざるをえなかった。



Fig.24 宮地小畑遺跡8層上面(古代3)遺構図

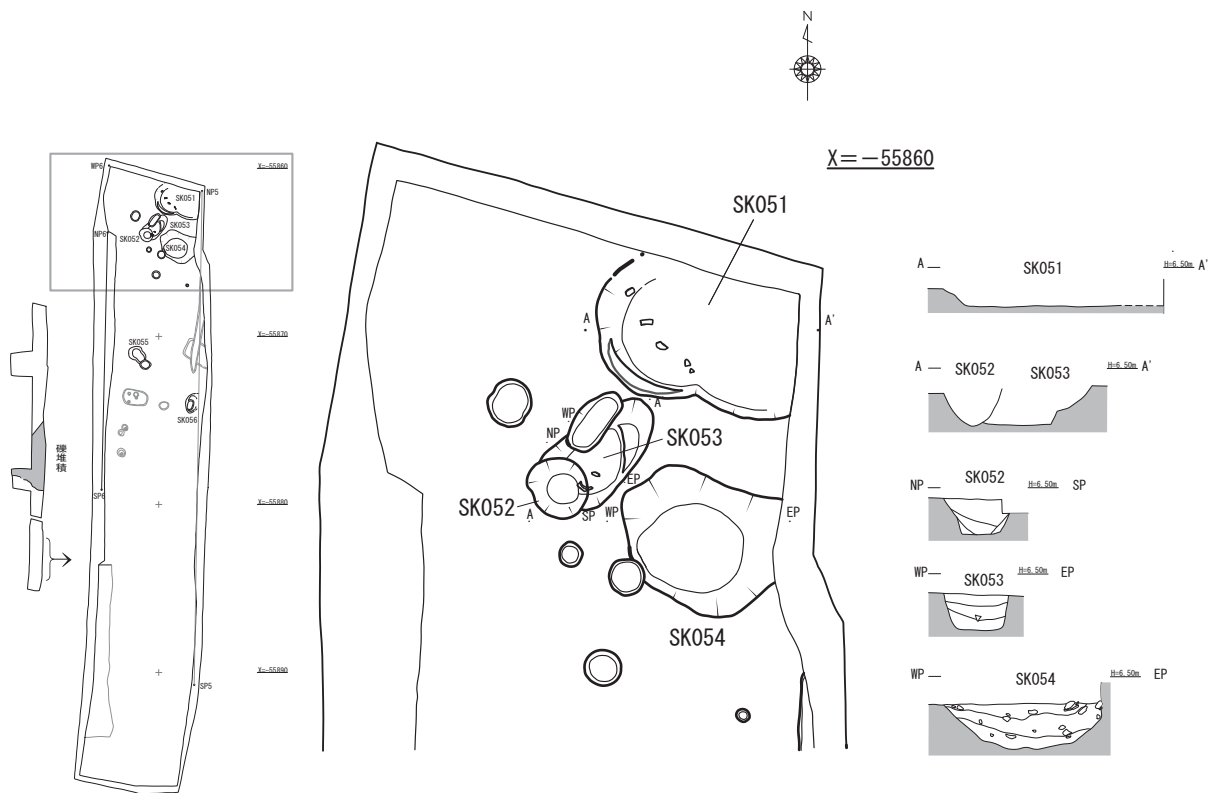


Fig.25 土坑 SK051·SK052·SK053·SK054 遺構実測図

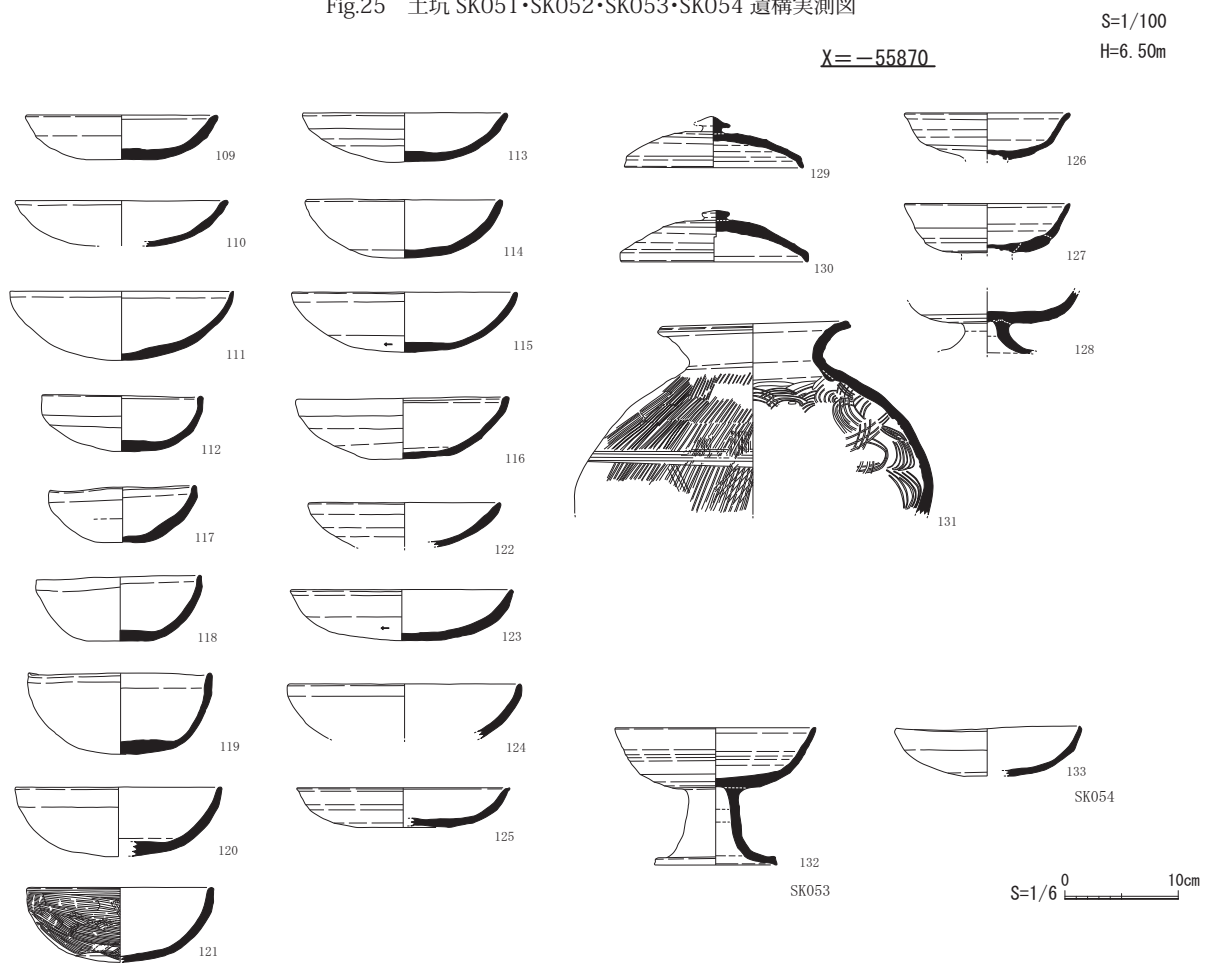
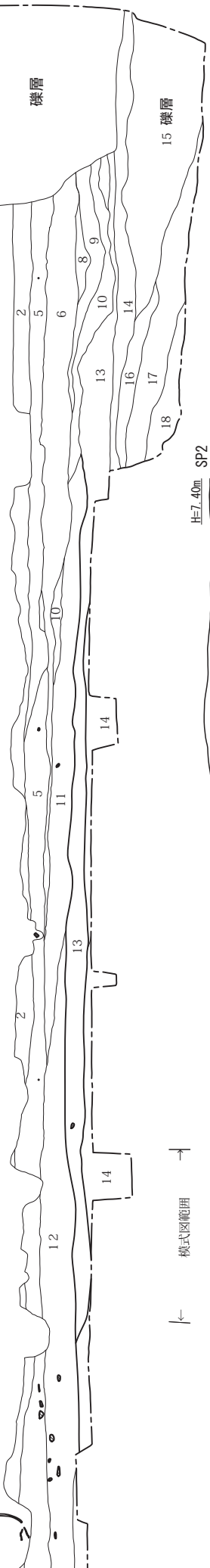
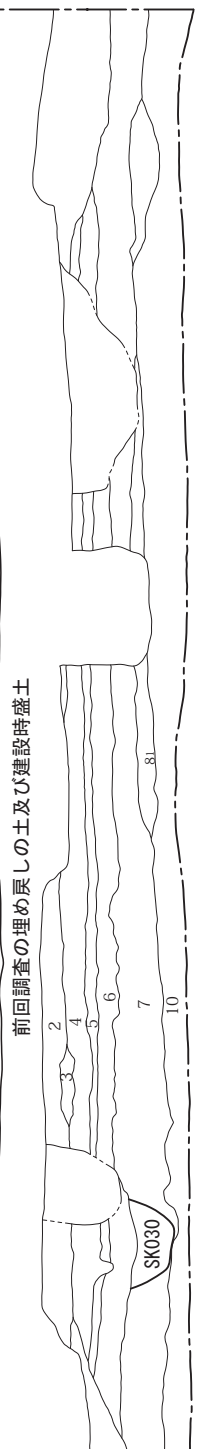


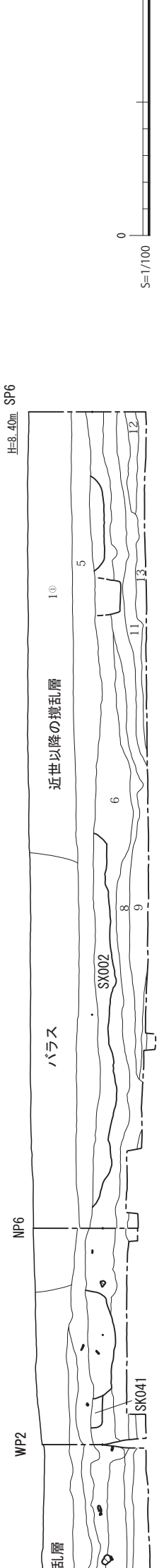
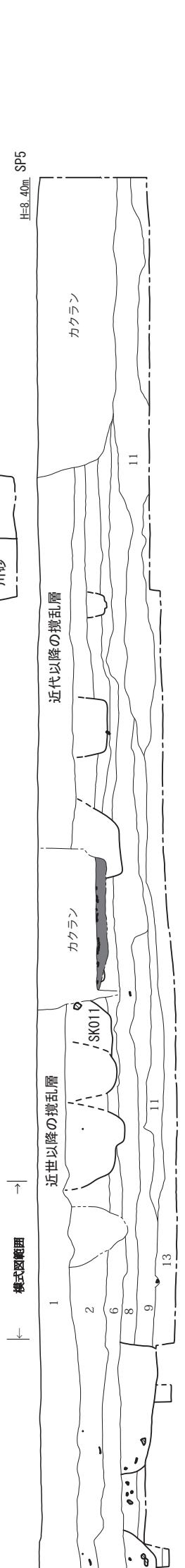
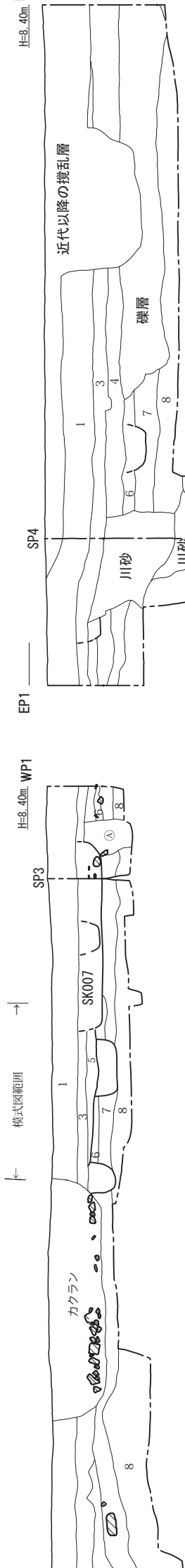
Fig.26 土坑 SK051·SK053·SK054 出土遺物実測図



前回調査の埋め戻しの土及び建設時盛土



- 10. 褐色粘質土 10YR6/4 細粒黄色シルト、細粒砂子、黒色粘土・灰化物・土塊片を含む。
- 11. オリーブ褐色粘質土 2.5Y4/3 粘子相、僅かに粘性多し含まない。礫の混入はあまり見られない。
- 12. 褐色粘質土 10YR6/4 灰化物 (1~3cm)、淡灰色粘土ブロックを含む。黒色粘土・土塊片を含む。礫により層 (10~20cm) 含む。
- 13. 暗褐色粘質土 10YR5/4 灰白色粘土ブロック・灰化物・土塊片、土塊片、土塊片を含む。粘子相が強い。
- 14. にぶい黄褐色粘質土 10YR6/3 灰白色粘土ブロック若干含む。灰色粘子を含む。粘子相が強い。
- 15. 厚層 1cm 未満~1.0cm 程度の小石~1.0cm 程度の小石多し。
- 16. 黄褐色シルト 10YR5/6 灰色粘土ブロックを含む。11A より粘子相強い。
- 17. にぶい黄褐色粘質土 10YR6/3 灰化物、黒粘土を含む粘子相が強い。
- 18. 褐色砂 10YR6/4 粘子相が強い。



B 出土遺物

溝SD002出土遺物 (Fig.28) 須恵器 蓋 (1) は外面天井部にのみ回転ヘラ切りが施され他は回転ナデにより整形される。宝珠は整形後、貼り付け。口縁短部付近で稜が付き短部は丸い。焼歪みがひどい。(2) 低い体高をなす。外面天井部にのみ回転ヘラ削りを施し、他は回転ナデ整形。口縁短部は短く折れ、先端はやや尖る。(3) も体高は低い、86に比べるとやや丸みを感じさせる。外面天井部にのみ回転ヘラ切り、他は回転ナデ整形。短部は鋭角に折れ丸い。やや焼歪みが見られる。

土師器 杯 (4) 丁寧な回転ナデにより整形。底部は回転ヘラ切り後未調整。緩やかに外反し立ち上がり口縁近くで強い回転ナデのせいかやや薄くなり、口縁部で肥厚し端部で丸い。

須恵器 杯 (5) 外面底部に回転ヘラ削り調整、他は横ナデ整形。底部と体部の屈曲よりやや内に入った位置に高台を貼り付ける。(6) 外面底部に回転ヘラ切り、他は横ナデ整形。底部と胴部の屈曲部からわずかに底部寄りに高台を貼り付ける。

土坑SK001出土遺物 (Fig.29) 須恵器 杯 (7) 外面底部に回転ヘラ切り、他は横ナデ整形。直線に伸びる体部は短部で押えによりやや外に開く。

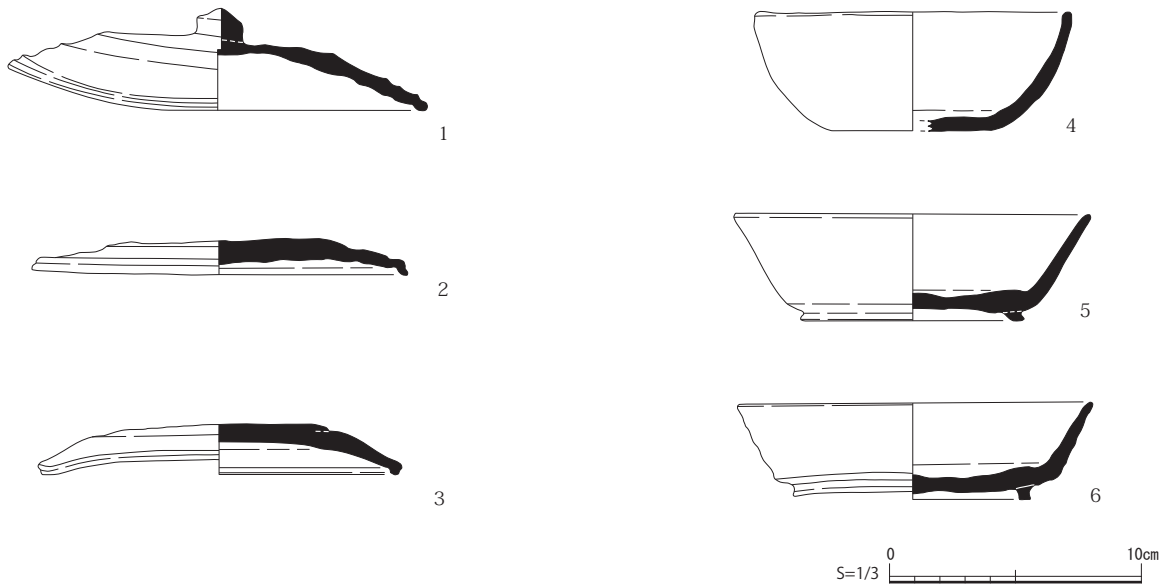


Fig.28 溝 SD002 出土遺物実測図

土坑SK007出土遺物 (Fig.29) 須恵器 蓋 (8) 外面天井部のみ回転ヘラ切りを施し、他は回転ナデ整形。低い体高をなし天井部と体部の屈曲部で最も肥厚し口縁短部に至る。短部は直角に折れやや尖る。

土師器 杯 (9) 底部に回転ヘラ切り、他は回転ナデ整形。底部と体部の屈曲は緩く、大きく外に開き短部付近で更に外反する。内外面とも磨滅が激しいが、内面にわずかに赤色顔料が塗布されていた痕跡を認める。

土坑SK008出土遺物 (Fig.29) 須恵器 杯 (10) 外面底部に回転ヘラ切り、他は横ナデ整形。貼り付け高台。

土坑SK011出土遺物 (Fig.29) 須恵器 皿 (11) 外面底部回転ヘラ切り、他は横ナデ整形。口縁は緩やかに外反し端部に至る。端部は横ナデによりやや尖る。

土坑SK012出土遺物 (Fig.29) 土師器 杯 (12) 回転台を利用して作成されており、外面底部に回転ヘラ切り、他は横ナデ整形。体部と体部の屈曲は緩やかで直線的に開き、端部付近で肥厚し先端は内面を押えたことによりやや尖る。

土坑SK016出土遺物 (Fig.29) 青磁 椀 (13) 見込に「河濱遺範」のスタンプを押印。削り出し高台畳み付け、高台内部には施釉なし。

土坑SK018出土遺物 (Fig.29) 土師器 杯 (14) 外面底部に回転ヘラ切りを施し、他はナデ整形。口縁部は横ナデによりわずかに湾曲する。端部で短く外反する。

土坑SK019出土遺物 (Fig.29) 軒丸瓦 (15) 複弁八葉蓮花軒丸瓦 中区中房に5つの蓮子を配し、外縁幅は1.2cmとやや狭く、平坦な面に蓮子を施す。

土坑SK023出土遺物 (Fig.29) 土師器 杯 (16)、杯 (17) とも底部糸切り、他は横ナデ整形。底部と体部境は厚く内面は緩やかに、外面は明瞭な角を作り出し上方に立ち上がる。

土坑SK027・029出土遺物 (Fig.30) 本線調査区30区に隣接し側道部上に位置する。6層を包含層とし7層上面での検出遺構。土師器 杯 (18・19・20・22)。(18)は外面底部を回転ヘラ切り後、横ナデ整形。体部は緩く丸みを帯び立ち上がる。口縁は端部近くでやや肥厚する。(19)は外底面回転ヘラ切り、体部外面立ち上がり屈曲部1条まで回転ヘラ削り、その他は回転ナデ整形。体部は直線的に伸び、横ナデ単位毎に緩やかに波打つ。(20)は外面底部は回転ヘラ切りを施し、体部屈曲部から中位までの3条に回転ヘラ削りを施す。ほかは回転ナデ整形。口縁端部近くでやや外反し端部は丸く収める。

土師器 皿 (21) 浅い杯部と高い脚部が特徴をなす。杯部外面底部は横ナデを呈するが、強く開く体部の一部まで回転ヘラ削りが施されていることから、回転ヘラ切りによるものと考えられる。高台貼り付け後のナ

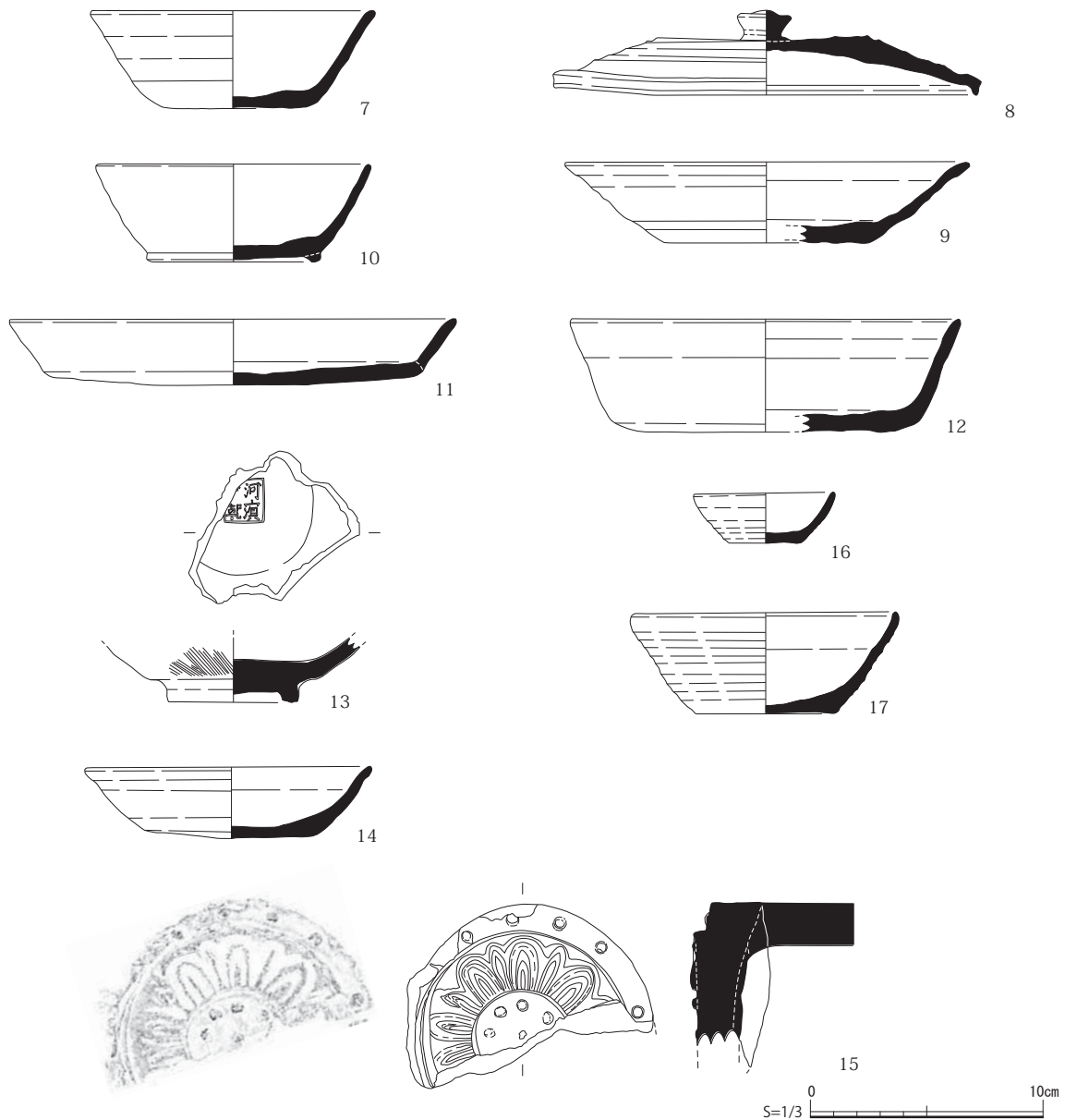


Fig.29 土坑 SK001(7)、SK007(8・9)、SK008(10)、SK011(11)、SK012(12)、SK016(13)、SK018(14)、SK019(15)、SK023(16・17)出土遺物実測図

デにより消えている。高台は緩やかに立ち上がる位置に貼り付く。(22)は外面底部は整形痕は不明であるが、丁寧な横ナデを施す。底部と体部屈曲部に高台を貼り付けた痕を認める。他は回転ナデ整形。内面は黒色を呈し、細かく横方向の磨きを施す。

須恵器 杯 (23) 外面底部には回転ヘラ切り後、ナデ整形。底部から体部屈曲部にかけて肥厚する。体部は緩やかに直線的に伸び端部は丸く収める。

須恵器 広口壺 (24) 頸部が伸びる広口壺の一部。体部貼り付け痕から外れており体部は不明。横ナデにより整形され、口縁体部で折れ立ち上がる。端部は上部を抑え丸く収める。

土師器 甕 (25) 土坑SK029の埋土中に据えられるように置かれた状態で出土。口縁屈曲部上部より失われるが、どの段階(時期)に打ち欠けたのかは不明。屈曲は緩やかな円弧を描き、明確な稜はない。体部は球体で丸底を呈す。外面調整は刷毛目によるもので最大径部上部で縦方向の調整、底部に行くに従い横方向の調整を施す。内面は底部付近に指頭圧痕を残し、他は下から上への幅の狭いヘラ削り調整。口縁頸部は内外面とも刷毛目調整後などで消すように整形。内外面ともに煙状の黒色範囲を見ることができる。

土坑SK030出土遺物 (Fig.31) 本線調査の際に最も多くの瓦を出土した31区土坑SK015に近い場所で検出した遺構。

土師器 杯 (26) 外面底部回転ヘラ切り、他は回転ナデ整形。底部はやや平底で体部は垂直に立ち上がり口縁近くで肥厚し強く外反しながら端部に至る。(27) 底部は回転ヘラ切り後ナデ、体部外面は底部屈曲部から2条回転ヘラ削り調整。体部中位より口縁に向かいやや肥厚し端部は丸く収める。(28) 外面底部に回転ヘラ削り痕、外面屈曲部から体部下にかけて2条の回転ヘラ削りを施す。他は回転ナデ整形。口縁端部で強く外反し端部は丸く収める。

土師器 椀 (29) 杯部は外面底部回転ヘラ切り後などでヘラ切り痕を消す。底部から体部を経て立ち上がる体部外面に1条の回転ヘラ削りを施す。また、底部と体部屈曲部に強く外反する高台を貼り付ける。外面底部の高台内部に、「黒」とみられる一文字を施す。

(30～35)は黒色土器(内黒)杯、椀にあたる。杯(30) 底部外面回転ヘラ切り後ナデ、底部から体部屈曲部から2条の回転ヘラ削り痕、他は回転ナデ整形。体部は厚く口縁近くでわずかに外反し端部に至る。(31) 外面底部回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。底部と体部屈曲部に短く高台が貼り付く。口縁は緩やかに立ち上がり端部近くで緩やかに外反する。(32) 外面底部は(33) 同様に丁寧なナデ整形のため、切り離し手法は不明。底部と体部屈曲部の稜を残し、やや内部に外反する短い高台が貼り付く。内面には底部付近に縦方向の細いミガキが薄く残り内黒。外面底部、高台内にヘラ書きを施す。(33) 外面底部は完全になでられ、切り離しの際の調整は窺えない。他は回転ナデ整形。体部はほぼ直線的に伸び、口縁でわずかに外反し、端部は丸く収める。底部と体部の境に高台が貼り付いていた痕跡が残る。内面は幅約2mm程度の細かな横方向のミガキが、口縁近くまで薄く入る。器面表面に細かな雲母粒が付着し、他の土器に比べると目を引く。(34) 外面底部、回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。底部と体部屈曲部に短い高台が貼り付く。外面体部中位にまで回転ヘラ削りを施す。黒色を呈する内面には口縁近くに、横方向のミガキをわずかに残す。

椀(35) 丸みを帯びる底部から体部にかけて深みのある器形を呈する。外面底部は丁寧にナデ、他は回転ナデ整形。口縁はやや肥厚し端部で強く外反し丸く収める。外面体部中位にまで4条の回転ヘラ削りを認める。内面は狭い単位で縦方向に薄い磨き、底部、体部中位、口縁直下の3単位に磨きを見ることができる。外面底部から体部にかけて短く高台が貼り付く。外面底部、高台内部のほぼ1/2の面積に「×」のヘラ書きを施す。緑釉陶器 椀(36) 底部のみの部位出土。底部外面は削り出しでやや中央部が緩やかに弧を描き凹む。内面は横ナデ整形。全面施釉。

平瓦(37) 外面に格子目叩き、内面に布目を残す瓦。布目面には布の折れ痕が中央部に明瞭に残る。断面整形が見られる3面ではヘラ状工具による鋭い切り取り痕面が残る。

土坑SK033出土遺物 (Fig.32) (38～55) 本線調査区31・32区間の東側、側道部上に位置し、6層を包含層とし、7層上面での検出遺構。

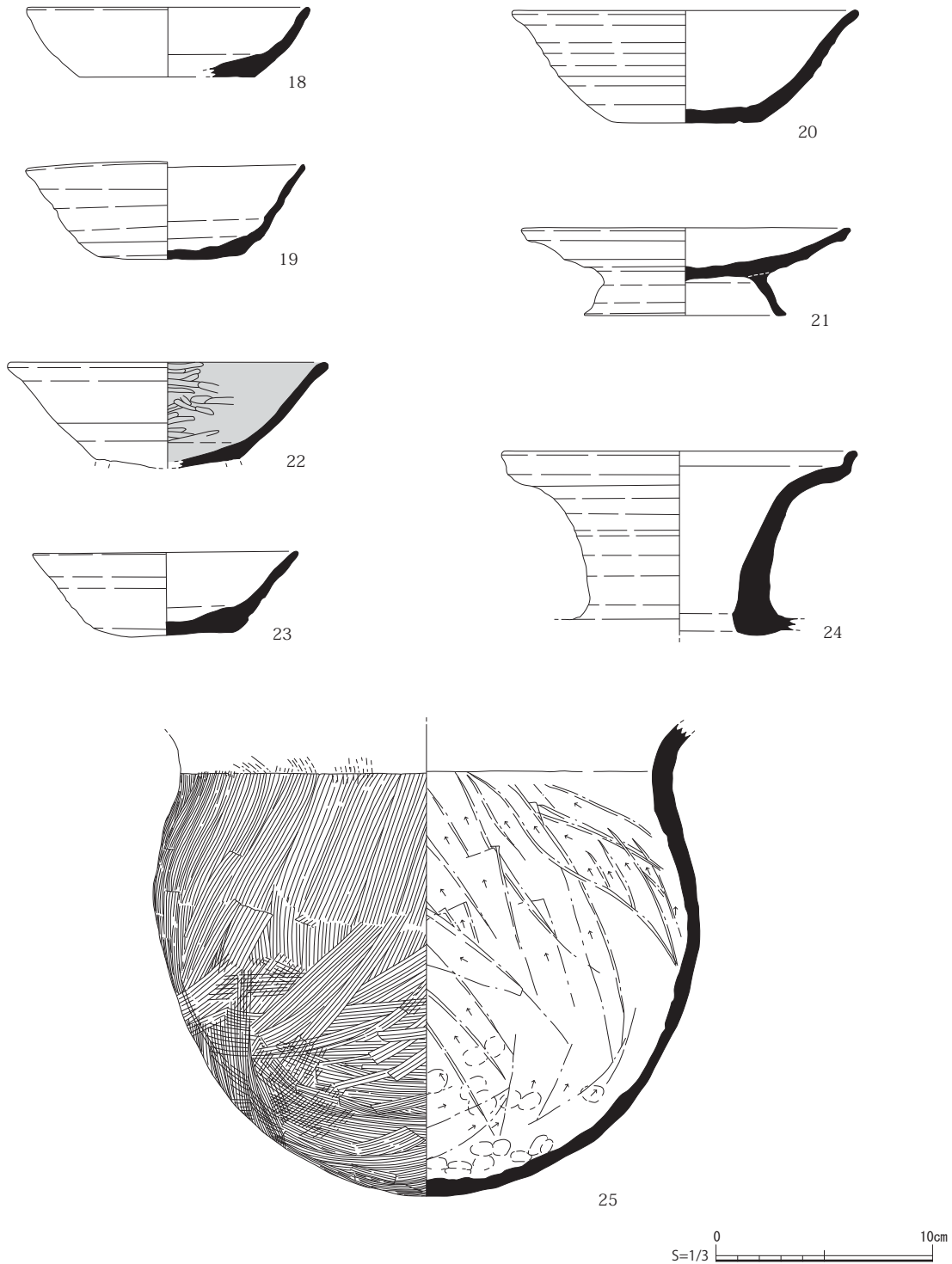


Fig.30 土坑SK027 (18・19・20・21・22・23・24)、SK029 (25) 出土遺物実測図

土師器 杯 (38) 底部回転ヘラ切り、他は回転ナデ整形。底部から体部への屈曲部で1条の回転ヘラ削りを施す。体部は口縁まで直線的。(39) 外底部回転ヘラ切り、他は回転ナデ整形。底部から体部への屈曲部で1条の回転ヘラ削りを施す。体部は口縁まで直線的だが、端部内面でわずかに押し薄く尖る。(40) 外面底部回転ヘラ切り後ナデ、底部から体部の屈曲部に2条の回転ヘラ削りを施す。他は、回転ナデ整形。体部は口縁近くで一度薄くなり、端部近くで肥厚しながら外反し丸く収める。内外面に赤色顔料の塗布痕が残る。(41) 外面底部回転ヘラ切り後ナデ、底部から体部の屈曲部にかへ1条の回転ヘラ削りを施す。

口縁は端部近くで肥厚しながら外反し丸く収める。(42) 外面底部回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。本資料は屈曲部から体部にかけての回転ヘラ削りは確認できない。体部は回転ナデ痕が明瞭に残る。口縁は端部近くで肥厚しながら外反し丸く収める。(43) 外面底部回転ヘラ切り後ナデ、底部から体部の屈曲部にかけて1条の回転ヘラ削りを施す。口縁は端部近くで肥厚しながら外反し丸く収める。(44) 外面底部回転ヘラ切り後ナデ、底部から体部の屈曲部にかけて1条の回転ヘラ削りを施す。口縁は端部近くで肥厚しながら外反し丸く収める。外面底部には「□川」(□部分は文字が入るかは不明)のヘラ書きを施す。(45) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。外面底部から体部屈曲部にかけて1条の回転ヘラ削りを施す。体部は直線的で口縁内面が肥厚し端部を丸く収める。内外面とも赤色顔料を塗布した痕跡が器面表面の窪みに

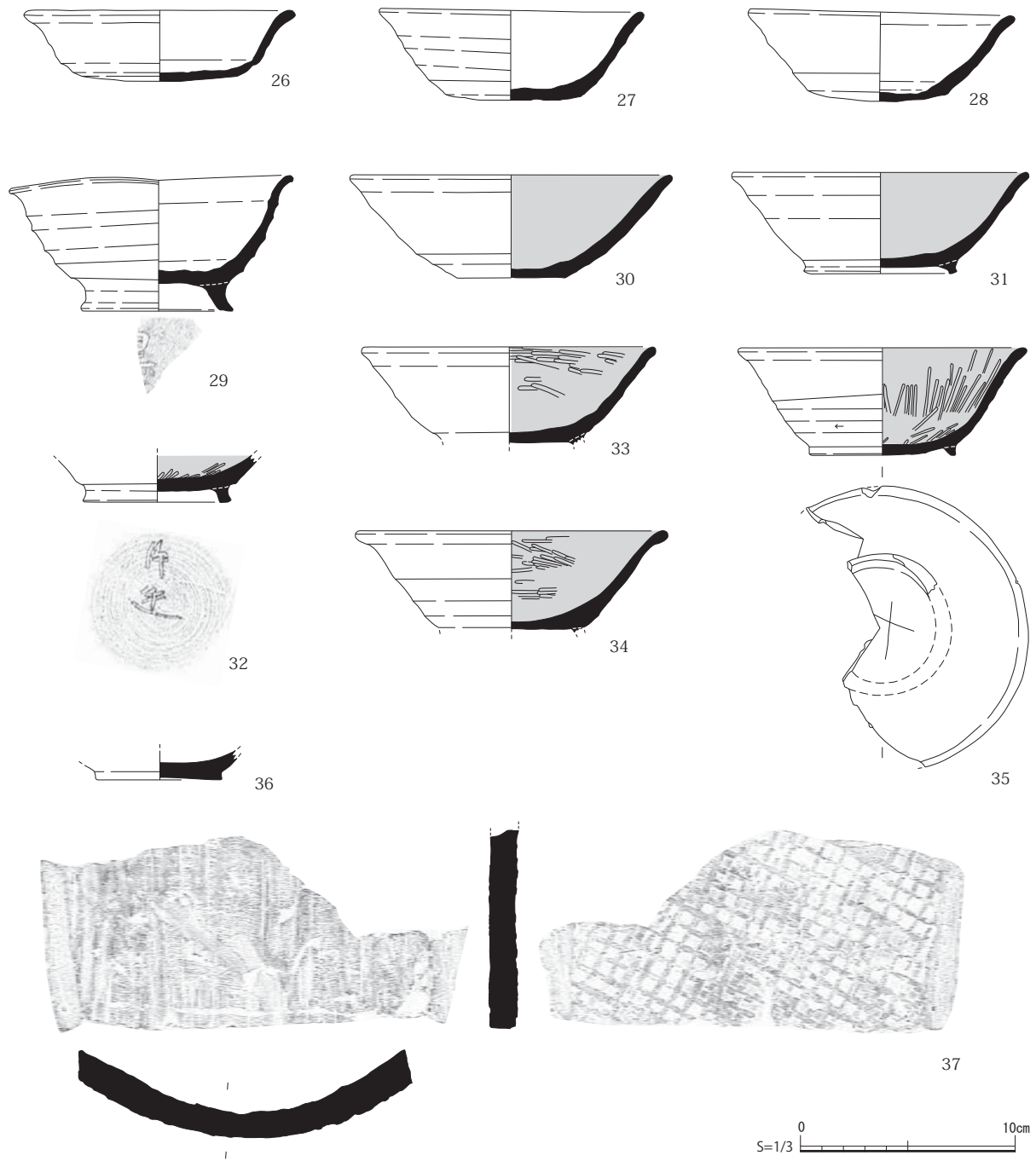


Fig.31 土坑 SK030 出土遺物実測図

残る。(46) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。外面底部から体部屈曲部にかけての回転ヘラ削りがあるようだが明瞭には確認できない。体部は直線的で口縁内面が肥厚し端部を丸く収める。内外面とも赤色顔料を塗布した痕跡が器面表面の窪みに残る。(47) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。外面底部から体部屈曲部にかけての回転ヘラ削りがあるようだが明瞭には確認できない。体部は直線的で口縁内面が肥厚し端部を丸く収める。

椀 (48) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。外面底部から体部屈曲部にかけて1条の回転ヘラ削りを施す。杯部は後に報告する土師器椀 (49) と体部の立ち上がりが類似する。内面底部はナデ整形で凸凹は見られない。(49) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。外面底部から体部屈曲部にかけて2条の回転ヘラ削りを施す。体部は直線的に立ち上がり、口縁端部で緩く外反する。椀部は深く底部は横ナデの単位毎に更に深みを増す。底部から体部屈曲部へ移行する底辺側に、端部で強く外反する高台を貼り付ける。高台にも回転ナデ整形痕が残る。

黒色土器 杯 (50) 口縁部のみの出土。外面は横ナデ整形。口縁部近くで稜を有し、端部で強く外反し丸く収める。内面黒色、ミガキ痕は観察できない。

土師器 甕 (51) 甕は出土量が多いが、凶化できるものは少ない。体部の張りは少なく、頸部は「く」字状に屈曲する。端部は角ばり、小口に沈線を施す。外面頸部下は荒い刷毛目調整を施すが、頸部外面から口縁内外面にかけては横ナデ整形が施される。

須恵器 蓋 (52) 外面天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体高は低く、口縁内面近くで薄くなり端部は折れ、丸く収める。杯 (53) 外面底部回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。外面底部から体部屈曲部にかけて2条の回転ヘラ削りを施す。

須恵器 椀 (54) 外面天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。外面底部から体部屈曲部にかけて1条の回転ヘラ削りを施す。体部は直線的に伸び、口縁端部の外面でやや肥厚する。

須恵器 壺 (55) 器形は壺もしくは瓶の体部下半から底部にかけての部位。横ナデ整形で明確に稜を残し調整している。体部は緩やかに内湾しながら立ち上がる。高台は底部と体部の屈曲部に、短く貼り付く。外面底部に列点状の叩き目を残す。

土坑SK035出土遺物 (Fig.33) (56～66) 本線調査区33区・34区間に位置し、6層を包含層とし、7層上面での検出遺構。

土師器 杯 (56) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。外面底部から体部屈曲部にかけて2条の回転ヘラ削りを施す。体部は直線的で口縁内面でわずかに押え、端部はやや尖る。(57) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的で端部はやや尖る。底部は器壁が厚く、外底面は歪む。(58) 外面底部回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。横ナデの残りは悪い。

鉢 (59) 体部は浅く肩部は緩やかに「く」字状に張り、口縁は極めて短く立ち上がる。高台は内外面より強くなで付けられ、断面は三角形をなす。

土師器 甕 (60) 体部の張りは少なく頸部は「く」字状に屈曲する。端部は角ばり小口に沈線を施す。外面頸部下は荒い刷毛目調整を施すが、頸部外面から口縁内外面にかけては横ナデ整形が施される。(61) 体部の張りは少なく頸部は「く」字状に屈曲する。胴部内面は横方向のヘラ削りを細かな単位で行う。頸部外面から口縁内外面にかけては横ナデ整形が施される。

須恵器 蓋 (62) 外面天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体高は低く口縁内面近くで薄くなり端部は折れ、丸く収める。全体に焼き歪みあり。(63) 外面天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体高はやや高く口縁内面近くで薄くなり、端部は折れ尖る。つまみは中心部がわずかに盛り上がるものが貼り付く。杯 (64・65) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり口縁端部は丸く収まる。高台は底部と体部屈曲部よりやや底部中心よりに貼り付ける。断面は逆台形をなす。皿 (66) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部はわずかに外湾し立ち上がる。口縁端部は丸く収まる。

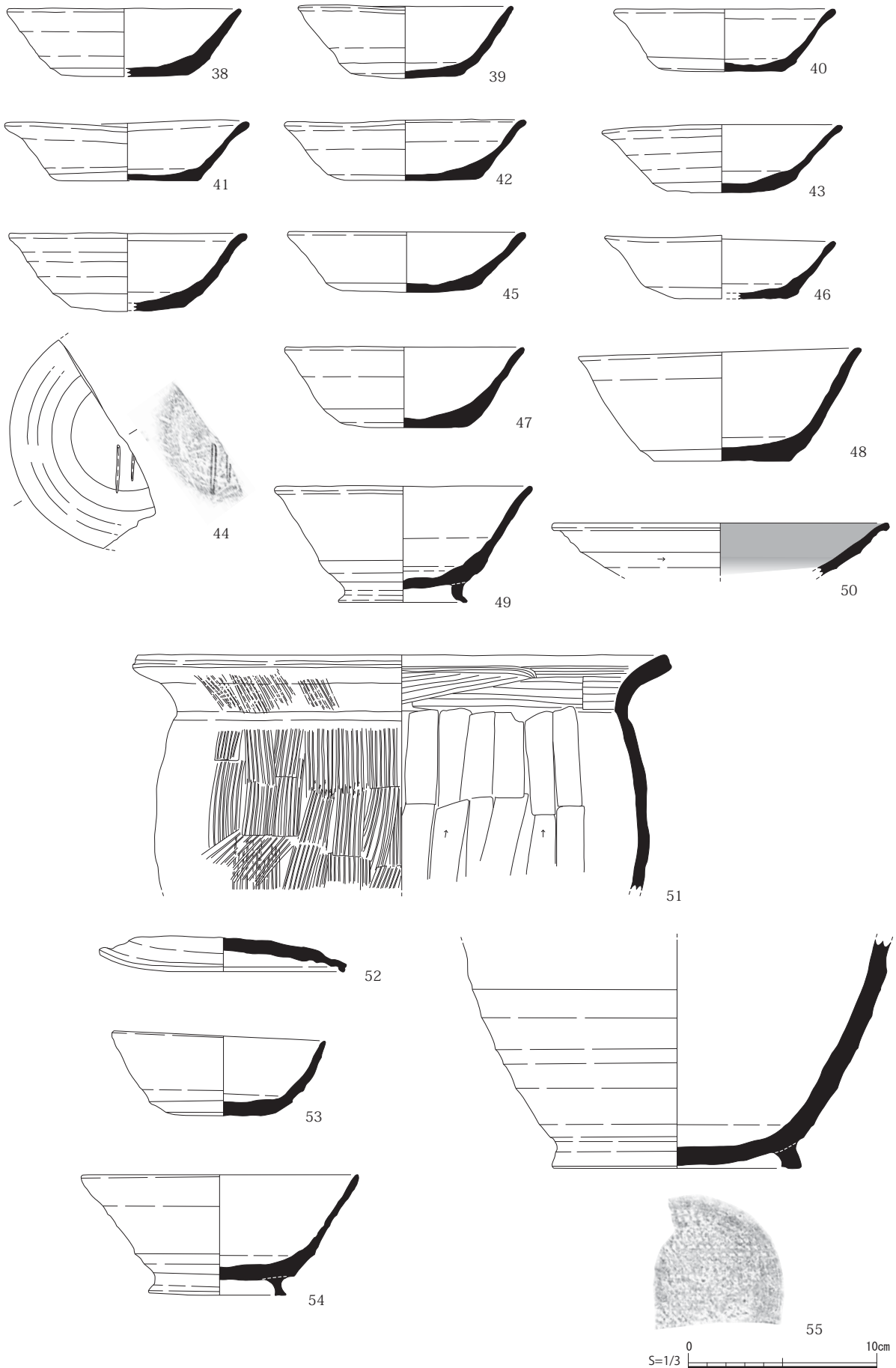


Fig.32 土坑 SK033 出土遺物実測図

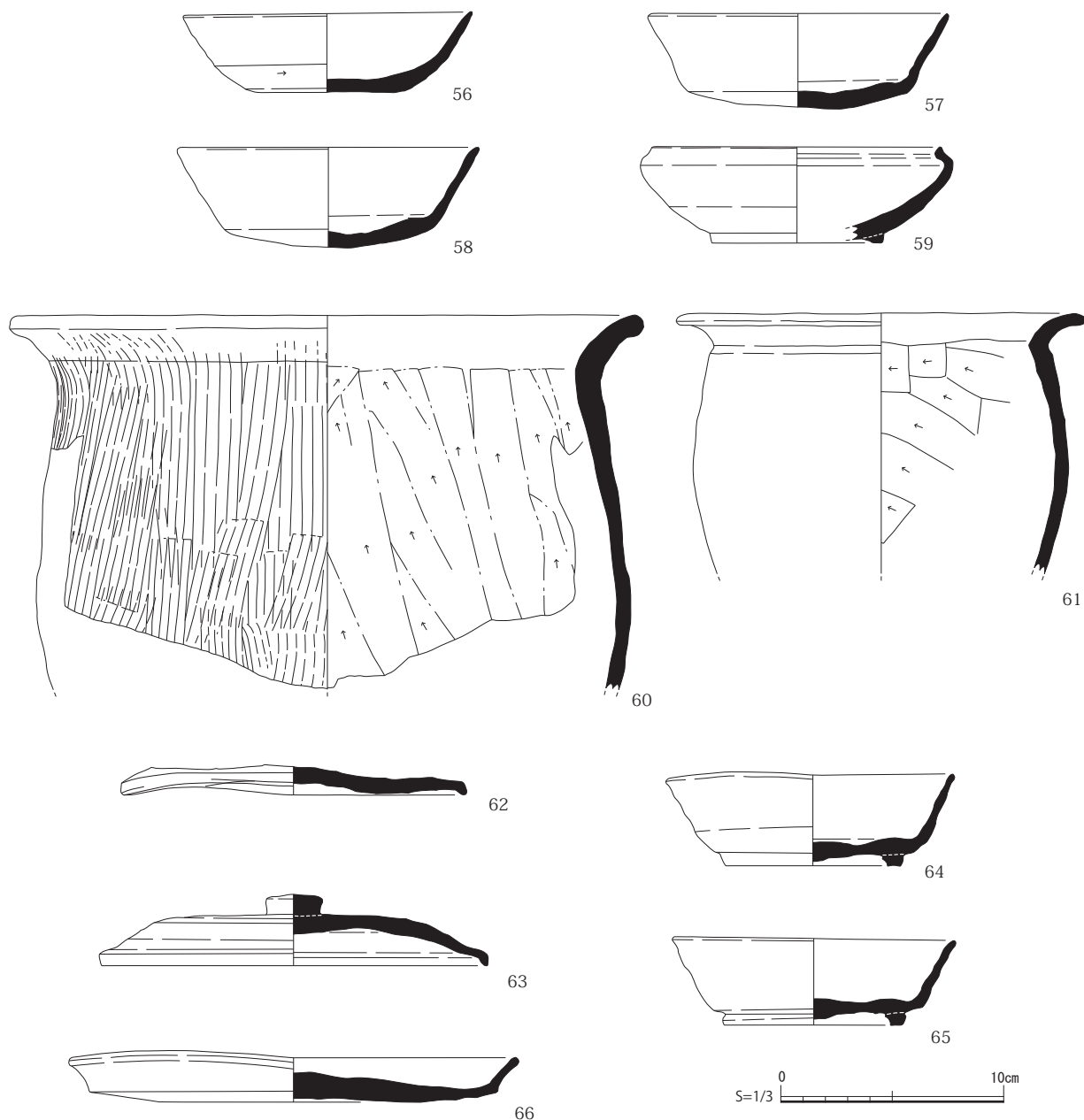


Fig.33 土坑SK035出土遺物実測図

土坑SK036出土遺物 (Fig.34) (67～75) 本線調査区33区・34区間に位置し、6層を包含層とし、7層上面での検出遺構。

土師器 杯 (67) 整形痕の残らないほどナデ整形を受けている。体部は緩やかに内湾し中位から垂直に立ち上がり端部は尖り気味に収まる。全体に器壁は厚い。(68)外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。外面底部から体部屈曲部にかけて2条の回転ヘラ削りを施す。体部は緩やかにわずかに内湾し伸び、端部は内外面から押えやや尖る。甕 (69) 口縁は短く屈曲し、肩部の張りが少なく、「く」字状に外反する口径を有する。胴部最大径は下部にあり、底部形状は不明。口縁端部の断面は四角をなす。外面は端部近くのみ刷毛目を磨り消す。頸部から胴部にかけては縦方向の荒い刷毛目が残る。内面は口縁部で横方向の荒い刷毛目、頸部下は下から上へ幅の広いヘラ削り痕を残す。

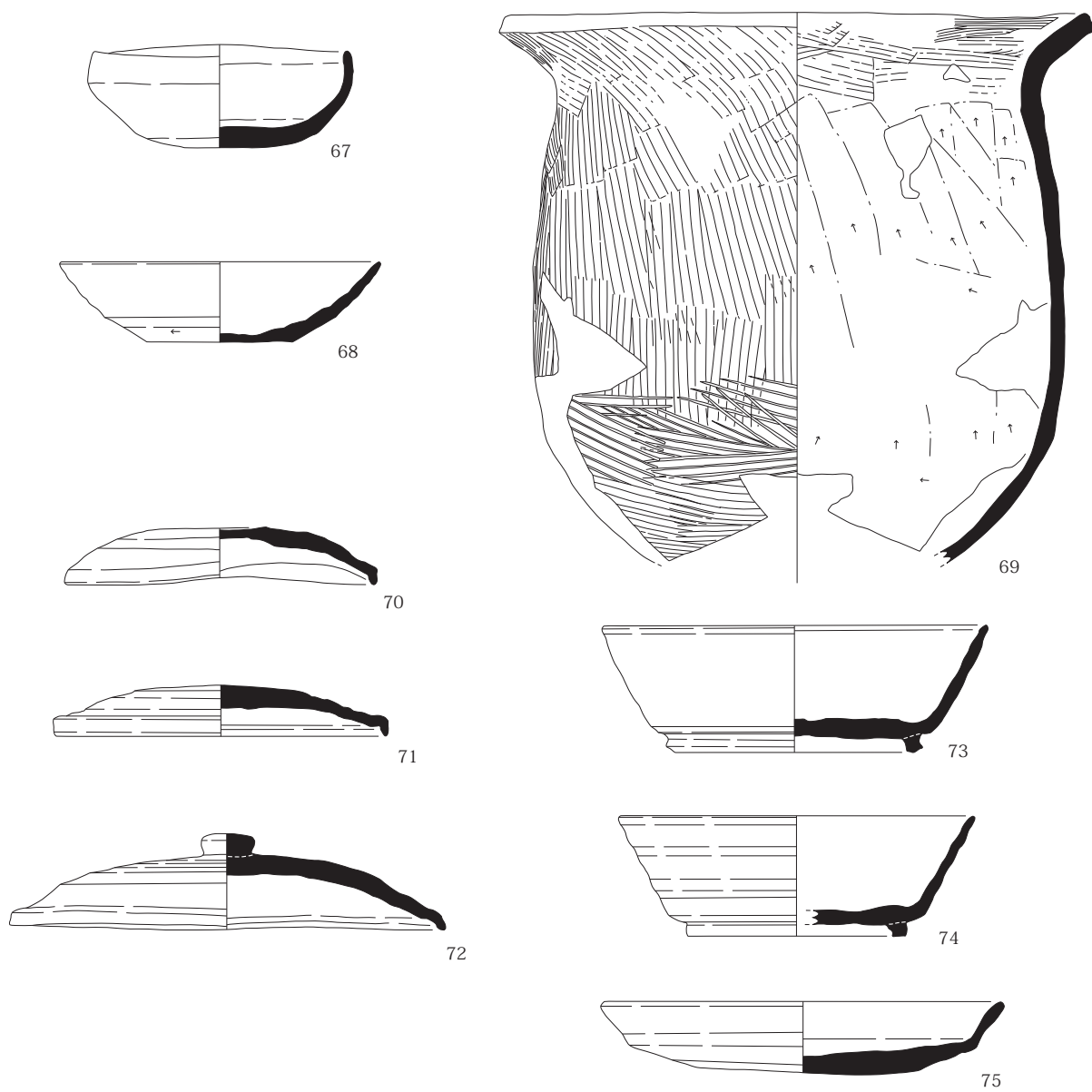


Fig.34 土坑SK036出土遺物実測図

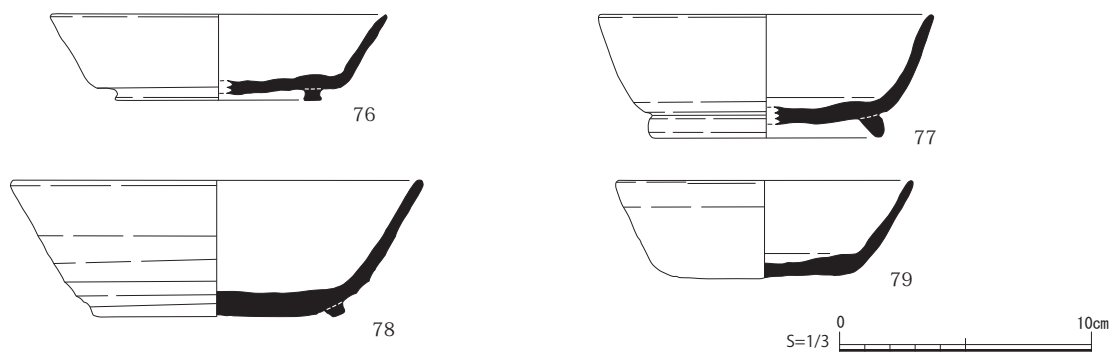


Fig.35 土坑SK037(76)・SK038(77)・SK039(78)・SK040(79)出土遺物実測図

須恵器 蓋 (70) 外面天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体高は低く、口縁内面近くで器壁は薄くなり、端部は折れ、丸く収める。(71) 外面天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体高は低く口縁内面近くで薄くなり端部は折れ、丸く収める。器高は (70) より更に低い。(72) 外面天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体高はやや高く、口縁内面近くで薄くなり端部は直線的に収まる。つまみは中心部がわずかに盛り上がり、外面から良くなで付ける。杯 (73) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり、口縁端部は丸く収まる。高台は底部と体部屈曲部よりやや底部中心によりに貼り付ける。断面は逆台形をなす。(74) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。外面底部下に2条の回転ヘラ削りを施す。体部は直線的に立ち上がり口縁端部は丸く収まる。高台は底部と体部屈曲部よりやや底部中心によりに貼り付ける。断面は逆台形をなす。

須恵器 皿 (75) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部はわずかに外湾し立ち上がる。口縁端部は丸く収まる。

土坑SK037出土遺物 (Fig.35) 須恵器 杯 (76) 高台付き杯。外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。底部内面及び体部は横ナデによる凹凸が残る。口縁部は薄く端部はやや尖る。高台は短く垂直に貼り付き、断面は台形を呈す。

土坑SK038出土遺物 (Fig.35) 須恵器 杯 (77) 高台付き杯。外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は底部付近からやや丸みを帯び、口縁部でやや肥厚し端部に至る。端部はやや尖る。

土坑SK039出土遺物 (Fig.35) 須恵器 杯 (78) 高台付き杯。外面底部は回転ヘラ切り、他は回転ナデ整形。底部器壁は厚いが、体部器壁は底部に比べると薄く仕上げる。底部から体部にかけての屈曲部はヘラ削りを施し丸みを付け、底部側に短く斜めに高台が貼り付く。

土坑SK040出土遺物 (Fig.35) 須恵器 杯 (79) 外面底部は回転ヘラ切り、他はナデ整形。

土坑SK041出土遺物 (Fig.36) 土師器 蓋 (80) 外面天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他はナデ整形。外面の一部に刷毛目が残る。口縁部はやや内湾しながら端部に至り、端部はヘラ切りにより整える。天井部中心に宝珠型つまみが貼り付く。

須恵器 蓋 (81) 外面天井部回転ヘラ切り後、他はナデ整形。口縁部はやや薄く端部は短く折れ、更に先端部は外反する。天井部中心には宝珠型つまみが貼り付く。杯 (82) 外面底部は回転ヘラ切り後、ナデ整形。器壁内面には横ナデによる凹凸が細かな単位で残る。外面はナデ整形によりなめらかな表情を呈す。口縁部でわずかに肥厚し、端部は尖る。

土坑SK043出土遺物 (Fig.36) 土師器 杯 (83) 外面底部、回転ヘラ切り部の一部。小片であるため全体形は不明である。外面底部にヘラ書きを施すが、解読不明。

土坑SK044出土遺物 (Fig.37) (84 ~ 102) 本線調査区35区東の側道部上に位置し、6層を包含層とし、7層上面での検出遺構。遺物の出土状態はやや浮いてしまったが、遺構掘り込み上層で、重ねて横倒しの状態で出土。

土師器 杯 (84 ~ 88) は小型杯。外面底部は糸切り痕が明瞭に残り、他は横ナデ整形。体部は直線的に短く伸び、端部は丸く収まる。杯 (89 ~ 102) 外面底部は糸切り痕が明瞭に残り、他は横ナデ整形。体部は直線的に短く伸び端部は丸く収まる。器形状は小型杯と同じである。また、底部と体部境の断面径が三角を呈するもの (97・99・100・101)、断面径が丸みを帯びるものに分けられる。前者の調整は後者に比べると横ナデが強い。

土坑SK045出土遺物 (Fig.38) 本線35区東側の側道部上に位置し、6層を包含層とし、7層上面での検出遺構。須恵器 杯 (103) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり口縁端部はやや尖る。外面底部に2本の平行直線によりヘラ記号が残る。須恵器の焼成で用いて良いか迷うが、備前焼等でみられる火襌状の焼成痕が内外面に残る。甕 (104) 口縁は短く屈曲し肩部から胴部にかけては強くはり体部は球体をなす。頸部は強く外反する口縁にかけ「く」字状を呈する。端部は稜をなし断面の形状は三角となる。外面は格子目叩き、内面は同心円文の当て具痕からなる。頸部から口縁にかけては横ナデ整形。

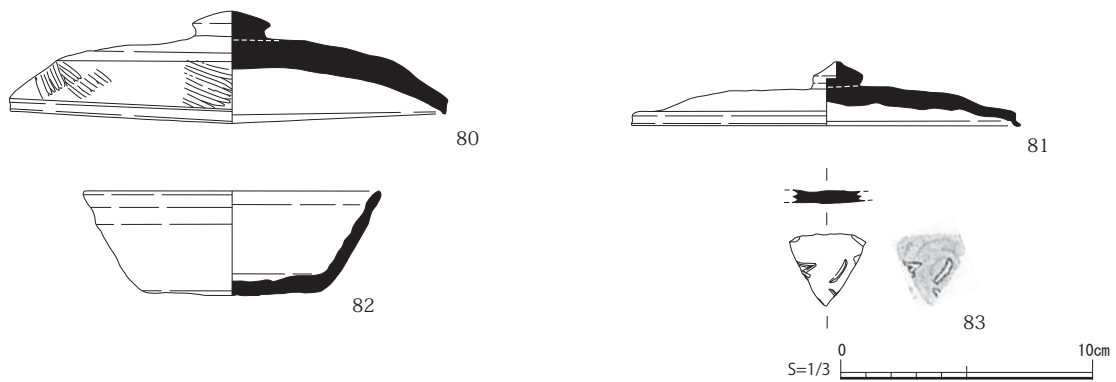


Fig.36 土坑 SK041 (80·81·82),SK043(83)出土遺物実測図

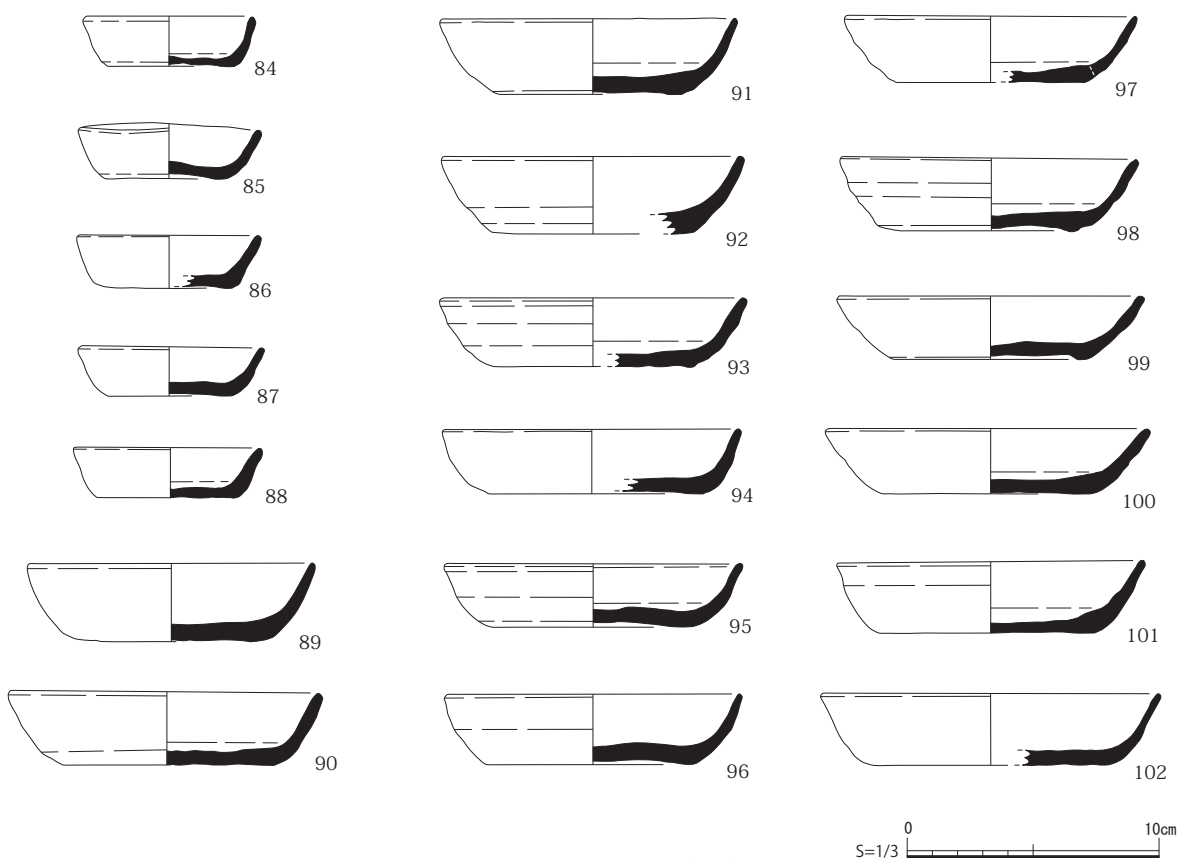


Fig.37 土坑 SK044出土遺物実測図

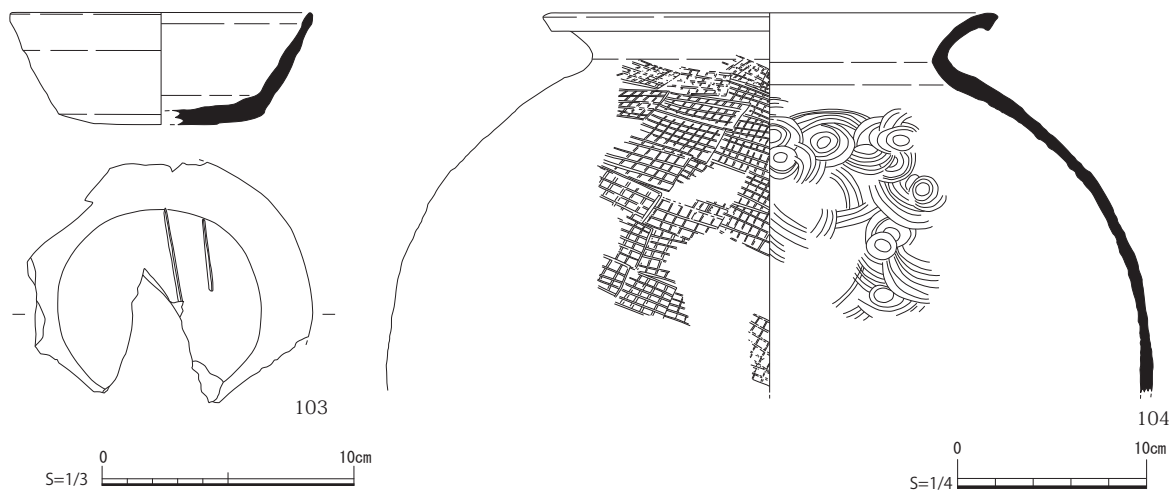


Fig.38 土坑 SK045 出土遺物実測図

土坑SK046出土遺物 (Fig.39) 本線35区東側の側道部に位置する。

土師器 杯 (105) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり口縁端部内面で押えているため、やや尖る。

土坑SK047出土遺物 (Fig.39) 本線35区東側の側道部に位置し6層を包含層とし、7層上面での検出遺構。

須恵器 蓋 (106) 外面天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体高は低く口縁は短く折れ、端部は丸く収める。全体に焼き歪みが見られる。

土坑SK049出土遺物 (Fig.39) 本線35区・36区間東側の側道部に位置し、6層を包含層とし、7層上面での検出遺構。

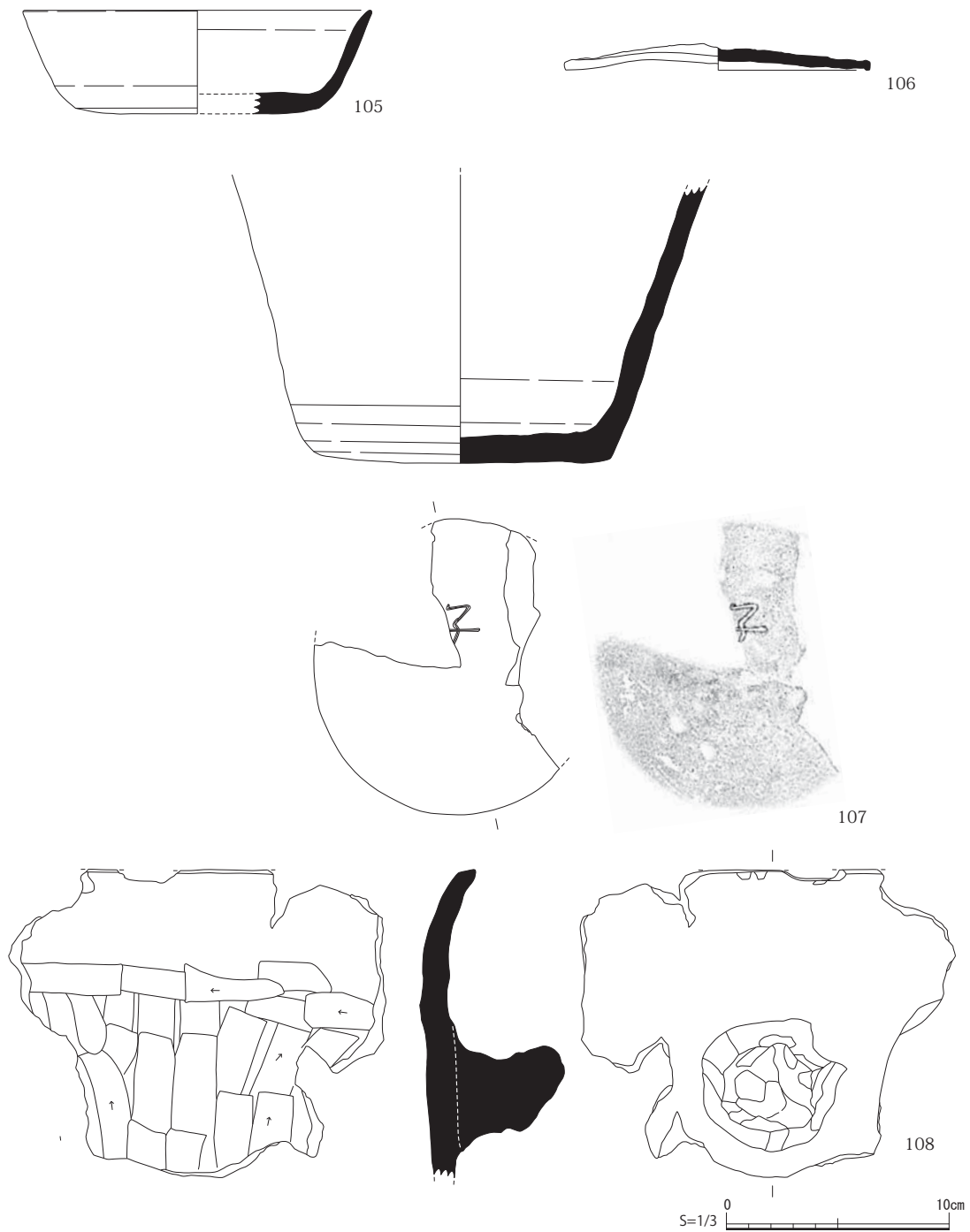


Fig.39 土坑 SK046(105)、SK047(106)、SK049(107)、SK050(108)出土遺物実測図

土師器 壺 (107) 底部から胴部中位までの資料であるため器種は確定できたわけではない。瓶の可能性もある。底部から体部にかけて回転ナデにより整形される。底部近くで明確な稜線を有する調整が残る。外面底部にヘラ書きで「子」が施される。

土坑SK050出土遺物 (Fig.39) 本線35区、36区間東側の側道部上に位置し、6層を包含層とし、7層上面での検出遺構。

土師器 釜 (108) 口縁から胴部把手までの資料。口縁は端部近くで開き体部では直線である。把手は手握棒状で別途作成され、強く貼り付けられる。内面は胴部で縦方向ヘラ削り、口縁直下で横方向のヘラ削りを施し、口縁端部近くの内面はナデ整形。出土した部位は一部であることから甑である可能性もある。

土坑SK051出土遺物 (Fig.40～41) 本線調査区33区東の側道部に位置し、7層を包含層とし、8層上面での検出遺構。

土師器 杯 (109～125) (109) 外面底部は手持ちヘラ削り調整、他は横ナデ整形。杯部は浅く緩やかに円弧を描き口縁に至る。口縁端部はやや肥厚し、内面上部を押え端部直下に稜を有する。(110) 外面底部は手持ちヘラ削り調整、他は横ナデ整形。杯部は浅く緩やかに円弧を描き口縁に至る。口縁端部はやや肥厚し、内面上部を押え端部直下にわずかだが稜を持つ。(111) 外面底部は手持ちヘラ削り調整、他は横ナデ整形。杯部は浅く緩やかに円弧を描き口縁に至る。口縁端部はやや肥厚し、内面上部を押え端部直下にわずかに稜を有する。(112) やや小ぶりの杯だが整形、調整は同じ。外面底部は手持ちヘラ削り調整、他は横ナデ整形。杯部は浅く緩やかに円弧を描き口縁に至る。やや内湾しながら伸びる口縁は端部直下で幅は変わらないが直立する。外面体部には横ナデが明瞭に残る。(113) 外面底部は手持ちヘラ削り調整、他は横ナデ整形。杯部は浅く緩やかに円弧を描き口縁に至る。口縁端部は外面で押えられ、稜を有する。(114) 外面底部は手持ちヘラ削り調整、他は横ナデ整形。杯部は浅く緩やかに円弧を描き口縁に至る。やや内湾しながら伸びる口縁は端部まで幅を変えず伸び丸く収める。(115) 外面底部は手持ちヘラ削り調整、他は横ナデ整形。杯部は浅く緩やかに円弧を描き口縁に至る。やや内湾しながら伸びる口縁は端部まで幅を変えず伸び丸く収める。(116) 外面底部は手持ちヘラ削り調整、他は横ナデ整形。杯部は浅く緩やかに円弧を描き口縁に至る。やや内湾しながら伸びる口縁は端部直下で短く直立する。外面体部には横ナデ痕が明瞭に残る。(117) 最も小ぶりの杯。底部から体部にかけて器壁は厚く、一単位毎の横ナデの幅も大きい。口縁は垂直に立ち端部は丸く収まる。(118) 外面底部は手持ちヘラ削り調整、他は横ナデ整形。杯部は浅く緩やかに円弧を描き口縁に至る。やや内湾しながら伸びる口縁は端部直下で短く直立する。(119) 外面底部は手持ちヘラ削り調整、他は横ナデ整形。杯部は浅く緩やかに円弧を描き口縁に至る。やや内湾しながら伸びる口縁は端部直下で短く直立する。(120) 外面底部は手持ちヘラ削り調整、他は横ナデ整形。杯部は浅く緩やかに円弧を描き口縁に至る。やや内湾しながら伸びる口縁は端部直下で幅は変わらないが直立する。底部近くは器壁が厚い。(121) 外面底部は手持ちヘラ削り調整、他は横ナデ整形。杯部は浅く緩やかに円弧を描き口縁に至る。外面は底部から口縁にかけ刷毛目調整が施される。(122) 杯部は浅く緩やかに円弧を描き口縁に至る。口縁端部でやや肥厚し外面端部下に横ナデを施し、やや尖り気味の端部を形作る。(123) 外面底部は手持ちヘラ削り調整、他は横ナデ整形。杯部は浅く緩やかに円弧を描き口縁に至る。口縁端部でやや肥厚し外面端部下に横ナデを施し、やや尖り気味の端部を形作る。(124) 口縁から体部にかけての部位。体部は横ナデ整形。杯部は浅く緩やかに円弧を描き口縁に至る。口縁端部でやや肥厚し外面端部下に横ナデを施し、やや尖り気味の端部を形作る。(125) これまでの杯と比べ体高は低く口径も広い。外面底部は手持ちヘラ削り調整、他は横ナデ整形。杯部は浅く緩やかに円弧を描き口縁に至る。底部は平らで体部は短く立ち上がり、口縁で端部上面を押え外反させる。高杯 (126、127) 無蓋高杯の身に当たる。身底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は横ナデ整形。体部は直線的に伸び、口縁部で短く外反し端部は丸く収める。脚部接合面より下部の脚は貼り付け部より剥離する。(128) 同様に無蓋高杯の杯部から脚部に当たる。杯部は口縁が欠損し、脚部は接地面端部近くが欠損する低脚である。身底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は横ナデ整形。

須恵器 蓋 (129・130) 外面天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体高は比較的高く天井部付

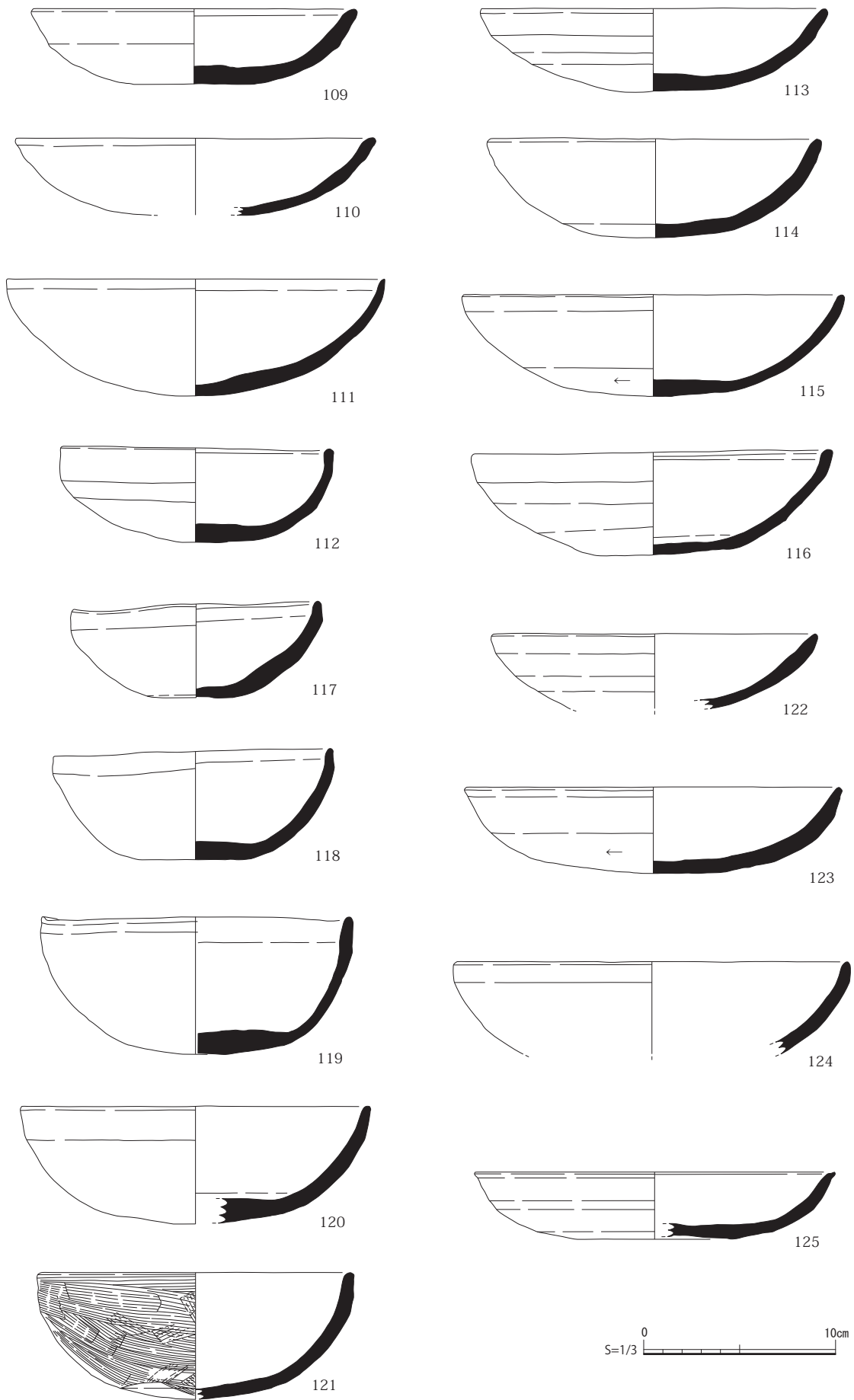


Fig.40 土坑SK051出土遺物実測図-①

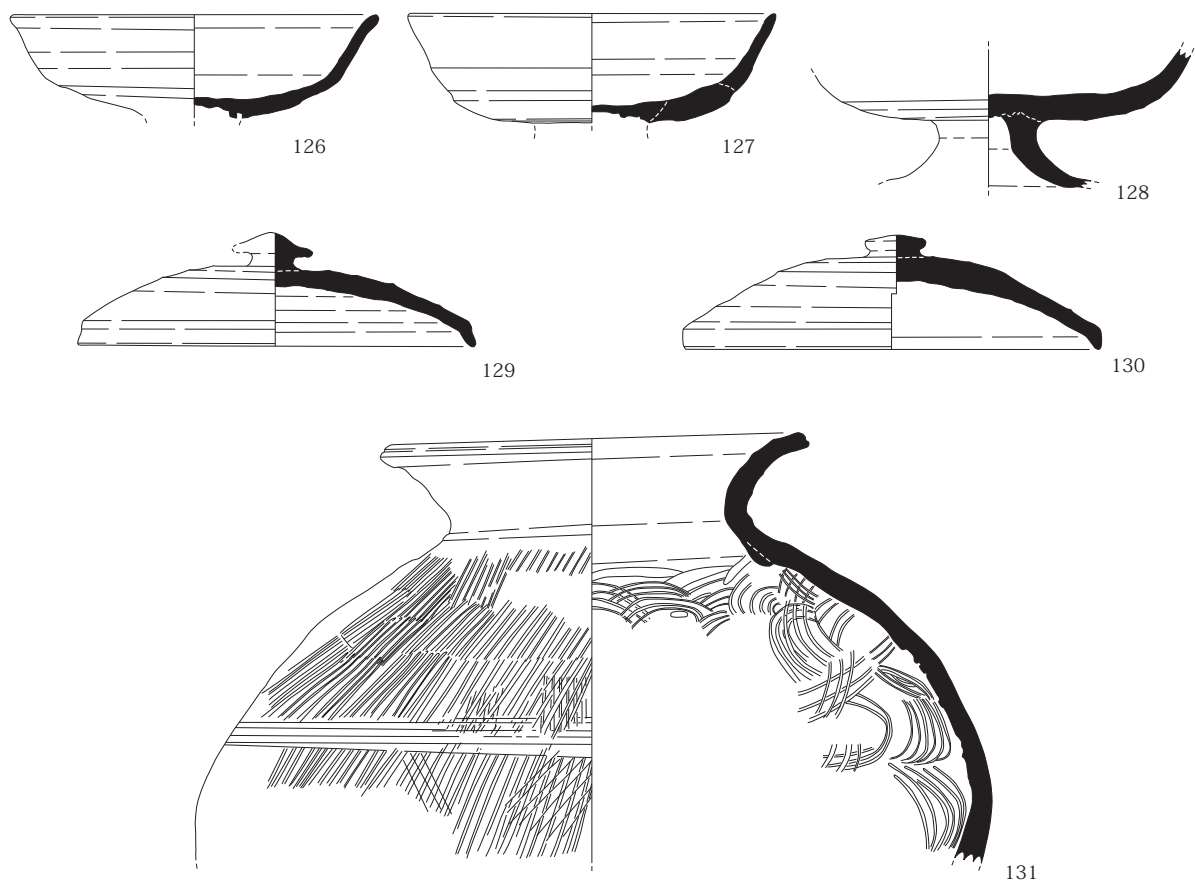


Fig.41 土坑 SK051 出土遺物実測図—②

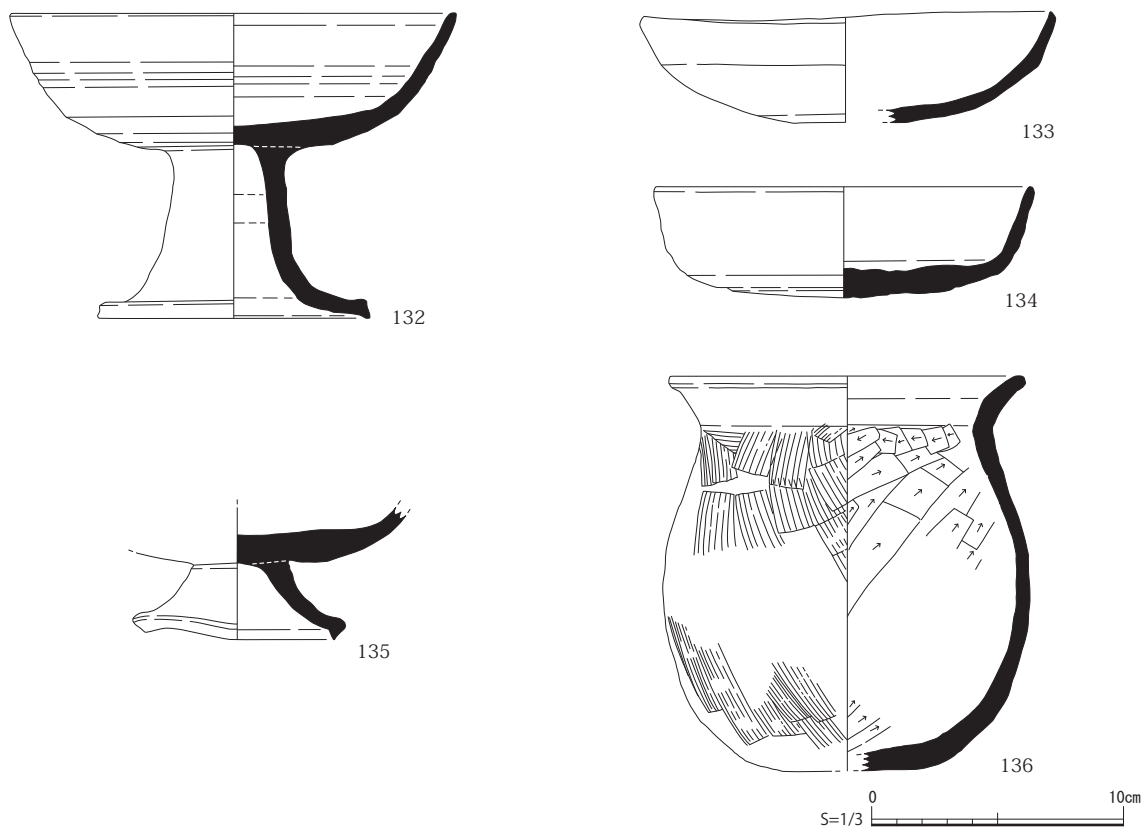


Fig.42 土坑 SK053(132)、SK054(133)、SK055(134)、SK056(135・136) 出土遺物実測図

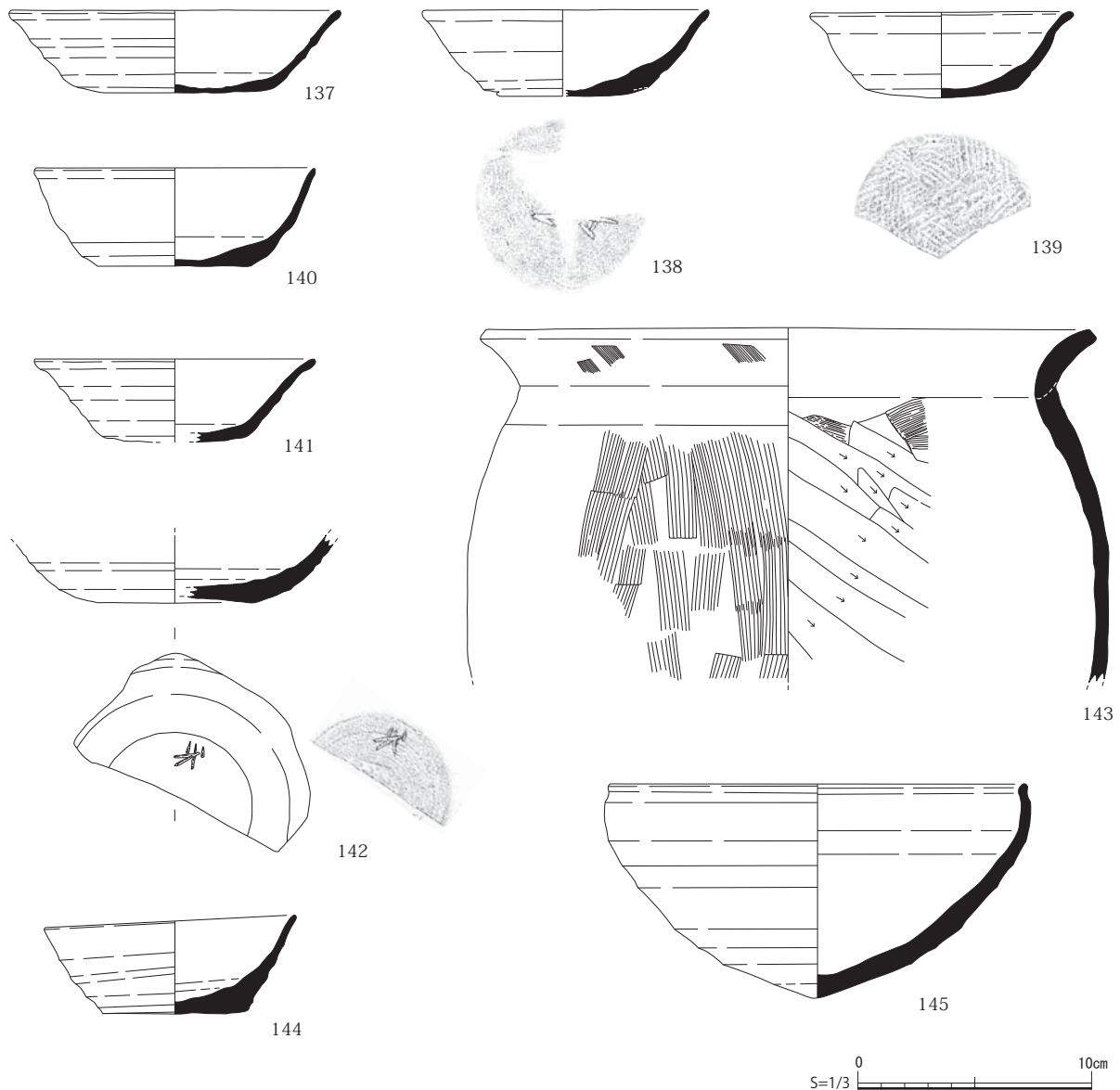


Fig.43 墓 ST001 出土遺物実測図

近は丸みを帯びる。口縁は短く折れ、端部は丸く収まる。広口壺（131）口縁は短く屈曲し肩部から胴部にかけて強く張り、体部は球体をなす。頸部は強く外反し口縁にかけ「く」字状を呈する。外面は平行叩き、内面は同心円の当て具痕からなる。外面肩部に刷毛目（一単位）による横一文字の区画線が入る。頸部から口縁にかけては横ナデ整形を施す。

土坑SK053出土遺物（Fig.42）本線35区東の側道部に位置し、7層を包含層とし、8層上面での検出遺構。
 須恵器 高杯（132）無蓋高杯 杯部は外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。底部から体部にかけて1条の回転ヘラ削りを施す。脚部は中空で横ナデ整形、底部は強く外反し端部で短く折れる。端部は折れる部分で稜をなし断面は三角形を呈す。

土坑SK054出土遺物（Fig.42）本線35区東の側道部に位置し、8層上面での検出遺構にあたる。
 土師器 杯（133）外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり、口縁端部は丸く収まる。横ナデ痕が体部外面、口縁端部直下に稜をわずかに残す程度残る。

土坑SK055出土遺物（Fig.42）本線35区東の側道部に位置し、7層を包含層とし、8層上面での検出遺構。
 土師器 杯（134）外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。器壁は底部で厚く、体部は薄くなる。

口縁端部は丸く収まる。

土坑SK056出土遺物 (Fig.42) 本線35区東の側道部に位置し、7層を包含層とし、8層上面での検出遺構。須恵器 高杯 (135) 無蓋高杯 杯部は外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。底部から体部にかけて1条の回転ヘラ削りを施す。脚部は中空で横ナデ整形、底部は強く外反し端部で短く折れる。端部は折れる部分で稜をなし断面は三角形を呈す。

土師器 甕 (136) 小型甕 体部の張りは少なく、頸部は「く」字状に屈曲する。端部は角ばり、小口に沈線を施す。外面頸部下は荒い刷毛目調整を施すが、頸部外面から口縁内外面にかけては横ナデ整形が施される。

墓ST001出土遺物 (Fig.43) 本線35区東の側道部に位置し、6層を包含層とし、7層上面での検出遺構。長方形の土坑であるが、北側に一段の高まりを有すること、下端がほぼ水平であること等から、他に見られる遺構とは違う可能性を想定し、土坑墓と調査段階で判断した。

土師器 杯 (137) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は横ナデによる稜を有し、直線的に伸びるが口縁でわずかに反り端部は丸く収まる。(138) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は横ナデによる稜を有し、直線的に伸びるが口縁でわずかに反り端部は丸く収まる。底部から体部にかけてはやや厚みを帯びる。外面底部にヘラ書き(文字不明)が残る。(139) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、仕上げに刷毛目による調整を施す。他は回転ナデ整形。体部は横ナデによる稜を有し、内湾し伸びるが口縁部の強い横ナデによりやや外反し端部にいたる。(140) 杯の144に類似するが、底部から体部にかけての屈曲部に回転ヘラ削りが入り丸みを感じさせる仕上げとなる。(141) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は口縁直下で緩やかに外反し端部に至る。端部は丸く収める。杯 (142) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は器壁が厚いまま立ち上がる。外面底部にヘラ書きを施す。内容は不明。甕 (143) 体部の張りは少なく、頸部は「く」字状に屈曲する。端部は角ばり、小口に沈線を施す。外面頸部下は荒い刷毛目調整を施すが、頸部外面から口縁内外面にかけては横ナデ整形が施される。

須恵器 杯 (144) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち、口縁でわずかに反り端部は丸く収まる。外面底部から体部にかけての屈曲部に削りが入らず、断面は三角形を呈する。本遺構出土の他の土器は、屈曲部が回転ヘラ削りか横ナデ整形により、なだらかに表現される。鉢 (145) 底部が尖底となる鉄鉢模倣土器。底部から回転ヘラ削りを施し、口縁部から横ナデ整形となる。端部はやや内湾し短く立つ。

不明遺構SX001出土遺物-① (Fig.44) 本線35区東側の側道部に位置し、6層を包含層とし、7層上面で検出した遺構。遺構の性格は調査段階では掴めなかったが、出土遺物の一括性は高い。

土師器 蓋 (146) 外面天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。天井部は回転ヘラ削りにより肩部より一段下がる。(147) 外面天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体高は比較的高く天井部付近は丸みを帯びる。148・146と外面肩部から中心に向かっての調整は類似する。口縁は短く折れ、端部は丸く収まる。上辺の平らなつまみを付す。内面器壁に「姪」とヘラ書きを施す。(148) 外面天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体高は同形の器種に比べると直線的でやや低い体高を示す。口縁は短く折れ、端部は丸く収まる。上辺の平らなつまみを付す。(149) 外面天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。肩部の張りはなく、端部まで直線的に伸び、短く折れ先端は丸く収める。外面に「二百」とヘラ書きを施す。杯 (150) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。外面底部にナデ後、ヘラ書きが施される。文字内容は不明。(151) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち、口縁でわずかに反り端部は丸く収まる。外面底部から体部にかけて2条の回転ヘラ削りを施し器形を整え、外面底部に「大舎」とヘラ書きを施す。(152) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部はやや内湾しながら立ち上がり、口縁でわずかに反り、端部は上部を押えやや尖る。外面底部から体部にかけて2条の回転ヘラ削りを施し器形を整える。(153) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち、口縁でわずかに反り端部は丸く収まる。外面底部から体部にかけて3条の回転ヘラ削り

を施し器形を整える。口縁にわずかに焼き歪みが入る。(154) 面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち、口縁でわずかに反り端部はわずかに折れ短く直立する。やや肥厚し外面に稜を有する。外面底部から体部にかけて2条の回転ヘラ削りを施し器形を整える。(155) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部はやや内湾しながら立ち上がり、口縁でわずかに反り、端部は上部を押えやや尖る。外面底部から体部にかけて2条の回転ヘラ削りを施し器形を整える。(156) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部はやや内湾しながら立ち上がり、全体に丸みを帯びる。口縁でわずかに反り、端部は横ナデによりやや尖る。外面底部から体部にかけて2条の回転ヘラ削りを施し器形を整える。(157) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり底部は扁平を呈す。端部は横ナデにより丸く収まる。(158) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部はやや内湾しながら立ち上がり、口縁でわずかに反り、端部は横ナデによりやや尖る。底部は外面底部から体部にかけて4条の回転ヘラ削りを施し器形を整える。(159) 外面底部は回転ヘラ切りだが、横ナデ痕と境が明瞭ではない。強い横ナデにより器壁は波打つ。底部から体部にかけて器壁は厚い。椀(160)外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち、口縁でわずかに反り端部は丸く収まる。底部から体部へ屈曲する最も端に高台を貼り付ける。

不明遺構SX001出土遺物② (Fig.45) 土師器 甕 (161) 体部の張りは少なく、頸部は「く」字状に屈曲する。端部は丸みを帯びる。外面頸部下は荒い刷毛目調整を施すが、頸部外面から口縁内外面にかけては横ナデ整形を施し、刷毛目調整は残らない。(162) 体部の張りは少なく、頸部は「く」字状に屈曲する。端部は上部を押えているためか稜を有し、やや尖る。外面頸部下は荒い刷毛目調整を施すが、頸部外面から口縁内外面にかけては横ナデ整形を施し刷毛目は残らない。(163) 体部の張りは少なく、頸部は「く」字状に屈曲する。端部はわずかに角ばる。外面頸部下は荒い刷毛目調整を施すが、頸部外面から口縁内外面にかけては横ナデ整形を施し、口縁内面に横方向の刷毛目が一部残る。(164) 体部の張りは少なく、頸部は「く」字状に屈曲する。端部はわずかに角ばる。外面頸部下は荒い刷毛目調整を施すが、頸部外面から口縁内外面にかけては横ナデ整形を施し、口縁内面に斜め及び横方向の刷毛目が一部残る。(165) 体部の張りはなく、外反する口縁から頸部下は垂直に落ち、底部に至る。口縁端部は丸みを帯びる。外面は縦方向の刷毛目を施し、内面には中段より下部に縦方向のヘラ削り、頸部下にかけて斜め上方への刷毛目を施す。また、頸部下、口縁との屈曲下にわずかに横方向の刷毛目が残る。

不明遺構SX001出土遺物③ (Fig.46) 土師器 甕 (166) 体部の張りはなく、外反する口縁から頸部下は垂直に落ち、底部へ向かう。口縁端部は端部へ調整を受けているためやや角ばる。外面は縦方向の刷毛目を施し、内面には縦方向のヘラ削り、口縁内部には横方向の刷毛目を施す。また、頸部下、口縁との屈曲下にわずかに横方向の刷毛目が残る。(167) 体部は球体を呈し底部は丸底となる。頸部は強く外反し「く」字状を呈し、端部は丸く収まる。外面はナデ整形により刷毛目などの調整痕は残らない。内面は底部から指頭圧痕、中位からは下から上部へのヘラ削り痕が明瞭に残る。

石製品 砥石 (168) 石材はリソイダイトでキメ細やかな表面を呈する。使用面は2面。1面は磨り面的な磨り痕が残り、もう一面には刃部削りに使用したと見られる面が残る。両端は製作時か使用時かは不明だが欠損している。

不明遺構SX001出土遺物④ (Fig.47) 須恵器 蓋 (169) 外面天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体高は低く口縁内面近くで薄く端部は折れ、丸く収める。(170) 外面天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体高は低く口縁内面近くで薄くなり端部は折れ、丸く収める。器壁にやや厚みを帯びる。(171) 外面天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体高は低く口縁内面近くで薄く端部は折れ、丸く収める。(172) 外面天井部回転ヘラ切り、他はナデ整形。器高は低く、口縁は横ナデにより稜を有す。端部は短く折れ丸く収まる。全体に焼き歪みあり。(173) 外面天井部回転ヘラ切り、他はナデ整形。器高は低く、口縁は横ナデにより稜を有す。端部は短く折れ丸く収まる。(174) 外面天井部回転ヘラ切り、他はナデ整形。器高は低く、口縁は横ナデにより稜を有す。端部は短く折れ丸く収まる。(175) 外面天井部は

回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体高は低く口縁内面近くで薄く端部は折れ、丸く収める。これまでの蓋と違い体高を持ち、つまみ付きの蓋に器形は類似する。(176) 外面天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。宝珠型つまみが付き、体高が低く口径も小さい。(177) 外面天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。宝珠型つまみを付す。(178) 外面天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体高は低く口縁内面近くで薄く端部は折れ、丸く収める。天井部から口縁部にかけて稜を有せず直線的に伸びる。つまみ貼り付け痕が残る。(179) 外面天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体高は低く口縁内面近くで薄く端部は折れ、丸く収める。口径、器高とも最大径を呈する。つまみは宝珠型を付す。(180) 外面天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体高は低く、口縁内面近くで薄く端部は折れ、丸く収める。33と比べ、天井部の回転ヘラ削りが顕著で中心部つまみを付す位置が低くなる特徴を有する。口径、器高とも最大径を呈する。つまみは宝珠形を付す。(181) 外面天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体高は低く口縁内面近くで薄く端部は折れ、丸く収める。口縁部近くで角度を持ち端部に至り体高を高くする。つまみはボタン状で上面はほぼ水平。(182) 外面天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体高は低く口縁内面近くで薄く端部は折れ、丸く収める。焼き歪みが酷く詳細な形状を見て取ることはできないが、高い器高を有するタイプと考えられる。つまみはボタン状で上面は水平。(183) 外面天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体高は低く口縁内面近くで薄く端部は折れ、丸く収める。天井部に稜を残しヘラ削りを施す。つまみはボタン状で上辺は水平。(184) 外面天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体高は低く口縁内面近くで薄く端部は折れ、丸く収める。天井部はヘラ削りにより水平をなし、上部が丸みを帯びるつまみを有す。

須恵器 杯 (185) 全体的に丸みを帯び、外面底部に回転ヘラ削りを有し他は回転ナデ整形。体部は直線的に伸び端部は丸く収める。底部は平底と言うより、丸底に近い感もある。(186) 全体的に丸みを帯び、外面底部に回転ヘラ削りを有し、他は回転ナデ整形。体部は直線的に伸び端部は丸く収める。41同様底部に丸みを帯びる特徴を有する。(187) 全体的に丸みを帯び、外面底部に回転ヘラ削りを有し、他は回転ナデ整形。体部は直線的に伸び端部は丸く収める。(188) 全体的に丸みを帯び、外面底部に回転ヘラ削りを有し、他は回転ナデ整形。体部は直線的に伸び端部は丸く収める。底部は水平を呈す。(189) 全体的に丸みを帯び、外面底部に回転ヘラ削りを有し、他は回転ナデ整形。体部は直線的に伸び端部は丸く収める。底部は丸みを帯びる。器壁の一部に火襷状の痕跡を有す。(190) 全体的に丸みを帯び、外面底部に回転ヘラ削りを有し、他は回転ナデ整形。体部は直線的に伸び端部は丸く収める。底部に丸みを帯びる。(191) 器壁が厚く、持った際に重量感を有する。全体的に丸みを有し、外面底部に回転ヘラ削りを有し他は回転ナデ整形。体部は直線的に伸び端部は丸く収める。(192) 全体的に丸みを有し、外面底部に回転ヘラ削りを有し他は回転ナデ整形。体部は直線的に伸び端部は丸く収める。器形の特徴として土師器杯に類似する部分を多く有し、体部のわずかな反りに最も現れる。

不明遺構SX001出土遺物一⑤ (Fig.48) 須恵器 高台付き杯 (193) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり口縁端部は丸く収まる。高台は屈曲部よりやや内に位置し、断面が逆台形を呈し強くなで付ける。(194) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり口縁端部は丸く収まる。内面屈曲部で横ナデにより窪み、外面の屈曲部にまで及ぶ。高台は屈曲部よりやや内に位置し、断面が逆台形を呈し強くなで付ける。(195) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり口縁端部は丸く収まる。高台は屈曲部よりやや内に位置し、断面が逆台形を呈し強くなで付ける。(196) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり口縁端部は丸く収まる。内面底部は横ナデにより大きく波打ち、器壁も厚い。高台は屈曲部よりやや内に位置し、断面が逆台形を呈し強くなで付ける。(197) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。外面底部と体部の屈曲部は、高台を貼り付ける位置まで強く回転ヘラ削りが施されるため底部が丸みを帯びる。体部は直線的に立ち上がり口縁端部は丸く収まる。高台は屈曲部よりやや内に位置し、断面が逆台形を呈し強くなで付ける。(198) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線

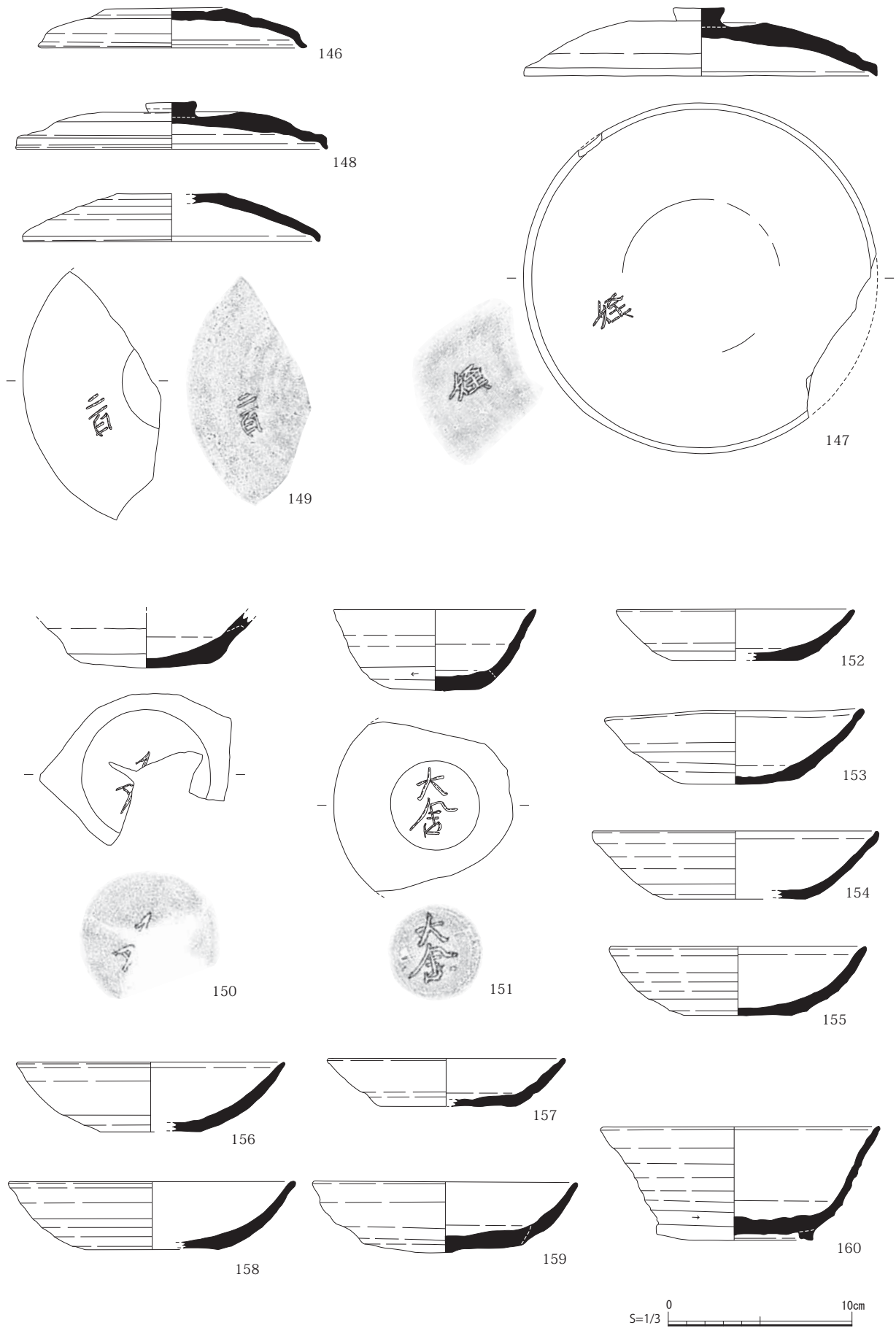
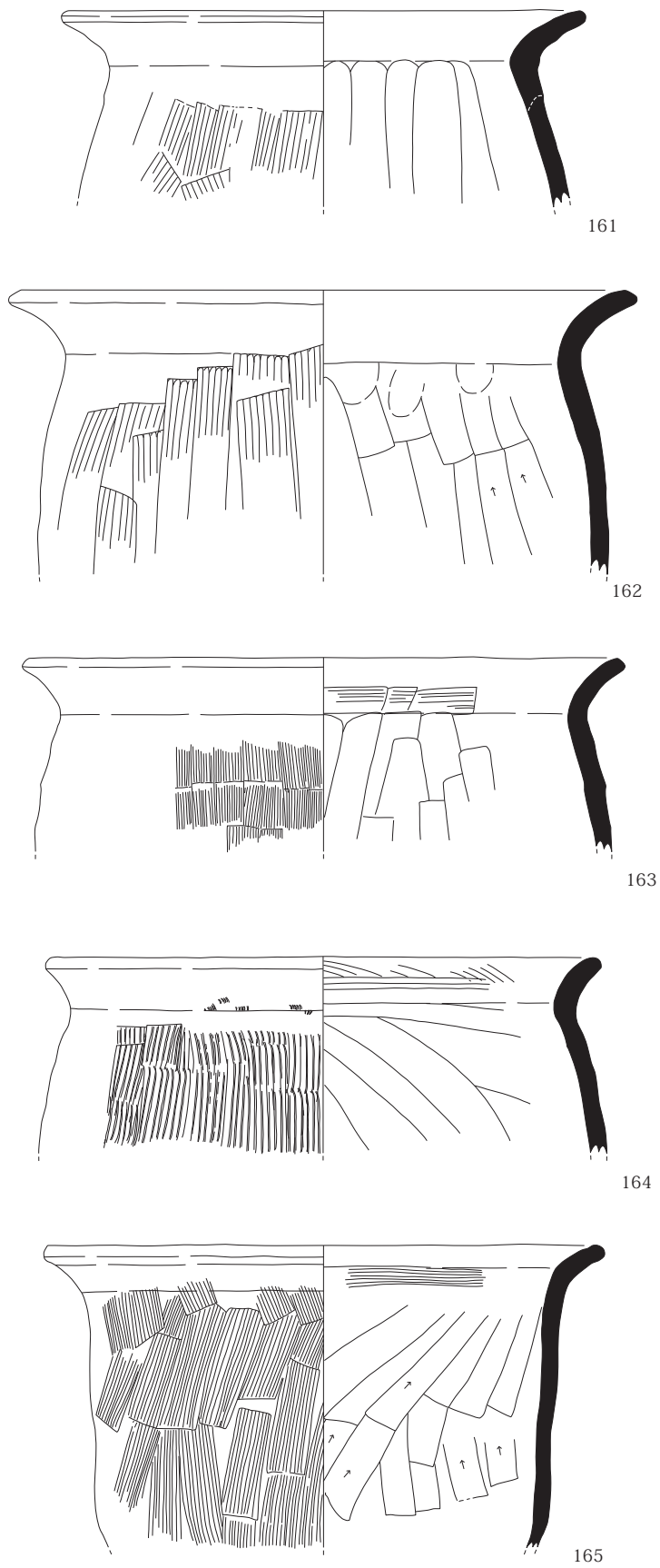


Fig.44 不明遺構SX001出土遺物実測図一①



0 10cm
S=1/3

Fig.45 不明遺構SX001出土遺物実測図一②

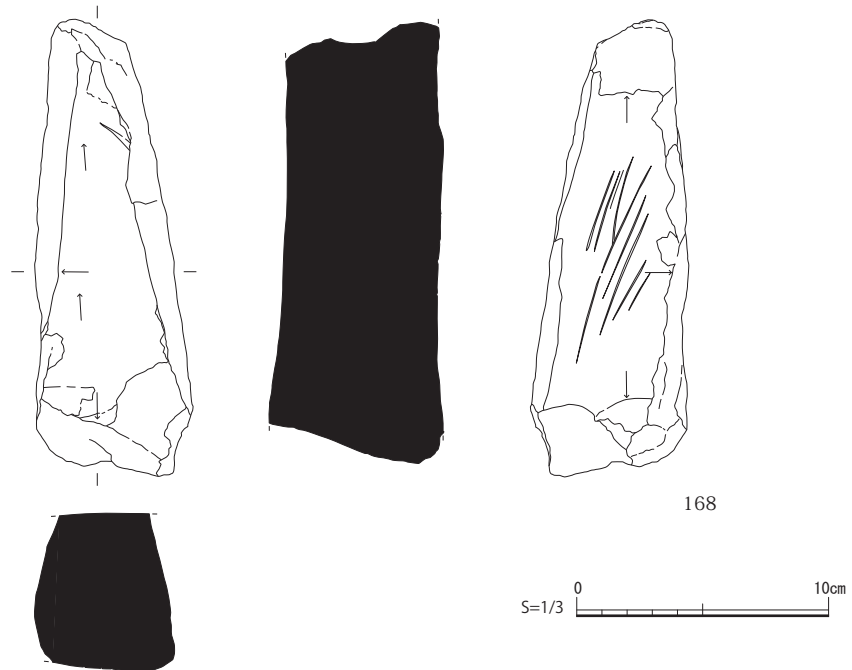
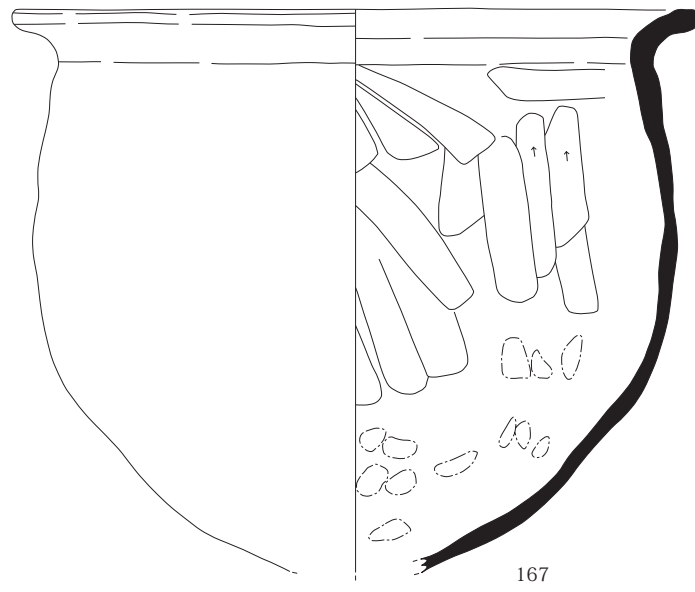
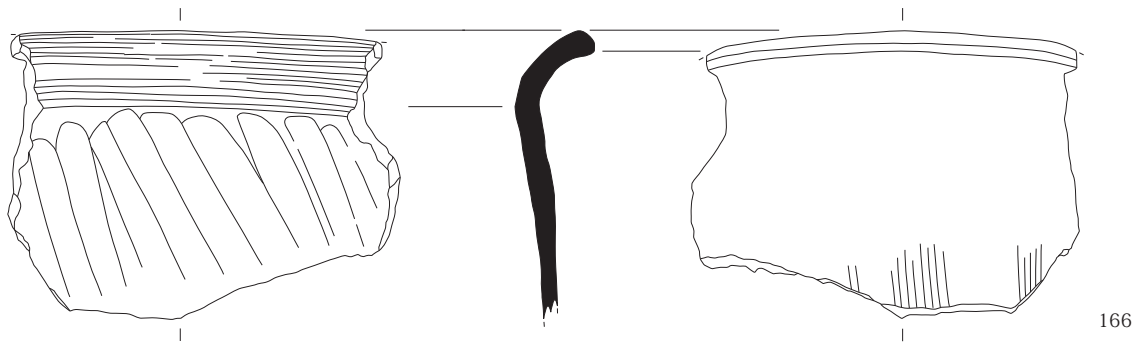


Fig.46 不明遺構SX001出土遺物実測図一③

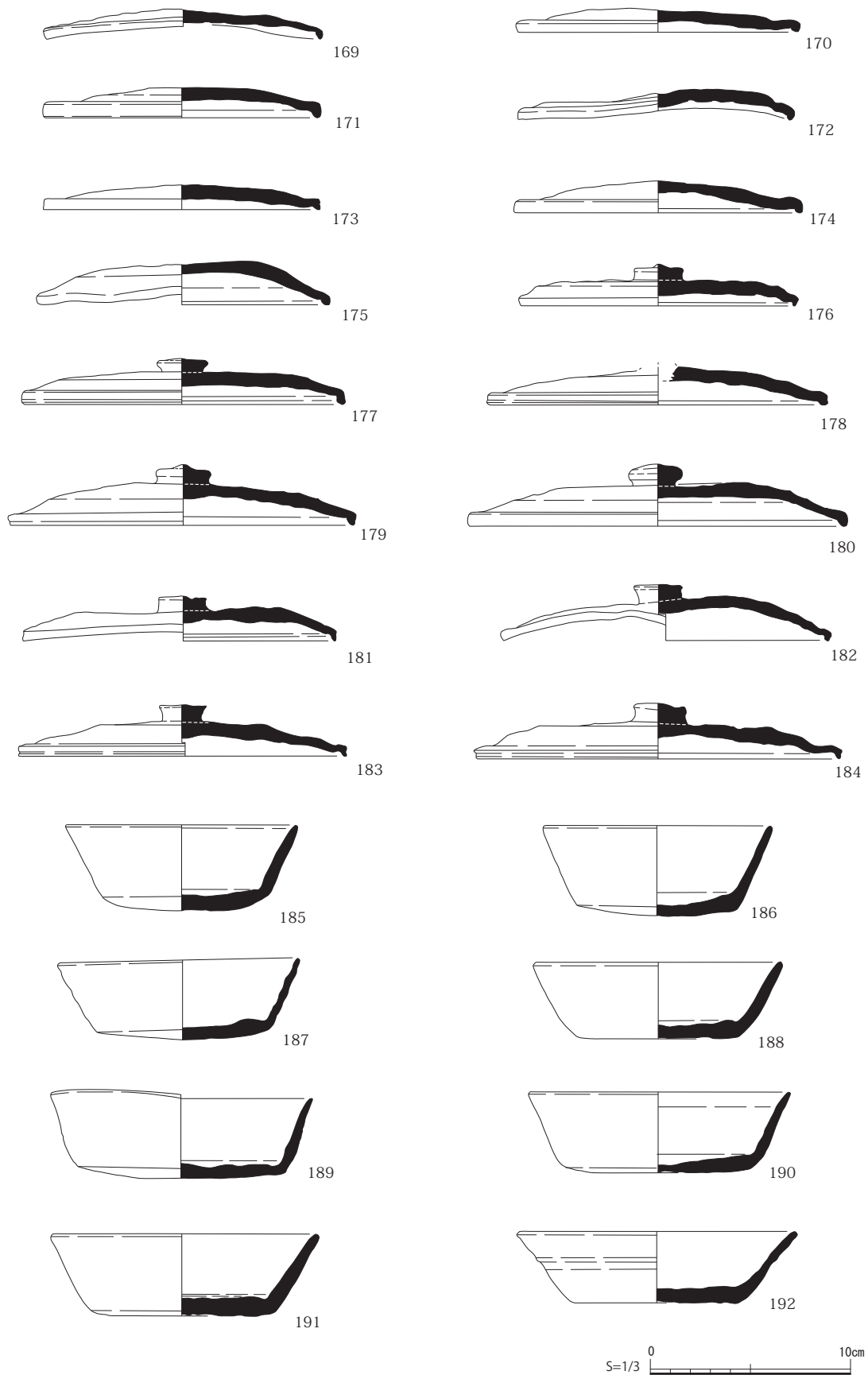


Fig.47 不明遺構 SX001 出土遺物実測図一④

的に立ち上がり口縁端部はわずかに外反し丸く収まる。底部から底部にかけ横ナデが強く、稜を残す。高台は屈曲部よりやや内に位置し、断面は四角形を呈し強くなで付ける。(199) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり口縁端部は丸く収まる。口縁端部外面に横ナデによる浅い沈線を巡らす。高台は屈曲部よりやや内に位置し、断面は逆三角形を呈しヘラを用いなで付ける。(200) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり口縁端部は丸く収まる。高台は屈曲部よりやや内に位置し、内側に稜を有する。(201) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり口縁端部は丸く収まる。高台は屈曲部に接し、外側貼り付けは一部体部にかかる。外面端部に端部わずかに稜をなす。(202) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり口縁端部はやや尖る。端部内面では横ナデによりわずかに外反する。高台は屈曲部よりやや内に位置し、短く先端が尖り内に入る断面を呈す。回転調整は受けておらず、手持ちによりのちに貼り付けられた高台と見える。(203) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり口縁端部は丸く収まる。高台を貼り付ける部分は、底部回転ヘラ削りにより屈曲部に向かい斜め上方に緩やかな傾斜を有する位置に、外面に稜を有する高台をなで付ける。(204) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり口縁端部は丸く収まる。高台は接合面より剥離し残っていないが、屈曲部よりやや内に位置し、おそらく断面が逆台形をなす高台が貼り付いていたものと考えられる。

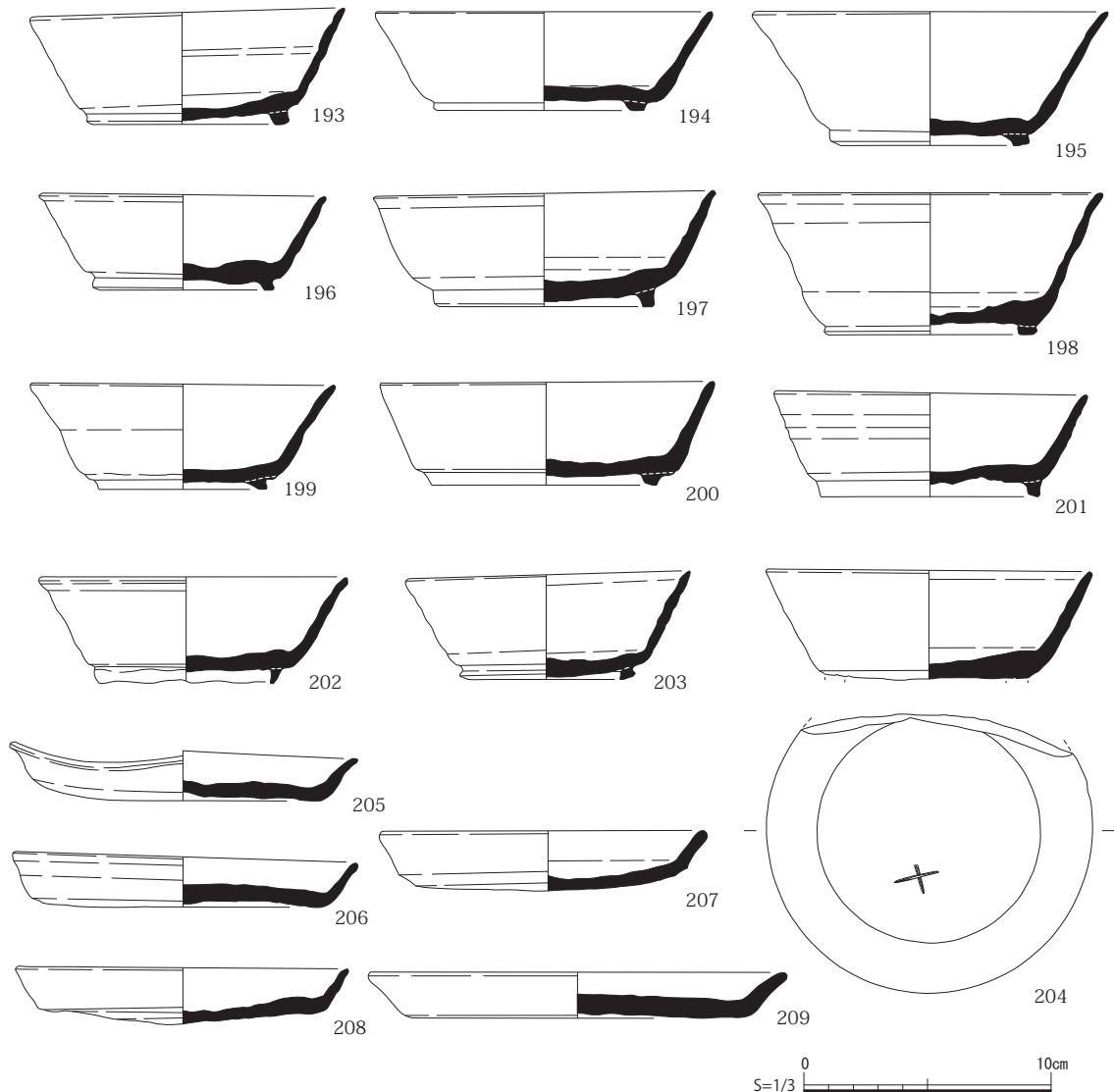
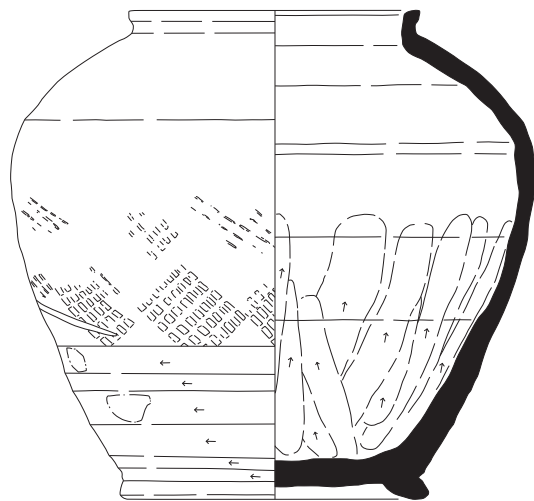
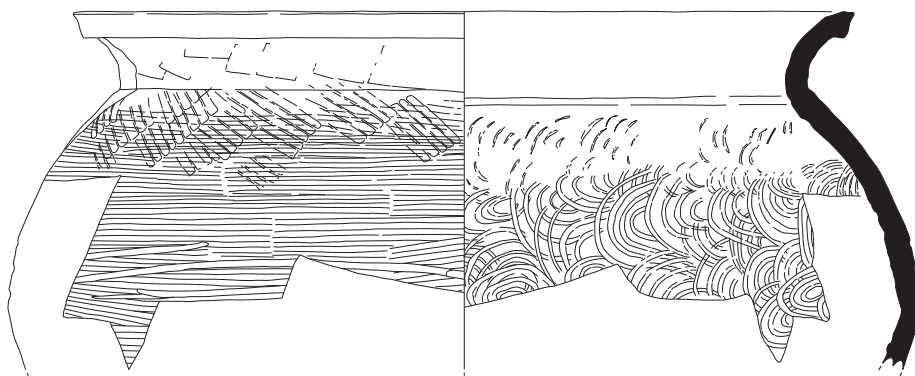


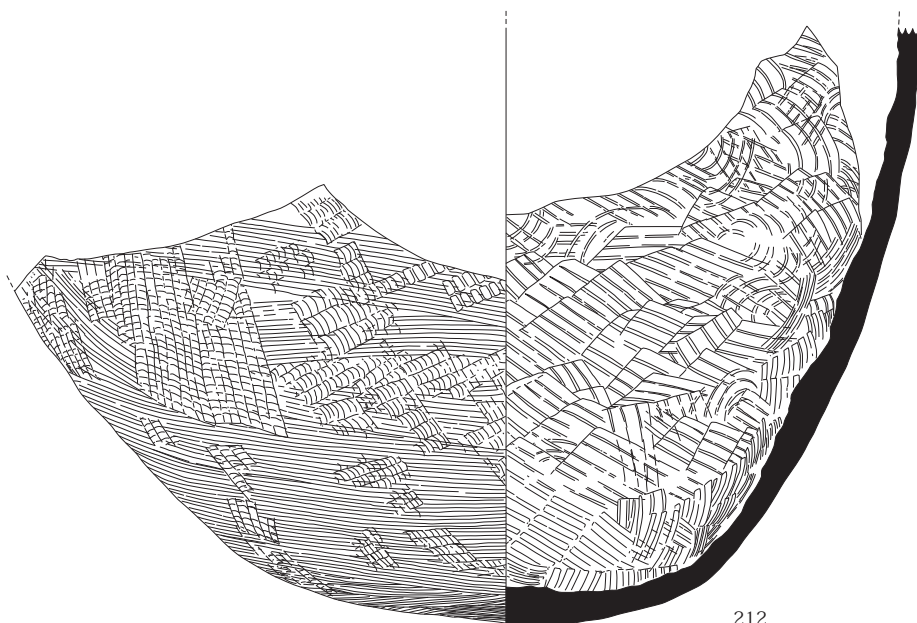
Fig.48 不明遺構 SX001 出土遺物実測図一⑤



210



211



212



Fig.49 不明遺構SX001出土遺物実測図一⑥

皿(205) 外面底部に体部との屈曲近くまで回転ヘラ削りを施し、横ナデにより体部及び内面底部を整形する。体部は短く端部近くで先細り、やや外反する。(206) 外面底部に体部との屈曲近くまで回転ヘラ削りを施し、横ナデにより体部及び内面底部を整形する。外面底部は中心と屈曲部間が回転ヘラ削りにより窪む。体部は短く端部は丸く収まる。(207) 外面底部に体部との屈曲近くまで回転ヘラ削りを施し、横ナデにより体部及び内面底部を整形する。底部外面は緩やかな弧を描き丸みを帯びる器形をなす。体部はやや肥厚し口縁端部は丸く収める。(208) 外面底部に体部との屈曲近くまで回転ヘラ削りを施し、横ナデにより体部及び内面底部を整形する。底部外面中心が回転ヘラ削りによりやや尖り、座りが悪い。底部屈曲部でやや肥厚し体部は薄く端部でわずかに外反する。(209) 外面底部に体部との屈曲近くまで回転ヘラ削りを施し、横ナデにより体部及び内面底部を整形する。外面底部が上げ底気味の整形となる。底面及び体部は他と比べ器壁が厚い。端部は緩く外反する。

不明遺構SX001出土遺物—⑥ (Fig.49) 須恵器 壺 (210) 短頸壺。外面底部は回転ヘラ切り後、ナデ。底部から1/3の位置まで格子目叩きにより成形後、回転ヘラ削り。他は回転ナデ整形。内面は横ナデ整形後、下部から上方に引き上げるようにヘラ削り。肩部に最大径を有し頸部に至る。頸部は短く直立し、端部に至り外反する。甕(211) 広口甕。丸みを帯びる体部は肩部に最大径を有し、下部に行くにしたがい急速にすぼまる。肩部までの資料であるため下部の形状は不明。外面は平行叩きの後、横方向の刷毛目調整、内面は明瞭に同心円文の当て具痕を残し、頸部近くでナデにより薄くなる。頸部は緩やかに外反し、端部では外面に稜を残し断面は三角形を呈す。(212) 長胴型の胴部中位より底部にかけての部位。断面に粘土紐輪積みの跡をわずかに見ることができる。外面は格子目叩き痕を刷毛目で磨り消したのち、一部に更に格子目叩きを施す。内面は同心円当て具痕をわずかに残し、平行に目のあるヘラ状の工具で調整を施す。

不明遺構SX002出土遺物—① (Fig.50) 本線調査区35区に隣接し6層を遺物包含層とし、7層上面で検出した遺構。

土師器 蓋 (213) ヘラ書きの部位のみであるが、破片に蓋の特徴を有することから、215同様外面体部にヘラ書きを有する蓋と判断した。ヘラ書きは「成」の一文字であろう。(214) 本資料もヘラ書きを有する土器片である。外面の調整痕から蓋の一部と判断する。ヘラ書き文字の一部を見ることができ、文字判読には至っていない。(215) 外面天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体高は低く、口縁内面近くで薄く端部は折れ、丸く収める。頂部に宝珠形つまみを付す。また、口縁にむかい落ちる外面中位に「成」とヘラ書きを施す。

杯 (216) 外面底部は切り離し後の調整により痕跡を見ることができないが、おそらく回転ヘラ切り離しであろう。他は横ナデ整形。底部器壁は薄く、体部で肥厚し、端部付近で最も厚みを帯びる。端部は内面にわずかに稜を有するが全体には不明瞭な部分もある。(217) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり、口縁端部は丸く収まる。外面の底部と体部境に2本の沈線を巡らす。また、外面底部には約半分の面積にヘラ書きで「継成」と施す。(218) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり、口縁端部は丸く収まる。外面は横ナデ整形の結果、ヘラ削り等の調整は見られない。(219) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり、口縁端部は丸く収まる。底部から体部にかけての屈曲部は、内面に横ナデによる緩やかな傾斜を有し、外面に2条からなる回転ヘラ削りを施すことで断面は三角形を呈す。(220) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり、口縁端部は丸く収まる。体部は横ナデにより器壁を薄く整形し、底面との屈曲部から3条の回転ヘラ削りを施すことで丸みを帯びる端正な器形に仕上げている。(221) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり、口縁端部は丸く収まる。端部内面にわずかに稜を有するが、全体には不明瞭な部分もある。(222) 本資料も器種の整形及び調整痕から杯底部と判断した。外面底部にヘラ書きで「舎」を見ることができ、他資料で「大舎」とあることからその一部と判断した。(223) 小片であるが、器面整形及び調整の状態から杯底部と判断した。判読はできなかったが、外面底部にヘラ書きによる文字の一部が残る。

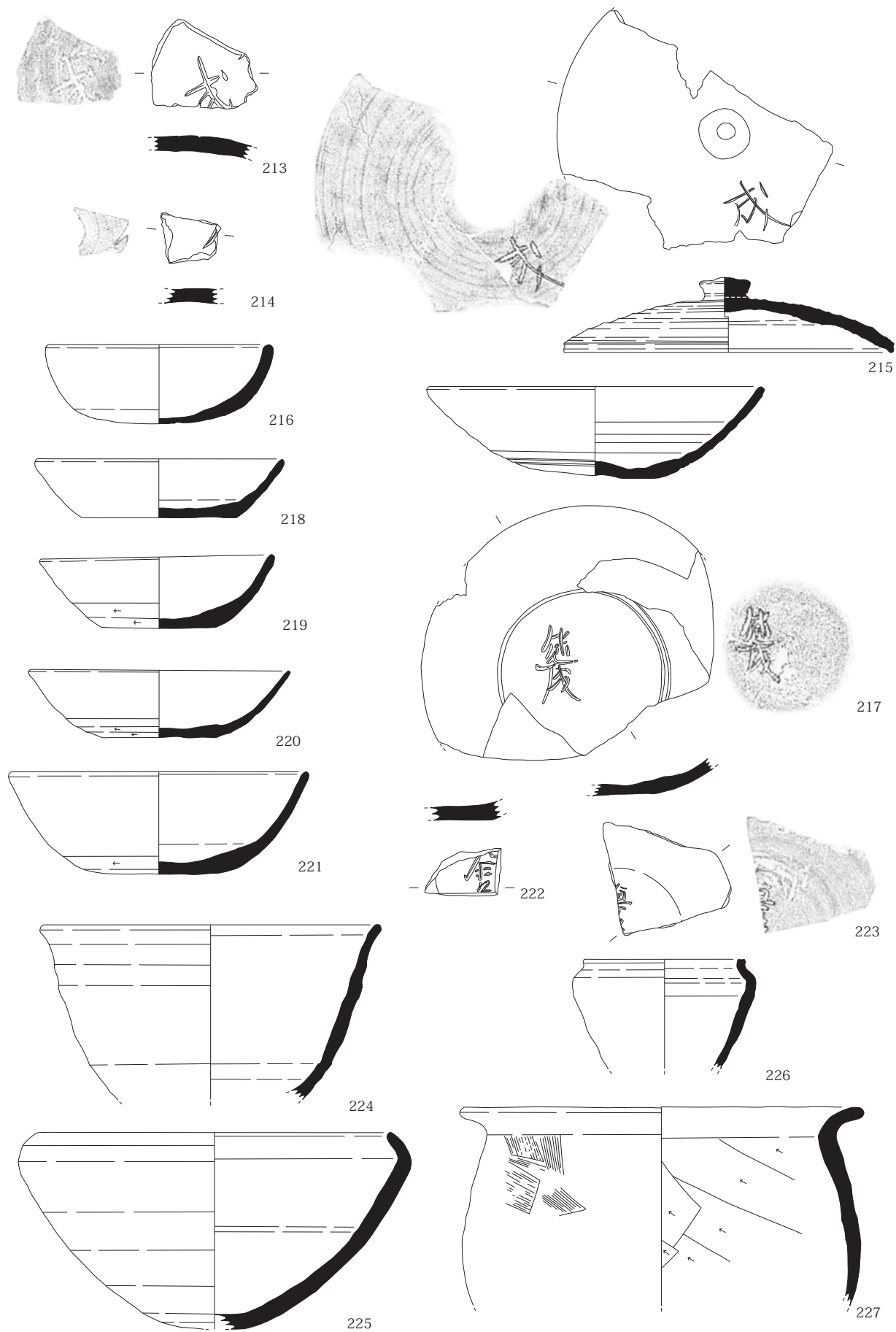


Fig.50 不明遺構SX002出土遺物実測図①

S=1/3 0 10cm

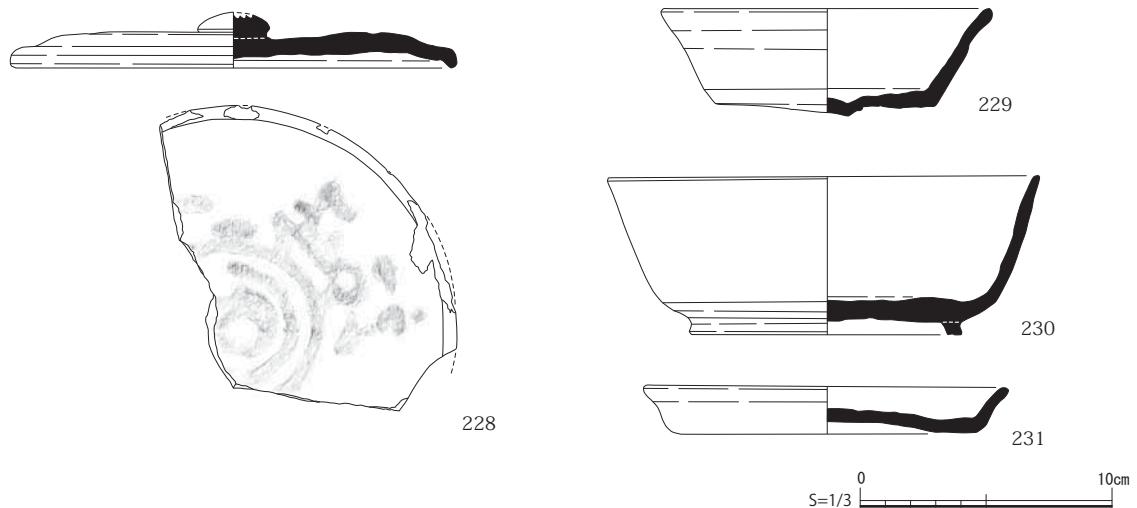


Fig.51 不明遺構 SX002 出土遺物実測図一②

鉢 (224) 口縁から体部にかけての部位。底部は欠損し残らない。横ナデ整形により緩やかに開きながら立ち上がり、端部でわずかに外反する。(225) 底部尖底の鉢。横ナデ整形により立ち上がる。口縁直下で短く内に折れ、端部は内面に稜をなし四角く収める。

壺 (226) 短頸壺。底部は欠損し形状は不明だが、本線部37区で出土している「托」の可能性もある。横ナデ整形後、ナデ。口縁直下で内に折れ、端部で直立し四角く収める。

甕 (227) 体部の張りは少なく頸部は「く」字状に屈曲する。口縁は端部にかけて強く外反し、端部は丸く収める。外面体部は、わずかに刷毛目調整を施し、内面は下から上へヘラ削りを施す。頸部外面から口縁内外面にかけては横ナデ整形。

不明遺構SX002出土遺物一② (Fig.51) 須恵器 蓋：転用硯 (228) 外面天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体高は低く端部は短く折れ、丸く収める。内面は横ナデ整形。つまみは頂部がわずかに欠損するが、本来はやや丸みを帯びると思われる。内面は磨れ痕と朱墨が認められる。

杯 (229) 外面底部に回転ヘラ削りを有し、他は回転ナデ整形を施す。体部は直線的に伸び、口縁中位で角度が変わり外反、端部近くで肥厚し端部は丸く収める。底部回転ヘラ削り後調整が施されず、中心部がわずかに尖底状に残る。

高台付き杯 (230) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり、口縁端部は丸く収まる。高台は屈曲部よりやや内に位置し、断面は方形を呈し、強くなで付ける。

皿 (231) 外面底部に体部との屈曲近くまで回転ヘラ削りを施し、横ナデにより体部及び内面底部を整形する。体部は短く端部近くで先細り、やや外反する。

調査区出土遺物一① (Fig.52) 須恵器蓋 (232) 天井部中央に基部の太いつまみを貼り付ける。口縁部との境には凸線が巡り、口縁部はやや肥厚し垂直に端部に至る。端部は内傾しわずかに沈線を巡らす。天井部外面に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ整形を行う。蓋杯 (蓋) (233) 天井は丸みを帯び、口縁部との境には稜を巡らせている。端部は内傾する凹面をなす。天井部外面に回転ヘラ削り調整、他の各部分は回転ナデ整形を行う。蓋杯 (蓋) (234) 天井は丸みを帯び口縁部との境には稜が退化したと考えられる沈線が見られ、口縁部は内湾気味に下がり端部に至る。端部はわずかに内傾するが退化し、凹面はなくわずかに平坦面を残す。蓋杯 (身) (235) 立ち上がりは比較的高く、端部は丸く仕上げられる。受部は水平に外に伸び、端部は丸い。底部は深く丸い。底部外面に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ整形。(236) 立ち上がりは短く内傾し、端部はやや尖る。受部は横に伸び端部は丸い。底部は浅く、焼き歪みにより平坦面を呈す。底部外面に回転ヘラ削り調整を行う。

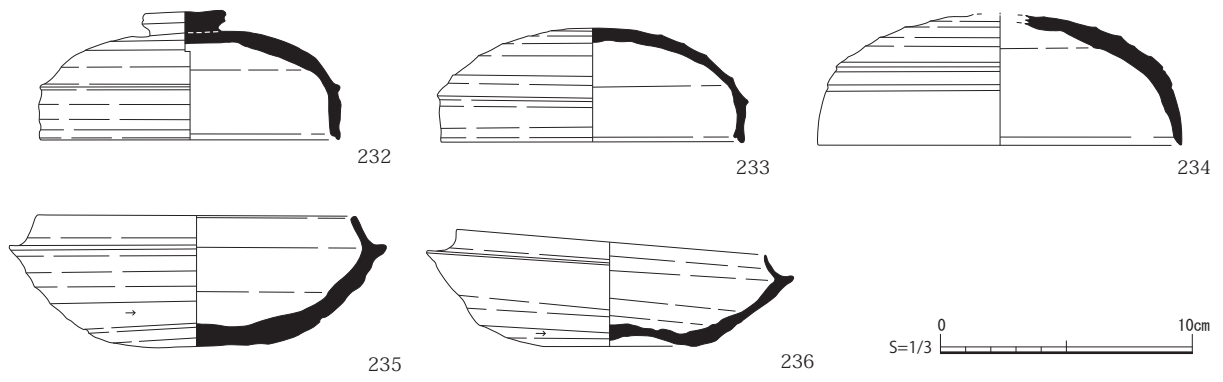


Fig.52 調査区出土遺物実測図一①

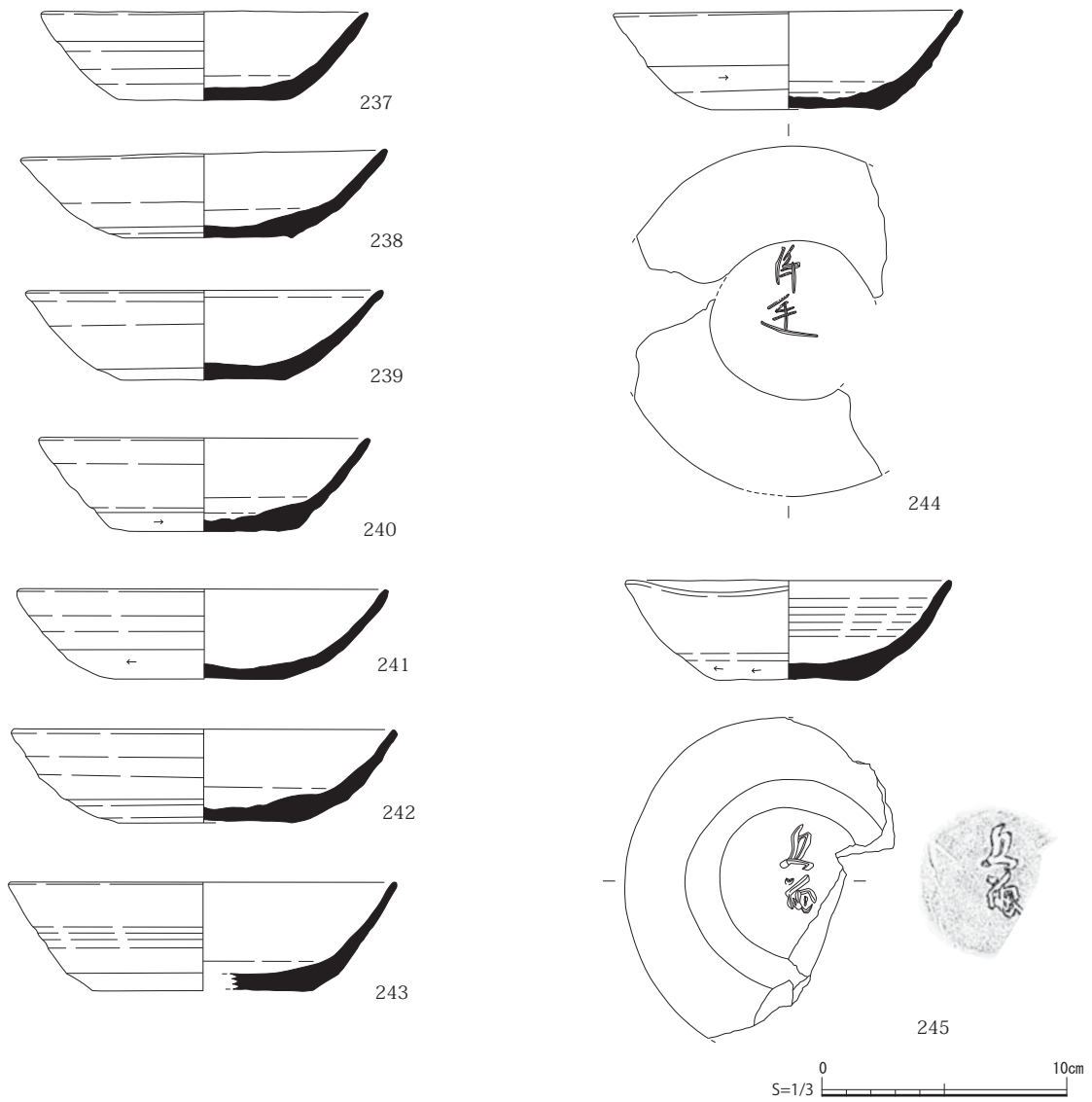


Fig.53 調査区出土遺物実測図一②

調査区出土遺物② (Fig.53) 土師器 杯 (237) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり口縁端部はやや尖る。(238) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり、口縁端部は丸く収まる。外面底部と体部の屈曲部には2条の回転ヘラ削りを施す。(239) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり、口縁端部は丸く収まる。外面底部と体部の屈曲部には1条の回転ヘラ削りを施す。口縁は端部でやや肥厚し丸く収まる。(240) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり、口縁端部は丸く収まる。外面底部と体部の屈曲部には1条の回転ヘラ削りを施す。(241) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部はやや丸みを帯び立ち上がり、口縁端部は丸く収まる。外面底部と体部の屈曲部には1条の回転ヘラ削りを施す。(242) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり、口縁端部は丸く収まる。外面底部と体部の屈曲部には3条の回転ヘラ削りを施す。(243) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり、口縁端部は丸く収まる。外面底部と体部の屈曲部にはやや広めの回転ヘラ削りを1条巡らす。

ヘラ書き文字が描かれる土器 杯 (244) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり、口縁端部は丸く収まる。外面底部と体部の屈曲部には2条の回転ヘラ削りを施す。外面底部中心に「浄□(庭か)」とヘラ書きを施す。(245) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。

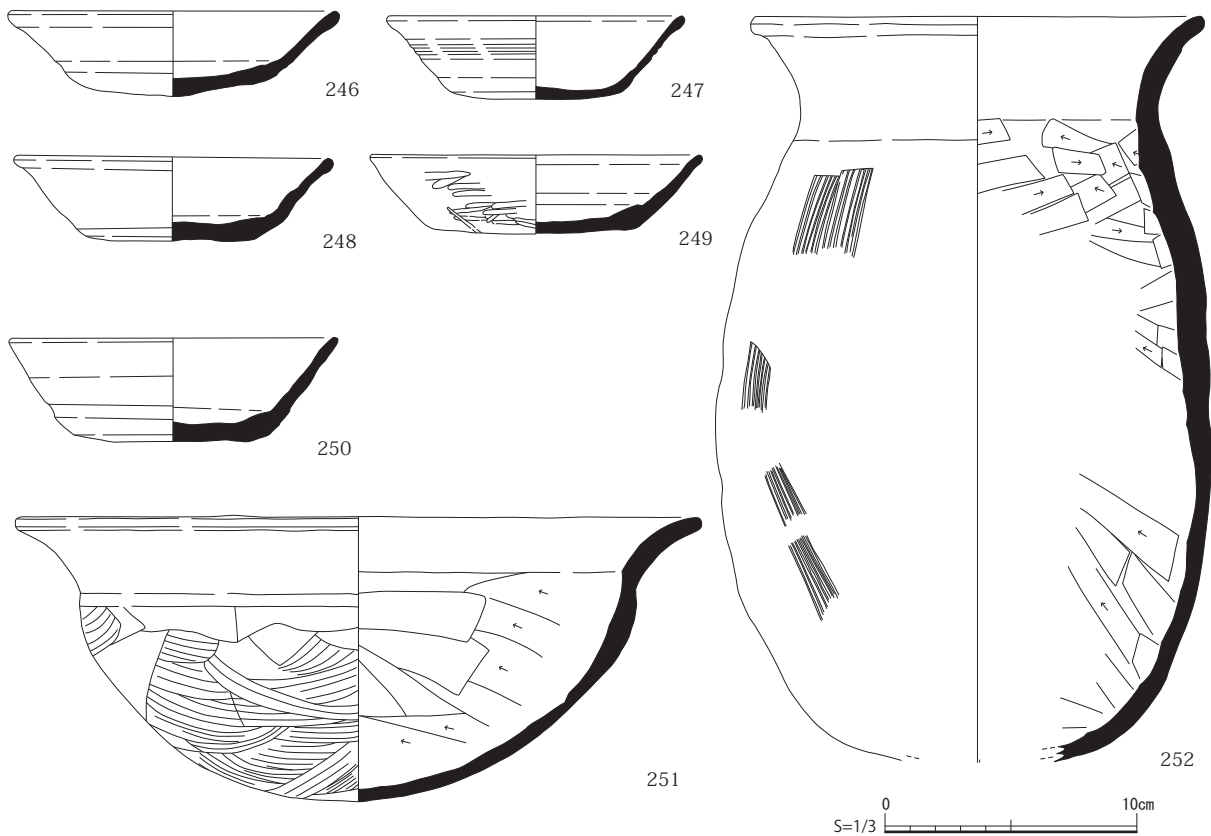


Fig.54 調査区出土遺物実測図③

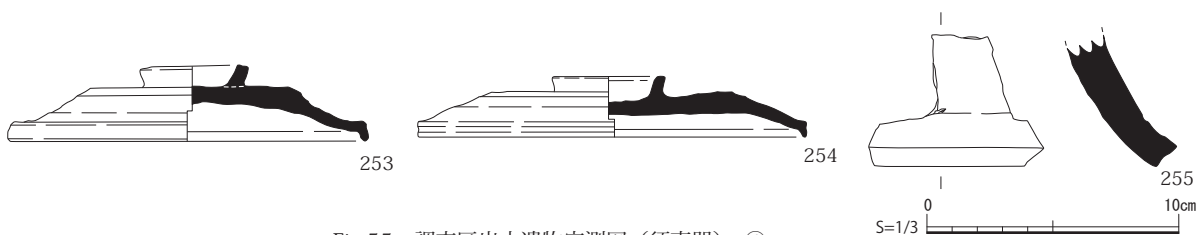


Fig.55 調査区出土遺物実測図(須恵器)④

体部は直線的に立ち上がり、口縁端部は丸く収まる。外面底部と体部の屈曲部には1条の回転ヘラ削りを施す。外面底部の中心にヘラ書きを施す。

調査区出土遺物③ (Fig.54) 土師器 杯 (246) G-7Grid出土。外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり、口縁でやや肥厚し端部は丸く収まる。全面に丹塗りを施す。(247) F-7Grid出土。外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり、口縁で肥厚し端部は丸く収まる。体部外面にヘラ整形によるナデが施され、6条の浅い稜をなす。全面に丹塗りを施す。(248) F-4Grid、3層出土。外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり、口縁でやや肥厚し端部は丸く収まる。全面に丹塗りを施す。(249) G-4Grid、5層出土。外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり、口縁でやや肥厚し端部は丸く収まる。外面にわずかにミガキ痕が見られる。全面に丹塗りを施す。(250) F-13Grid出土。外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がる。外面底部から体部、屈曲部から2条の回転ヘラ削りを認める。土師器 鍋 (251) F・G-4・5Gridにかけて出土した。一部反転復元。鉢部外面には荒い刷毛目調整、内面は斜め上方へのヘラ削りを施す。頸部で強く外反し、口縁は内外面とも刷毛目調整後ナデ。外面に煤付着。

土師器 甕 (252) F・G-5Grid 7層出土。器壁断面観察とヘラ削りの方向等を見る限り、胴部中位までと体部上半とに製作の段階を見ることができよう。器壁の厚さは、ヘラ削りの斜め上方へ削るか、横もしくは斜め下方への削りに違いを見出すことができる。体部外面は縦方向の刷毛目調整後ナデを主体とするが大半は磨滅、風化等により器壁の表情を見ることができない。口縁部は頸部で一端すぼまり、端部に向け緩く外反する。底端部は断面が方形で小口側にわずかに崩れた沈線が巡る。

調査区出土遺物一④ (Fig.55) 須恵器 蓋 (253) 外面天井部回転ヘラ切り、他は回転ナデ整形。天井部は比較的平らな面を有し、口縁部で内湾しながら端部に至る。端部は短く直角に折れる。天井部に輪状のつまみを貼り付ける。蓋 (254) 253と同形である。天井部の平坦面が中央に向かいやや落ちる。円面碗 (255) 内湾しながら立ち上がる部位には、2ヶ所に方形透かし切り込みを見ることができよう。透かし底辺に横位沈線が巡る。

調査区出土遺物一⑤ (Fig.56) 土師器 甕 (256) 頸部がわずかに直立し、端部に向け緩く外反し、端部外面に稜を有する。体部は卵倒形を呈すると考えられる。体部は外面は縦方向を主体とする荒い刷毛目、内面は横方向を主体とするヘラ削り、頸部から口縁部は外面に縦方向の刷毛目、内面は横方向の刷毛目調整が残る。(257) やや内湾し端部内外面に稜を有する。体部は中位に最大径を有し、球体を呈す。頸部と体部中位とのほぼ中間に、内面からの穿孔が一か所見られる。体部外面は荒い刷毛目調整、内面は斜め上方に引き上げるヘラ削り、口縁部内面には斜めに引き上げる刷毛目がわずかに残る。(258) 口縁部はやや内湾し、外面中位にわずかに稜を有する。体部は球体で、最大径を体部中位に有する。外面は体部下半までは縦、横方向の雑な刷毛目を施し、上半では縦方向を主体とする刷毛面調整を施す。内面は下から上へを基本とするヘラ削りを全面に施す。頸部屈曲部から口縁端部にかけては横方向の刷毛目を施す。

壺 (259) 残存部位が少ないことから全体像の復元は難しい。出土部位は口縁部から体部へ移行する部位までである。口縁は体部との境の頸部でやや直立し、端部近くで強く外反する。体部は開き気味に下方へ伸びる、球体もしくは卵倒型の体部をなすと想像される。外面は頸部から体部にかけて縦方向を主体とする刷毛目調整、内面は口縁から頸部にかけて横方向の刷毛目を施し、外反する端部付近はなでる。頸部と体部の接点を消すように体部から頸部にかけて、ヘラ削りを施す。

調査区出土遺物一⑥ (Fig.57) 土師器 甕 (260) 体部下半に最大径部を有するが、緩やかな球体をなす体部を示す。頸部ですぼまった口縁は、短いが強く外反し端部に至る。外面底部(最大径部まで)は縦、横からの刷毛目を、体部上半から頸部にかけては縦方向の刷毛目を施す。内面は、外反する口縁部に横方向の刷毛目を施した後に体部から頸部にまでやや幅の広いヘラ削りを施す。(261) 最大径部を体部中位に有し、球体をなす底部を有する。外面は頸部下から体部にかけて縦方向を主体とした刷毛目調整、内面は荒く方向の一定しないヘラ削り、外反する頸部から口縁にかけて横方向の刷毛目を施す。(262) 胴部中位に最大径を持ち、

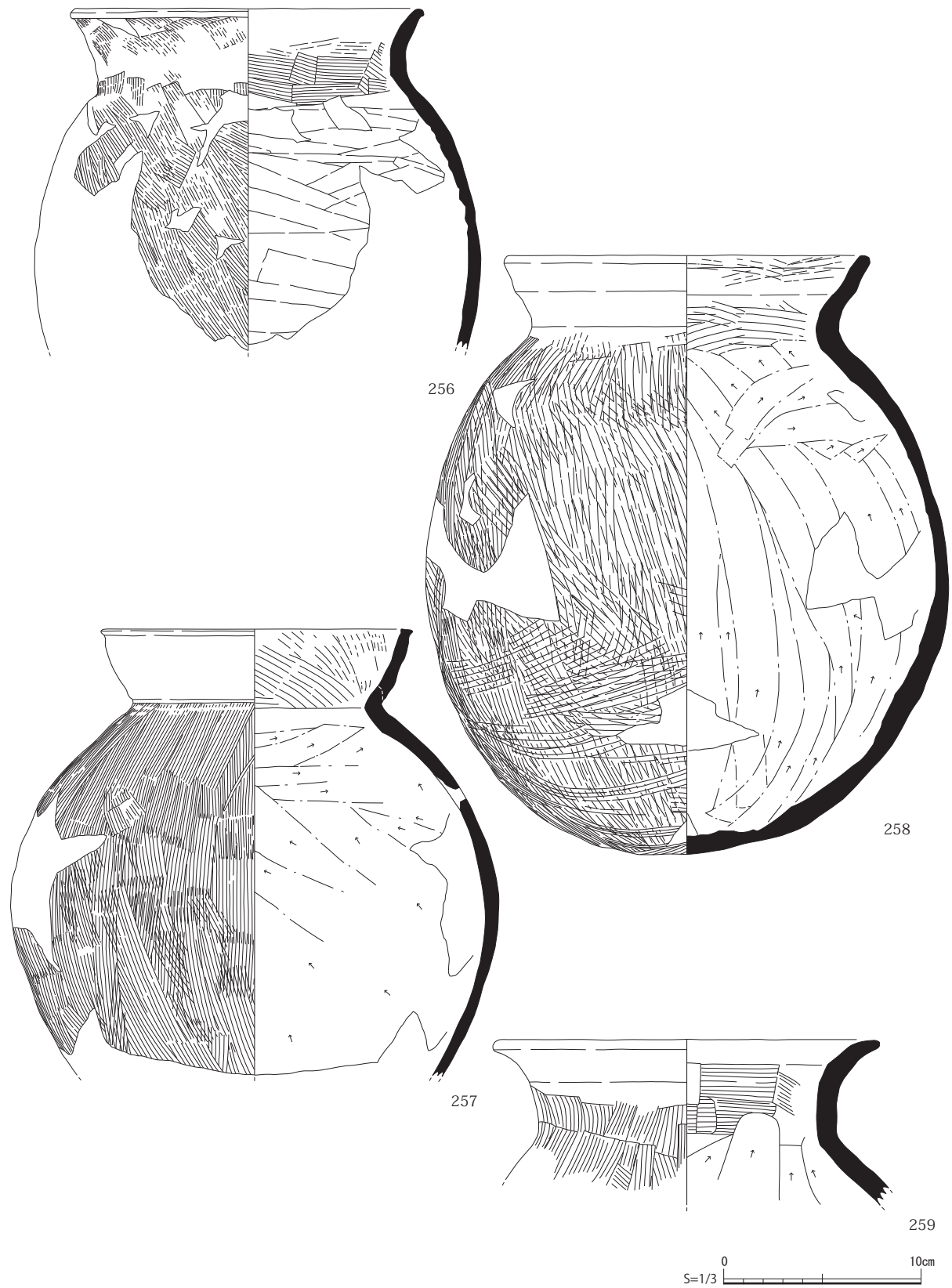
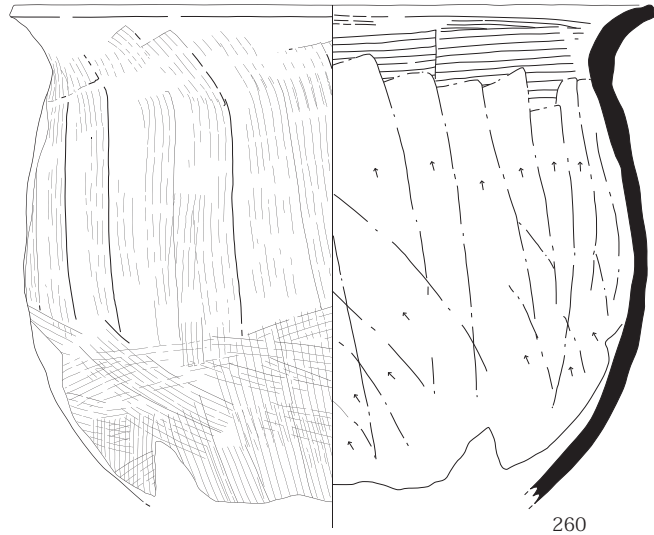
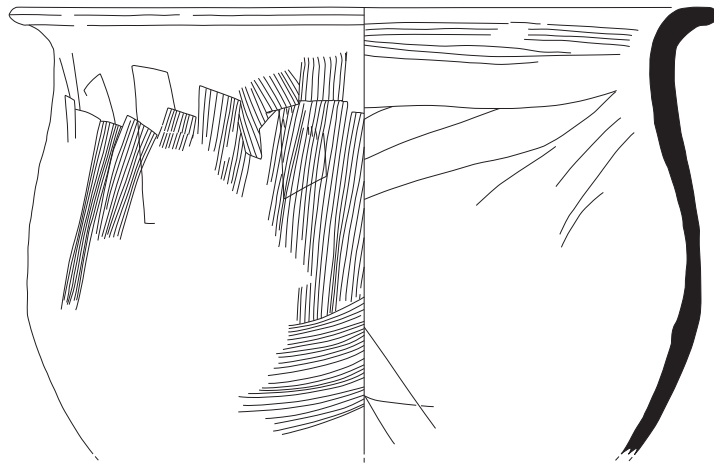


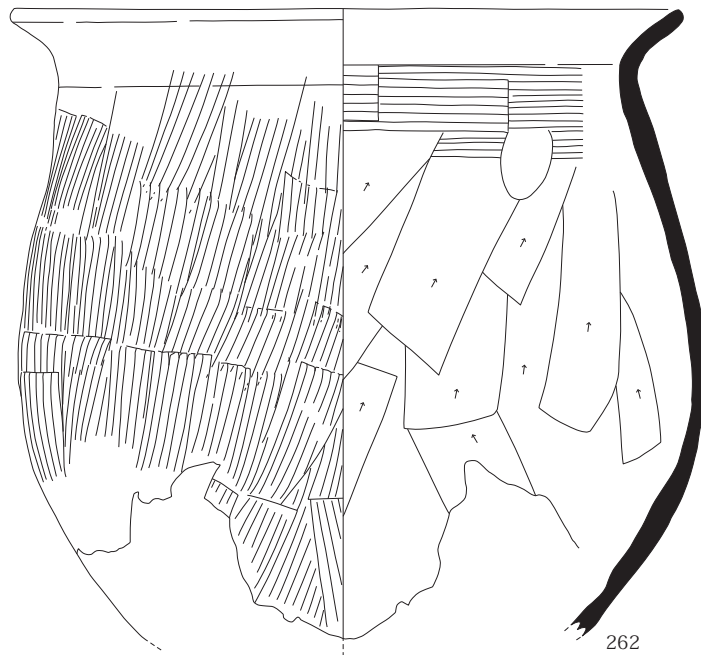
Fig.56 調査区出土遺物実測図一⑤



260



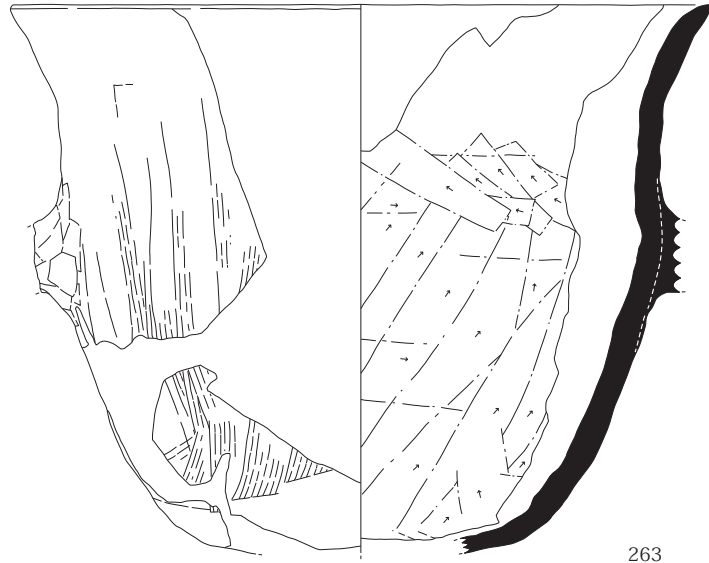
261



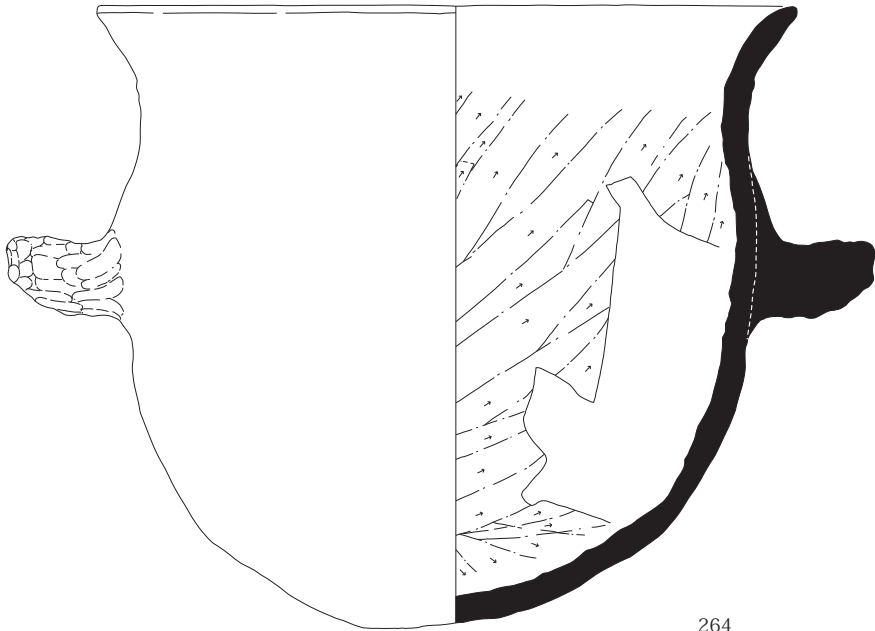
262



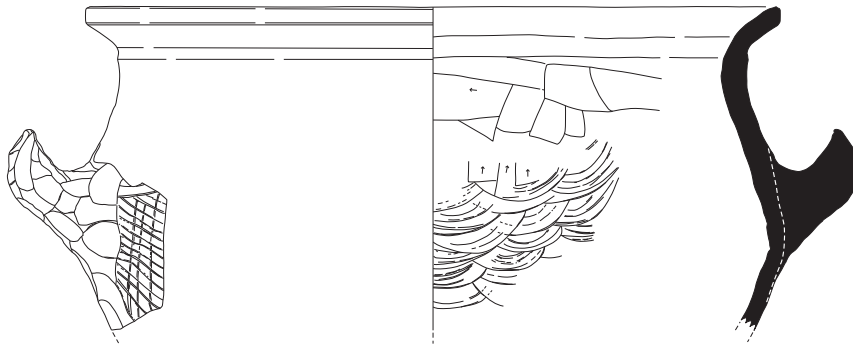
Fig.57 調査区出土遺物実測図-⑥



263



264



265

0 10cm
S=1/4

Fig.58 調査区出土遺物実測図一⑦

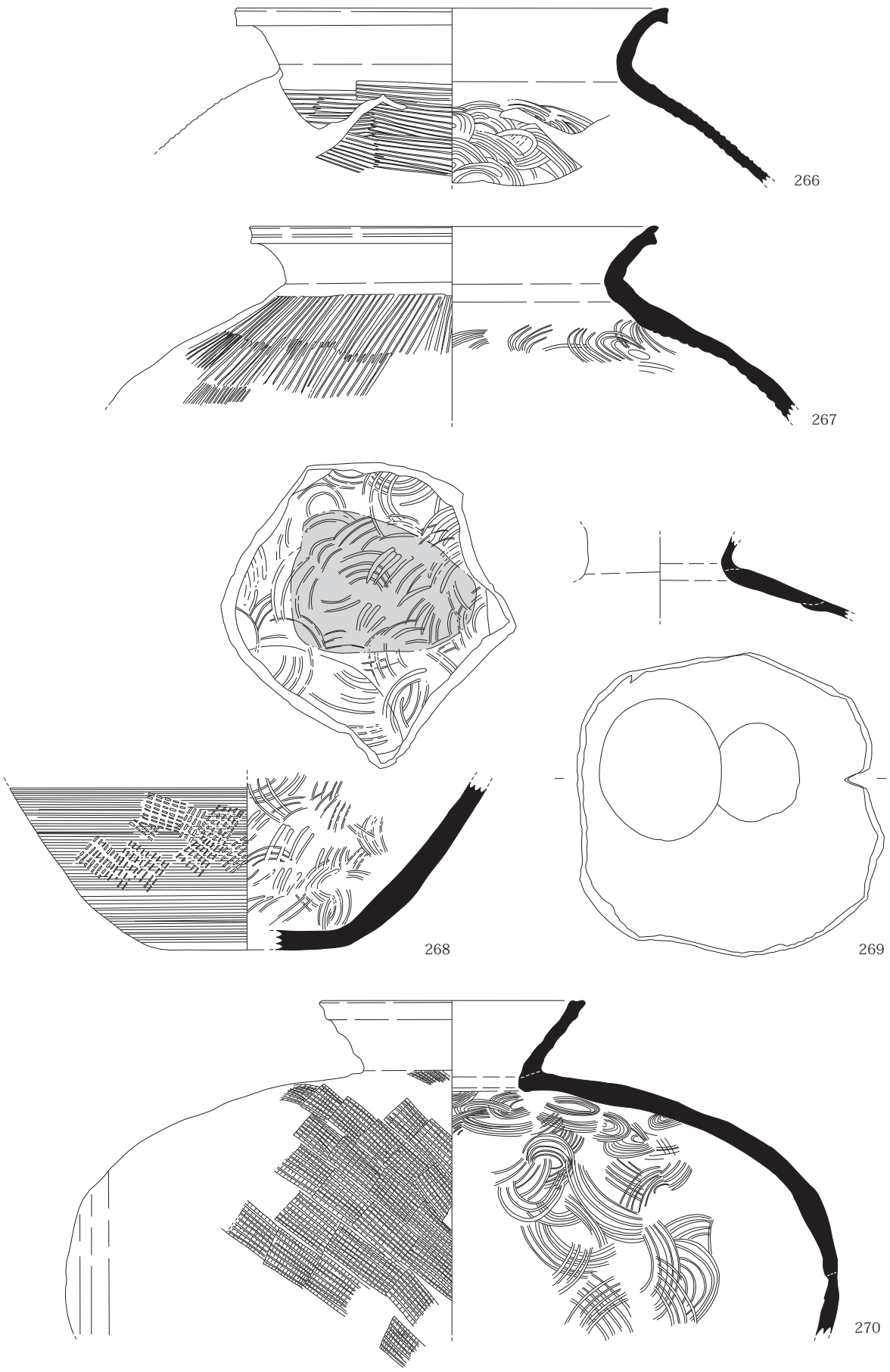


Fig.59 調査区出土遺物実測図一⑧

やや丸みを帯びる器形をなす。外面は頸部から体部中位まで縦方向の刷毛目、底部近くは残っていないが、磨滅もしくはナデ整形。内面は外面と同じく胴部中位までは下から上へのヘラ削りを明瞭に残すが、底部近くは希薄となる。内面頸部屈曲部に横方向の刷毛目を明瞭に残す。

調査区出土遺物⑦ (Fig.58) 土師器 釜 (263) 器種の特徴として、口縁の開き、丸みを帯びた甕型の胴部、両側に貼り付く把手等を考慮すると、甕とも見てとれるが、底部近くの器壁の状態から蒸気穴を有しないことから釜と判断される。外面は縦方向を中心とした刷毛目調整、内面は底部から口縁直下までヘラ削りによる調整、口縁直下から端部を経て外面口縁下までナデ整形を施す。把手は胴部のほぼ中央に強く貼り付く。(264) 本資料は完形品として出土しているため、底部、蒸気穴がないことが確認できる。器形及び内外面調整は178とほぼ同じである。把手は棒状の完形で、胴部中位に水平に貼り付く。

須恵器 把手付き甕 (265) 器種については、体部把手が貼り付く胴部中位より上のみであるため263、264の例もあることから確定ではない。胴部外面は平行叩きで、内面の頸部下までに同心円当て具痕が、頸部付近でヘラ削りが、強く外反する端部にかけて横ナデが施される。把手は、基部は棒状で、上方に向き、先端近くでは円柱を保ったまま尖る。外面は平行叩き、内面は同心円当て具痕が残る。

調査区出土遺物⑧ (Fig.59) 須恵器 甕 (266・267) 口縁から肩部にかけての部位。体部から口縁にかけ断面は「く」字状を呈し、頸部から口縁にかけ強く外反する。端部は外面に稜を有し、断面は三角形を呈す。体部外面平行叩き、内面は同心円当て具痕を施す。(268) 甕体部下半から底部。甕としての用途を終えた体部から底部にかけての屈曲部は二次利用され、転用硯として使用される。破片は中心部の海となる部分のみ磨り痕が激しく当て具痕が浅くなる。

平瓶 (269) 横ナデ整形により頂部近くまで整形され、最後に浅く薄い蓋を付着させ天井部を塞ぐ。その後、

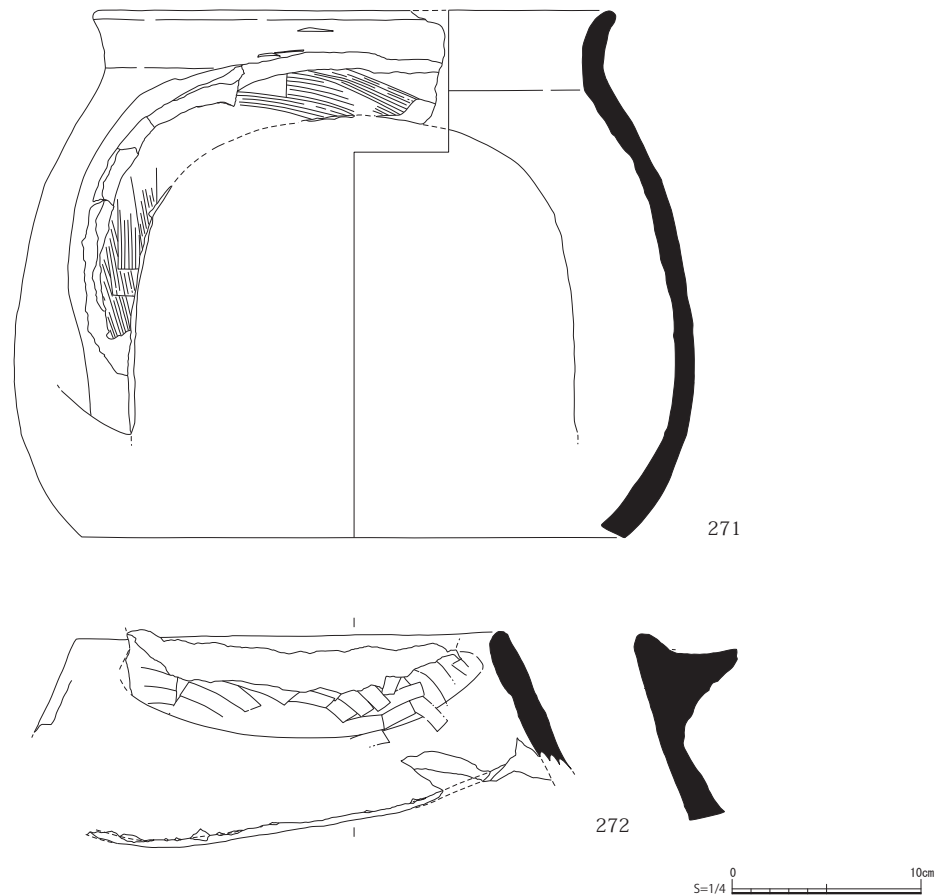


Fig.60 調査区出土遺物実測図⑨

中央部を外した位置に、別途形づくられた頸部から口縁部を貼り付ける。本資料はその製作順を追うことのできる資料である。

横瓶 (270) 口径部は基部が太く強く外反し、途中内外面に1条の稜を形成しながら端部に至る。体部は横に長い球体をなし、外面中心部寄りに格子目叩きを、その受けとして内面に同心円当て具痕を残す。実測図に向かって右側(断面図側)が、胴部を作成した際の上面側に当たる。

調査区出土遺物-⑨ (Fig.60) 土師器 移動式竈 (271) 鏝付きの竈。体部は粘土紐輪積みにより整形し、内外面の調整、頸部から口縁にかけての調整を終えた後に、燃烧穴を鋭利なへら状の工具を用いて門型に切り込む。その後、上向きの鏝を貼り付ける。鏝は手づくねにより荒く、器面はへら状工具を用い調整を施す。

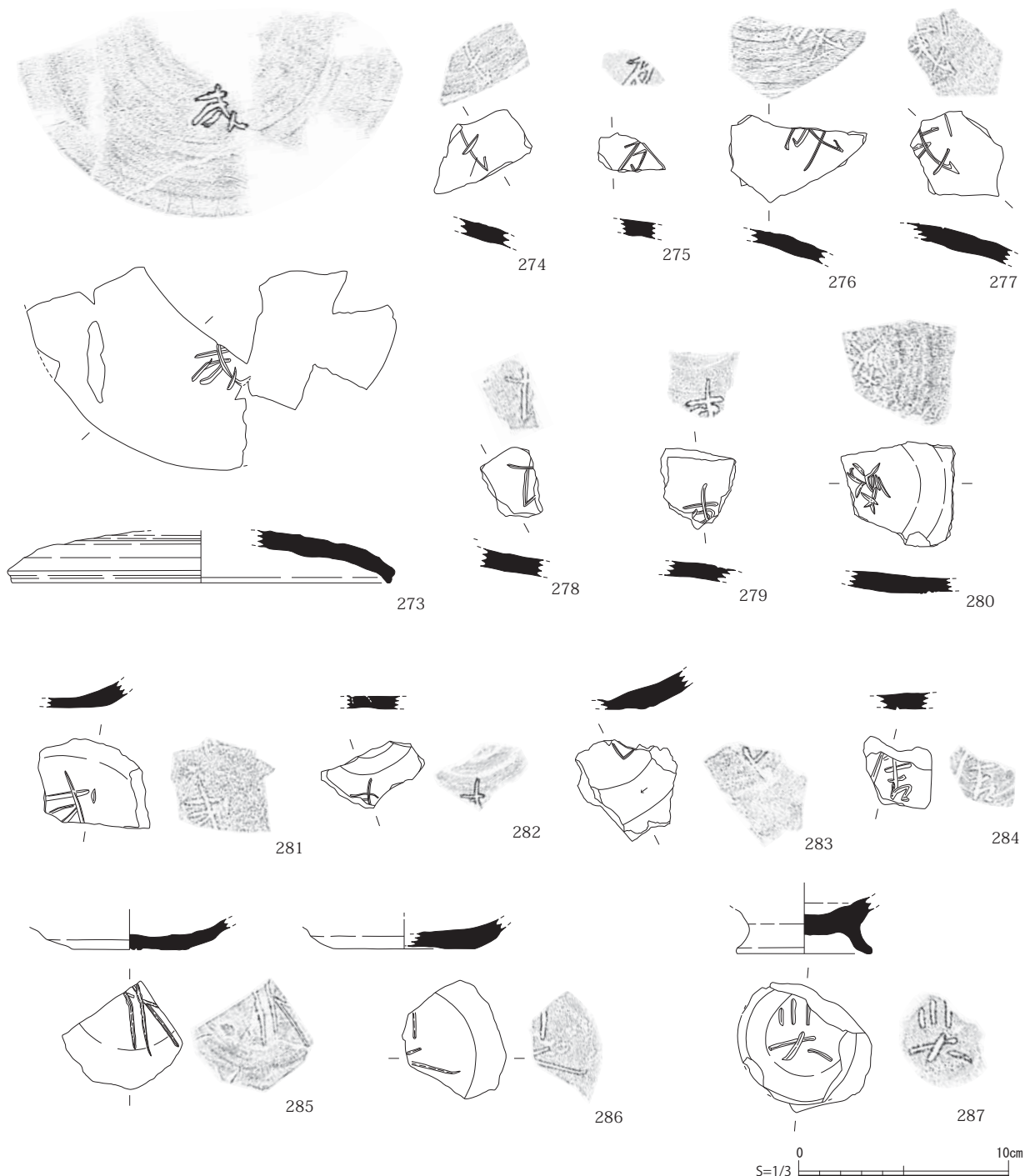


Fig.61 調査区出土遺物実測図(土師器へら書き)-⑩

体部内面及び鏝の燃焼穴に接する面は煤付着。(272) 移動式竈の口縁部及び鏝部分。鏝は表面に細かなヘラ削り痕が残る。鏝の燃焼穴に接する面は煤付着。

調査区出土遺物-⑩ (Fig.61) 土師器 蓋 (273) 中心部の残りが悪いが、器形の特徴からつまみを付す蓋である。外面体部中位にヘラ書きにより「成」を施す。(274・275・276・277・278・279) は共に蓋外面中位に「成」一文字を施す。(280) もおそらく蓋の器壁の一部と思われる。体部外面中位にヘラ書きによる文字を認識するが判読不明。

土師器 (281・282) 杯底部。外面底部に「成」一文字を判別する。(283) 杯外面底部。外面底部にヘラ書き文字を認識するも文字端部であるため、判読不能。(284) 杯底部。外面底部に「舎」一文字を判別する。(285) 杯底部。外面底部にヘラ書き文字を認識するも判別し難し。(286) 杯底部。外面底部に「川大」の文字右下付近のヘラ書きを判別する。(287) 本資料のみ高台付き杯。高台貼り付け後に「川大」の2文字をヘラ書き。

調査区出土遺物-⑪ (Fig.62) 土師器 皿 (288) 外面底部にヘラ書きによる「成」の一文字を判読。(289) も外面底部に「大」を一文字判読する。288・289とも外面底部接地面近くに小さく施す。(233) 皿底部。外面底部に「黒」一文字を判読する。

土師器 鉢 (291) 外面底部回転ヘラ切り後ナデ、他はナデ整形。垂直に立ち上がる体部は、横ナデの単位をわずかに残しつつ口縁部に至る。底部屈曲部から2条の回転ヘラ削りを施す。外面体部の途中に1条の沈線を巡らし、その上に上方に折れる把手が貼り付く。口縁端部は外面に稜を有し、端部下には浅くナデが残る。胴部中位に「成」とヘラ書きを施す。

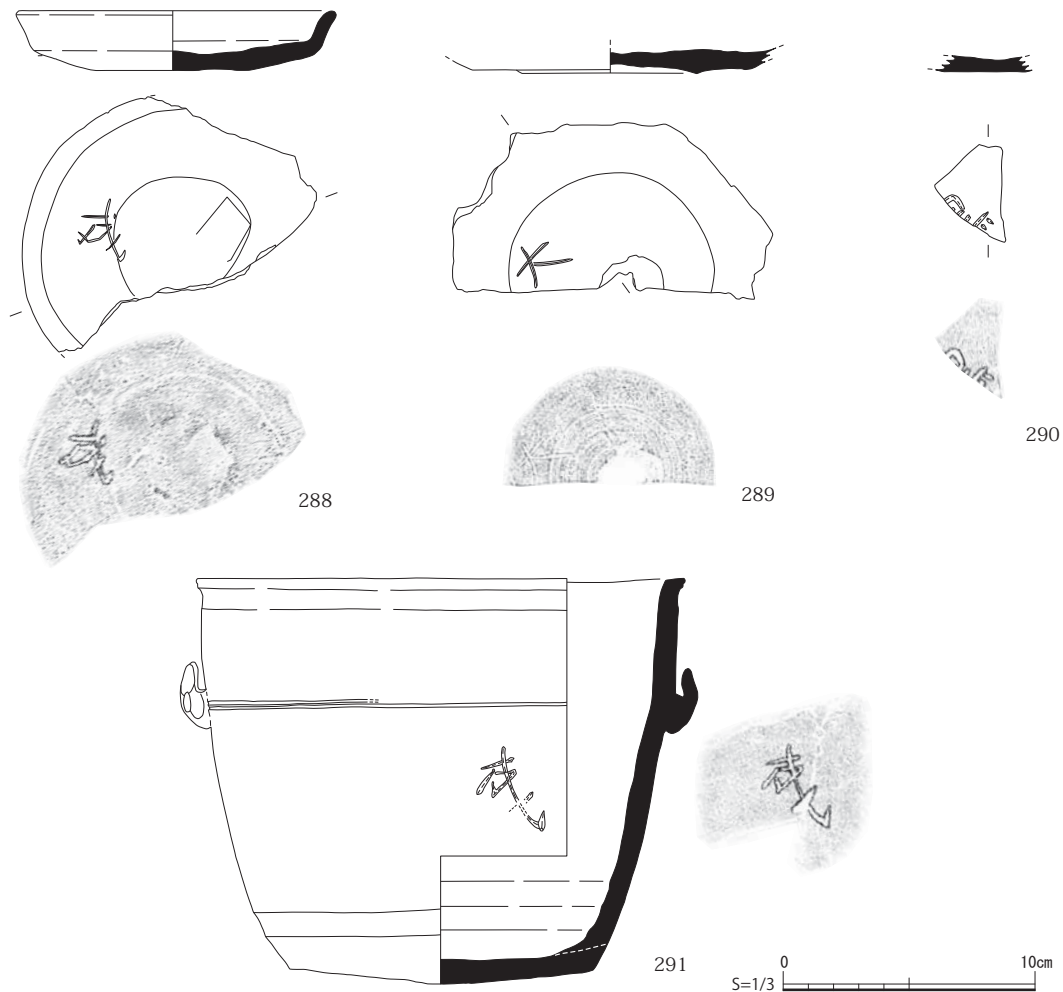


Fig.62 調査区出土遺物実測図 (土師器ヘラ書き)-⑪

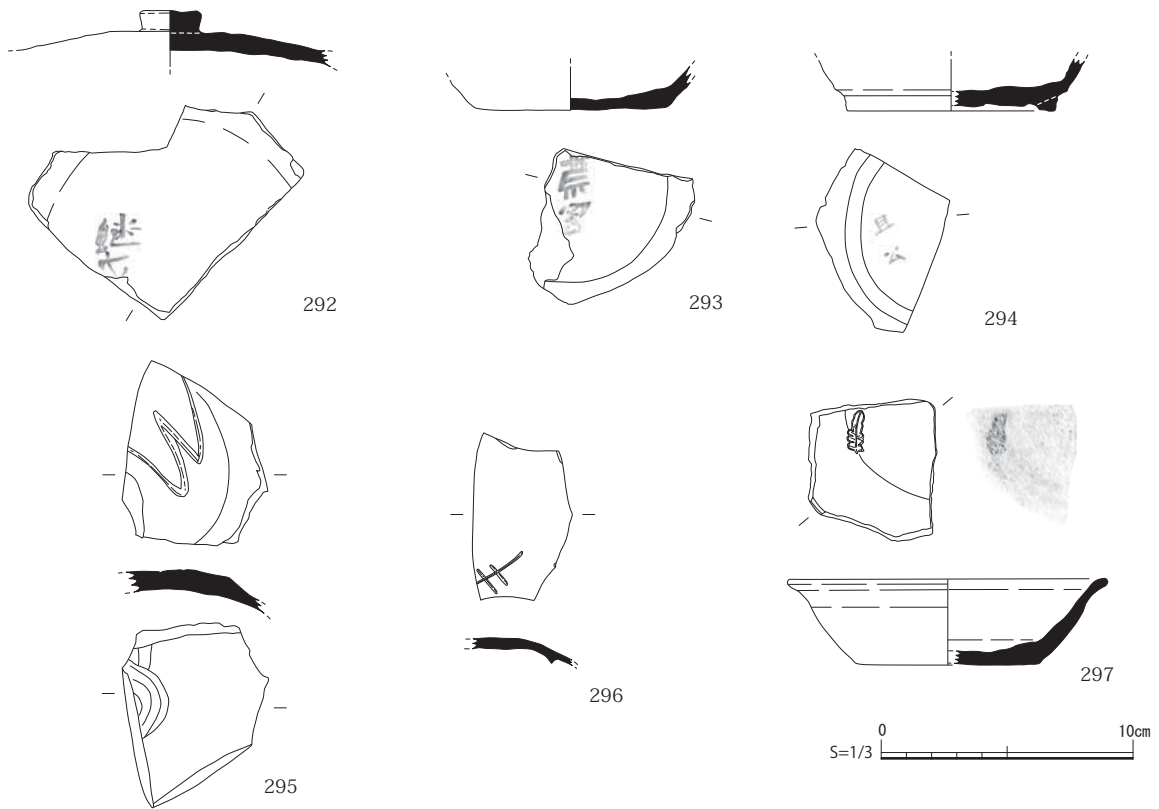


Fig.63 調査区出土遺物実測図（須恵器 墨書、ヘラ書き）-⑫

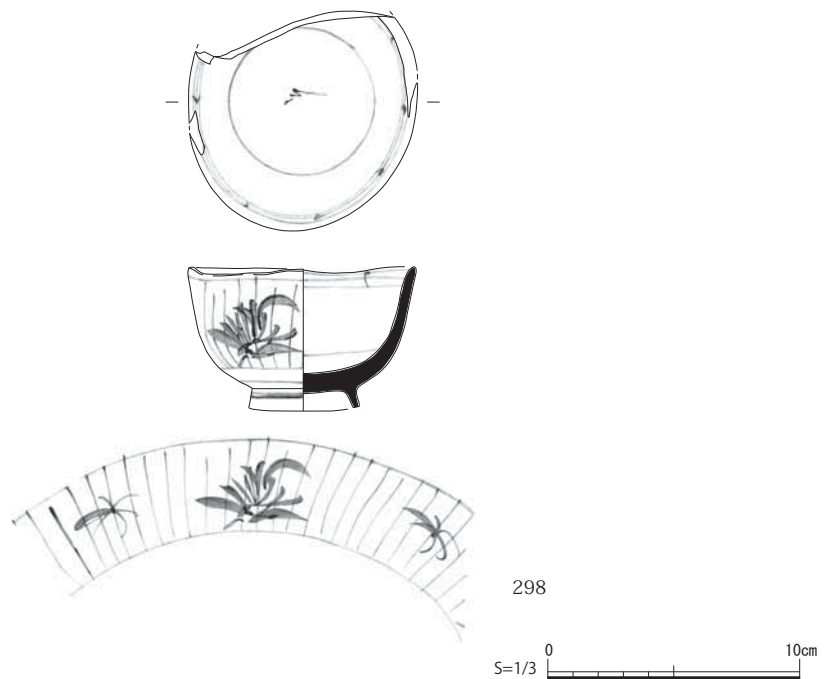


Fig.64 調査区出土遺物実測図-⑬

調査区出土遺物-⑫ (Fig.63) 須恵器 蓋 (292) 外面中心につまみを貼り付ける蓋。周囲は欠損し中心近くに「継庭」と思われる墨書あり。杯 (293) 外面底部中心に「荒守」と思われる墨書あり。高台付き杯 (294) 断面三角形の高台が体部との屈曲面に貼り付く。底部高台内に小さく「旦公」と墨書される。蓋 (295) 蓋

天井部と口縁部との境に内外面ともにヘラ書きあり。蓋（296）内面に稜を呈する突起が残る。天井部から口縁部にかけての部位外面に「キ」状のヘラ記号あり。杯（297）外面底部回転ヘラ切り、他はナデ整形。体部は外に開き、口縁部で強く反り、端部は平坦面を呈す。内面見込みから体部立ち上がりに係る部位に、葉をヘラ書きした文様が残る。

調査区出土遺物－⑬ (Fig.64) 磁器 椀（298）内外面ともに染付を施す。外面口縁部に1重圏線、底部に2重圏線、内面口縁には3重圏線を施し、線上に等間隔に文様が配される。外面体部には口縁から底部まで縦線、その上から手書きにより草花文を描く。高台は横ナデにより作り出され、外面に横太線が巡る。全体に透明釉がかかる。体部全体が楕円形に歪む。八代産出の陶石を利用した霊符焼である可能性が高い。

調査区出土遺物－⑭ (Fig.65) 瓦（299～301）本出土遺物も、調査区Gridで取り上げた資料である。

平瓦（299）右側縁先端にあたる。凹面に布目、凸面に格子面叩き痕を残す。側縁調整は垂直切り取り。（300）左側縁部先端にあたる凹面に布目、凸面に格子目叩き痕を残す。側縁調整は垂直切り取り。（301）4層出土遺物。右側縁先端にあたる。凹面に布目、凸面に格子目叩き痕を残す。側縁調整は「く」字状切り取り。

調査区出土遺物－⑮ (Fig.66) 瓦 平瓦（302）4層出土。右側縁中位の部位。凹面に布目痕を残すが、一部に布の重複部が残る。凸面に格子目叩き痕を残す。側縁調整は「く」字状切り取り。

丸瓦（303）小片であるため、見出せる情報は限られる。瓦凸面は無文、凹面は布面を呈す。端部は垂直に切り落とされる。

特殊遺物 (Fig.67) 銅銭等 貨幣（304・305・306）土坑SK005埋土中出土。青銅製模造銭。同時に出土している銘の読める貨幣より小さいが、中央部の孔は同じ大きさである。

貨銭（307）土坑SK026埋土中より出土した遺物。皇宋通寶と読むことができる。1038年中国、北宋の時代仁宋期に鑄造された貨幣。

貨銭（308）土坑SK012から出土した遺物。元祐通寶と読むことができる。中国宋の時代、哲宗期に鑄造された貨幣。

調査区出土遺物－⑯ (Fig.68) 鉄製品（309～319）調査区内より出土した鉄製品を器種の分かる資料のみ抽出し掲載した。

鉸具（309）方形の鉄環状を呈し断面は四角で一方に2か所の孔が残る。おそらく対になるものと思われる。本来中心にくる鉄棒は、失われてない。

雲珠（310）鉄製、馬具の一部。四か所に孔を有し、中心部は丸くドーム状に膨らむ。

杏葉（311）4層出土。円形杏葉の一部で、側縁が丸く厚みを帯びる。

鉄鏃（312）残存度が悪く詳細は不明。出土部位は基部から上方に伸び、緩やかに幅が広がり始める部分に当たる。断面は基部で四角、広がり始める部分で楕円を呈す。長頸鏃である可能性もある。周辺で古墳時代から古代の遺物までを出土しているため、時代まで求めるのは難しい。

刀子（313）刀子の刃部にあたる。刃部は片刃で先端は回り込み刃部を形成する。断面はいずれも三角を呈するが、やや厚みを帯びる。基部は欠損して不明。

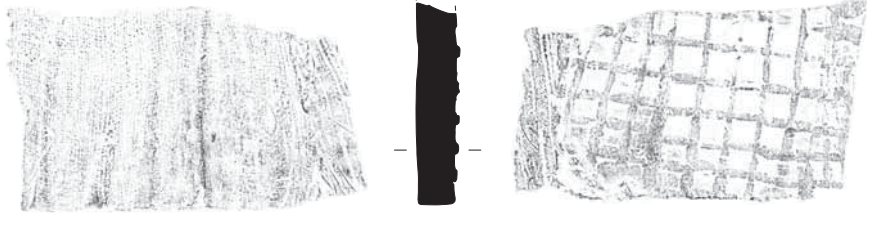
釣針（314）軸部に抉りを有し、緩やかに「J」字型を呈し、針先端へ至る。逆刺はない。

鉄鎌（315）4層出土。鎌本体の中位にあたる部位。錆が酷く本来の形状を見ることはできない。（316）4層出土遺物。刃部は錆がひどいため観察不能。基部は短く折り返す。

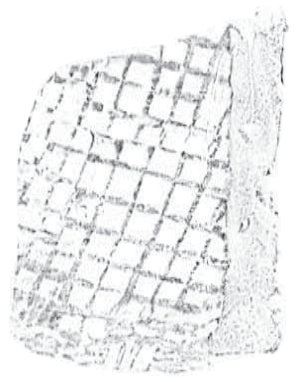
袋状手斧（317）先端、刃部が欠損。基部は袋状に両端から巻き込まれる。内部には木質部が残っており、基軸の一部と考えられる。

鉄滓（318）下部が椀形を描き、上部中央にわずかな窪みを持つことから椀形滓である可能性が高い。

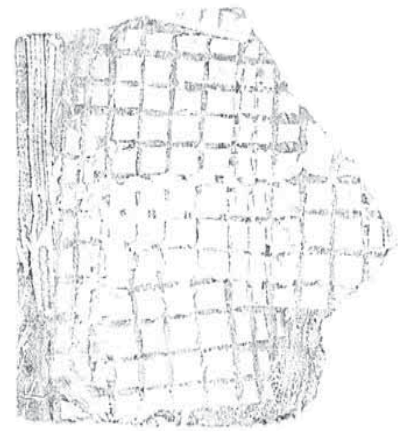
442.6g（319）図示した図面上部に、炉からスラグが流れ出す流状口と思われる方形の形状を見て取れることから、本資料も炉底滓である可能性が高い。272.6g



299



300



301



Fig.65 調査区出土遺物実測図(平瓦)一⑭

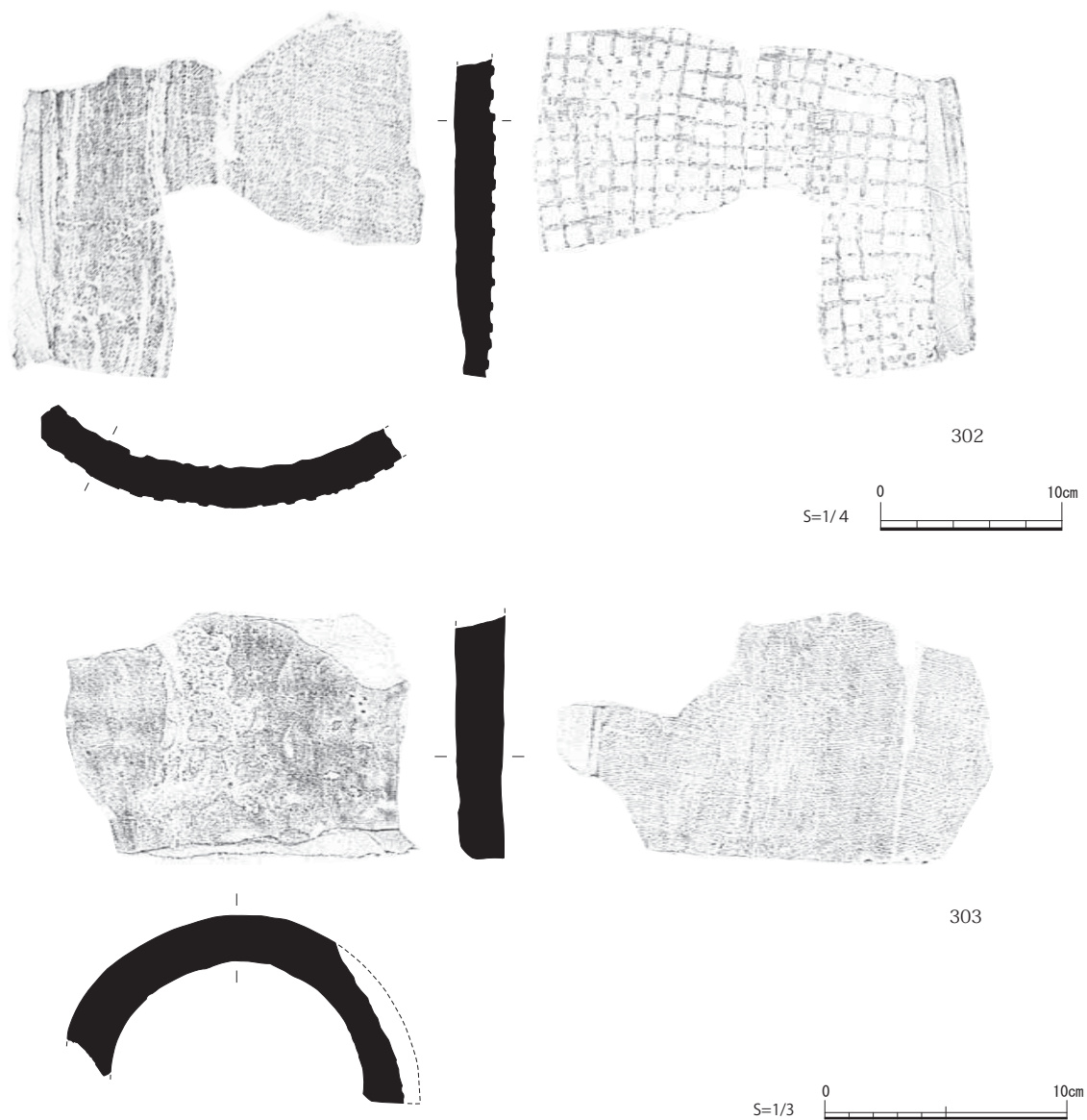


Fig.66 調査区出土遺物実測図（平瓦、丸瓦）-⑮

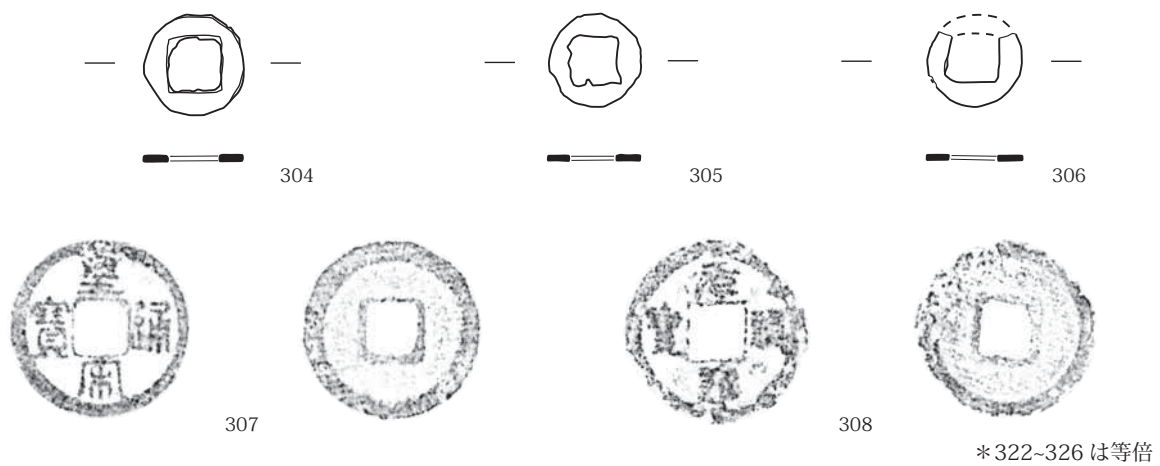


Fig.67 土坑SK005(304・305・306)、SK012(308)、SK026(307) 出土遺物実測図（銅銭）

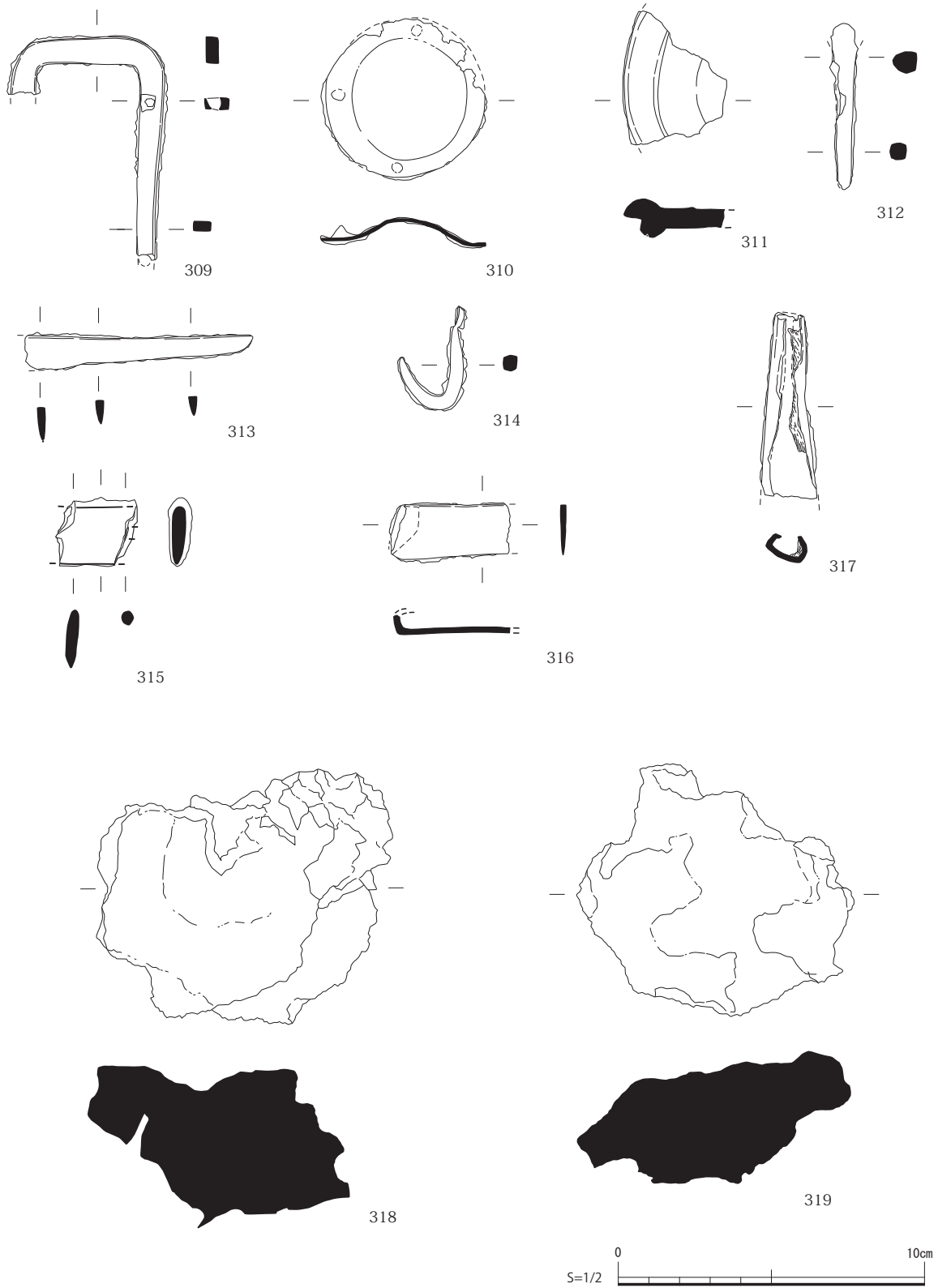


Fig.68 調査区出土遺物実測図(鉄製品)一⑯

調査区出土遺物-⑰ (Fig.69) 特殊遺物 鉄製紡錘車 (320) 3層出土。鉄製の紡錘車で一様に平たく、中央に孔を残す。

石製紡錘車 (321) 4層出土。ほぼ完形品だが一部欠損。断面は四角を呈するが、端部はやや丸みを帯びる。中心の孔は両端から穿孔され中央部で繋がる。(322) 4層出土。残存度 1/4。断面は四角で中央に穿孔あり。表面に擦痕あり。

土製紡錘車 (323) 4層出土。残存度 1/4。断面端部丸く、中央に穿孔あり。(324) 4層出土。残存度 1/2。断面は厚く、断面端部は丸みを帯びる。表面には指押え痕がわずかに残る。(325) 4層出土。残存度 1/2。中心部が厚く両端が薄くなる。断面は四角を呈す。中心穿孔部両端には粘土の盛り上がりが残る。(326) 4層出土遺物。残存度 1/4。断面は四角で中央に穿孔あり。(327) 4層出土。残存度 1/2。断面は四角で端部は丸く、中央に穿孔あり。(328) 土製としては唯一の完形品。断面形状は台形を呈す。穿孔部周辺は盛り上がる。

調査区出土遺物-⑱ (Fig.70) 石製品 石帯具 (329) 平・断面とも方形を呈し、2か所に両側から穿孔し、孔をあける。一部欠損あり。石材は砂岩。

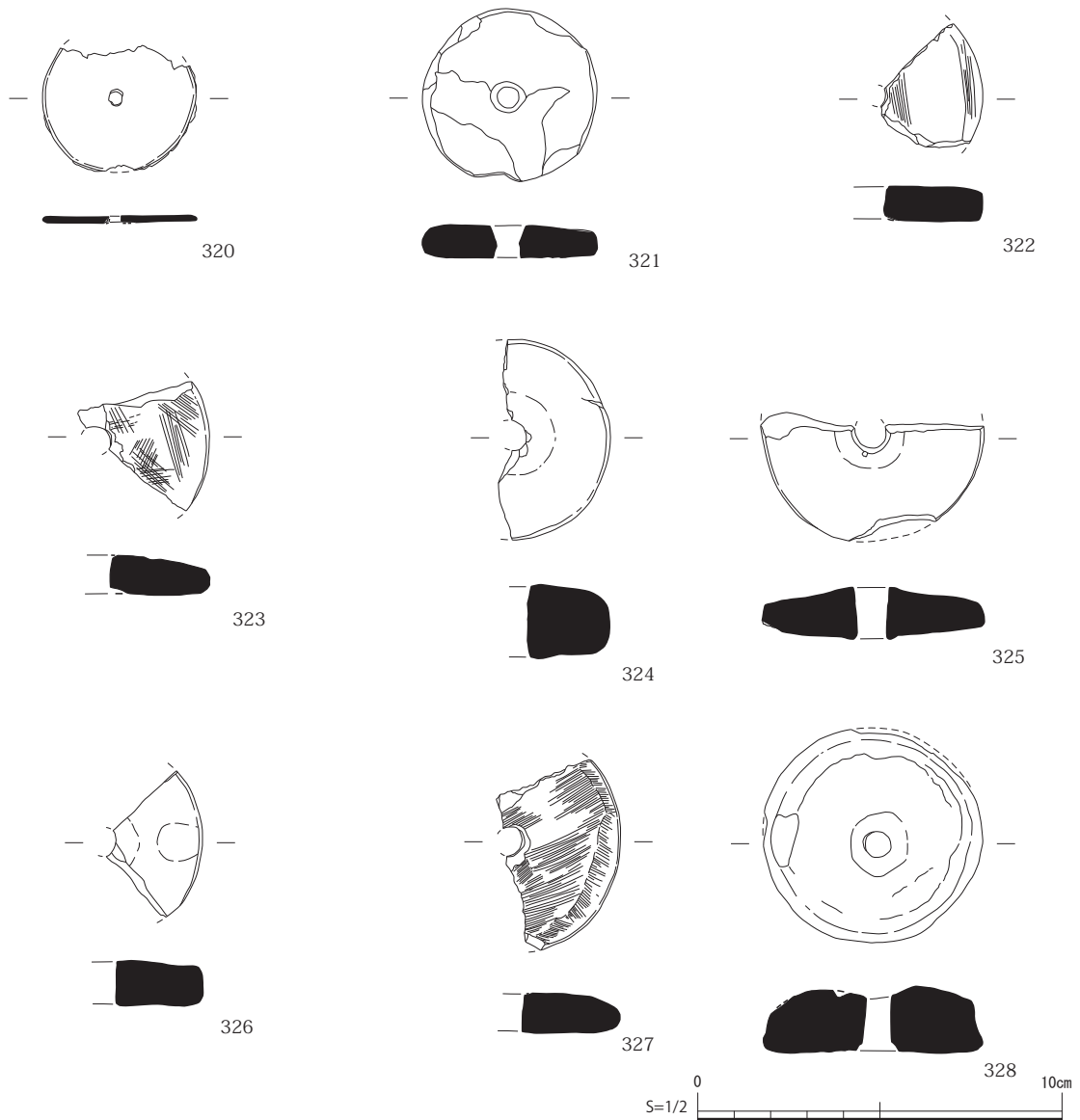


Fig.69 調査区出土遺物実測図 (紡錘車)-⑰

管玉 (330) 4層出土。碧玉製管玉。中心部に穿孔。一方は欠損。

石製勾玉 (331) 4層出土。穿孔する頭部が最も厚み、幅とも大きく、湾曲し先端に至る部位が細くなる。穿孔は両端から施し、中央部で繋がる。全面に擦痕を残す。

砥石 (332) 7層出土。砂岩性砥石。使用面は1面で中央部は使用痕により窪む。

調査区出土遺物-⑩ (Fig.71) 特殊遺物 トチン (窯道具) (333) 底辺が台形状を呈し、中位は柱状をなす。表面の欠損が激しく二次的に熱が加わることで爆ぜている可能性もある。一部磁器化している部分も見られる。(334) 底辺が台形状を呈し、中位は柱状をなす。表面の欠損が激しく、二次的に熱が加わることで爆ぜている可能性もある。一部磁器化している部分も見られる。(335) 底辺が台形状を呈し中位は柱状をなす。表面の欠損が激しく、二次的に熱が加わることで爆ぜている可能性もある。一部磁器化している部分も見られる。

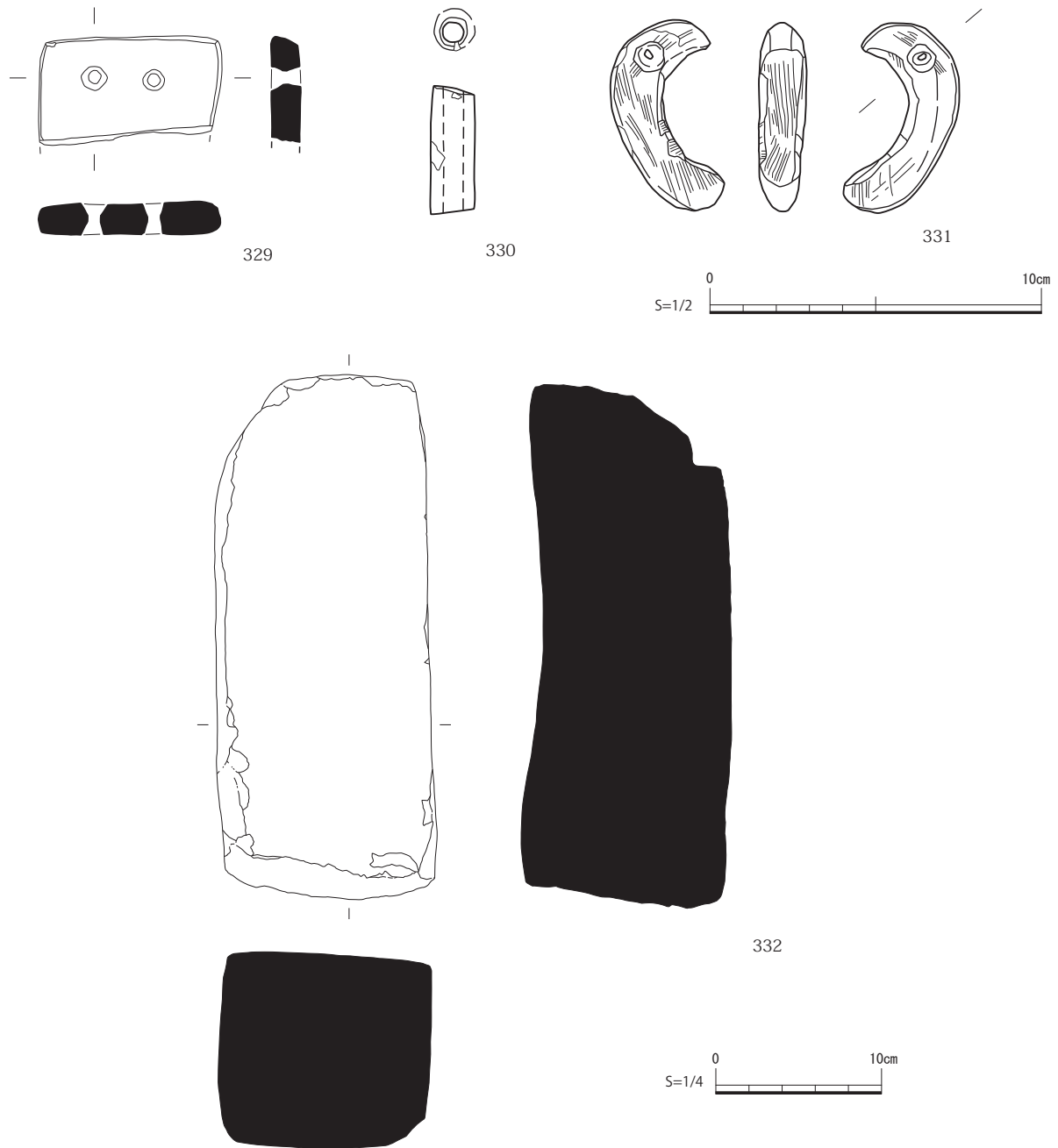


Fig.70 調査区出土遺物実測図 (石製品)-⑩

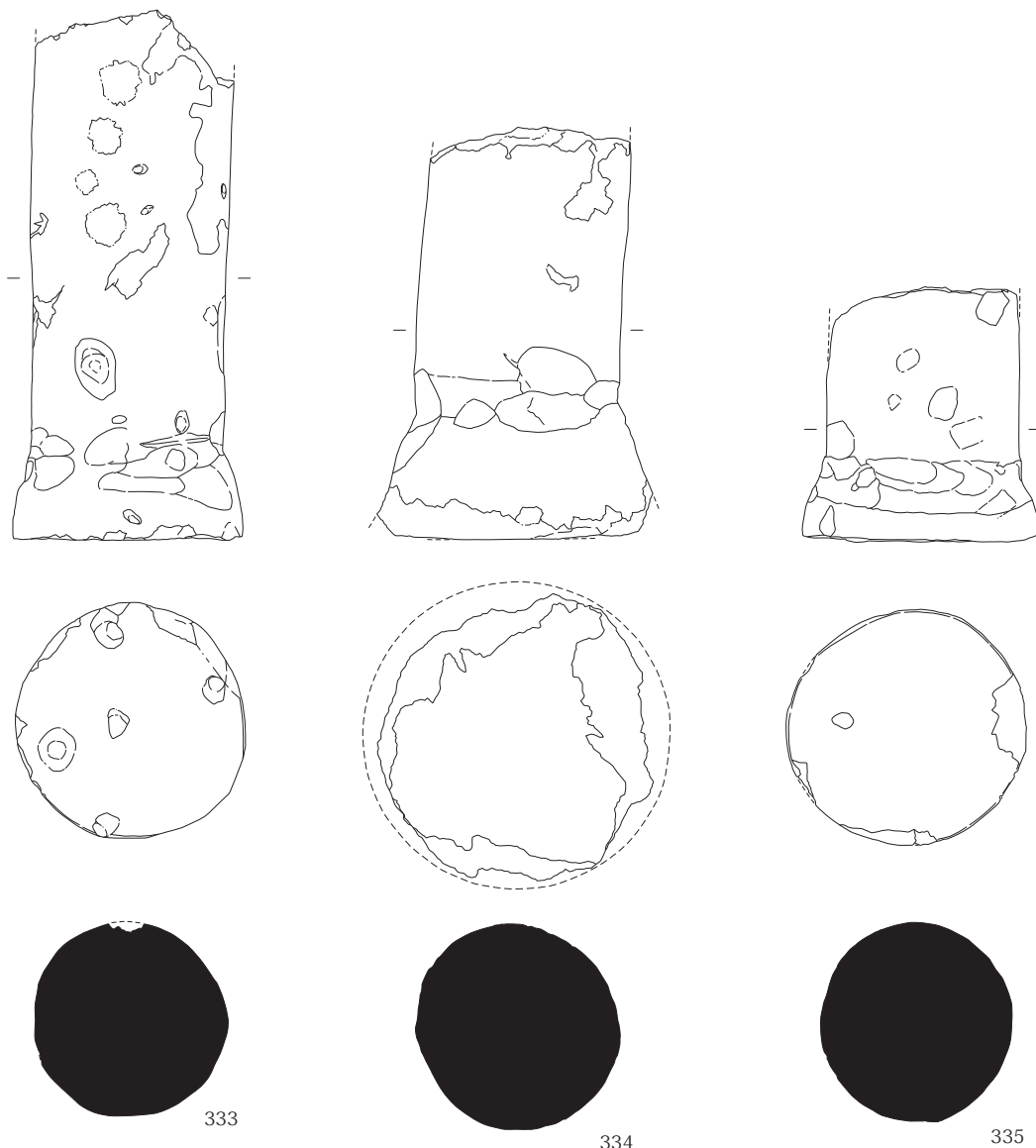


Fig.71 調査区出土遺物実測図(トチン)ー⑱

宮地小畑遺跡 遺物観察表

宮地小畑遺跡 出土遺物観察表

遺物番号	Fig No	PL No	遺構番号	グリット	種別	器種	出土地点		法層 (cm)				色調			
							層	注記	口径	底径	最大口径	器高	外面	内器面		
1	28	26	SD002	E-F-11 F-11	須恵器	蓋	-	-	16.6	-	-	4.05	灰N4/0	灰N4/0		
2			SD002	E-F-11 F-11	須恵器	蓋	-	-	14.9	-	-	1.5	灰5Y5/1	灰白5Y8/1		
3			SD002	E-F-11	須恵器	蓋	-	-	14.0	-	-	2.0	灰7.5Y5/1	灰5Y5/1		
4			SD002	F-11 E-12	土師器	杯	-	-	(12.5)	(6.3)	-	4.8	橙7.5YR7/6 にふい黄橙10YR7/4	橙7.5YR7/6		
5			SD002	F-11	須恵器	高台付杯	-	-	(14.0)	(8.8)	-	-	灰N6/0	灰N6/0		
6			SD002	F-12	須恵器	高台付杯	-	-	14.0	9.4	-	3.9	灰10Y5/1	灰10Y5/1		
7	29	46	SK001	F-G-12	須恵器	杯	-	-	(12.2)	6.2	-	4.2	浅黄橙7.5YR8/4	浅黄橙7.5YR8/4		
8			SK007	G-13	須恵器	蓋	-	-	18.3	-	3.6	3.6	黄灰2.5YR6/1	黄灰2.5YR6/1		
9			SK007	G-13	土師器	杯	-	-	(17.1)	(8.8)	-	3.5	にふい黄橙10YR7/4	にふい黄橙10YR7/4		
10			SK008	G-13	須恵器	高台付杯	-	-	(11.6)	(7.4)	-	4.2	灰N5/0	灰10/0		
11			SK011	G-15	須恵器	皿	-	-	(19.2)	(16.3)	-	2.85	灰白2.5Y7/1	灰白2.5Y7/1		
12			SK012	F-14	土師器	杯	-	No1	(16.6)	(13.0)	-	4.85	にふい黄橙10YR7/4	にふい黄橙10YR7/4		
13			SK016	G-15	磁器	椀	-	-	-	-	-	-	-	-		
14			SK018	F-15	土師器	杯	-	-	12.2	7.4	-	3.1	にふい黄橙10YR6/4	にふい黄橙10YR7/2		
15			SK019		軒丸瓦		-	-	-	-	-	-	-	-		
16			SK023	G-16	土師器	小型杯	-	-	6.0	3.0	-	2.2	橙7.5YR6/6	にふい橙7.5YR7/4		
17			SK023	G-16	土師器	杯	-	-	11.3	5.9	-	4.4	橙5YR7/6	にふい橙5YR7/4		
322	SK005		模造銭		-	-	-	-	-	-	-	-				
323	SK005		模造銭		-	-	-	-	-	-	-	-				
324	SK005		模造銭		-	-	-	-	-	-	-	-				
325	SK026		銅銭		-	-	-	-	-	-	-	-				
326	SK012		銅銭		-	-	-	-	-	-	-	-				
18	30	26	SK027	F-G-4.5	土師器	杯	3-4層	-	(12.9)	8.05	-	3.2	にふい橙7.5YR7/4	にふい橙7.5YR7/4		
19			SK027	F-G-4.5	土師器	杯	1-2層	-	12.8	6.6	-	4.5	にふい黄橙10YR6/4	にふい黄橙10YR6/4		
20			SK027	F-G-4.5	土師器	杯	-	-	(15.8)	7.0	-	5.2	にふい橙7.5YR6/3	にふい橙5YR7/4		
21			SK027	F-G-4.5	土師器	高台付皿	3層	-	(15.2)	9.3	-	4.0	にふい橙7.5YR7/4	にふい橙7.5YR7/4		
22			SK027	F-G-4.5	黒色土器	高台付杯	-	-	(14.6)	6.4	-	(4.9)	灰黄橙10YR4/2	黒10YR2/1		
23			SK027	F-G-4.5	須恵器	杯	1-2層	-	12.1	6.5	-	4.1	にふい黄橙10YR7/2 橙5YR6/6	橙5YR7/6		
24			SK027	F-G-4.5	須恵器	壺	1層	-	(16.2)	-	-	(8.5)	灰N5/0	灰N6/0		
25			SK029	F-G-4.5	土師器	甕	-	-	-	-	-	(21.8)	橙5YR7/6 にふい黄橙10YR7/4	にふい橙7.5YR7/3		
26			31	27	SK030	F-7	土師器	杯	7層	-	12.0	7.2	-	3.3	にふい黄橙10YR7/4	にふい黄橙7.5YR7/4
27					SK030	F-7	土師器	杯	1-3層	-	12.1	6.3	-	4.2	橙5YR7/6	橙5YR7/6
28	SK030	F-7			土師器	杯	3層	-	12.2	6.5	-	4.3	橙5YR6/6	橙5YR7/6		
29	SK030	F-7			土師器	椀	1-3層	-	(12.9)	7.1	-	6.3	橙5YR7/6	にふい橙7.5YR7/4		
30	SK030	F-7			黒色土器	杯	4層	-	(14.6)	(5.0)	-	4.8	にふい橙7.5YR7/3	暗灰N3/0		
31	SK030	F-7			黒色土器	高台付杯	4層	-	(13.6)	(7.2)	-	4.7	にふい黄橙10YR6/3	暗灰N3/0		
32	SK030	F-7			黒色土器	杯	4層	-	-	6.9	-	(2.2)	にふい黄橙10YR7/4	オリーフ黒5Y3/1		
33	SK030	F-7			黒色土器	高台付杯	7層	-	(13.4)	-	-	(4.6)	にふい橙7.5YR6/4	オリーフ黒5Y3/1		
34	SK030	F-7			黒色土器	高台付杯	4層	-	(14.0)	-	-	(4.7)	にふい黄橙10YR7/3	オリーフ黒5Y3/1		
35	SK030	F-7			黒色土器	高台付杯	7層	-	(13.0)	(6.8)	-	5.0	にふい橙7.5YR7/4	暗灰N3/0		
36	SK030	F-7			陶器	椀	-	-	-	-	-	-	-	-		
37	SK030		平瓦		-	-	-	-	-	-	-	-				
38	32	27	SK033	F-G-7	土師器	杯	-	No2	12.2	6.8	-	3.6	橙5YR6/6	橙5YR7/6		
39			SK033	F-G-7	土師器	杯	3層	-	11.2	6.0	-	3.8	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6		
40			SK033	F-G-7	土師器	杯	1-2-3層	-	(11.7)	6.55	-	3.3	にふい橙10YR7/2	にふい橙7.5YR7/4		
41			SK033	F-G-7	土師器	杯	-	No11	12.6	7.4	-	3.1	橙2.5YR6/6	明赤橙2.5YR5/6		
42			SK033	F-G-7	土師器	杯	2-3層	No8.9	2.6	6.9	-	3.2	橙2.5YR6/6	橙2.5YR6/6		
43			SK033	F-G-7	土師器	杯	3層	-	12.5	5.7	-	3.6	橙2.5YR6/6	橙2.5YR6/8		
44			SK033	F-G-7	土師器	杯	2層	-	(12.6)	(6.0)	-	4.1	橙7.5YR6/6	橙7.5YR6/6		
45			SK033	F-G-7	土師器	杯	-	No10.11	12.4	8.3	-	3.2	浅黄橙10YR8/4	浅黄橙7.5YR8/4		
46			SK033	F-G-7	土師器	杯	3層	-	12.05	7.4	-	3.4	浅黄橙7.5YR8/4	にふい橙7.5YR7/4		
47			SK033	F-G-7	土師器	杯	1-2層	-	(12.5)	6.9	-	4.3	橙7.5YR7/6	橙5YR7/6		
48	SK033	F-G-7	土師器	椀	3層	No2.9	14.7	7.2	-	6.0	にふい橙7.5YR7/4	にふい橙7.5YR7/3				
49	SK033	F-G-7	土師器	椀	2層	-	(13.6)	(6.8)	-	6.2	橙2.5YR6/6	橙2.5YR6/6				
50	SK033	F-G-7	黒色土器	杯	2層	-	(17.9)	-	-	(2.8)	にふい橙7.5YR5/3	黒橙2.5YR3/1				
51	SK033	F-G-7	土師器	甕	-	No1	(28.2)	-	-	(12.5)	橙5YR6/8 にふい橙7.5YR7/4	にふい黄橙10YR7/3				
52	SK033	F-G-7	須恵器	蓋	-	-	12.9	-	-	1.9	黒2.5YR2/1	黒5Y2/1				
53	SK033	F-G-7	須恵器	杯	3層	-	11.2	5.9	-	4.5	浅黄橙10YR8/4	浅黄橙10YR8/4				
54	SK033	F-G-7	須恵器	椀	-	-	(14.7)	7.3	-	6.4	橙5YR7/8, 橙5YR6/8	橙5YR7/8				
55	SK033	F-G-7	須恵器	壺	-	No3	-	(13.0)	-	(12.2)	オリーフ黒7.5YR3/1	灰10Y4/1				
56	SK035	F-11	土師器	杯	-	No16	12.8	5.9	-	3.6	橙5YR7/6	橙5YR6/6				
57	SK035	F-11	土師器	杯	-	No3.5	13.3	9.7	-	4.3	黄橙10YR8/6	橙7.5YR7/6				
58	SK035	F-11	土師器	杯	-	No4	(13.4)	9.2	-	4.45	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6				
59	SK035	F-11	土師器	高台付鉢	-	-	(12.8)	(7.6)	-	4.3	橙5YR7/6	橙5YR7/6				
60	SK035	F-11	土師器	甕	-	No28, 34, 39 40, 51	27.8	-	-	(16.8)	浅黄橙7.5YR8/3 浅黄橙7.5YR8/4	浅黄橙7.5YR8/4				
61	SK035	F-11	土師器	甕	-	No20	(17.4)	-	-	(11.7)	橙5YR6/6	橙5YR6/6				
62	SK035	F-11	須恵器	蓋	-	No24	15.4	-	-	1.4	褐灰7.5YR4/1	灰褐7.5YR4/2				
63	SK035	F-11	須恵器	蓋	-	-	17.3	-	-	3.2	灰白5Y8/1	灰白5Y8/1				
64	SK035	F-11	須恵器	高台付杯	-	No22	12.6	7.9	-	4.2	灰7.5Y5/1	灰7.5Y6/1				
65	SK035	F-11	須恵器	高台付杯	-	No25	12.6	8.05	-	4.0	灰N6/0	灰7.5Y6/1				
66	SK035	F-11	須恵器	皿	-	No10	(20.0)	(18.3)	-	2.3	黒橙2.5Y3/2 灰7.5Y4/1	暗灰3/0				
67	34	29	SK036	F-11	土師器	杯	-	-	11.2	7.35	-	4.5	にふい黄橙10YR7/4	橙7.5YR6/6		
68			SK036	F-11	土師器	杯	-	-	(13.9)	(6.4)	-	3.5	橙5YR7/8	橙7.5YR7/6		
69			SK036	F-11	土師器	甕	-	No7.4	25.2	-	-	(24.0)	橙2.5Y6/6	にふい橙7.5YR7/4		
70		SK036	F-11	須恵器	蓋	-	No1	13.7	-	-	2.5	灰7.5Y5/1	緑灰10GY5/1			
71		SK036	F-11	須恵器	蓋	-	No8	14.6	-	-	2.25	灰白5Y6/1	灰白5Y7/1			
72		SK036	F-11	須恵器	蓋	-	-	19.0	-	-	4.2	灰白5Y8/1	灰白5Y8/1			
73		SK036	F-11	須恵器	高台付杯	-	-	(16.7)	11.2	-	5.6	灰白2.5Y7/2	灰白2.5Y6/2			
74		SK036	F-11	須恵器	高台付杯	-	-	(15.4)	(9.6)	-	5.3	灰7.5Y5/1	灰7.5Y6/1			
75		SK036	F-11	須恵器	皿	-	No6	17.3	10.95	-	3.2	灰白5Y7/1	灰白5Y7/1			

Tab.6

胎土	調整				備考	No.
	外器面	内器面	外底面	内底面		
長石、輝石	横ナテ、回転ヘラ削り	横ナテ、ナテ	—	—	つまみ貼付 焼き歪み	1
長石、角閃石、雲母	ヘラ切り後ヘラ削り、横ナテ	横ナテ、ナテ	—	—	(内面)重ね焼き痕。(天井部)ハケ目後削りか	2
長石、角閃石、雲母	横ナテ、天井部ヘラ切り	横ナテ、ナテ	—	—		3
石英、長石、赤色酸化粒	調整不明	調整不明	調整不明	調整不明		4
長石	横ナテ	横ナテ	ヘラ切り	横ナテ	貼付高台	5
長石、角閃石	横ナテ	横ナテ	ヘラ切り後ナテ	ナテ	貼付高台	6
石英、長石、輝石	横ナテ	横ナテ	ヘラ切り後ナテ	横ナテ	赤焼けの須恵器	7
石英、長石	回転ヘラ削り、横ナテ	横ナテ、横ナテ後ナテ	—	—	つまみあり	8
石英、角閃石、雲母	横ナテ	横ナテ	ナテ	横ナテ後ナテ	(内器面)赤色顔料、内外摩滅	9
長石	横ナテ	横ナテ	ヘラ切り後ナテ	横ナテ後ナテ	貼付高台	10
石英	横ナテ	ナテ	ヘラ切り後ナテ後ハケ目	横ナテ後ナテ		11
石英、長石、角閃石	横ナテ、ヘラ削り	横ナテ	ヘラ切り	横ナテ後ナテ		12
					※別表(陶磁器)参照	13
石英、角閃石	横ナテ	横ナテ	ヘラ切り後ナテ	横ナテ後ナテ		14
						15
石英、黒色粒	横ナテ	ナテ	糸きり	横ナテ		16
石英、輝石	横ナテ	横ナテ	糸きり	横ナテ		17
					※別表(銅銭)参照	322
					※別表(銅銭)参照	323
					※別表(銅銭)参照	324
					※別表(銅銭)参照	325
					※別表(銅銭)参照	326
長石、雲母、赤色酸化粒	ナテ	ナテ	ヘラ切り後ナテ	ナテ	(内、外面)赤色顔料	18
石英、雲母	横ナテ、回転ヘラ削り	横ナテ	ヘラ切り後ナテ	横ナテ後ナテ		19
長石	横ナテ、回転ヘラ削り	横ナテ	ヘラ切り後ナテ	横ナテ後ナテ		20
石英、雲母	(坏部)横ナテ、回転ヘラ削り	(坏部)横ナテ	(脚部)横ナテ	(脚部)横ナテ後ナテ	脚部貼付	21
	横ナテ、回転ヘラ削り	ヘラ磨き	横ナテ	ヘラ磨き	高台痕跡、内黒	22
石英、長石、雲母	横ナテ、ナテ	横ナテ	ヘラ切り後ナテ	ナテ		23
長石	横ナテ	横ナテ	—	—	粘土のつなぎ痕あり	24
石英、角閃石、赤褐色粒	ハケ目後ナテ、ハケ目	ナテ、削り、工具痕	—	—	(内、外面)煤付着	25
赤色酸化粒	横ナテ	横ナテ	ヘラ切り後ナテ	横ナテ後ナテ		26
長石、角閃石、赤色酸化粒	横ナテ、ヘラ削り	横ナテ	ナテ	横ナテ	焼きムラ	27
石英、長石	横ナテ、ヘラ削り	横ナテ	ヘラ切り後ナテ	ナテ	粘土の輪積み痕あり	28
石英、長石、雲母、角閃石	横ナテ、回転ヘラ削り	横ナテ	ナテ、横ナテ	ナテ	貼付高台、坏部と高台がはつきり剥離している。ヘラ書き	29
雲母	横ナテ、回転ヘラ削り	ナテ	横ナテ	ナテ	黒色土器、外面一部	30
長石、雲母、赤色酸化粒	横ナテ	ヘラ磨き痕	ナテ、横ナテ	ヘラ磨き痕	黒色土器、高台貼付	31
石英、角閃石、雲母 赤色酸化粒	回転ヘラ削り、横ナテ	ヘラ磨き	ナテ、横ナテ	ヘラ磨き	黒色土器、貼付高台(土器断面)中に煤が入り込んでいる。	32
長石、赤色酸化粒	横ナテ	ヘラ磨き	ナテ	ヘラ磨き		33
長石、雲母、赤色酸化粒	横ナテ、回転ヘラ削り	ヘラ磨き	ヘラ切り後ナテ	ヘラ磨き		34
雲母、赤色酸化粒	横ナテ、回転ヘラ削り	ヘラ磨き	ナテ	ヘラ磨き	黒色土器、高台貼付、(高台)一部剥離、外底ヘラ記号	35
					※別表(陶磁器)参照	36
					※別表(瓦)参照	37
長石	横ナテ、ヘラ削り	横ナテ	ヘラ切り後ナテ	横ナテ後ナテ		38
石英、長石	横ナテ、ヘラ削り	横ナテ	ヘラ切り後ナテ	横ナテ後ナテ	焼き歪みあり	39
長石	横ナテ、回転ヘラ削り	横ナテ	ヘラ切り後ナテ	横ナテ後ナテ	(内外面)赤色顔料	40
角閃石、雲母、赤色酸化粒	横ナテ、ヘラ削り	横ナテ	ヘラ切り後ナテ	横ナテ後ナテ	(内外面)赤色顔料	41
角閃石、赤色酸化粒	横ナテ	横ナテ	ヘラ切り後ナテ	横ナテ後ナテ	(内外面)赤色顔料	42
長石、雲母、赤色酸化粒	横ナテ、ヘラ削り	横ナテ	ヘラ切り後ナテ	横ナテ後ナテ	(内外面)赤色顔料	43
長石、輝石	横ナテ、ヘラ削り	横ナテ	ヘラきり後ナテ	横ナテ後ナテ	ヘラ書「□」	44
長石、輝石、赤色酸化粒	横ナテ、ヘラ削り	横ナテ	ヘラ切り後ナテ	横ナテ	(内外面)赤色顔料	45
角閃石、雲母	横ナテ、ナテ	横ナテ	ヘラ切り後ナテ	横ナテ後ナテ	(内外面)赤色顔料	46
長石	横ナテ、ヘラ削り	横ナテ	ヘラ切り後ナテ	横ナテ後ナテ	底部粘土付け足し	47
長石	横ナテ、ヘラ削り	横ナテ	ヘラ削り後ナテ	ナテ	小さいキズのようなものがある。植物痕	48
石英、長石、雲母	横ナテ、回転ヘラ削り	横ナテ	ナテ、横ナテ	横ナテ後ナテ	貼付高台、(高台)一部剥離	49
石英、雲母	横ナテ、回転ヘラ削り	ヘラ磨き	—	—	(内面)黒色土器	50
角閃石、石英、雲母	ハケ目後ナテ、ハケ目	ハケ目、ヘラ削り	—	—		51
長石	ヘラ切り後ナテ、横ナテ	横ナテ後ナテ	—	—	焼き歪み、(内面口縁部)灰かぶり痕	52
石英、雲母	横ナテ、回転ヘラ削り	横ナテ	ヘラ切り後ナテ	ナテ	赤やけ	53
石英、長石、角閃石、雲母	横ナテ、回転ヘラ削り	横ナテ	ナテ、横ナテ	横ナテ後ナテ	赤焼け、貼付高台(外面)一部煤付着	54
長石	横ナテ、回転ヘラ削り	横ナテ、ナテ	格子タタキ、横ナテ	ナテ	貼付高台	55
長石、雲母	横ナテ、ヘラ削り	横ナテ	横ナテ	横ナテ		56
石英、角閃石、雲母、赤色酸化粒	回転ヘラ削り	横ナテ	ヘラ切り後ナテ、横ナテ	ナテ		57
雲母、石英、長石、角閃石	横ナテ	横ナテ	ヘラ切り後ナテ	ナテ	全体的に摩滅している。	58
雲母、赤色酸化粒	横ナテ	横ナテ、ナテ	横ナテ、ナテ	ナテ	貼付高台	59
石英、赤褐色粒	ナテ、ハケ目後ナテ ハケ目	ナテ、削り、工具ナテ	—	—	(外面)煤付着	60
石英、長石、輝石、雲母 赤色酸化粒	横ナテ、調整不明	横ナテ、ヘラ削り	—	—	(外面)ハケ目らしき痕跡はあるが調整不明	61
石英、長石	ヘラ削り後ナテ、横ナテ	横ナテ	—	—	焼き歪みあり	62
石英、長石	横ナテ、回転ヘラ削り	横ナテ後ナテ、横ナテ	—	—	つまみあり	63
長石	横ナテ	横ナテ	ヘラ切り、横ナテ	横ナテ	貼付高台重ね焼き痕	64
長石、雲母	横ナテ	横ナテ	ヘラ切り後ナテ	ナテ、横ナテ	貼付高台	65
長石	横ナテ	横ナテ	横ナテ、手持ちヘラ削り	ナテ	(底部・外面)調整により滑土である	66
赤色酸化粒、石英 角閃石、雲母	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ		67
石英、長石、角閃石 雲母、赤色酸化粒	横ナテ、回転ヘラ削り	横ナテ	回転ヘラ削り、糸切り	ナテ		68
石英、角閃石	ナテ、ハケ目後ナテ、ハケ目	ハケ目、削り	—	—		69
長石、輝石	ヘラ削り、横ナテ	ナテ、横ナテ	—	—	(外)灰かぶり	70
長石、角閃石	ヘラ削り、横ナテ	横ナテ後ナテ、横ナテ	—	—		71
角閃石、雲母	ナテ、ヘラ削り、横ナテ	横ナテ	—	—	つまみあり。(外面)重ね焼痕あり	72
長石	横ナテ、回転ヘラ削り	横ナテ	ヘラ切り後ナテ、横ナテ	横ナテ後ナテ	貼付高台	73
長石	横ナテ、回転ヘラ削り	横ナテ	ヘラ切り後ナテ、横ナテ	横ナテ後ナテ	貼付高台	74
長石、角閃石	横ナテ	横ナテ	ヘラ削り	ナテ	(外面)粘土の付着物	75

遺物番号	Fig No	PL No	遺構番号	グリット	種別	器種	出土地点		法量 (cm)				色調	
							層	注記	口径	底径	最大口径	器高	外面	内器面
76	35		SK037	F-12	須恵器	杯	—	No2	(13.25)	(8.2)	—	3.4	灰N6/0	灰N6/0
77			SK038	F-13	須恵器	杯	—	—	(13.2)	(9.4)	—	4.9	灰白N7/0	灰白N7/0
78			SK039	G-13	須恵器	杯	—	—	(16.2)	10.0	—	5.4	灰N5/0	灰N5/0
79			SK040	F-14	須恵器	杯	—	—	(11.6)	7.1	—	3.9	灰白N7/0	灰白N7/0
80	36	32	SK041	F-14	土師器	蓋	—	No2	17.2	—	—	4.5	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙5YR6/4
81			SK041	F-14	須恵器	蓋	—	No1	15.4	—	—	2.55	灰7.5Y6/1	灰5Y5/1
82	37	29	SK041	F-14	須恵器	杯	—	No5	(11.7)	(7.1)	—	4.15	灰N5/0	灰N6/0
83			SK043	F-14	土師器	杯	—	—	—	—	—	(0.55)	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6
84			SK044	F-G-14	土師器	小型杯	—	—	(6.6)	5.0	—	2.0	橙7.5YR6/6	橙7.5YR6/6
85			SK044	F-G-14	土師器	小型杯	—	—	7.1	4.6	—	2.2	にぶい黄橙10YR6/3	にぶい黄橙10YR6/4
86			SK044	F-G-14	土師器	小型杯	—	—	(7.1)	5.0	—	2.1	にぶい橙7.5YR7/4	橙5YR6/4
87			SK044	F-G-14	土師器	小型杯	—	—	7.2	4.9	—	2.0	橙5YR7/6	橙5YR7/6
88			SK044	F-G-14	土師器	小型杯	—	—	7.4	5.6	—	2.0	橙5YR6/6	橙5YR6/6
89			SK044	F-G-14	土師器	杯	—	—	(11.1)	(7.6)	—	3.1	橙7.5YR6/6	にぶい橙7.5YR6/4
90			SK044	F-G-14	土師器	杯	—	—	12.2	8.3	—	2.95	橙5YR6/6	橙5YR6/6
91			SK044	F-G-14	土師器	杯	—	—	11.7	7.1	—	3.0	橙7.5YR6/6	黄橙7.5YR7/8
92			SK044	F-G-14	土師器	杯	—	—	(11.7)	(8.0)	—	3.1	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6
93			SK044	F-G-14	土師器	杯	—	—	(11.8)	7.9	—	2.75	橙5YR6/6	橙5YR6/6
94			SK044	F-G-14	土師器	杯	—	—	(11.6)	(8.5)	—	2.6	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6
95			SK044	F-G-14	土師器	杯	—	—	(11.6)	7.9	—	2.5	橙5YR6/6	橙5YR6/6
96	SK044	F-G-14	土師器	杯	—	—	(11.6)	8.4	—	2.8	橙5YR6/8	橙5YR6/8		
97	SK044	F-G-14	土師器	杯	—	—	(11.4)	(7.5)	—	2.6	橙7.5YR6/6	橙7.5YR6/6		
98	SK044	F-G-14	土師器	杯	—	—	11.6	8.5	—	2.95	橙5YR6/8	橙5YR6/8		
99	SK044	F-G-14	土師器	杯	—	—	(12.1)	(7.6)	—	2.5	橙5YR6/6	橙5YR6/6		
100	SK044	F-G-14	土師器	杯	—	—	(12.6)	8.4	—	2.6	橙7.5YR6/6	橙7.5YR6/6		
101	SK044	F-G-14	土師器	杯	—	—	12.1	8.5	—	2.85	橙7.5YR6/6	橙7.5YR6/6		
102	SK044	F-G-14	土師器	杯	—	—	(13.4)	(9.55)	—	2.9	橙7.5YR6/6	橙7.5YR6/6		
103	38	46	SK045	G-14	須恵器	杯	—	—	(11.9)	8.1	—	4.45	灰白5Y7/1	灰白5Y7/1
104			SK045	G-14	須恵器	罍	—	—	(23.0)	—	—	(20.1)	灰橙7.5YR5/2	灰橙7.5YR4/2
105	39	44	SK046	F-15	土師器	杯	6層	—	(15.5)	(11.0)	—	1.2	にぶい橙7.5YR6/4	橙5YR6/6
106			SK047	G-15	須恵器	蓋	—	—	(13.6)	—	—	1.2	灰N5/0	灰N5/0
107			SK049	G-15	土師器	壺	4・5層	—	—	13.35	—	(12.4)	橙7.5YR6/6	橙7.5YR6/8
108	26・40	31	SK050	F-15	土師器	釜	7層・砂礫層	—	—	—	(13.8)	明赤橙2.5YR5/8	明赤橙2.5YR5/8	
109			SK051	G-14	土師器	杯	砂礫層	—	(16.8)	—	—	3.9	赤橙5YR4/6	明赤橙2.5YR5/6
110			SK051	G-14	土師器	杯	—	—	(18.8)	—	—	(4.0)	明赤橙5YR5/6	明赤橙5YR5/6
111			SK051	G-14	土師器	杯	—	—	(19.7)	—	—	6.1	橙5YR6/6	赤橙5YR4/6
112			SK051	G-14	土師器	杯	—	—	13.95	—	—	5.0	にぶい橙7.5YR6/4	にぶい橙7.5YR6/4
113			SK051	G-14	土師器	杯	—	—	17.9	—	—	4.3	明赤橙2.5YR5/6	明赤橙2.5YR5/6
114			SK051	F-G-14	土師器	杯	—	—	16.9	—	—	5.15	にぶい橙5YR6/4	にぶい橙5YR6/4
115			SK051	G-14	土師器	杯	—	—	(19.7)	—	—	5.3	赤橙2.5YR4/6	にぶい橙7.5YR6/3
116			SK051	G-14	土師器	杯	—	—	18.7	—	—	5.5	明赤橙2.5YR5/6	明赤橙2.5YR5/6
117			SK051	F-G-14	土師器	杯	砂礫層	—	12.6	4.5	—	5.0	にぶい赤橙5YR4/4	にぶい赤橙5YR4/4
118			SK051	F-G-14	土師器	杯	—	—	14.5	5.9	—	5.8	明赤橙2.5YR5/6	明赤橙2.5YR5/6
119			SK051	F-G-14	土師器	杯	—	—	16.0	(9.2)	—	7.15	橙7.5YR4/4	橙7.5YR4/4
120			SK051	G-14	土師器	杯	—	—	(18.2)	—	—	6.1	にぶい赤橙5YR4/4	にぶい赤橙5YR4/4
121			SK051	F-G-14	土師器	杯	—	No2	(16.1)	(7.8)	—	(6.6)	にぶい赤橙5YR5/4	橙5YR6/6
122	SK051	F-G-14	土師器	杯	砂礫・砂層	—	(16.8)	—	—	(3.9)	橙5YR6/6	橙5YR6/6		
123	SK051	G-14	土師器	杯	—	—	19.4	—	—	4.5	にぶい橙7.5YR6/4	にぶい橙7.5YR6/4		
124	SK051	G-14	土師器	杯	—	—	(20.4)	—	—	(4.8)	赤橙2.5YR4/6	明赤橙5YR5/6		
125	SK051	G-14	土師器	杯	—	—	(18.8)	(7.8)	—	3.5	にぶい橙7.5YR7/4	橙7.5YR7/6		
126	26・41	31	SK051	G-14	土師器	高杯	—	—	(14.4)	—	—	(4.1)	にぶい黄橙10YR6/3	にぶい黄橙10YR6/4
127			SK051	G-14	土師器	高杯	—	—	(14.6)	—	—	(4.3)	橙5YR6/6	橙5YR6/6
128			SK051	G-14	土師器	高杯	—	—	—	—	—	(5.4)	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6
129			SK051	G-14-15	須恵器	蓋	—	—	15.7	—	—	4.5	灰N6/0	灰N6/0
130			SK051	G-12	須恵器	蓋	—	—	16.5	—	—	4.5	灰N6/0	灰N6/0
131			SK051	F-G-14	須恵器	壺	5層・砂層	—	16.4	—	—	(17.0)	にぶい赤橙5YR5/4	にぶい赤橙5YR5/4
132			26・42	30	SK053	G-14	須恵器	高杯	—	—	(17.6)	(10.8)	—	12.1
133	SK054	G-14			土師器	杯	—	—	16.1	(4.5)	—	4.4	にぶい橙7.5YR6/3	にぶい橙7.5YR6/4
134	SK055	F-15			土師器	杯	—	—	14.5	12.2	—	4.4	浅黄橙7.5YR8/6	浅黄橙7.5YR8/6
135	SK056	G-15			須恵器	高杯	—	—	—	7.6	—	(5.3)	灰5Y6/1	灰5Y5/1
136	43	44	SK056	G-15	土師器	罍	—	—	13.8	5.1	—	15.7	にぶい橙7.5YR5/3	にぶい黄橙10YR4/3
137			ST001	G-7	土師器	杯	—	—	(14.1)	(8.2)	—	3.5	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3
138			ST001	G-7	土師器	杯	3層	—	(12.2)	7.1	—	3.7	橙5YR6/6	橙5YR7/6
139			ST001	G-7	土師器	杯	3層	—	(11.0)	(6.5)	—	3.7	橙5YR7/6	橙5YR7/6
140			ST001	G-7	土師器	杯	—	—	(12.0)	(6.5)	—	4.2	橙7.5YR7/6	橙5YR6/6
141			ST001	G-7	土師器	杯	3層	—	(11.9)	(6.2)	—	3.55	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4
142			ST001	G-7	土師器	杯	—	No3	—	(6.6)	—	(2.9)	橙5YR6/8	橙5YR6/8
143			ST001	G-7	土師器	罍	6層	—	(25.8)	—	—	(15.0)	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4
144			ST001	G-7	須恵器	杯	—	—	10.8	6.2	—	4.2	橙7.5YR7/6	にぶい橙7.5YR7/4
145			ST001	G-7	須恵器	鉢	—	—	(17.8)	—	—	9.1	灰N6/0	灰5Y5/1
146	44	32	SX001	G-12	土師器	蓋	—	No13	(14.2)	—	—	2.15	にぶい橙5YR7/4	にぶい橙5YR7/4
147			SX001	G-12	土師器	蓋	—	No33	19.2	—	—	3.7	橙7.5YR6/6	橙7.5YR6/6
148			SX001	G-12	土師器	蓋	—	No4.8	(16.9)	—	—	2.6	橙5YR7/6	橙5YR7/6
149			SX001	G-12	土師器	蓋	—	—	(16.0)	—	—	2.6	橙2.5YR6/6	橙2.5YR6/6
150			SX001	G-12	土師器	杯	—	No5	—	(7.0)	—	(3.0)	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3
151			SX001	G-12	土師器	杯	—	No103	(11.0)	4.8	—	4.4	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6
152			SX001	G-12	土師器	杯	—	—	(12.9)	(6.9)	—	2.8	橙2.5YR6/6	橙2.5YR6/6
153			SX001	G-12	土師器	杯	—	No131	13.9	6.7	—	4.1	淡赤橙2.5YR7/4	橙2.5YR7/6
154	44	32	SX001	G-12	土師器	杯	—	No137	(15.4)	7.6	—	3.7	橙5YR7/6	橙7.5YR7/6
155			SX001	G-12	土師器	杯	—	No134	(13.9)	(5.8)	—	3.7	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4

Tab.7

	胎 土	調 整				備 考	
		外 器 面	内 器 面	外 底 面	内 底 面		
	長石、雲母	横ナテ	横ナテ	へら切り後ナテ、横ナテ	横ナテ後ナテ	貼付高台(外面)灰かぶり	76
	石英、長石、輝石	横ナテ	横ナテ	横ナテへら切り後ナテ	横ナテ後ナテ	貼付高台	77
	石英、長石、輝石	横ナテ、回転へら削り	横ナテ	回転へら削り	横ナテ後ナテ		78
	石英、長石	横ナテ	横ナテ	へら切り後ナテ	ナテ	(内外面)火押痕が残る	79
	長石、角閃石	へら削り後ナテ、横ナテ へら磨き後ナテ	へら磨き後ナテ	—	—	つまみあり 全体に歪みが見られる	80
	長石、赤色酸化粒	横ナテ、へら削り後ナテ	へら削り後ナテ、横ナテ	—	—	つまみあり	81
	石英	横ナテ	横ナテ	へら切り後ナテ	横ナテ後ナテ		82
	石英、長石、角閃石、雲母	ナテ	ナテ	—	—	へら書き	83
	長石、雲母	ナテ	横ナテ	糸切り	ナテ	外面磨耗	84
	石英、黒色粒	横ナテ	ナテ	糸切り	ナテ		85
	長石、輝石、雲母	横ナテ	横ナテ	糸切り	ナテ	糸切りした部分に粘土が残っている	86
	輝石、長石、赤色酸化粒	ナテ	横ナテ	糸切り	ナテ		87
	長石、雲母	ナテ	ナテ	糸切り	ナテ	内外面磨耗	88
	石英、雲母、黒色粒	横ナテ	横ナテ	糸切り	ナテ	内外面磨耗	89
	石英、長石、雲母	摩滅のため調整不明	摩滅のため調整不明	糸切り	ナテ	内外磨耗	90
	雲母	横ナテ	横ナテ	糸切り	ナテ		91
	長石、輝石	横ナテ	横ナテ	糸切り	糸切り		92
	長石、雲母	横ナテ	横ナテ	糸切り	ナテ		93
	長石、輝石、雲母	ナテ	横ナテ、指ナテ	糸切り	ナテ		94
	長石、雲母	横ナテ	横ナテ	糸切り	ナテ		95
	雲母	横ナテ、ナテ	横ナテ	糸切り	ナテ		96
	石英	横ナテ	ナテ	糸切り	ナテ		97
	長石、雲母	横ナテ	横ナテ	糸切り	ナテ		98
	長石、雲母	ナテ	横ナテ	糸切り	ナテ	外面磨耗	99
	石英、雲母、黒色粒	横ナテ	ナテ	糸切り	ナテ		100
	石英、雲母、黒色粒	横ナテ	横ナテ	ナテ	横ナテ	外底部は切り離された後ナテられている感じの為、糸切り痕跡不明	101
	角閃石雲母	横ナテ	横ナテ	糸切り	ナテ		102
	長石、角閃石、雲母	横ナテ	横ナテ	へら切り後ナテ	ナテ	へら記号、(内外面)火押痕あり	103
	長石、雲母	横ナテ格子目タタキ	横ナテ、同心円文	—	—		104
	石英、長石、輝石	横ナテ	横ナテ	へら削り	横ナテ後ナテ		105
	石英、長石、雲母	へら切り後ナテ、横ナテ	横ナテ	—	—	焼きゆがみあり	106
	石英、長石、角閃石、雲母	ナテ、回転へら削り	横ナテ、指ナテ	ナテ	ナテ	(外底部)へら書き「子」	107
	雲母、石英、長石、赤色酸化粒	へら削り、横ナテ	へら削り、横ナテ	—	—	把手貼付	108
	石英、長石、雲母	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	外面は手持ちへら削りをきれいにナテ消した感じ	109
	雲母、石英、長石	ナテ、手持ちへら削り後ナテ	ナテ	手持ちへら削り後ナテ	ナテ		110
	雲母、石英、長石	ナテ、手持ちへら削り後ナテ	ナテ	手持ちへら削り後ナテ	ナテ	(口縁部~外底部)煤付着	111
	雲母、石英、長石、輝石	ナテ、へら削り後ナテ	ナテ	手持ちへら削り後ナテ	ナテ		112
	長石、輝石、金雲母	横ナテ、へら削り後ナテ	ナテ	手持ちへら削り後ナテ	ナテ		113
	金雲母(大粒)、長石、輝石	ナテ、手持ちへら削り後ナテ	横ナテ	手持ちへら削り後ナテ	ナテ		114
	石英、長石、金雲母	ナテ	ナテ	手持ちへら削り後ナテ	ナテ		115
	雲母、石英、長石	ナテ、手持ちへら削り後ナテ	横ナテ、ナテ	手持ちへら削り後ナテ	ナテ	(口縁~外底部)黒斑あり	116
	雲母、長石	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	外面は手持ちへら削りをきれいにナテ消した感じ。底部の意識あり	117
	雲母、石英、長石	ナテ、手持ちへら削り後ナテ	ナテ	手持ちへら削り後ナテ	ナテ	底部の意識あり	118
	金雲母、石英、長石	ナテ、手持ちへら削り後ナテ	ナテ	手持ちへら削り後ナテ	ナテ	(外面)一部へらナテ	119
	雲母	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	(口縁外面端部~胴部)黒斑あり、外面はへら削りをきれいにナテ消した感じ	120
	金雲母(大粒) 長石、輝石	ハケ目後ナテ	ナテ	ハケ目後ナテ	ナテ	(外底部~口縁)黒斑、外底部に底部の意識がある。外器面の一部にへら磨き痕が見える	121
	金雲母(大粒) 石英、長石、輝石	ナテ、へら削り後ナテ	ナテ	手持ちへら削り後ナテ	ナテ		122
	金雲母、石英、長石、角閃石	へら切り後ナテ	ナテ	手持ちへら削り後ナテ	ナテ	全体が剥離していて調整がはっきりしない	123
	輝石、雲母	横ナテ、ナテ	横ナテ、ナテ	—	—	外面は手持ちへら削りをきれいにナテ消した感じ	124
	石英、長石、角閃石、雲母	横ナテ	横ナテ	へら切り後ナテ	ナテ		125
	長石、輝石、雲母	(杯部)横ナテ、回転へら削り	(杯部)横ナテ、ナテ	—	—		126
	赤色酸化粒、長石、雲母	(杯部)横ナテ、回転へら削り	(杯部)横ナテ、ナテ	—	—		127
	石英、長石、角閃石	(杯部)横ナテ、回転へら削り	(杯部)ナテ	(脚部)横ナテ	(脚部)ナテ、横ナテ		128
	石英、長石	横ナテ、へら削り	横ナテ後ナテ	—	—	つまみあり	129
	石英、長石	ナテ、回転へら削り、横ナテ	横ナテ後ナテ、横ナテ	—	—	つまみあり、内面に重ね焼痕あり	130
	石英、長石	横ナテ、平行タタキ後横ナテ、平行タタキ	横ナテ、同心円文	—	—	(頭部内面)粘土の接着痕あり	131
	長石	(杯部)横ナテ、回転へら削り	(杯部)横ナテ、横ナテ後ナテ	(脚部)横ナテ、ナテ	(脚部)ナテ、横ナテ		132
	雲母、長石	ナテ、へら削り	ナテ	ナテ	ナテ	(口縁外面端部)煤付着、外面赤色顔料	133
	石英、長石	横ナテ	横ナテ	ナテ、へら削り後ナテ	横ナテ		134
	黒色粒	(杯部)横ナテ	(杯部)横ナテ後ナテ	(脚部)横ナテ後ナテ	(脚部)ナテ、横ナテ	(脚部)焼歪みあり。(外面)灰かぶり顕著	135
	金雲母、長石、輝石	ナテ、ハケ目	ナテ、へら削り	ナテ	へら削り		136
	長石、雲母	横ナテ、ナテ	横ナテ	板状圧痕のような圧痕後ナテ	ナテ	(内外面)赤色顔料(底部中心付近)黒変	137
	長石(大き目の粒多く含む)	横ナテ、へら削り	横ナテ	へら切り	ナテ		138
	石英	横ナテ	横ナテ	ハケ目	横ナテ後ナテ	(底部)網目の組織痕あり。内外面赤色顔料	139
	石英、雲母	横ナテ、ナテ、へら削り	横ナテ、ナテ	へら切り後ナテ	ナテ		140
		横ナテ	横ナテ	へら切り後ナテ	横ナテ後ナテ	内外面赤色顔料	141
	長石、輝石	横ナテ	横ナテ	へら切り後ナテ	横ナテ	(外底部)へら書き赤焼け	142
	角閃石、雲母、赤色酸化粒	横ナテ後/ハケ目、横ナテ、ハケ目	横ナテ、へら削り	—	—		143
	石英、長石、雲母	横ナテ、回転へら削り	横ナテ、ナテ	へら切り後ナテ	ナテ	赤焼け(口縁、内外面の端部)一部煤付着	144
	長石、雲母	横ナテ、回転へら削り	横ナテ、ナテ	ナテ	ナテ	鉄線模倣	145
	長石	回転へら削り、横ナテ	横ナテ	—	—		146
	長石、輝石、赤色酸化粒	磨耗の為調整不明瞭(へら削り後ナテ、ナテ)	磨耗の為調整不明瞭(ナテ、へら削り後ナテ)	—	—	つまみあり。(内面)へら書き「姪」。つまみの上部が水平に切られている	147
	長石	回転へら削り、横ナテ	横ナテ	—	—	つまみあり	148
	長石、雲母	回転へら削り、横ナテ	横ナテ	—	—	(内面)へら書き「二百」	149
	長石、角閃石、輝石	横ナテ、へら切り後ナテ	ナテ	へら削り後ナテ、横ナテ	ナテ	(外底部)へら書き「成」	150
	長石、輝石、赤色酸化粒	横ナテ、回転へら削り	横ナテ	へら削り後ナテ、横ナテ	横ナテ	(外底部)へら書き「大倉」	151
	長石	横ナテ、へら削り	横ナテ、へら磨き	ナテ	横ナテ、へら磨き	(内外面)赤色顔料	152
	長石、角閃石	横ナテ、回転へら削り	横ナテ	へら削り後ナテ、横ナテ	横ナテ		153
	石英、長石、赤色酸化粒	横ナテ、回転へら削り	横ナテ	へら削り後ナテ、横ナテ	横ナテ	(外面)焼きむら	154
	石英、長石、雲母	横ナテ、回転へら削り	横ナテ	へら削り	ナテ		155

遺物番号	Fig No	PL No	遺構番号	グリット	種別	器種	出土地点				法量 (cm)			色調	
							層	注記	口径	底径	最大口径	器高	外器面	内器面	
															Na
156	44	32	SX001	G-12	土師器	杯	-	No139.160	(14.4)	(5.4)	-	3.8	橙5YR7/6	橙2.5YR7/6	
157			SX001	G-12	土師器	杯	-	No32	(12.9)	7.5	-	2.6	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	
158		SX001	G-12	土師器	杯	-	No156	(15.4)	(7.2)	-	3.7	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6		
159		32	SX001	G-12	土師器	杯	-	-	-	14.2	8.5	-	4.0	にぶい橙7.5YR6/4	にぶい橙7.5YR6/4
160			SX001	G-12	土師器	椀	-	No100	(15.1)	8.5	-	6.2	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	
161	45	32	SX001	G-12	土師器	甕	-	No86	(22.4)	-	-	(8.2)	にぶい橙7.5YR7/3	にぶい橙7.5YR7/3	
162			SX001	G-12	土師器	甕	-	No132	(26.4)	-	-	(12.4)	浅黄橙7.5YR8/3	浅黄橙7.5YR8/3	
163			SX001	G-12	土師器	甕	-	No46	(25.7)	-	-	(8.5)	灰白10YR8/2	灰白10YR8/3	
164			SX001	G-12	土師器	甕	-	No101	(23.8)	-	-	(8.6)	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	
165			SX001	G-12	土師器	甕	-	No93	(24.2)	-	-	(13.2)	にぶい黄橙10YR7/2	にぶい黄橙10YR7/4	
166	46	32	SX001	G-12	土師器	甕	-	No70.73	-	-	-	(11.4)	浅黄橙10YR8/3	浅黄橙2.5YR8/1	
167			SX001	G-12	土師器	甕	-	No73	(26.9)	-	-	(22.3)	にぶい黄橙10YR7/3 橙5YR6/6	にぶい黄橙10YR7/2	
168			SX001			砥石	-	-	-	-	-	-	-	-	-
169			SX001	F-G-12	須恵器	蓋	-	No40	13.7	-	-	1.5	灰N5/0	灰N5/0	
170			SX001	G-12	須恵器	蓋	-	No42	(14.2)	-	-	1.2	灰黄2.5Y6/2	灰黄2.5Y6/2	
171	47	33	SX001	G-12	須恵器	蓋	-	No38	(13.6)	-	-	1.5	灰白2.5Y7/1	灰白2.5Y7/1	
172			SX001	G-12	須恵器	蓋	-	No26	13.6	-	-	1.55	灰N4/0	灰N5/0	
173			SX001	G-12	須恵器	蓋	-	No15	13.8	-	-	1.2	灰白5Y7/1	灰白5Y7/1	
174			SX001	G-12	須恵器	蓋	-	No14.37	14.4	-	-	1.6	灰7.5Y6/1	灰7.5Y6/1	
175			SX001	G-12	須恵器	蓋	-	No41	14.7	-	-	2.2	灰N6/0	灰N6/0	
176			SX001	G-12	須恵器	蓋	-	No72	(13.7)	-	-	2.1	灰N6/0	灰白7.5Y7/1	
177			SX001	G-12	須恵器	蓋	-	No16.36	15.9	-	-	2.3	灰白N7/0	灰白N7/0	
178			SX001	G-12	須恵器	蓋	-	No21.22	16.6	-	-	(1.9)	灰白2.5Y7/1	灰白2.5Y7/1	
179			SX001	G-12	須恵器	蓋	-	No145	17.2	-	-	3.1	灰白5Y7/1	灰白5Y7/1	
180			SX001	G-12	須恵器	蓋	-	No36	18.7	-	-	3.1	灰N6/0	灰5Y6/1	
181			SX001	G-12	須恵器	蓋	-	No69	(15.6)	-	-	2.2	灰5Y5/1	灰N5/0	
182			SX001	G-12	須恵器	蓋	-	No71	16.3	-	-	2.8	灰7.5Y6/1	灰7.5Y6/1	
183			SX001	G-12	須恵器	蓋	-	No105	16.4	-	-	2.6	灰N6/0	灰N6/0	
184			SX001	G-12	須恵器	蓋	-	No142	18.1	-	-	2.8	灰5Y6/1	灰5Y6/1	
185			SX001	G-12	須恵器	杯	-	-	11.5	7.0	-	4.3	オリブ灰2.5GY5/1	オリブ灰2.5GY5/1	
186			SX001	G-12	須恵器	杯	-	-	(11.3)	8.0	-	3.8	灰N5/0	灰N5/0	
187			SX001	G-12	須恵器	杯	-	No138	11.9	8.6	-	4.1	灰7.5Y6/1	灰7.5Y6/1	
188			SX001	G-12	須恵器	杯	-	No102	(12.2)	(7.8)	-	3.8	灰N6/0	灰N6/0	
189			SX001	G-12	須恵器	杯	-	No43.44	13.1	10.35	-	4.45	灰N6/0	灰N6/0	
190			SX001	G-12	須恵器	杯	-	-	(13.0)	9.2	-	4.05	灰黄2.5Y7/2	灰黄2.5Y7/2	
191	SX001	G-12	須恵器	杯	-	No9	(13.1)	(9.25)	-	4.1	灰5Y6/1	灰5Y6/1			
192	SX001	G-12	須恵器	杯	-	No83	(13.7)	(8.2)	-	3.6	灰白N8/0	灰白N8/0			
193	SX001	G-12	須恵器	高台付杯	-	No2	12.6	(8.2)	-	4.7	灰7.5YR7/2 灰黄橙10YR6/2	灰黄橙10YR6/2			
194	SX001	G-12	須恵器	高台付杯	-	No14	(13.5)	8.5	-	4.0	灰N6/0	灰N6/0			
195	SX001	G-12	須恵器	高台付杯	-	No18	(14.25)	8.0	-	5.4	灰N6/0	灰N6/0			
196	SX001	G-12	須恵器	高台付杯	-	No15	11.5	7.3	-	3.9	灰N5/0	灰7.5Y6/1			
197	SX001	G-12	須恵器	高台付杯	-	No42	13.7	8.9	-	4.7	灰N5/0	灰N5/0			
198	SX001	G-12	須恵器	高台付杯	-	No18	(14.0)	(8.6)	-	5.75	灰5Y6/1	灰5Y6/1			
199	SX001	G-12	須恵器	高台付杯	-	No144	12.2	6.8	-	4.3	灰N5/0	灰N6/0			
200	SX001	G-12	須恵器	高台付杯	-	-	13.5	9.2	-	4.2	緑灰7.5GY6/1	緑灰7.5GY6/1			
201	SX001	G-12	須恵器	高台付杯	-	No133	12.5	8.8	-	4.3	黄灰2.5Y6/1	暗灰黄2.5Y5/2			
202	SX001	G-12	須恵器	高台付杯	-	No35	(12.5)	7.1	-	4.3	灰N4/0、灰7.5YR6/1	灰N6/0			
203	SX001	G-12	須恵器	高台付杯	-	No8	11.4	7.1	-	4.4	灰5Y5/1	灰5Y4/1			
204	SX001	G-12	須恵器	高台付杯	-	No136	13.0	-	-	(4.5)	灰黄2.5Y6/1	灰黄2.5Y6/1			
205	SX001	G-12	須恵器	皿	-	No150.151	14.05	11.3	-	2.4	灰5Y5/1	灰10Y5/1			
206	SX001	G-12	須恵器	皿	-	No130	13.8	12.0	-	2.3	灰N6/0	灰N6/0			
207	SX001	G-12	須恵器	皿	-	No170	13.0	10.4	-	2.4	灰10Y6/1	灰10Y6/1			
208	SX001	G-12	須恵器	皿	-	No38	13.3	11.7	-	2.4	灰黄2.5Y6/2	灰黄2.5Y6/2			
209	SX001	G-12	須恵器	皿	-	No3	(16.8)	(14.0)	-	1.9	灰N6/0	灰N6/0			
210	49	34	SX001	G-12	須恵器	短頭壺	-	-	(11.6)	12.2	-	19.4	灰白5YR7/1	灰褐7.5YR6/2	
211			SX001	G-12	須恵器	甕	-	-	(31.0)	-	-	(14.2)	灰N4/0、灰N6/0	灰N4/0、灰N6/0	
212		35	SX001	G-12	須恵器	甕	-	No1	-	11.8	-	(23.7)	灰N4/0	灰N4/0	
213		34-45	SX002	F-14	土師器	蓋	-	-	-	-	-	(1.2)	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR6/4	
214			SX002	F-14	土師器	蓋	-	-	-	-	-	(0.8)	淡橙5YR8/4	淡橙5YR8/4	
215	SX002	F-14	土師器	蓋	-	No9	(17.8)	-	-	4.1	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄10YR7/4			
216	34	SX002	F-14	土師器	杯	-	-	12.0	-	-	4.3	にぶい橙7.5YR6/4	にぶい橙7.5YR6/4		
217	34-45	SX002	F-14	土師器	杯	-	-	(18.0)	6.8	-	5.0	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6		
218	34	SX002	F-14	土師器	杯	-	-	(13.4)	(8.5)	-	3.2	灰黄2.5YR6/2 橙7.5YR7/6	灰黄7.5YR7/6 橙7.5YR7/6		
219	50	34	SX002	F-14	土師器	杯	-	-	12.6	6.1	-	4.0	にぶい橙7.5YR7/4	橙7.5YR7/6	
220			SX002	F-14	土師器	杯	-	-	(14.1)	(6.2)	-	3.7	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR6/4	
221			SX002	F-14	土師器	杯	4層	-	(16.0)	(8.2)	-	5.5	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	
222			44	SX002	F-14	土師器	杯	-	-	-	-	-	(1.1)	にぶい橙5YR7/4	橙5YR7/6
223			SX002	F-14	土師器	杯	-	-	-	-	-	-	(2.0)	橙2.5YR6/8	橙5YR7/6
224	SX002	F-14	土師器	鉢	4層	-	(18.2)	-	-	(9.5)	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4			
225	34	SX002	F-14	土師器	鉢	-	-	19.2	-	-	10.7	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4		
226	SX002	F-14	土師器	頭壺	4層	-	(8.8)	-	-	(6.0)	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4			

	胎 土	調 整				備 考	
		外 器 面	内 器 面	外 底 面	内 底 面		
	石英、長石	横ナテ、回転ヘラ削り	横ナテ	ヘラ削り後ナテ、横ナテ	横ナテ		156
	長石	調整不明	横ナテ、ナテ	ナテ	ナテ	(内外面)赤色顔料	157
	長石	横ナテ、回転ヘラ削り	横ナテ	ヘラ削り	横ナテ		158
	雲母、石英、長石 角閃石、赤色酸化粒	横ナテ	横ナテ	ヘラ削り後ナテ	横ナテ後ナテ	杯部と底部、貼付(粘土を付けた感じ)	159
	雲母、石英、長石 角閃石、赤色酸化粒	横ナテ、回転ヘラ削り	横ナテ	回転ヘラ削り後ナテ 横ナテ	横ナテ	貼付高台(一部剥離)	160
	石英、長石角閃石 輝石、赤色酸化粒	横ナテ 縦方向へのハケ目	横ナテ、ヘラ削り	-	-		161
	石英、角閃石、雲母	横ナテ、縦方向へのハケ目	横ナテ、指圧痕、ヘラ削り	-	-		162
	石英、角閃石、赤褐色粒	横ナテ、縦方向へのハケ目	横ナテ、横方向へのハケ目	-	-		163
	石英、角閃石、赤褐色粒	横ナテ、縦方向へのハケ目	横ナテ、横方向へのハケ目	-	-		164
	角閃石、石英 雲母、赤色酸化粒	横ナテ、ハケ目後ナテ	横ナテ、ハケ目後ヘラ削り	-	-	(外面)一部煤付着	165
	角閃石、雲母、赤色酸化粒	横ナテ、縦方向へのハケ目	横ナテ、縦方向へのハケ目	-	-		166
	角閃石、石英 雲母、長石	横ナテ、ナテ	横ナテ、ヘラ削り指頭圧痕	ナテ	指頭圧痕		167
						※別表(石製品)参照	168
	石英、長石	ヘラ削り後ナテ、横ナテ	横ナテ後ナテ、横ナテ	-	-	焼歪み、(外面)焼むら、(口縁内面)重ね焼痕跡	169
	石英、長石、輝石	ナテ	ナテ、横ナテ	-	-	(外器)重ね焼跡あり、(内器)焼むらあり	170
	輝石	横ナテ、回転ヘラ削り	横ナテ後ナテ、横ナテ	-	-	(内器面中央部)ナテの道具は水引の際の鹿皮状のもの	171
	長石、輝石	ヘラ削り後ナテ、ナテ	横ナテ後ナテ、横ナテ	-	-	焼歪み	172
	石英、長石、輝石	ヘラ削り後ナテ、横ナテ	横ナテ、横ナテ	-	-	(内外面)重ね焼の痕あり	173
	石英、長石、角閃石	ヘラ削り後ナテ、ナテ	横ナテ後ナテ、横ナテ	-	-	(外面)重ね焼の跡あり	174
	石英、長石	ヘラ削り後ナテ、横ナテ	横ナテ後ナテ、横ナテ	-	-	焼歪みあり	175
	長石	横ナテ、指ナテ、ヘラ削り後ナテ、横ナテ後ナテ	横ナテ、横ナテ後ナテ	-	-	つまみ貼付	176
	長石、角閃石、輝石	回転ヘラ削り、横ナテ	横ナテ、横ナテ後ナテ	-	-	つまみあり	177
	長石、輝石、雲母	横ナテ、ヘラ削り	横ナテ後ナテ、横ナテ	-	-	つまみは接合面より剥離(外面)重ね焼きの痕	178
	石英、角閃石、輝石	横ナテ、指ナテ、ヘラ削り後ナテ	指ナテ後ナテ、横ナテ	-	-	つまみあり、(内面)重ね焼の跡あり	179
	長石、輝石	指ナテ、横ナテ後回転ヘラ削り、横ナテ	横ナテ後ナテ、ナテ	-	-	つまみあり、(内面端部)重ね焼痕あり	180
	長石	横ナテ、指ナテ、ヘラ削り後ナテ、横ナテ後ナテ	横ナテ、横ナテ後ナテ	-	-	つまみあり(口縁内外面)重ね焼き跡	181
	石英、長石、角閃石、雲母	横ナテ、ヘラ削り後ナテ	横ナテ後ナテ、ナテ	-	-	つまみ貼付	182
	長石	横ナテ、ヘラ削り後ナテ、指ナテ	横ナテ後ナテ、横ナテ	-	-	つまみ貼付	183
	長石、角閃石、雲母	横ナテ、指ナテ、回転ヘラ削り	横ナテ、横ナテ後ナテ	-	-	つまみ貼付	184
	石英、長石、角閃石	横ナテ	横ナテ	ヘラ削り後ナテ	横ナテ		185
	石英、輝石	横ナテ	横ナテ	ヘラ削り後ナテ	横ナテ後ナテ		186
	長石	横ナテ	横ナテ	ヘラ削り後ナテ	横ナテ後ナテ	(底部)ヘラ削り後に丁寧にナテられるが中央にヘラ痕あり	187
	長石、輝石	横ナテ	横ナテ	ヘラ削り後ナテ	横ナテ		188
	長石、雲母	横ナテ	横ナテ	荒いヘラ削り	横ナテ後ナテ	焼歪み、(外面口縁~胴部)一部に釉。(内面口縁)一部に自然釉。(底部)荒いヘラ削りは、回転台から切り離した際の痕跡。(内外面)火傷痕が明瞭に残る。	189
	赤色酸化粒、長石、角閃石	横ナテ	横ナテ	ヘラ削り後ナテ	横ナテ後ナテ	(底部)粘土の輪積み痕あり	190
	長石、輝石、赤色酸化粒	横ナテ	横ナテ	ヘラ削り	ナテ		191
	石英、角閃石、雲母	横ナテ	横ナテ	ヘラ削り後ナテ	横ナテ	(外底面)板状の圧痕がわずかに残る。植物痕	192
	石英、長石	横ナテ	横ナテ	ヘラ削り後ナテ、横ナテ	横ナテ後ナテ	貼付高台(高台)部分的に剥離している。	193
	石英、長石、輝石	横ナテ	横ナテ	ヘラ削り後ナテ、横ナテ	横ナテ後ナテ	貼付高台	194
	長石	横ナテ、ナテ	横ナテ	ヘラ削り後ナテ、横ナテ	横ナテ後ナテ	貼付高台	195
	長石、輝石	横ナテ	横ナテ	ヘラ削り後ナテ	横ナテ後ナテ	貼付高台(口縁内器面)幅1~1.5cmは横ナテが施してあるせいか滑らかな表皮をしている。	196
	長石、輝石	横ナテ	横ナテ	ヘラ削り後ナテ、横ナテ	ナテ	貼付高台、外面灰かぶり	197
	長石、角閃石、雲母	横ナテ	横ナテ	ヘラ削り後ナテ、横ナテ	横ナテ後ナテ	貼付高台	198
	長石、輝石	横ナテ、ナテ	横ナテ	ヘラ削り後ナテ	ナテ	貼付高台、(外面)灰かぶり	199
	石英、長石、角閃石、輝石	横ナテ、ナテ	横ナテ	ヘラ削り後ナテ、横ナテ	横ナテ後ナテ	貼付高台	200
	石英	横ナテ	横ナテ	ヘラ削り後ナテ、横ナテ	横ナテ後ナテ	貼付高台、ヘラ削り失敗のような感じ	201
	石英、長石	横ナテ	横ナテ	ヘラ削り後ナテ、横ナテ	横ナテ後ナテ	貼付高台(一部剥離)	202
	長石	横ナテ	横ナテ	ヘラ削り後ナテ、横ナテ	横ナテ後ナテ	貼付高台、火傷のようなものある	203
	赤色酸化粒	横ナテ	横ナテ	ヘラ削り後ナテ	ナテ	貼付高台。(高台)接合面より剥離。(内底面)ヘラ記号	204
	長石	横ナテ	横ナテ	ヘラ削り後ナテ	横ナテ	焼歪み	205
	石英、長石、輝石	横ナテ	横ナテ	ヘラ削り後ナテ	横ナテ後ナテ横ナテ	焼歪み	206
	石英、長石、輝石	横ナテ	横ナテ	ヘラ削り後削り	横ナテ	高台は粘土が粗く、整形されていない。貼付も不十分	207
	長石、角閃石	横ナテ	横ナテ	ヘラ削り後ナテ、横ナテ	横ナテ後ナテ	(内外面)焼むら	208
	石英、長石、輝石	横ナテ	横ナテ	ヘラ削り後ナテ	横ナテ後ナテ横ナテ		209
		横ナテ、ナテ、タタキ後ナテ、格子目タタキ後ナテ後回転ヘラ削り	ナテ	ナテ、横ナテ	ナテ		210
	長石	横ナテ、平行タタキ後横ナテ、平行タタキ後掻き目	横ナテ、同心円文後ナテ、同心円文痕	-	-	沈線2条	211
	長石	タタキ後掻き目	タタキ	タタキ後掻き目	タタキ		212
	石英、長石、角閃石	横ナテ	横ナテ	-	-	(外面天井部)ヘラ書き「成」	213
	長石、雲母	横ナテ	ナテ	-	-	ヘラ書き	214
	角閃石、石英、長石 雲母、赤色酸化粒	横ナテ、回転ヘラ削り	ナテ、横ナテ	-	-	つまみあり(外面天井部)ヘラ書き「成」	215
	石英、角閃石、雲母、赤色酸化粒	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	外面厚減著しい	216
	長石、角閃石、雲母	横ナテ、回転ヘラ削り	横ナテ	ヘラきり後ナテ	横ナテ後ナテ	2条の沈線ヘラ書き「継成」	217
	石英、長石	横ナテ	横ナテ	ヘラ削り後ナテ	横ナテ後ナテ		218
	石英、長石、輝石、雲母	横ナテ、回転ヘラ削り	横ナテ	ヘラ削り後ナテ	横ナテ後ナテ	八代オリジナル	219
	石英、雲母	横ナテ、回転ヘラ削り	横ナテ	ヘラ削り後ナテ	ナテ	(外面)赤色顔料	220
	石英、雲母	横ナテ、回転ヘラ削り	横ナテ	ヘラ削り後ナテ	横ナテ後ナテ		221
	石英、長石	横ナテ	横ナテ	ナテ	ナテ	(外面底部)ヘラ書き「□舎」□は大だろ。外面が全体的に厚減している。	222
	石英、角閃石、赤色酸化粒	横ナテ	横ナテ	ナテ	横ナテ	(外面底部)ヘラ書き	223
	石英、長石、雲母、赤色酸化粒	ナテ、回転ヘラ削り	ナテ	-	-	外面厚減している	224
	石英、長石、雲母、角閃石、輝石	横ナテ、ヘラ削り	横ナテ	ヘラ削り	横ナテ	鉄鉢模倣	225
	石英、長石、輝石、雲母	横ナテ	横ナテ	-	-		226

遺物番号	Fig No	PL No	遺構番号	グリット	種別	器種	出土地点		法量 (cm)				色調	
							層	注記	口径	底径	最大口径	器高	外器面	内器面
227	50		SX002	F-14	土師器	甕	-	-	(21.6)	-	-	(10.8)	橙2.5YR6/6	橙2.5YR6/6
228	51	35	SX002	F-14	須恵器	蓋	-	-	(17.2)	-	-	(2.1)	灰7.5Y6/1	灰7.5Y6/1
229			SX002	F-14	須恵器	杯	-	-	12.95	8.8	-	4.3	灰白2.5Y7/1	灰白2.5Y7/1
230			SX002	F-14	須恵器	高台付杯	-	No18	17.0	10.7	-	6.3	黄灰2.5Y6/1	灰白2.5Y7/1
231			SX002	F-14	須恵器	皿	-	-	14.1	12.0	-	1.8	灰7.5Y6/1	灰7.5Y6/1
232	52		-	-	須恵器	蓋	-	-	(11.8)	-	-	5.1	褐灰10YR5/1	褐灰10YR5/1
233			G-5	須恵器	蓋	-	-	12.0	-	-	4.5	暗灰N3/0	暗灰N3/0	
234			F-G-5	須恵器	蓋	7層	-	-	(14.4)	-	-	(5.2)	灰7.5Y6/1	灰7.5Y6/1
235			G-5	須恵器	杯	7層	-	-	(15.0)	7.4	-	5.4	灰6Y6/1	灰5Y6/1
236			F-G-5	須恵器	杯	7層	-	-	14.7	8.3	-	4.6	灰5Y5/1	褐灰10YR4/1
237			G-4	土師器	杯	6層	-	-	(13.2)	(7.0)	-	3.6	橙5YR7/6	橙5YR7/6
238			F-G-7	土師器	杯	-	-	-	14.8	6.8	-	3.6	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6
239			G-12	土師器	杯	-	-	-	14.45	6.6	-	3.65	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4
240	53		F-G-3・4 F-G-4・5	土師器	杯	4層・3層	-	-	(13.3)	(7.6)	-	3.8	橙2.5YR6/8	橙2.5YR6/8
241			F-G-7	土師器	杯	-	-	-	(14.8)	7.1	-	3.7	にぶい橙7.5YR7/4 褐灰7.5YR4/1	にぶい橙7.5YR7/4
242			F-G-7	土師器	杯	-	-	-	15.5	7.1	-	3.9	橙5YR6/6 橙7.5YR7/6	橙5YR6/6 橙7.5YR7/6
243			F-G-3・4 F-G-4・5	土師器	杯	4層・3層	-	-	(15.6)	(9.0)	-	4.4	橙5YR7/6	橙5YR7/6
244			F-12	土師器	杯	-	-	-	14.2	6.9	-	4.1	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4
245			-	土師器	杯	-	-	-	(13.2)	5.7	-	4.0	橙5YR7/6	橙5YR7/6
246			G-7	土師器	杯	-	-	-	(12.8)	8.4	-	3.4	橙5YR6/6	にぶい橙7.5YR7/4
247			F-7	土師器	杯	-	-	-	(11.6)	(6.8)	-	3.3	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4
248			F-G-4・5	土師器	杯	3層	-	-	12.4	6.8	-	3.4	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4
249			G-4	土師器	杯	5層	-	-	13.0	7.95	-	3.1	にぶい黄橙7.5YR7/4	にぶい黄橙7.5YR7/2
250	F-G-13	土師器	杯	-	-	-	(12.9)	7.7	-	4.1	にぶい橙7.5YR6/4	にぶい橙7.5YR6/4		
251	F-G-4・5	土師器	鍋	3層	-	-	(27.2)	-	-	11.3	浅黄橙10YR8/3	浅黄橙10YR8/3		
252	F-G-5	土師器	甕	7層	-	-	(17.7)	-	-	(29.6)	にぶい橙7.5YR6/4 明赤褐5YR5/6	にぶい黄橙10YR6/3 明赤褐5YR5/6		
253	F-12	須恵器	蓋	-	-	-	(14.3)	-	-	3.0	灰5Y5/1	浅黄2.5Y7/3		
254	G-12	須恵器	蓋	-	-	-	(15.4)	-	-	2.4	褐灰10YR4/1	灰黄橙10YR5/2		
255		35			硯	円面硯								
256	56		G-5	土師器	甕	-	-	17.4	-	-	(17.3)	明赤褐2.5YR5/6	明赤褐5YR5/6 赤色10YR5/6	
257			F-G-12	土師器	甕	-	-	-	14.9	-	-	(22.6)	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙5YR7/4 にぶい橙7.5YR7/4
258			F-G-4・5 F-11 G-3	土師器	甕	-	-	-	18.0	-	-	30.3	橙2.5YR6/6 橙5YR6/6	にぶい赤褐色5YR5/4 にぶい褐色7.5YR5/4
259			F-8	土師器	壺	-	-	-	19.1	-	-	(8.4)	赤褐5YR4/8	赤褐5YR4/8
260	57		G-13	土師器	甕	-	-	25.1	-	-	(19.8)	浅黄橙7.5YR8/3	橙7.5YR7/6	
261			F-G-7	土師器	甕	-	-	-	(27.6)	-	-	(17.7)	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3
262			G-15	土師器	甕	砂礫層	-	-	26.4	-	-	(25.0)	橙5YR6/6	橙5YR6/6
263			F-G-2・3	土師器	釜	3・5層	-	-	(36.8)	-	-	(29.0)	明赤褐2.5YR5/6 赤褐5YR4/6	にぶい赤褐5YR4/4 赤褐5YR4/6
264	58		F-G-2・3	土師器	釜	4層	-	-	(36.9)	-	-	33.0	橙2.5YR6/6	橙2.5YR6/6
265			F-G-14	須恵器	把手付壺	3層	-	-	(36.4)	-	-	(17.1)	橙7.5YR6/6	にぶい橙7.5YR7/4
266	59		F-G-14	須恵器	甕	5層	-	-	22.6	-	-	(9.2)	灰N5/0	灰N5/0
267			F-G-14	須恵器	甕	4層	-	-	21.2	-	-	(10.2)	灰10Y5/1	灰10Y5/1
268			F-14	須恵器	甕	4層	-	-	(10.7)	-	-	(8.7)	灰7.5Y6/1	灰7.5Y6/1
269			F-G-3	須恵器	平瓶	4層	-	-	-	-	-	(4.8)	灰N5/0	灰N6/0
270	60		F-G-2・3	須恵器	横瓶	-	-	13.7	-	(40.6)	(17.5)	灰7.5Y6/1	灰7.5Y6/1	
271														
272														
273	61	45	G-14	土師器	蓋	4層	-	-	(18.0)	-	-	(2.5)	にぶい橙7.5YR7/3	にぶい橙7.5YR7/3
274			G-14	土師器	蓋	4層	-	-	-	-	-	(1.4)	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい黄橙7.5YR7/4
275			G-14	土師器	蓋	4層	-	-	-	-	-	(1.0)	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6
276			G-14	土師器	蓋	4層	-	-	-	-	-	(1.6)	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6
277			-	土師器	蓋	-	-	-	-	-	-	(2.0)	にぶい黄橙10YR7/3	浅黄橙10YR8/3
278			F-14	土師器	蓋	5層	-	-	-	-	-	(1.3)	にぶい橙5YR7/4	にぶい橙5YR7/4
279			G-14	土師器	蓋	-	-	-	-	-	-	(1.0)	黄灰2.5YR6/0	にぶい黄橙10YR7/3
280			G-16	土師器	蓋	砂礫層	-	-	-	-	-	(1.1)	橙5YR7/6	橙5YR7/6
281			F-14	土師器	杯	5層	-	-	-	-	-	(1.2)	橙7.5YR7/6	浅黄橙10YR8/3
282			G-14	土師器	杯	4層	-	-	-	-	-	(0.6)	橙7.5YR7/6	にぶい橙7.5YR7/4
283			F-16	土師器	杯	砂礫層	-	-	-	-	-	(1.8)	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4
284			44	F-14	土師器	杯	5層	-	-	-	-	(0.8)	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4
285			46	F-7	土師器	杯	-	-	-	(7.6)	-	(1.45)	橙7.5YR6/6	橙7.5YR6/6
286			G-8	土師器	杯	-	-	-	-	(6.8)	-	(1.4)	橙5YR6/6	にぶい黄橙10YR7/3
287			45	-	土師器	高台付杯	-	-	-	(6.4)	-	(2.7)	橙5YR7/6	橙7.5YR6/6
288			62		G-14	土師器	皿	-	-	(12.7)	6.0	-	2.4	浅黄橙7.5YR8/3
289	F-G-14	土師器			皿	4層	-	-	-	6.8	-	(1.0)	橙5YR6/8	橙5YR6/8
290	F-12	土師器			皿	-	-	-	-	-	-	(0.6)	橙7.5YR6/6	浅黄橙10YR7/4
291	F-G-13	土師器			鉢	-	-	-	(19.3)	(12.0)	-	16.1	淡橙5YR8/4	淡橙5YR8/4
292	63		F-14	須恵器	蓋	-	-	-	-	-	(2.25)	灰5Y6/1	灰5Y6/1	
293			F-14	須恵器	杯	4層	-	-	(7.6)	-	(1.7)	灰白N8/0	灰白N8/0	
294			G-14	須恵器	高台付杯	4層	-	-	(8.2)	-	(2.1)	灰7.5Y6/1	灰7.5Y5/1	
295			G-14	須恵器	蓋	砂礫層	-	-	-	-	-	(1.7)	灰N5/0	灰N5/0
296			F-17	須恵器	蓋	-	-	-	-	-	-	(1.1)	灰N5/0	灰N6/0
297	45	F-14	須恵器	杯	-	-	(12.8)	(7.2)	-	3.3	青灰10BG5/1	青灰10BG5/1		

Tab.9

	胎 土	調 整				備 考	
		外 器 面	内 器 面	外 底 面	内 底 面		
	石英、角閃石、雲母 赤色酸化粒	横ナテ、ハケ目(厚減しているのではつきりしない)	横ナテ、ヘラ削り	—	—		227
	長石	ナテ、ヘラ切り後ナテ横ナテ	横ナテ後ナテ、ナテ	—	—	つまみあり(内面)朱墨あり転用硯	228
	輝石	横ナテ、回転ヘラ削り	横ナテ	ヘラ切り後ナテ	横ナテ		229
	長石	横ナテ、回転ヘラ削り	横ナテ	ヘラ削り	横ナテ後ナテ	貼付高台	230
	長石、輝石	横ナテ	横ナテ	ヘラ切り後ナテ	横ナテ後ナテ	(内面)磨いた痕あり	231
	長石	ナテ、回転ヘラ削り、横ナテ	ナテ、横ナテ	—	—	つまみあり	232
	石英	横ナテ、回転ヘラ削り	横ナテ後ナテ、ナテ	—	—		233
	長石	回転ヘラ削り、横ナテ	横ナテ後ナテ、ナテ	—	—		234
	長石、雲母	横ナテ、回転ヘラ削り	横ナテ	回転ヘラ削り	ナテ	(外)灰袖付着	235
	石英、長石	横ナテ、回転ヘラ削り	回転ナテ	回転ヘラ削り	ナテ		236
	石英、長石、雲母	横ナテ、回転ヘラ削り	横ナテ	ヘラ切り後ナテ	ナテ	灯明皿としての使用内面に煤付着	237
	長石、角閃石、金雲母	横ナテ、回転ヘラ削り	横ナテ	ナテ	横ナテ		238
	石英、長石、赤色酸化粒	横ナテ、回転ヘラ削り	横ナテ	ヘラ削り	横ナテ		239
	長石、角閃石、雲母	横ナテ、回転ヘラ削り	横ナテ	ヘラ切り後ナテ	ナテ		240
	長石、輝石、雲母	横ナテ、回転ヘラ削り	横ナテ	回転ヘラ削り後ナテ	ナテ		241
	石英、長石、雲母 赤色酸化粒	横ナテ、回転ヘラ削り	横ナテ	ヘラ削り	ナテ		242
	石英、長石、金雲母	横ナテ、ヘラ削り	横ナテ	ナテ	ナテ		243
	石英、雲母	横ナテ、回転ヘラ削り	横ナテ	回転ヘラ削り	横ナテ、ナテ	(外面底部)ヘラ書き「浄庭」	244
	長石、輝石	横ナテ、回転ヘラ削り	横ナテ、ナテ	ヘラ切り離し	ナテ	(外面底部)ヘラ書き	245
	石英、長石、雲母	横ナテ	横ナテ	ヘラ切り後ナテ	横ナテ	丹塗り土器(内外面赤色顔料)	246
	長石、赤色酸化粒	横ナテ	横ナテ	ナテ	横ナテ	丹塗り土器(内外面赤色顔料)	247
	長石	横ナテ、回転ヘラ削り	横ナテ	ナテ	ナテ	(内外面)赤色顔料丹塗り土器	248
	石英、輝石、雲母	横ナテ後ヘラ磨き	横ナテ	ナテ後ヘラ磨き	横ナテ後ナテ	赤色顔料付着(内面は顔料が剥がれ磨減している。やや幅広いヘラ磨き)	249
	長石、雲母、赤色酸化粒	横ナテ、回転ヘラ削り	横ナテ	ヘラ切り後ナテ	ナテ		250
	角閃石、輝石、雲母	横ナテ、多方向ハケ目	横ナテ、削り	多方向ハケ目	ヘラ削り	(外面)煤付着	251
	石英、長石 角閃石、雲母	横ナテ、ハケ目後ナテ	ヘラ削り	ナテ	—		252
	長石	横ナテ、回転ヘラ削り	横ナテ、横ナテ後ナテ	—	—	輪状つまみ	253
	長石	ナテ、回転ヘラ削り	横ナテ後ナテ	—	—	輪状つまみ(内面天井部)滑らか	254
						※別表(硯)参照	255
	雲母	ナテ、ハケ目後ナテ ハケ目	ハケ目後ナテ、ハケ目、 工具ナテ	—	—		256
	石英、長石、角閃石、雲母 茶褐色粒	ナテ、ハケ目後ナテ ハケ目	ナテ、ハケ目後ナテ、削 り	—	—	穿孔あり(外面)煤付着 黒斑あり	257
	長石、雲母	ナテ、ハケ目	ハケ目後ナテ、ハケ目、 削り	ハケ目	削り	(内外面)煤付着	258
	長石、雲母	横ナテ、ハケ目	横ナテ、横方向ハケ目、削り	—	—		259
	石英、角閃石、赤色酸化粒	ナテ、ハケ目後ナテ、ハケ目	ナテ、ハケ目	—	—	(外面)煤付着	260
	雲母、角閃石 石英、長石	横ナテハケ目	横ナテ、横方向ハケ目、 ヘラ削り	—	—		261
	石英、長石、角閃石 金雲母、赤色酸化粒	横ナテ、縦方向のハケ目	横ナテ、横方向のハケ目、 ヘラ削り	—	—	(外面)煤付着	262
	雲母	ナテ、工具ナテ	ナテ、ヘラ削り、削り後 ナテ	—	—		263
	雲母	ナテ、指頭痕	ナテ、ヘラ削り	—	—	(外面)煤付着	264
	石英、長石、輝石 赤色酸化粒	横ナテ、タタキ、ナテ	横ナテ、ヘラ削り、 同心円文	—	—		265
	長石、輝石	横ナテ、タタキ目	横ナテ、同心円文	—	—		266
	長石、雲母	横ナテ、平行タタキ後横 ナテ、平行タタキ	横ナテ、同心円文	—	—		267
	石英、長石、角閃石	平行タタキ、ハケ目	同心円文	—	同心円文	転用硯	268
	長石	横ナテ	横ナテ、ナテ	—	—	(外面)灰かぶり	269
	長石、角閃石	横ナテ、平行タタキ	横ナテ、同心円文	—	—		270
						*別表(電)参照	271
						*別表(電)参照	272
	角閃石、石英、雲母	回転ヘラ削り、横ナテ	ナテ	—	—	(外面天井部)ヘラ書き「成」	273
	石英、長石、角閃石、雲母	回転ヘラ削り、横ナテ	ナテ	—	—	(外面天井部)ヘラ書き「成」	274
	長石、角閃石、雲母 赤色酸化粒	ナテ	ナテ	—	—	(外面天井部)ヘラ書き「成」	275
	長石、角閃石、雲母	回転ヘラ削り、ナテ	横ナテ	—	—	(外面天井部)ヘラ書き「成」	276
	角閃石、石英、長石 雲母、赤色酸化粒	ナテ	ナテ	—	—	ヘラ書き「成」	277
	石英、角閃石	横ナテ	横ナテ	—	—	(外面天井部)ヘラ書き「成」	278
	石英、角閃石	横ナテ	ナテナ	—	—	ヘラ書き「成」	279
	石英、長石、角閃石、輝石、雲母	ヘラ削り	ナテ	—	—	ヘラ書き	280
	石英、角閃石、雲母			ナテ	横ナテ、ナテ	ヘラ書き「成」	281
	長石、角閃石、雲母 赤色酸化粒	ナテ	ナテ	—	—	ヘラ書き「成」	282
	石英、長石、輝石 金雲母、赤色酸化粒	回転ナテ、削り	回転ナテ	ナテ	回転ナテ	全体的に磨耗しているヘラ書き	283
	石英、角閃石	ナテ	横ナテ	—	—	(外底部)ヘラ書き「□舎」	284
	長石、輝石	ヘラ削り	ナテ	ナテ	ナテ	ヘラ記号	285
	長石、輝石	ヘラ削り後ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	(外面底部)ヘラ書き「川大」	286
	石英、長石、雲母 赤色酸化粒	横ナテ	横ナテ	ナテ、横ナテ	ナテ	(外底部)ヘラ書き「川大」	287
	角閃石、長石	回転ナテナテ	回転ナテ	削り	ナテ	ヘラ書き「成」	288
	石英、長石	—	—	横ナテ、回転ヘラ削り	横ナテ	(外底部)ヘラ書き「大」	289
	長石、輝石	—	—	ナテ	ナテ	(外面底部)ヘラ書き「黒」	290
	長石、角閃石、輝石	横ナテ、ヘラ切り後ナテ 手持ちヘラ削り	ヘラ削り後ナテ、横ナテ	回転ヘラ削り後ナテ		(外器面)ヘラ書き「成」2案の沈線	291
	赤色酸化粒	横ナテ、ナテ	横ナテ後ナテ	—	—	つまみあり墨書「縦庭」	292
	石英、長石	横ナテ	横ナテ	ヘラ切り後ナテ	横ナテ後ナテ	(外面底部)墨書「荒守」	293
	長石、雲母	横ナテ	横ナテ	ナテ、横ナテ	ナテ	(外面底部)墨書「是公」	294
	石英	横ナテ	同心円文後ナテ	—	—	ヘラ記号	295
	黒色粒	横ナテ	横ナテ	—	—	ヘラ記号	296
	石英、長石	横ナテ	横ナテ	ナテ(底部に敷かれていた 糞状の植物残渣あり)			297

陶磁器観察表

遺物番号	Fig No	PL No	遺構番号	グリッド	種別	器種	出土地点		法量 (cm)				色調 (軸)	
							層	注記	口径	底径	最大胴径	器高	外面	内面
13	29		SK016	G-15	磁器	椀	-	一括	-	(5.6)	-	(2.8)	C-216すずかけの樹の色	C-216すずかけの樹の色
36	31		SK030	F-7	陶器	椀	4層				-	(1.4)	C-168朽葉色	C-168朽葉色
298	64	48	包含	-	磁器	椀	-	一括	9.0		-		C-282雪の灰白 C-257濃い灰藍 (胎土)灰白5Y8/1	C-282雪の灰白 C-257灰藍

瓦観察表

遺物番号	Fig No	PL No	遺構番号	種別	出土地点		法量 (cm)			色調		
					注記	グリッド	全長	全幅	厚み	外面	内面	
15	29	37	SK019	軒丸瓦	-	F-15	-	瓦当面	7.9~	-	灰黄2.5Y7/2 にぶい黄橙10YR7/4	-
37	31	36	SK030	平瓦	-	F-7	(13.9)	狭端幅 広端幅	22.7 23.2	1.8	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4
299	65		-	平瓦	3層	F-14	(8.0)		(11.2)	1.65	にぶい橙7.5YR6/4	にぶい橙7.5YR6/4
300			-	平瓦	3層	G-14	(13.3)		(8.4)	2.5	にぶい橙7.5YR6/4	にぶい橙7.5YR6/4
301			-	平瓦	4層	G-14	(16.3)		(12.6)	1.8	にぶい橙7.5YR7/3	にぶい橙7.5YR7/3
302			-	平瓦	4層	G-14	(17.35)		(21.6)	2.2	にぶい橙7.5YR6/4	にぶい橙7.5YR5/4
303	66		-	丸瓦	砂層	G-14	(10.0)		(14.9)	1.9	灰白2.5Y8/1	灰白2.5Y8/1

鉄製品観察表

遺物番号	Fig No	PL No	遺構番号	種別	出土地点		法量 (cm)					
					注記	グリッド	全長	全幅	厚み	最大径	刃部長	基部幅
309	68	37	-	鈎具	-	G-13	7.3~	5.0	(最大径) 0.8	-	-	
310			-	雲珠	飾り金具	3層	F-G-4-5	5.3	5.2	0.1	-	-
311			-	杏葉	-	4層	G-15	4.3~	3.4~	0.7	-	-
312			-	鉄鏃	-	3層	F-G-4-5	5.4~	0.8~	-	-	-
313			-	刀子	-	4層	F-14	(基部長) 7.4~	1.1~	(刃部長) 1.8~	(基部幅) 0.7	-
314			-	釣針	-	-	G-7-8	(全長) 3.4	(最大径) 0.45	-	-	-
315			-	鉄鏃	-	4層	G-15	(基部長) 2.7~	-	(刃部長) 1.7~	(厚み) 0.3	-
316			-	鉄鏃	-	4層	G-14	1.8	(基部幅) 3.5~	0.2	(刃部長) 3.9~	-
317			-	袋状手斧	-	4層	F-15	6.1~	(全幅) 1.8~	(袋部長) 6.1~	(基部幅) 1.0~	-
318			-	鉄滓	-	-	-	8.5	9.5	5.4	-	-
319	-	鉄滓	-	-	G-8	9.0	8.3	4.3	-	-		

石製品観察表

遺物番号	Fig No	PL No	遺構番号	種別	出土地点		法量					
					注記	層	グリッド	全長	幅	孔径	厚さ	重量 (g)
168	46	38	SX001	砥石	No.82	-	G-12	18.1	6.3	-	6.9	1004.8
329	70	38	-	石帯	-	-	G-7	(3.3)	(全幅) 5.5	0.4	1.0	32.9
330			-	管玉	-	4層	G-15	1.9	(直径) 0.7	0.3	-	1.4
331			-	勾玉	-	3層	F-G-4	2.8	(全幅) 0.85	(大) 0.45 (小) 0.1	(厚み) 0.7	3.4
332			-	砥石	-	7層	G-5	23.7	10.1	-	9.65	3715.2

銅銭観察表

遺物番号	Fig No	PL No	出土地点		種別	銭貨名	国名	初鑄年	書体
			遺構番号	注記					
304	67	37	SK005	-	模造銭	-	-	-	-
305			SK005	-	模造銭	-	-	-	-
306			SK005	-	模造銭	-	-	-	-
307			SK026	3-5層	銅銭	皇宋通寶	北宋	1038年	篆書
308			SK012	3層	銅銭	元祐通寶	北宋	1086年	篆書

Tab.10

	胎土	調整				備 考	遺物 番号
		外器面	内器面	外底面	内底面		
	回転ヘラ削り	-	-	ヘラ削り	-	(曇付・高台内面)施釉なし。高台内面に胎土付着。龍泉窯系青磁焼。底部肉厚。 (内面見込み)印文「河濱遺範」(外器面)柳描文。内面にも柳描文のようなものがある。 削り出し高台。	13
	長石	-	-	-	-	緑釉陶器、全面施釉。(蛇の目高台)高台貼付	36
	緻密	回転ナデ 染付、施釉	回転ナデ 染付、施釉	削り出し高台	-	雲符焼 全面施釉。焼き色が激しい	298

	胎土	調整				備 考	遺物 番号
		凸面	凹面	互当面	側面		
	長石、雲母	布目痕、ナデ	-	珠文、蓮弁	-	互当側面に丸瓦の布目が凹圧されている。丸瓦との互当乾き時間が違って、 丸瓦がより乾いている状態で貼り付けたという事を示している。珠文5箇所残 存。蓮弁文8箇所残存。蓮子5箇所残存。	15
	長石、角閃石 赤色酸化粒	格子目タタキ	布目痕	-	面取り		37
	雲母、長石、 輝石、赤色酸化粒	格子目タタキ	布目痕	-	面取り		299
	石英、赤色酸化粒	格子目タタキ	布目痕	-	面取り		300
	石英、長石、輝石、雲母	格子目タタキ	布目痕	-	面取り		301
	長石、雲母、赤色酸化粒	格子目タタキ	布目痕	-	面取り		302
	石英、長石、角閃石	ナデ	布目痕	-	面取り		303

	法量 (cm)			備 考	遺物 番号
	厚み		重量 (g)		
	-	-	11.4	鞍の部品 残存部に2箇所孔が見られる	309
	-	-	11.5	紐に紙止めする際の穴の痕らしきものが見られるがはっきりしない	310
	-	-	18.7	残存部が少ない為形態は不明	311
	-	-	4.8	鉄鏝であれば基部のみ残存 鐵身部頭部がないので形式不明	312
	(厚み) 0.25	-	5.1	全体に錆付着 刃部は一部を残すのみで不明	313
	-	-	2.6	ほぼ完形だが全体に錆膨れが見られる 上部に紐を括り付ける箇所あり	314
	-	-	8.0	残りが少なく基部の欠損部についてはX線を通してみないと分からない	315
	-	-	5.3	1/2残存 鏝の刃部部長、基部長の区別つかず	316
	(厚み) 0.15	(刃部幅) -	10.0	器種不明 基部は袋状で内部に木質が残る。全体が振れている 刃部は欠損している	317
	-	-	442.6	全面に大小の凹凸が見られる	318
	-	-	272.6	茶色と灰色の部分がある 全面に大小の凹凸が見られる	319

	色調	石材	備 考	遺物 番号
	-	流紋岩	砥石として使用している部分中心部の窪みが深い(側面)表面程全体の使用面は顕著ではないが数本のはっきりした使用 痕がみられる。	168
	-	砂岩	穿孔2箇所残存	318
	淡黒色			319
	琥珀色	-	全面に調整痕(擦痕)が見られる。孔径は両面穿孔。	320
	-	流紋岩	側面にも使用痕と思われる部分あり。砥石として使用している部分全体に磨き痕が見られる。 (特に中心部は窪みが深い)	321

	法量 (mm)				備 考	遺物 番号
	直径	孔径	厚み	重量 (g)		
	1.3	0.7	0.7	0.3	青銅製品	304
	1.2	0.6	0.7	0.2		305
	1.3	0.7	0.5	0.1	3/2残存	306
	2.4	0.7	0.2	3.3		307
	2.9	0.7	0.2	2.7		308

紡錘車観察表

遺物番号	Fig No	PL No	遺構番号	種別	器種	出土地点		法量 (cm)			
						グリッド	注記	全長	孔径	厚さ	重量 (g)
320	69	38	—	鉄製	紡錘車	F・G-4・5	3層	(4.2)	0.4	0.15	4.6
321			—	石製	紡錘車	G-15	4層	4.8	0.95	0.9	30.3
322			—	石製	紡錘車	F・G-17	4層	(2.8)		0.95	12.1
323			—	土製	紡錘車	G-14	4層	(3.6)	0.8	1.1	10.1
324			—	土製	紡錘車	F-14	4層	5.5	0.8	2.0	34.4
325			—	土製	紡錘車	G-14	4層	6.1	0.8	1.4	24.9
326			—	土製	紡錘車	F-15	4層	(2.5)		1.2	10.7
327			—	土製	紡錘車	G-15	4層	(5.3)	0.8	1.1	17.3
328			—	土製	紡錘車	G-7		6.0	0.7	1.8	65.7

硯観察表

遺物番号	Fig No	PL No	遺構番号	種別	器種	出土地点		法量			色調	
						注記	グリッド	直径	陰部径	残存高	外面	内面
255	55	35	—	硯	円面硯	—	F-7	—	—	(5.2)	灰黄褐10YR5/2 灰黄褐10YR4/2	灰黄褐10YR5/2 灰黄褐10YR4/2

電鏡観察表

遺物番号	Fig No	PL No	遺構番号	種別	器種	出土地点		法量 (cm)			色調	
						注記	グリッド	口径	底径	残存高	外面	内面
271	60		—	土師器	移動式甕	—	G-8	(27.0)	(28.8)	27.9	明赤褐5YR5/6	にぶい褐7.5YR5/3
272			—	土師器	甕	—	F・G-5	22.6	—	(11.5)	にぶい褐7.5YR5/4	にぶい褐7.5YR5/4

トチン観察表

遺物番号	Fig No	PL No	遺構番号	種別	出土地点		法量 (cm)			色調	
					グリッド	注記	幅 (断面)	幅 (底部)	残存高	外面	底部
333	71	48	—	トチン	—	—	7.7	9.2	(21.2)	灰褐5YR4/2 にぶい赤褐5YR4/3 (下方部分)	灰褐5YR4/2 にぶい赤褐5YR4/3
334			—	トチン	—	—	8.2	(11.0)	(16.5)	灰赤2.5YR4/2 褐7.5YR4/3	にぶい橙2.5YR6/4
335			—	トチン	F-5	—	—	9.6	(10.1)		灰褐7.5YR4/2

Tab.11

材 質	備 考	遺物 番号
—	全体に錆 2/3残存	320
砂岩	ほぼ完形近いが裏面の縁辺の一部と上面2/3は剥れている縁辺部に欠損も見られる 孔は両面穿孔	321
砂岩	残存1/4以下 孔は表裏両面から穿孔してると思われる 擦り痕が僅かに残る	322
土師	残存は1/4以下 表裏面、側面全体に擦り痕有り	323
土師	1/2残存 全体に指で押さえて調整していると思われる 孔は両面穿孔	324
土師	孔は両面穿孔	325
土師	残存1/4	326
土師	孔は両面穿孔、全面に調整したときの擦り痕あり	327
土師		328

	胎土	調整		備 考	遺物 番号
		外器面	内器面		
	長石、輝石	ナテ	横ナテ	透かしの部分はヘラ切りである	255

	胎土	調整		備 考	遺物 番号
		外器面	内器面		
	石英、長石、雲母、 輝石	横ナテ ハケ目後ナテ	横ナテ、削り	臺から甕へ転用。粘土に滑石を混ぜて焼成。	271
	雲母、石英、長石	横ナテ、ヘラによる 調整、ナテ	横ナテ ハケ目、ナテ		272

	胎土	調整	備 考	遺物 番号
	長石、輝石、赤色酸化粒	全体に工具を使用し 調整後指ナテ	(底部)数箇所窪みが見られる (側面)窪んだ痕跡あり	333
	長石、輝石、赤色酸化粒	全体に工具を使用し 調整後指ナテ		334
	長石	全体に工具を使用し 調整後指ナテ	(側面)一部煤付着	335

3 宮地観行寺遺跡

A 遺跡の概要

1 区 遺構

本線41区、42区東側に隣接する調査区。

(1) 5層上面検出遺構 (Fig.73)

柵列SA001 5層上面で検出された遺構。SA002と並列するが、間隔が近いことから別遺構と判断した。P1は遺構内に段を有し、中心に向かい小さな掘り込みを呈す。P2は下位にまで緩やかなY字を呈し、基部付近で角度を変え垂直に落ちる。柱穴間は1.65m、P1、P2とも掘り込み深度は同じく約0.5mを測る。

柵列SA002 SA001の南に並び検出した遺構。P1は断面が緩やかなU字状、P2がSA001.P2と同じように下端近くで角度を変えた掘り込みが確認できる。柱穴間は1.7m、掘削深度はP1.P2とも同じくし約0.5mを測る。

柵列SA003 調査区南端に位置し、検出した遺構。SA001、SA002とはやや角度が違うが、ほぼ東西に伸びるとされる遺構。P1は検出が浅く、わずかに下端を確認しただけである。P2はSA002.P1と下端形状が類似し、段を有しながらもU字状の断面をなす。

土坑SK001 柱穴SP001の南に位置し、一部調査区外（西側）に広がる遺構。平面形は長楕円形を呈す。埋土中より須恵器蓋が1点出土している。

土坑SK002 平面形が楕円形を呈す遺構。遺構の一部が調査区東側に広がり全容は不明。

土坑SK003 調査区南端に位置し、遺構の約半分が調査区外に伸びる遺構。長軸は約2.06m、断面は深く、調査区内で確認できた範囲で約1.05mを測る。出土遺物は主に、最下層にあたる4層、最上層の1層から出土しているが、遺物に時間幅がないことから短時間に埋没した遺構と見られる。2層が堆積し終わり、1層が入る時点で土師器皿が2枚重なった状態に入る。

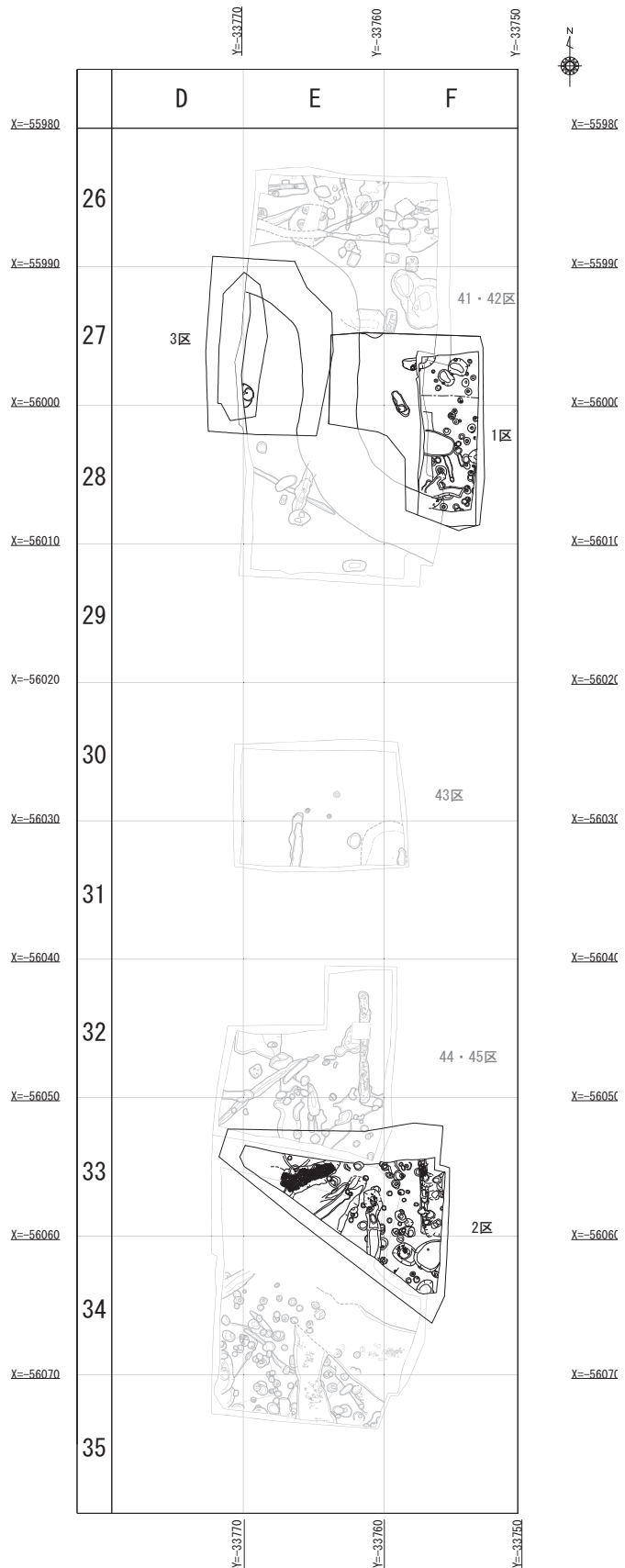
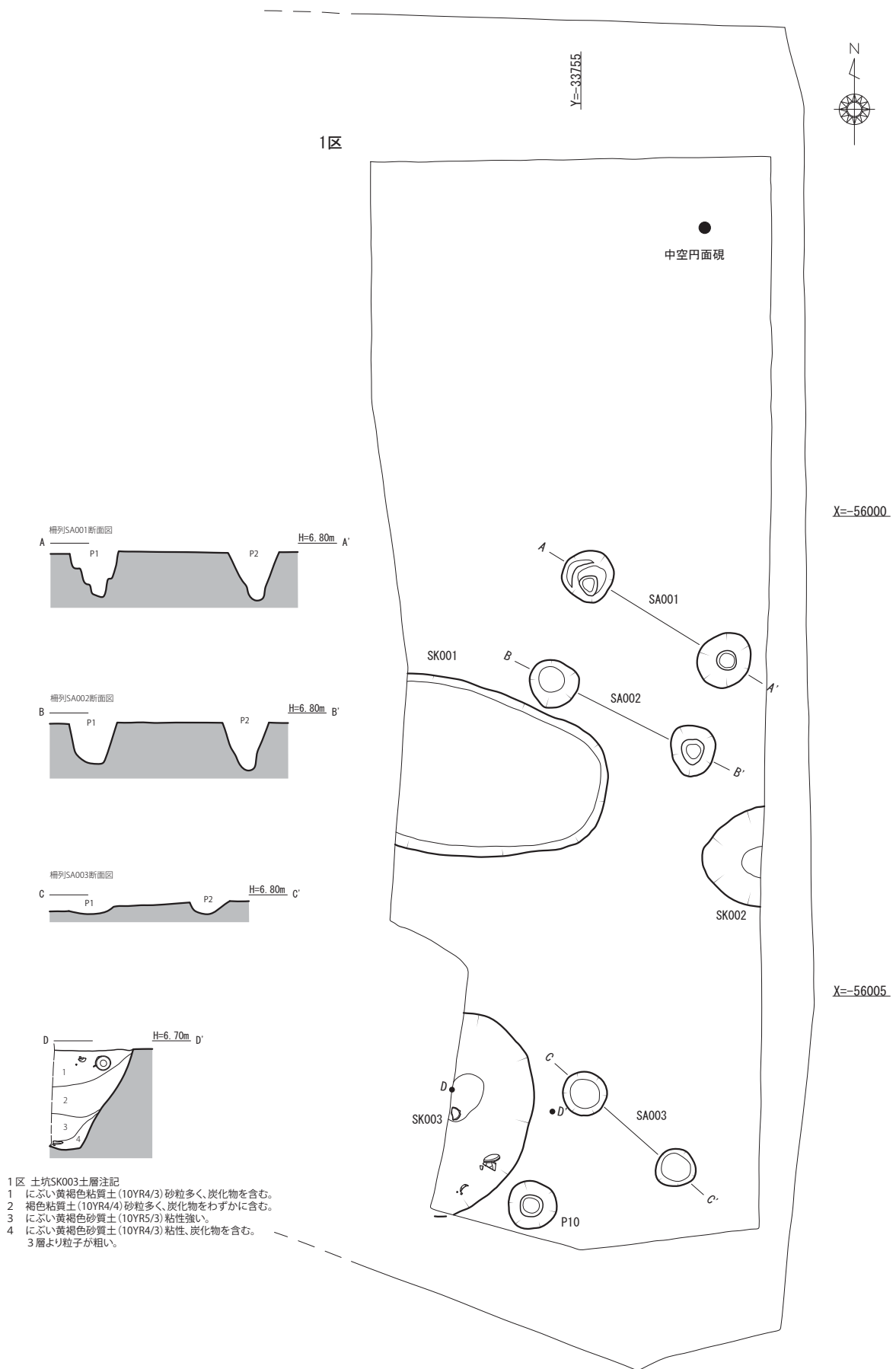


Fig.72 宮地観行寺遺跡 遺構配置図 (1/500)



- 1区 土坑SK003土層注記
- 1 にふい黄褐色粘質土 (10YR4/3) 砂粒多く、炭化物を含む。
 - 2 褐色粘質土 (10YR4/4) 砂粒多く、炭化物をわずかに含む。
 - 3 にふい黄褐色砂質土 (10YR5/3) 粘性強い。
 - 4 にふい黄褐色砂質土 (10YR4/3) 粘性、炭化物を含む。3層より粒子が粗い。

Fig.73 宮地観行寺遺跡 1区 5層(古代)遺構配置図

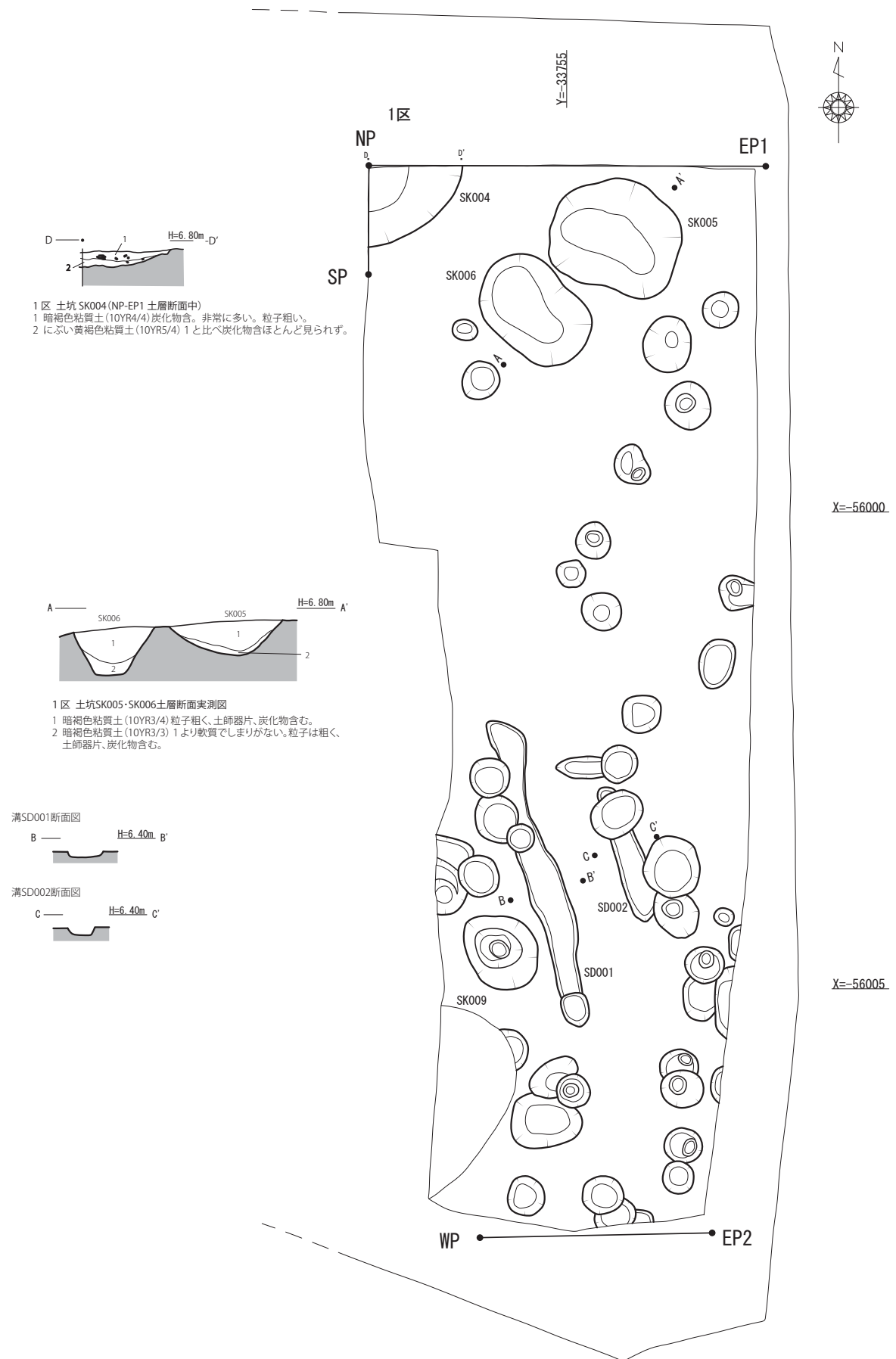


Fig.74 宮地観行寺遺跡1区7層(古代)遺構配置図

(2) 7層上面検出遺構 (Fig.74)

溝SD001 調査区のほぼ中心で柱穴群に切られて検出された遺構。断面(B-B')は浅く下端は垂直に落ちる。遺構南端が柱穴に切られているため正確な全長は不明だが、全長約3.2m、幅約0.34mを測る。

溝SD002 SD001の東に位置し並列する遺構。全長約0.95m、中位における幅は約0.26m (C-C')。途中を柱穴により切られる。

土坑SK004 調査区北西部隅で検出した遺構 (D-D')。全体の1/4しか掘削はしていない。遺構の時代を示す出土遺物は、土師器鉢 (12)、壺 (11) で、古墳時代後期の須恵器蓋杯の身 (13) が1点出土している。

土坑SK005・SK006 調査区北側で検出した遺構。2基の土坑が並び土層断面 (A-A')は軸を併せて掘削している。出土遺物はない。

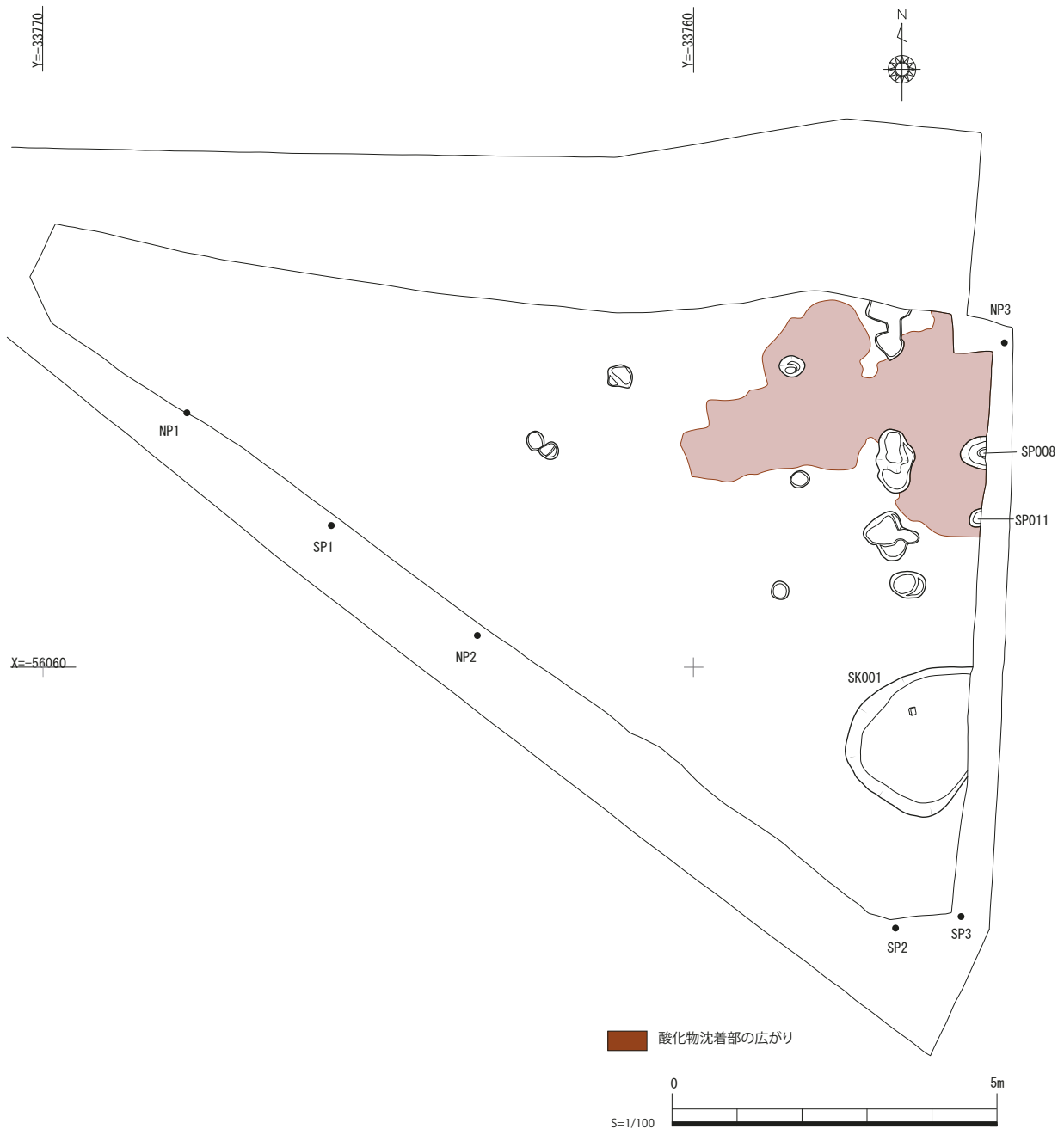


Fig.75 宮地観行寺遺跡2区4層遺構配置図

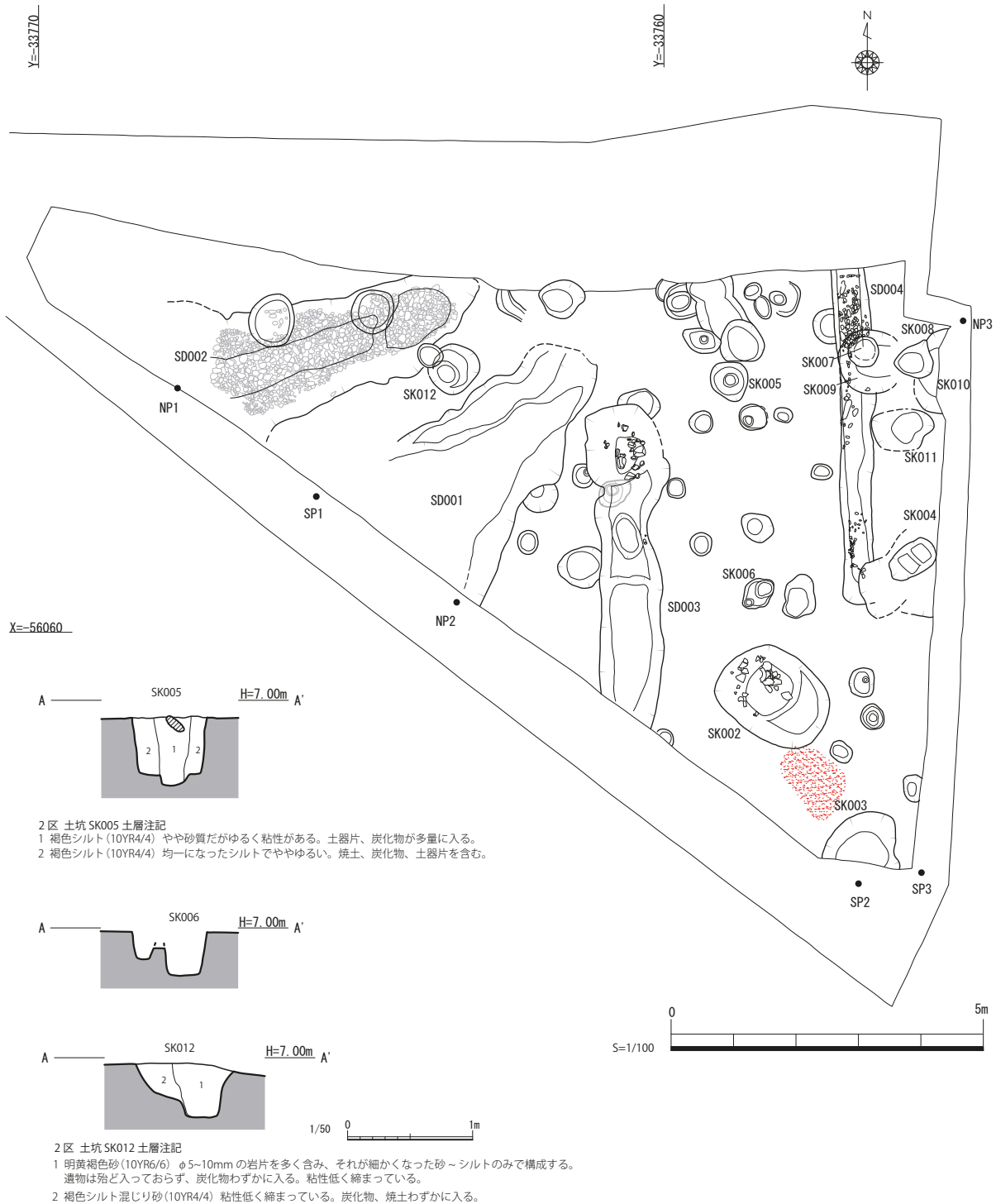


Fig.76 宮地銀行寺遺跡2区7層(古代)遺構配置図

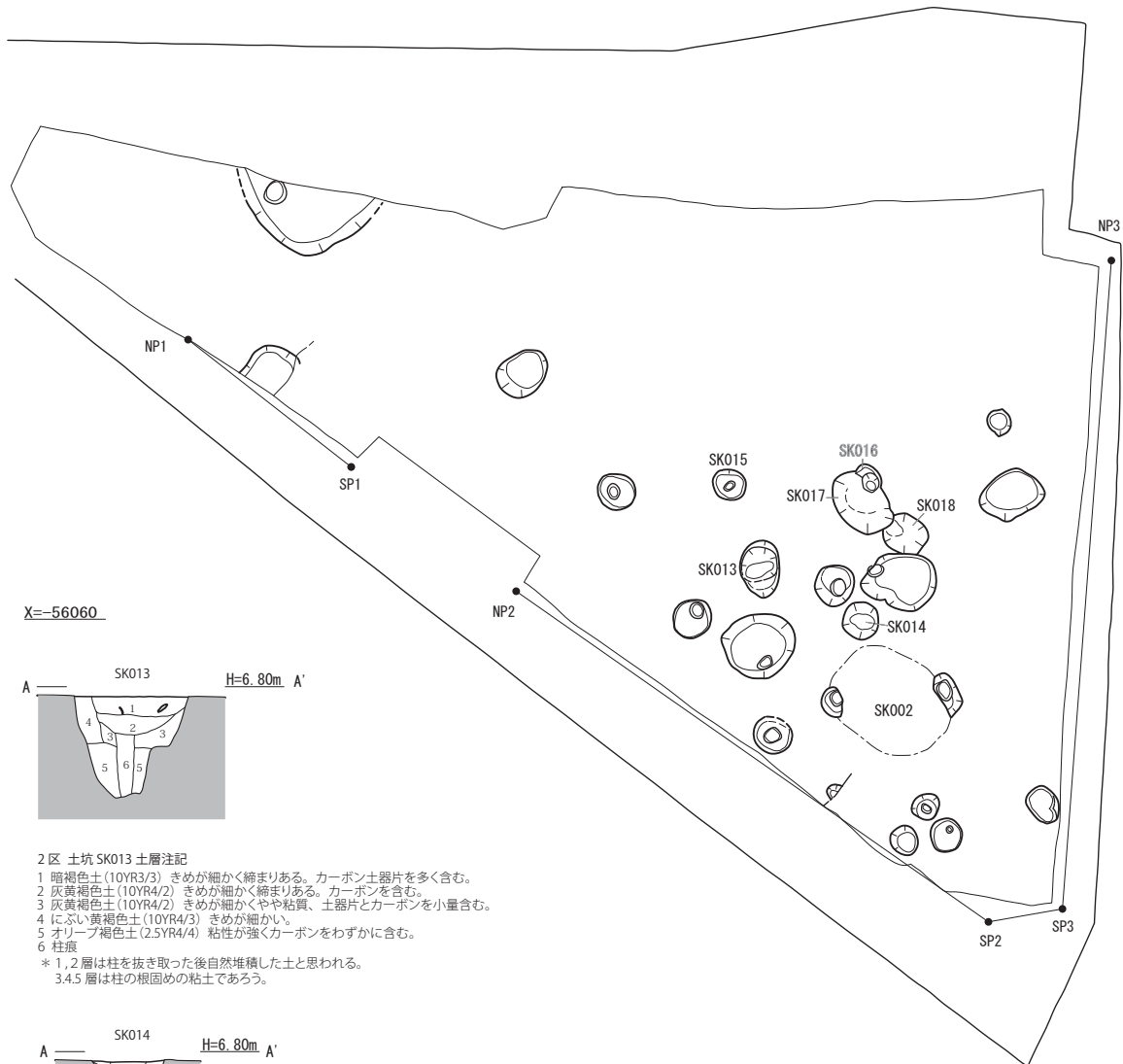
2区 遺構

(1) 4層上面検出遺構。(Fig.75)

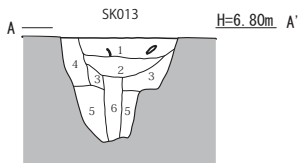
土坑SK001 F-34Grid調査区東側へ遺構の一部が伸び全体形は不明であるが、残りの形状から楕円形の土坑が想定される。長径約2.4m、短径2.0mを測る。遺構の断面の一部が、調査区土層東側 (NP3-SP3)の断面図に図示される。出土遺物は埋土中より蓋杯の身 (32) が1点出土している。

Y=-33770

Y=-33760



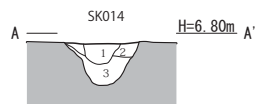
X=-56060



2区 土坑 SK013 土層注記

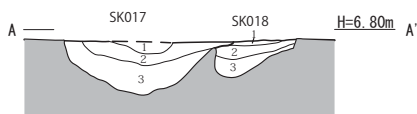
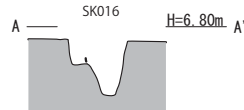
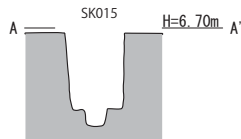
- 1 暗褐色土 (10YR3/3) きめが細かく締まりある。カーボン土器片を多く含む。
- 2 灰黄褐色土 (10YR4/2) きめが細かく締まりある。カーボンを含む。
- 3 灰黄褐色土 (10YR4/2) きめが細かくやや粘質、土器片とカーボン少量含む。
- 4 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) きめが細かい。
- 5 オリーブ褐色土 (2.5YR4/4) 粘性が強くカーボンわずかに含む。
- 6 柱痕

* 1, 2層は柱を抜き取った後自然堆積した土と思われる。
 3.4.5層は柱の根固めの粘土であろう。



2区 土坑 SK014土層注記

- 1 褐色シルト (10YR4/4) やや砂混じり、周囲より明るく混合物少ない。粘性低く締まっている。土器片混入。
- 2 褐色シルト (10YR4/4) 1と同じ、炭化物が大きく量も多い。土器片、焼土入る。
- 3 褐色シルト (10YR4/4) 1、2より暗く暗褐色に近い。粘性高く締まっている。炭化物を混入する。



2区 土坑 SK017土層注記

- 1 褐色粘土混じりシルト (10YR4/6) やや明るく粘性高い。炭化物、焼土入る。
- 2 褐色粘土混じりシルト (10YR4/6) 粘性は高いがやや砂質。炭化物、焼土入る。
- 3 褐色粘土混じりシルト (10YR4/6) 粘性高く、ゆるい。炭化物、焼土入る。

2区 土坑 SK018土層注記

- 1 褐色粘土混じりシルト (10YR4/6) やや明るく粘性高い。炭化物、焼土入る。
- 2 褐色粘土混じりシルト (10YR4/6) 粘性高いがやや砂質。炭化物、焼土入る。
- 3 褐色粘土混じりシルト (10YR4/6) 粘性高く、ゆるい。炭化物、焼土入る。

s=1/50 0 1m

0 5m S=1/100

Fig.77 宮地観行寺遺跡2区 8層遺構配置図



2区 溝SD002

- 1 褐色砂混じりシルト(10YR4/4) 砂多く混入。
粘性低く、炭化物、小土器片含む。
- 2 褐色シルト(10YR4/4) 砂殆ど含まず。1層より粘性高い。
炭化物、小土器片含む。
- 3 にぶい黄褐色砂混じり粘土(10YR4/3) 粘性高く、土器片含む。
炭化物多く混入。不均一に砂を含み全体が黒っぽく見える。
- 4 褐色粘土(10YR4/3) 3層よりも均一な粘土層。土器片、炭化物を
含むところもある。
- 5 褐色粘土(10YR4/4) 僅かに土器片、炭化物含む。礫多量、粘性高い。
- 6 褐色粘土(10YR4/6) 褐色粘土僅かに色の異なる粘土の黒層あり。
明褐色(7.5YR5/6) 粘土・砂混じりシルト層含む。粘性高く、しまりある。
- 7 褐色シルト(10YR4/6) ほぼ均一な層で、やや粘性あり。
細礫僅かに含むが無遺物。
- 8 オリーブ褐色粘土(2.5YR4/4) 粘性高い。炭化物、焼土多量に入り
乱れている。上部はややシルトが多く、色も褐色味を帯びる。
炭化物沈着。土器片、スラグ、羽口片混入。
- 9 オリーブ褐色粘土(2.5YR4/3) 粘性非常に高い。土器片、炭化物を
僅かに含む。
- 10 にぶい黄褐色砂混じり粘土(10YR4/3) 植物痕とみられる炭化物
沈着多。全体が下に向かって漸移、下の褐色シルト(10YR4/4)とは
明確な境界がない。僅かに須恵器含む。

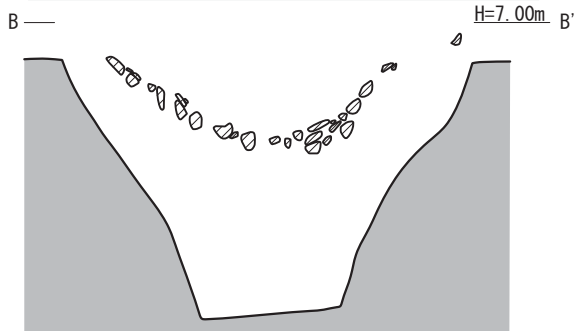
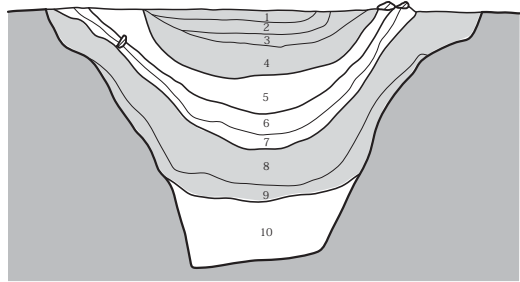
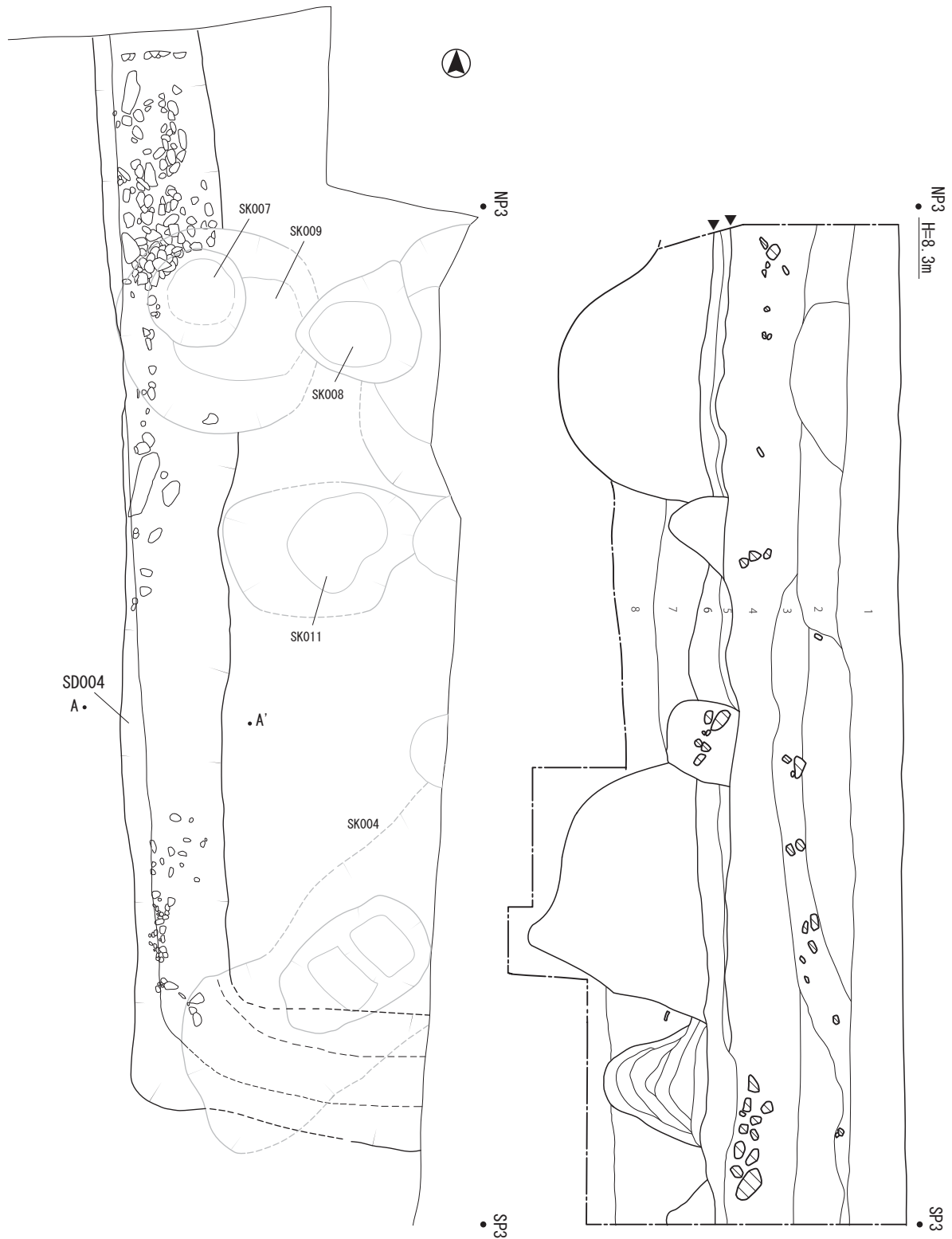
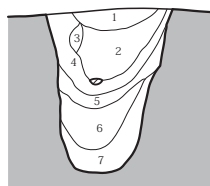


Fig.78 2区 溝SD002平面図と断面図



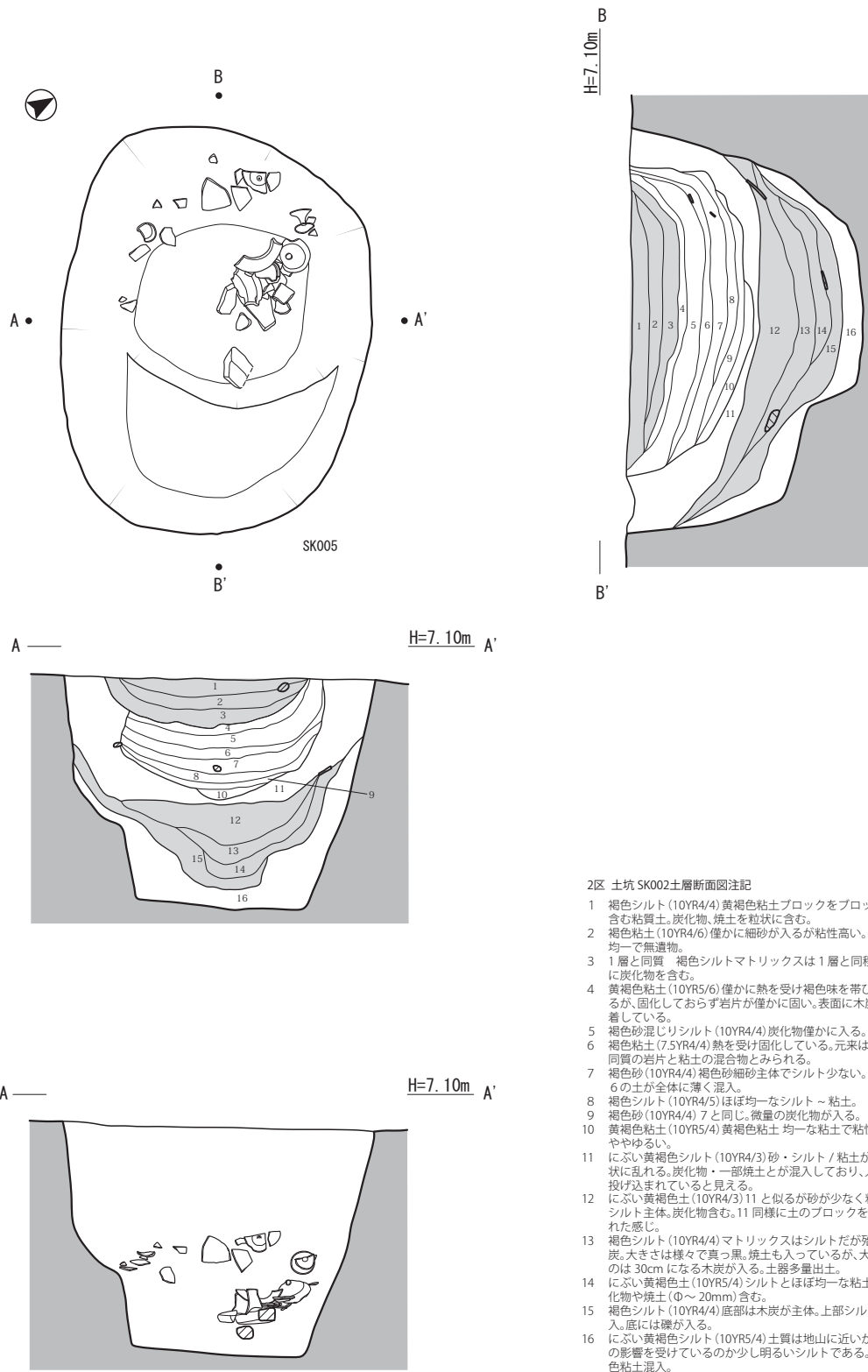
A — H=7.20m A'



2区 溝SD004土層注記

- 1 明黄褐色礫混じり粘土(10YR6/6)0.1~0.3cmの変質した砂岩の岩片が多量に含む。
マトリックスはシルト~粘土だが、岩片が細かく砕いた感じで同一起源。
- 2 褐色砂(10YR4/4)ほぼ均一な砂。炭化物僅かに含む。
- 3 にぶい黄褐色砂(10YR4/3)。
2より粗いが均一な砂層。炭化物僅かに含む。
- 4 明黄赤褐色粘土(10YR6/6)。
マトリックスは1とまったく同質。岩片が熱を受け赤褐色に変質。(2.5YR3/4 暗赤褐色) 焼土とは異なり粘性高い。下部は均一なマトリックスと岩片からなるが、周辺はやや乱れて2と混合。
- 5 褐色粘土混じりシルト(10YR4/4)。ほぼ均一な層。
僅かに1と同質のブロック・炭化物入る。
- 6 褐色粘土混じり砂(10YR4/4)5より粗い。
炭化物・1と同質のブロック入る。僅かに酸化物の沈着した筋が見られる。
- 7 オリーブ褐色粘土(2.5YR4/4)。粒土は均一。
色が乱れている(2.5YR4/4~10YR4/4)

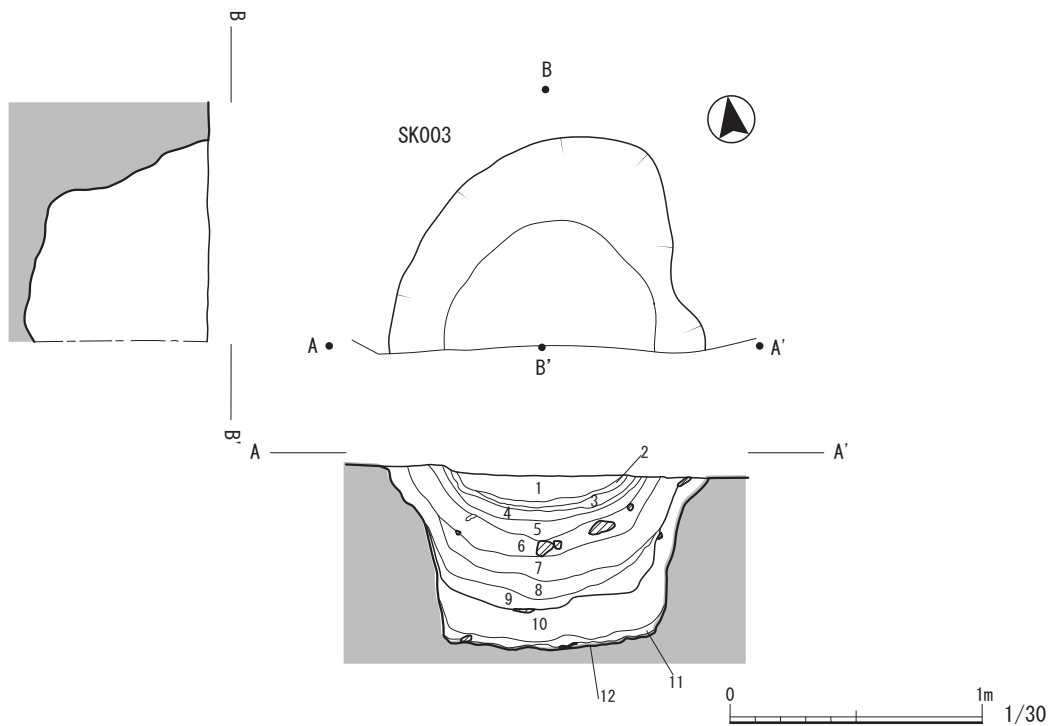
Fig.79 2区 溝SD004平面図と断面図



2区 土坑 SK002土層断面図注記

- 1 褐色シルト(10YR4/4)黄褐色粘土ブロックをブロック状に含む粘質土。炭化物、焼土を粒状に含む。
- 2 褐色粘土(10YR4/6)僅かに細砂が入るが粘性高い。ほぼ均一で無遺物。
- 3 1層と同質。褐色シルトマトリックスは1層と同程度で僅かに炭化物を含む。
- 4 黄褐色粘土(10YR5/6)僅かに熱を受け褐色を帯びているが、固化しておらず岩片が僅かに固い。表面に木炭片が付着している。
- 5 褐色砂混じりシルト(10YR4/4)炭化物僅かに入る。
- 6 褐色粘土(7.5YR4/4)熱を受け固化している。元来は4と同質の岩片と粘土の混合物とみられる。
- 7 褐色砂(10YR4/4)褐色砂細砂主体でシルト少ない。6の土が全体に薄く混入。
- 8 褐色シルト(10YR4/5)ほぼ均一なシルト～粘土。
- 9 褐色砂(10YR4/4)7と同じ。微量の炭化物が入る。
- 10 黄褐色粘土(10YR5/4)黄褐色粘土 均一な粘土で粘性高くややゆるい。
- 11 にぶい黄褐色シルト(10YR4/3)砂・シルト/粘土がブロック状に乱れる。炭化物・一部焼土が入り、人為的に投げ込まれていると見える。
- 12 にぶい黄褐色土(10YR4/3)11と似るが砂が少なく粘土・シルト主体。炭化物含む。11同様土のブロックを投げ込まれた感じ。
- 13 褐色シルト(10YR4/4)マトリックスはシルトだが殆どは木炭。大きさは様々で真っ黒。焼土も入っているが、大きなものは30cmになる木炭が入る。土器多量出土。
- 14 にぶい黄褐色土(10YR5/4)シルトとほぼ均一な粘土。炭化物や焼土(Φ~20mm)含む。
- 15 褐色シルト(10YR4/4)底部は木炭が主体。上部シルト混入。底には礫が入る。
- 16 にぶい黄褐色シルト(10YR5/4)土質は地山に近いが、水の影響を受けているのか少し明るいシルトである。灰黄褐色粘土混入。

Fig.80 2区 土坑SK002平面図と断面図



2区土坑SK003土層断面注記

- 1 褐色砂混じりシルト(10YR4/4)やや粘性あり。炭化物、土器片、酸化物を含み、全体的に赤味を帯びる。特に熱を受け赤く酸化した砂の色が目立つ。礫(●20mm)が混入。
- 2 黄褐色粘土(10YR5/8)砂質岩片と、それが粘土化したものとの混合物。熱を受けたような酸化(赤変)は全く見られない。ほぼ全面を覆う。
- 3 にぶい黄褐色砂混じりシルト(10YR4/3)砂質のため粘性が低くゆるい。わずかに炭化物、土器片を含む。熱を受けたような酸化(赤変)は全く見られない。ほぼ全面を覆う。
- 4 褐色砂混じりシルト(7.5YR4/4)強く熱を受け、固化している。やや明るい(7.5YR4/6)岩片(●5~30mm)が多く混合し、全体が締まっている。表面に炭化物はなく遺物も含まない。
- 5 褐色細砂シルト(10YR4/4)褐色細砂シルトをやや含むが粘性はない。酸化物の沈着が見られる。
- 6 にぶい褐色砂(10YR4/3)円礫(30~120mm)を多く含む。マトリックスは5層より粗粒の砂が多く、シルトを含む。酸化物が全体に沈着する。
- 7 にぶい黄褐色粘土(10YR4/3)粘性が高く、締まっている。炭化物、酸化物を含み籾の羽口、ねり鉢等の遺物入る。
- 8 にぶい黄褐色粘土(10YR4/3)7層より粘土分は少なく、シルト多い。やや灰色味が強く、植物痕に酸化物が沈着する。
- 9 褐色粘土(10YR4/4)8層と同じ粒度で、やや赤い色調。炭化物、土器片が多く混入。
- 10 褐色粘土(10YR4/5)9層より粘性高い。酸化物が全体に沈着する。上部に炭化物、焼土が混じる。
- 11 灰黄褐色粘土(10YR4/2)粘性高い。炭化物が多量に混入。北側ではこの層の直上に剥片、鉄滓を多く含む層がある。
- 12 褐色粘土(10YR4/6)11層のマトリックスに酸化物が沈着している。この調査区でよく見られる遺構床面上の酸化部。

Fig.81 2区 土坑 SK003 平面図と断面図

(2) 7層上面検出遺構 (Fig.76)

溝SD001 調査区ほぼ中央で検出し、南に向かい伸びる遺構。掘り込みは明確ではなく、だらだらと広がり浅くなる。検出長径(主軸)4.3m、中心部で上端を確認できる範囲で2.3mを測る。遺構と言うよりも雨水により削り取られた自然地形であるとも見て取れる。出土遺物はない。

溝SD002平面図と断面図 (Fig.78) 調査区西端にて検出した遺構。検出できた面で約4.6m、最大幅約2.06m、遺構中位A-A'で幅1.21m、深さ1.02mを測る。土層断面を残したA-A'では埋土の5層中、6層上面でこぶし大の礫群が敷き詰められている。遺構自体は、北から南へ緩やかに傾斜しているのが窺える。礫を取り上げた後は、北端部と中位で段を有する。

土層断面実測図A-A'で土層を示すが、掘りなおして使用した痕跡を見て取ることができる。礫は底面近くがやや大きく、傾斜にあたる部分は小さくなる傾向がある。5層に含まれる礫群は、全量2,124個のうち、砂岩と頁岩が66%、安山岩18%、礫岩7%、その他流紋岩、チャート、変成岩類等からなる。そのうち熱を受けたと見られる礫は砂岩3個のみである。断面形からは1~4層、5~9層でU字状、10層で逆台形を呈するなど形状の違いが見られ、3期または3回の掘り直しが見られる。出土遺物はない。

溝SD003 E-33・34Grid。SD001東側で検出した遺構。遺構北端を別遺構により切られているため正確な全長は不明だが約4.1m、幅(最大径部)約1.0mを測る。遺構は平面、中位で南に向かって段を有する。

土師器碗(30.31)が出土している。

溝SD004平面図と断面図 (Fig.79) 調査区東側で南北に伸び検出した遺構。北側が調査区外に伸びる。南端は東に直角に折れ、調査区外に向い方形区画を呈する。A-A'で示す土層断面中の4層で検出した粘土層では、明黄赤褐色を呈し、面的に受熱した跡を見ることができる。本遺構上層の4層にあたる粘質土の広がりの中から、鍛造鉄片が部分的に多量に出土している。そのため、製鉄（小鍛冶）に関連する遺構である可能性が高い。

検出した長さは南北に約5.38m、東西約1.46m、南北の中心部深さ約0.69mを測る。

土坑SK002平面図と土層断面図、遺物出土状況通図 (Fig.80) F-34Grid。平面形は楕円形で長径1.84m、短径1.42m、深さは約1.04mを測る。土層断面の堆積状況を詳細に観察すると、細かく分層することができ、遺構の性格を探るには重要な要因となる。上層から1～4層、5層～10層、11層、12層～15層、16層とに違いを見て取れる。

下層から本遺構を見ると16層を掘り方とし、12層から15層が16層上面から掘り込まれ、一つのまとまりをなす。13層は木炭が包含されているため、層そのものが黒化している。本層には多くの遺物を含む。特に14層、15層は13層を焼面とすると、防湿のためのカーボンベッドの役割を果たしているものと思われる。

12層まで埋まった後は、改めて11層の土を入れ埋め戻され、4～10層が掘り込まれる。4、5層には受熱した砂礫及び焼土が見られ、6層は褐色を呈し、受熱し粘土が固化した層をなす。7～10層がシルト、粘質土からなる層でカーボンベッド相当の役割を果たしていたと思われる。更に、1～3層は5～10層を基礎とし、改めて掘り返され使用された層と見られる。1層に受熱した黄褐色粘土ブロック、炭化物を含むことから新たな焼面をなしていたものと思われる。これら他の土坑とは違い、砂礫層、粘質土及びシルト層等の交互層を成していること、粘質土上面に相当する層には木炭、焼土、受熱した砂礫等が見られることから、極端に水分を排除する必要のある性格を有する遺構である可能性が高い。出土遺物は土師器壺 (33・34)、甕 (35)、高杯 (36)、須恵器蓋 (37・38)、高杯 (39)、長頸壺 (40)、鉢 (41)、甕 (42)、布目平瓦 (43)、羽口 (44、45) など古代の遺物が多数出土している。

土坑SK003平面図と断面図 (Fig.81) F-34Grid。遺構の南側が調査区外へ広がり全体形は分からないが、残っている平面形から楕円形状の土坑と考えられる。壁にかかっている部分で幅1.26m、深さ0.7mを測る。

掘り込まれた遺構は断面が逆台形を呈し、下端は水平で、立ち上がりは両端とも垂直に立ち上がる。検出した上端付近でやや外反し広がる。本遺構でも土坑SK002でみられた土層の堆積が見られ、主に7～11層で焼土、炭化物、受熱し赤化した土層が見られる。10、11、12層には炭化物が多く入り、埋土中より微小な鍛造剥片を検出している。また、同層からはスラグ、羽口が同時に出土しているため小鍛冶関連の遺構であることには間違いなからう。須恵器鉢 (46)、蓋 (47)、杯 (48)、羽口 (49～51) が出土している。

土坑SK005 F-33Grid 平面形は円形を呈する遺構。遺構下端中心に更に小さな円形の掘り込みを有する。遺構の形状から掘立柱建物跡もしくは柱を立てる必要のある柱穴である可能性が高い。須恵器高杯 (52) が出土している。

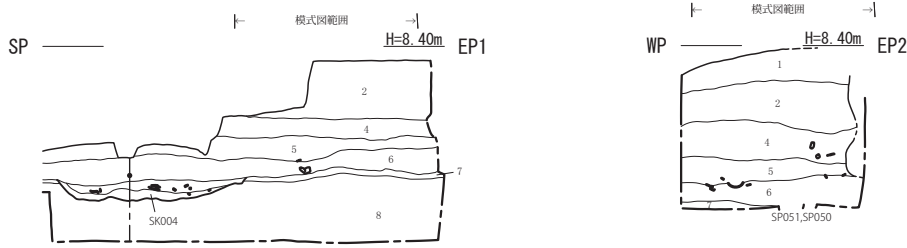
土坑SK006 F-33Grid。SK002の北に位置する楕円形遺構。他遺構である小柱穴が上部から掘り込まれる。土師器甕 (53) が埋土中より出土している。

(3) 8層上面検出遺構 (Fig.77)

土坑SK013 F-33Grid。平面形は南北に伸びる楕円形を呈している。掘り方が中間端付近で角度が変わり、下端は東西に間延びしている。須恵器蓋杯部 (54) が出土している。

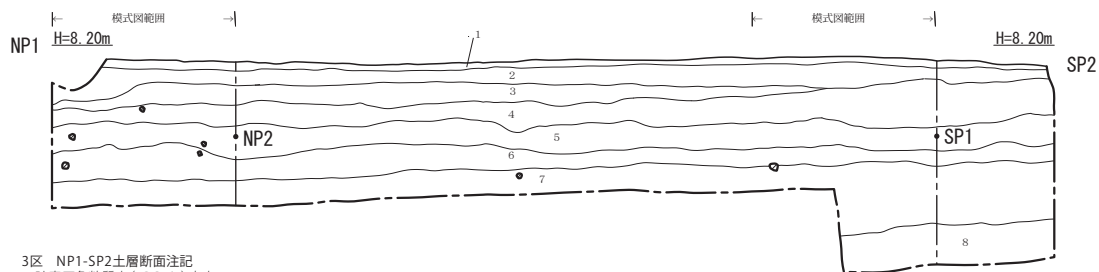
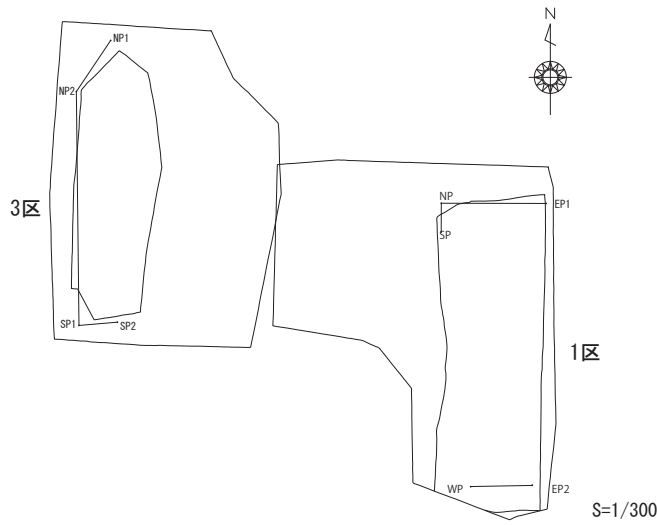
土坑SK014 F-33Grid ほぼ円形を呈する遺構。上、下端とも円形を呈する。土師器高杯脚部 (55) が出土している。

土坑SK015 E-33Grid。平面形は円形で下端中央に小規模な柱穴を検出する。須恵器杯蓋部 (56) が出土している。



1区 SP-EP1 WP-EP2土層断面注記

- 1 前回調査後に入れた機
- 2 暗褐色粘質土 (2.5YR4/2) 耕作土。橙褐色粒子・黒色粒子含。粒子粗い。
- 4 黄褐色粘質土 (2.5YR5/3) 黒色粒子含む。粒子粗い。
- 5 褐色粘質土 (10YR4/4) 橙褐色粒子・炭化物含む。
- 6 褐色粘質土 (7.5YR4/3) 橙褐色粒子・炭化物含む。4A層より粒子粗い。
- 7 褐色粘質土 (7.5YR4/4) 白色粒子ブロック多し。粒子細かい。
- 8 褐色粘質土 (10YR4/4) 非常に細かな砂粒を含みシルト状になる。



3区 NP1-SP2土層断面注記

- 1 暗青灰色粘質土 (5BG4/1) 客土。
- 2 明褐色粘質土 (7.5YR5/6) 耕作土。灰色粘土ブロック含む。
- 3 暗灰色砂質土 (10YR5/1) 礫多し。砂粒粗い。
- 4 黄褐色粘質土 (2.5YR6/1) 橙褐色粒子多し。黒褐色粘土を僅かに含む。
- 5 暗灰黄色砂質土 (2.5YR) 粘性あり。粘質に近い土橙褐色粒子多し。
- 6 灰黄褐色粘質土 (10YR4/2) 炭化物・土器細片含む。
- 7 褐色粘質土 (10YR4/4) 灰色粘土僅かに含む。比較的に混じりが少ない。
- 8 砂礫

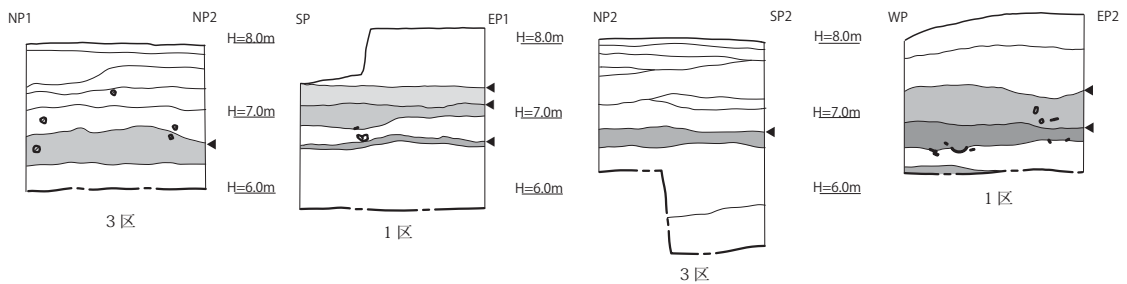
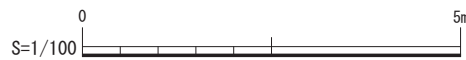
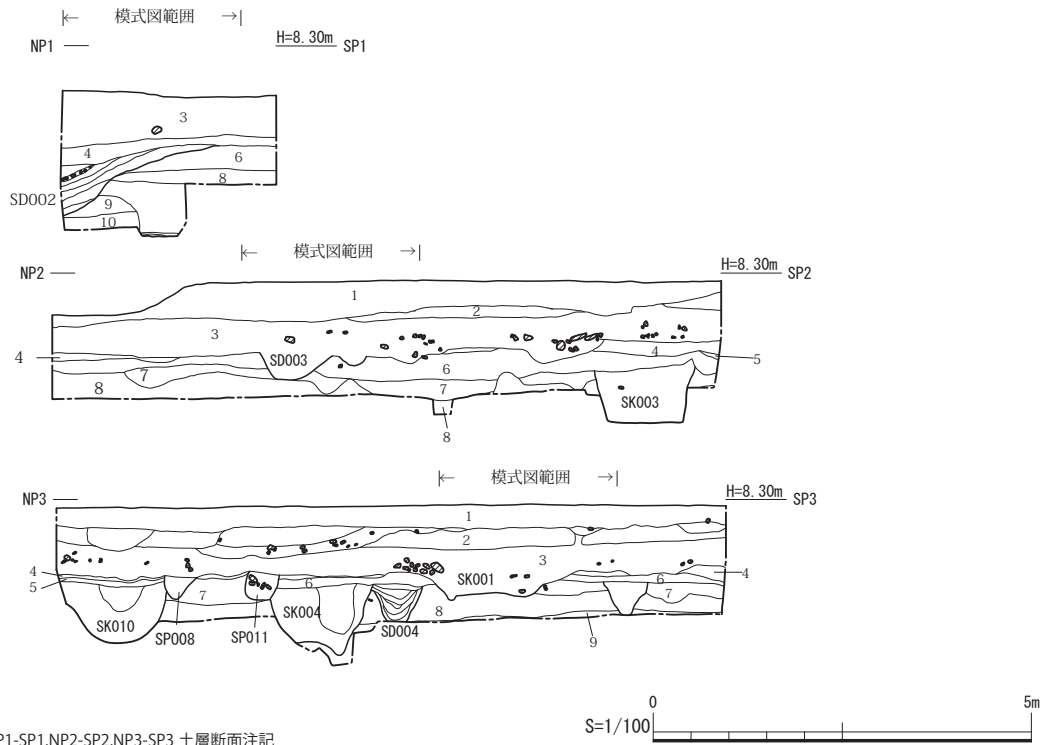


Fig.82 宮地観行寺遺跡 1・3区土層断面および土層推移模式図



2区 NP1-SP1.NP2-SP2.NP3-SP3 土層断面注記

- 1 盛土・礫層
- 2 褐色シルト混じり砂(10YR4/4)マンガン粒含む。一部に円礫(Φ~30mm)混入。
下方に土器片・焼土含む。
- 3 褐色シルト混じり砂(10YR4/4)マンガン粒含む。中世包含層。2A層より礫を多く混入。
(MAXΦ150cm)。砂もやや粗粒。マンガン粒・土器片僅かに含む。
- 4 褐色細砂(10YR4/5)3層より灰色で細粒。ややしまっている
- 5 黄褐色シルト(2.5YR5/4)北側にだけ明瞭に見られるのが4A層の下部に僅かに堆積している部分もある。
色が明るく細粒でしまっている。
- 6 褐色砂混じりシルト(10YR4/4)焼土炭化物・土器片多し。やや粘性。
- 7 褐色砂混じりシルト(10YR4/4)6層よりやや細粒で僅かに色が明るい。
- 8 褐色シルト(10YR4/4)粘性低くしまっている。細円礫・炭化物の混入は極僅か。
- 9 褐色シルト混じり粘土(10YR4/5)7層に比べ粘性が高くゆるい。
- 10 褐色シルト(10YR4/4)7層より明るく砂多。粘性低くゆるい。

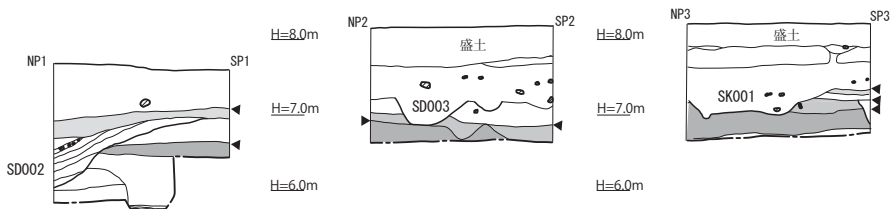
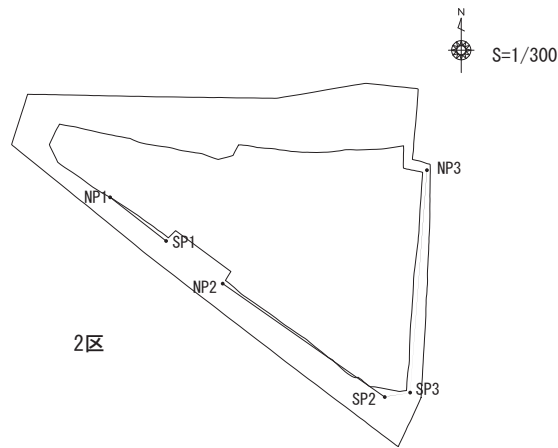


Fig.83 宮地観行寺遺跡 2区土層断面および土層推移模式図

B 出土遺物

1 1区出土遺物

土坑SK001出土遺物 (Fig.84)

須恵器 蓋 (1) 外面天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体高は低く、口縁端部近くで器壁は薄くなり口縁部で折れ、端部は丸く収める。つまみは天井部が欠損するが、丸みを帯びる形状であった可能性が高い。

土坑SK003出土遺物 (Fig.84)

土師器 杯 (2) 外面底部、回転ヘラ切り後ナデ、その他は回転ナデ整形。外面底部から体部にかけての屈曲部から2条の回転ヘラ削りを施す。体部は緩やかにやや内湾しながら立ち上がり、端部は丸く収める。

高台付き杯 (3) 外面底部、回転ヘラ切り後ナデ、その他は回転ナデ整形。底部屈曲よりやや内に断面が三角を呈する高台を貼り付ける。外面底部から体部にかけての屈曲部から3条の回転ヘラ削りを施す。体部は緩やかに反り立ち上がり、端部は丸く収める。杯 (4) 外面底部、回転ヘラ切り後ナデ、その他は回転ナデ整形。外面底部から体部にかけての屈曲部から2条の回転ヘラ削りを施す。外面底部にヘラ書きを残すが、中心部が欠損しているため判読はできない。皿 (5) 底部外面、回転ヘラ切り後ナデ、他はナデ整形。口縁は短く、わずかに外反し端部は丸く収める。外面には1条の回転ヘラ削りを施す。口縁に焼き歪みが大きくでる。皿 (6) 底部外面、回転ヘラ切り後ナデ、他はナデ整形。口縁は短く、わずかに外反し、端部は丸く収める。口縁は短くわずかに反る。外面には1条の回転ヘラ削りを施す。

須恵器 蓋 (7) 外面天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体高は高く、丸みを帯び肩部に横ナデによる稜を1条残す。口縁内面は端部をつまみ、天井部にはやや太いつまみを本体整形後に貼り付け、頂部がわずかに窪む。杯 (8) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、その他は回転ナデ整形。外面底部から体部にかけての屈曲部から1条の回転ヘラ削りを施す。口縁は直線的に伸び、端部下でやや肥厚し端部は丸く収める。杯 (9) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、その他は回転ナデ整形。外面体部は横ナデにより稜が残らない。高杯 (10) 無蓋高杯の身。外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。外面底部から3条のヘラ削りを施す。体高は低く、口縁は直線的に伸び、口縁で肥厚し端部は丸く収める。脚部は杯部と剥離。

土坑SK004出土遺物 (Fig.84)

土師器 壺 (11) 体部は丸くやや肩の張る球体をなす。頸部は直立し、口縁部で外反し端部に至る。端部上面はわずかに稜を有する。外面はナデ、内面は下から斜め上方へヘラ削り。鉢 (12) 体部外面は横ナデ整形後ナデ、詳細な整形痕がナデと風化により観察できない。口縁は短く外反し、端部は丸く収まる。体部破片断面に粘土紐積み上げ痕あり。外面には全体に煤付着。

須恵器 蓋杯の身 (13) 外面底部は回転ヘラ切り後ヘラ削り整形による、他は回転ナデ整形。受部は短く、端部は丸く収める。直立する返しはやや厚みを帯び、受部とのバランスを欠く。内面は横ナデによる稜が細かな単位で残る。外面にわずかに自然釉がかかる。

調査区出土遺物 1区3層から6層出土遺物 (14～29) 遺構検出を行い、掘下げる過程で層位毎に取り上げた遺物。

3層出土遺物 須恵器 高台付き杯 (18) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、その他は回転ナデ整形。外面底部から体部にかけての屈曲部際に低く、丸みを帯びる高台を貼り付ける。口縁は直線的に伸び、端部下でやや肥厚しわずかに反る。端部は丸く収める。

4層出土遺物 土師器 杯 (14) 面底部、回転ヘラ切り後ナデ、その他は回転ナデ整形。外面底部にはナデ後にヘラ書きで中心に「大」を施す。杯 (15) 外面底部、回転ヘラ切り後ナデ、その他は回転ナデ整形。外面底部から体部にかけての屈曲部から1条の回転ヘラ削りを施す。体部は直線的に伸び、端部は丸く収める。高杯 (16) 面底部、回転ヘラ切り後ナデ、その他は回転ナデ整形。皿部は口縁で短く折れ、端部で外面に稜を有する。脚部は横ナデ整形により中空を呈する。皿部と脚部は別整形で後に貼り付け。脚底部は欠損し形状は不明。

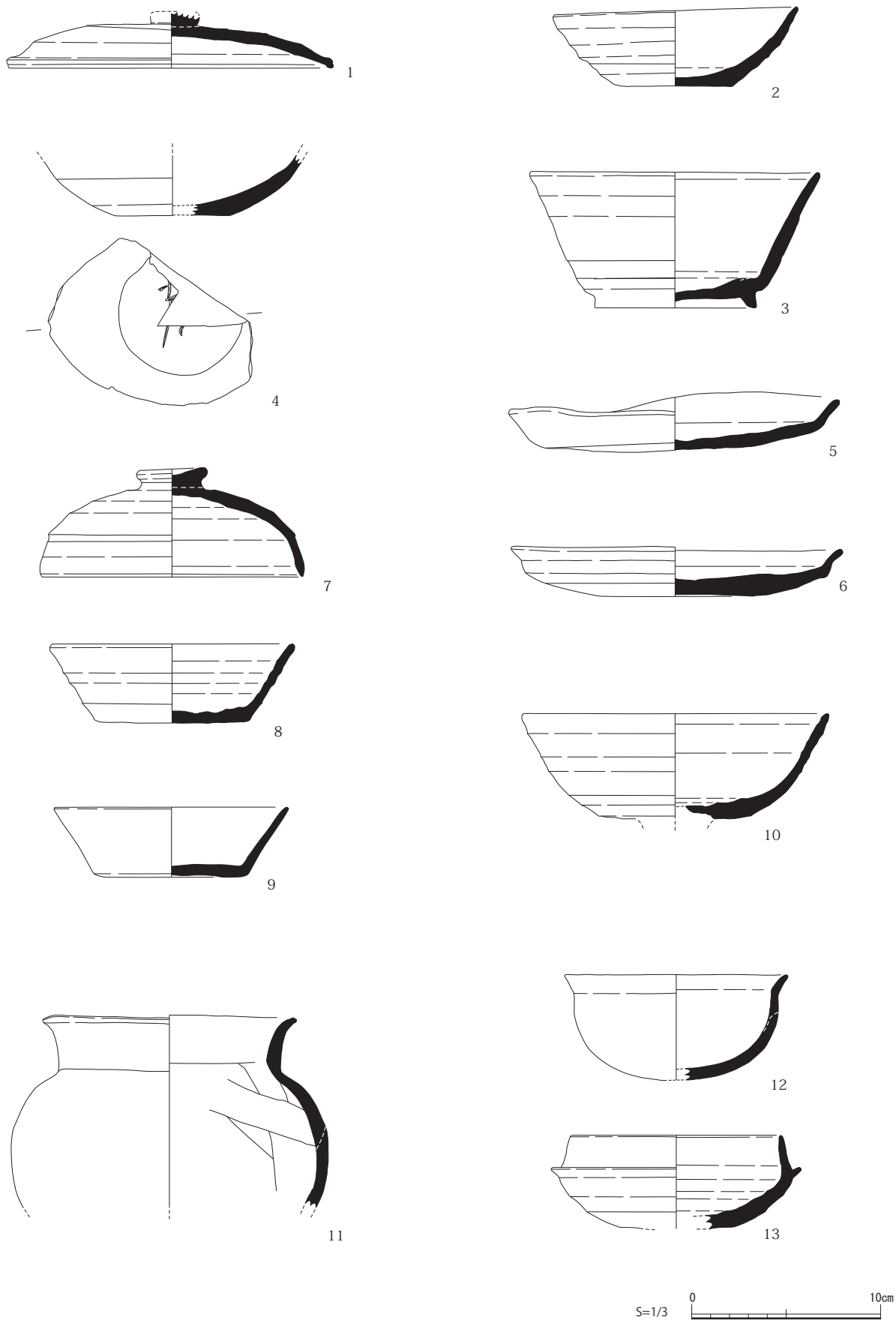


Fig.84 1区土坑SK001(1)・SK003(2・3・4・5・6・7・8・9・10)・SK004(11・12・13)出土遺物実測図

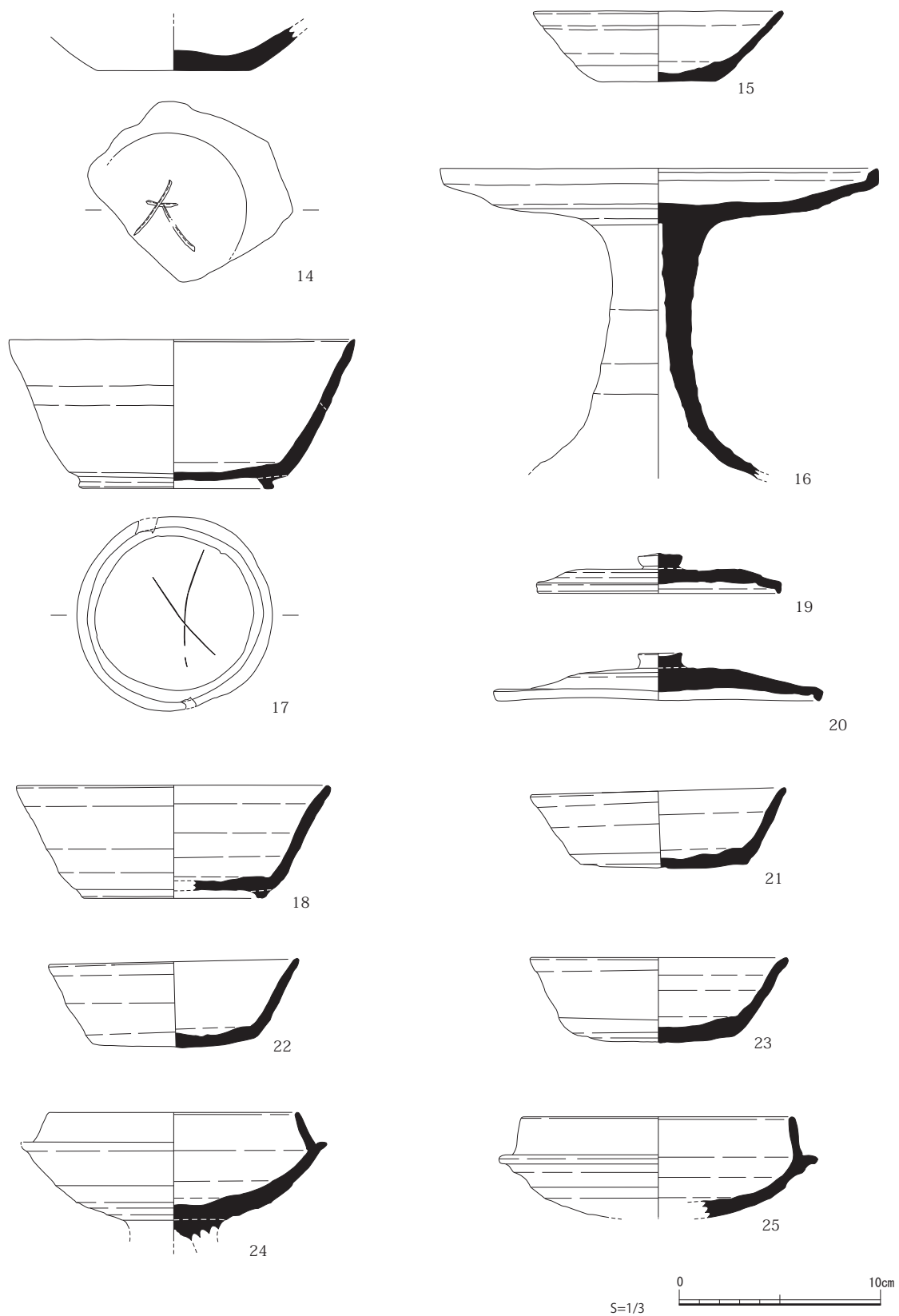


Fig.85 1区3層(18)、4層(14·15·16·19·24)、5層(21·22·23)
6層(17·25) 出土遺物実測図

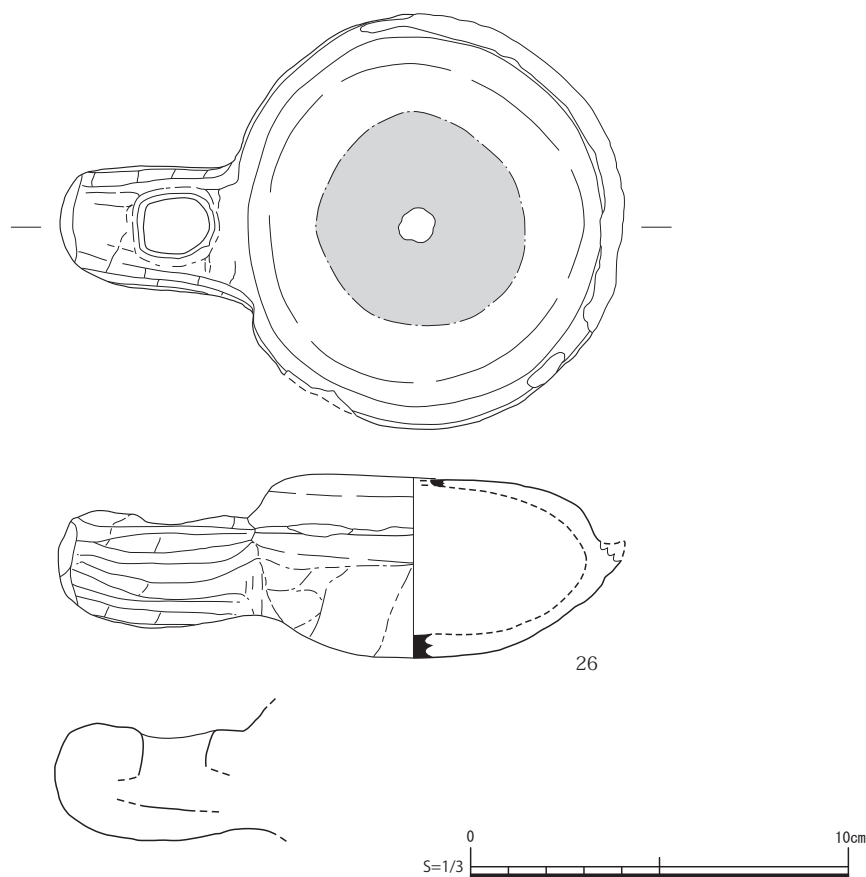


Fig.86 1区F-27Grid 4層出土遺物実測図（中空円面碗）

須恵器 蓋（19）外面天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。口縁部は短く折れ、端部は丸く収める。蓋（20）外面天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。高杯（24）立ち上がりはやや内傾し、端部に至る。端部は丸く仕上げられている。受部は太く、上面にわずかに稜をなす。底部は比較的浅いが丸みを帯びる。底部外面に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ整形を行う。脚部は接合面下より欠損する。

中空円面碗（26）中空をなす円形本体部と、こちらも中空の棒状把手部とに形状を分け説明を加える。まず、本体平面円形部であるが、中心部の円形孔周辺が面を取った状態に擦れる。孔を中心に同心円状に擦れ部は外に広がり、外縁近くでは擦れが薄くなる。本体外面底部は指ナデにより調整され、整形時の調整が残されていない。体部周囲は受状の張り出しがあり、あたかも古墳時代須恵器蓋杯の身に見られる形状の受部のようなものである。体部平面はほぼ円形で、周囲の受部が一部欠損する。中空の棒状部と本体体部は、孔で繋がり連結する。棒状部には隅丸方形がやや崩れた孔が粘土切り取りにより穿たれ、体内の中空部と繋がる。外面はヘラ削りにより荒い整形を受ける。本体との連結部は本体整形後穿孔され、別途作成された棒状部とを指ナデにより接合する。

本体中心部に穿たれる孔は、本来は本体の整形時の上面にあたり、中空部を閉める際の蓋に相当する部分であったことが実測業務のなかで観察された。その結果、粘土貼り付け部であるため器壁が薄いこと、その後の用途から面を磨ることにより更に薄さが増して、最終的に擦れることで孔が開いたものと考えられる。擦面には墨痕等は見られない。

土師器 甕（27）口縁から体部へ移る部位。口縁部は「く」字状に屈曲し、端部に向けわずかに外反し端部は丸く収める。体部はやや膨らみを持ちながら最大径部へ向け伸びる。他の資料との比較から長胴型の甕であることが窺える。

5層出土遺物(21~23)須恵器 杯(21)外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線で立ち上がり、端部は丸く収める。底部屈曲部から体部にかけて1条のヘラ削りを施す。杯(22)外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線で立ち上がり、口縁下でやや肥厚し、端部は丸く収める。杯(23)外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線で立ち上がり、屈曲部から体部中位まで厚みを帯びるが、口縁部で薄くなる。端部は丸く収める。底部屈曲部から体部にかけて1条のヘラ削りを施す。

甕(28)口縁から体部の最大径部にあたる部位。体部は丸みを帯び底部へと向かう。口縁部は「く」字状を呈し、端部はやや肥厚し丸く収めている。釜(29)体部中位より底部にかけての部位。両端に手づくねとヘラ調整による棒状の把手を貼り付ける。体部はわずかに丸みを帯び底部でわずかに平底状を呈する。外面は横ナデ整形、内面は下から上部に向かってヘラ削り調整を施す。把手貼り付け部を境にヘラ削りは横位に移る。

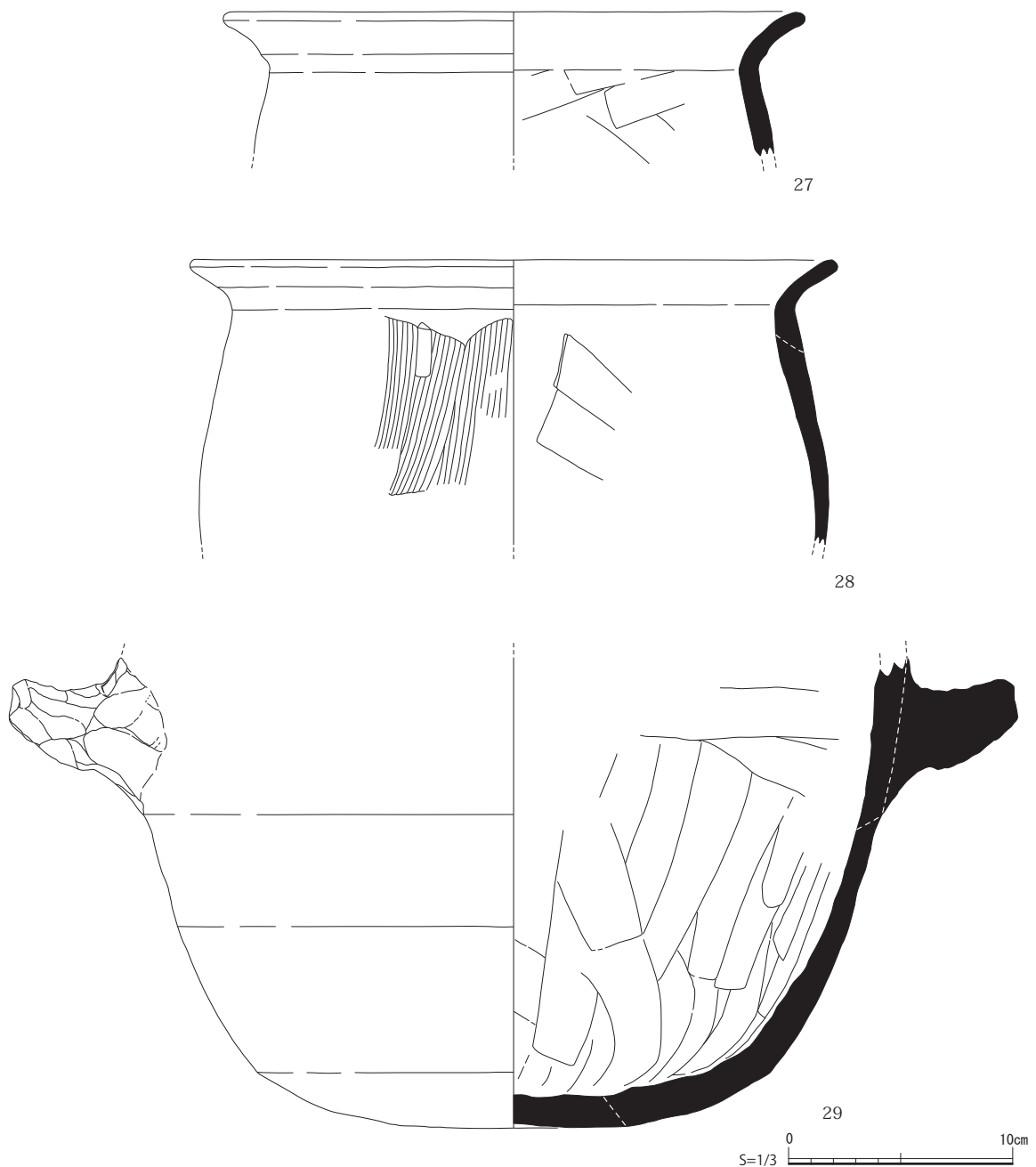


Fig.87 1区4層(27)・5層(28・29)出土遺物実測図

6層出土遺物 土師器 高台付杯 (17) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線で立ち上がり、端部は丸く収める。底部から体部への屈曲部より高台幅分、内に入った位置に高台を貼り付ける。高台内面には「×」のヘラ記号が施される。

須恵器 蓋杯 身 (25) 立ち上がりはわずかに内傾し端部に至る。端部直下で内外面とも肥厚する。受部は太く、横に短く伸びる。底部は浅いが丸みを帯びる。底部外面に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ整形を行う。

2 2区出土遺物 本調査区は、本線調査区45区の北東に隣接し位置する調査区。検出面は3面。

溝SD003出土遺物 (Fig.88) 土師器 椀 (30) 横ナデにより口縁端部まで整形され、外面底部も高台貼り付け後のナデにより調整痕が見られない。外面底部は平坦部を持たず丸みを帯びる形状をなす。高台は端部で外反し内面に稜を有す。体部貼り付け部は指ナデ痕が残る。(31) 横ナデにより口縁端部まで整形され、

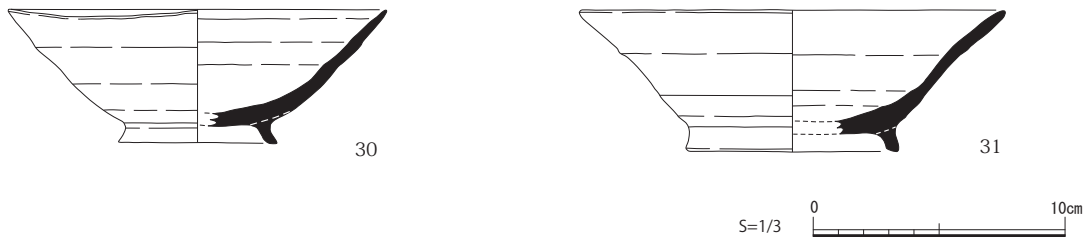


Fig.88 2区溝SD003 (30・31) 出土遺物実測図

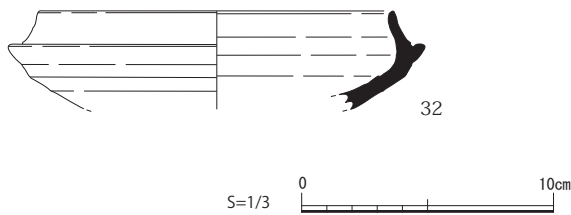


Fig.89 2区土坑SK001 出土遺物実測図

外面底部の切り離し痕は高台貼り付け時の調整により不明。外面体部は直線的に外へ開き、中位でやや肥厚しわずかに反る。底部はやや平坦面を有し、体部との屈曲部際に高台を貼り付け、内面に稜を有する。外面体部には1状の回転ヘラ削りを施す。

土坑SK001出土遺物 (Fig.89) 須恵器 蓋杯 身 (32) 口縁から体部にかけて

の部位。外面底部の調整は不明だが、残存している部分は回転ナデ整形による。立ち上がりは比較的高く、わずかに内傾して上方に伸び、端部は丸く仕上げられている。受部は短く端部は丸い。6世紀後半。

土坑SK002出土遺物 (Fig.90・91) 土師器 壺 (33) 口縁から頸部を経て体部上半までの部位。頸部では「く」字状に屈曲し端部に向かい強く外反する。体部との境は、体部ヘラ削りが頸部内面の刷毛目調整を切る位置をもって境をなす。外面は頸部から体部にかけて刷毛目調整が縦方向に入る。刷毛を押しあてた痕跡が明瞭に残る。壺 (34) 口縁から頸部を経て体部上半までの部位。頸部では「く」字状に屈曲し、端部に向かい強く外反する。35で見られた頸部内面の刷毛目調整は見られないが、ここではナデにより整形する。外面は頸部から体部にかけて刷毛目調整が縦方向に入る。刷毛を押しあてた痕跡が明瞭に残る。

甕 (35) 甕口縁から胴部上半にかけての部位。わずかにくびれる頸部を中心に口縁部に向かってやや肥厚し外反している。また、胴部は張りがなく最大径部下は緩やかに内湾する器形を呈すると考えられる。製作技法は、粘土紐輪積み成形であることが、断面に残る2か所の粘土接合線によって見て取れる。外面体部は頸部を境に刷毛目調整、内面は頸部下でヘラ削りを施す。

無蓋高杯 (36) 外面底部の切り離し痕は後の回転ヘラ削りにより不明である。整形は横ナデ、底部から3条の回転ヘラ削りを施し体部に丸みを持たせる。口縁は緩く内湾し、端部は丸く収める。脚部との接合面は剥

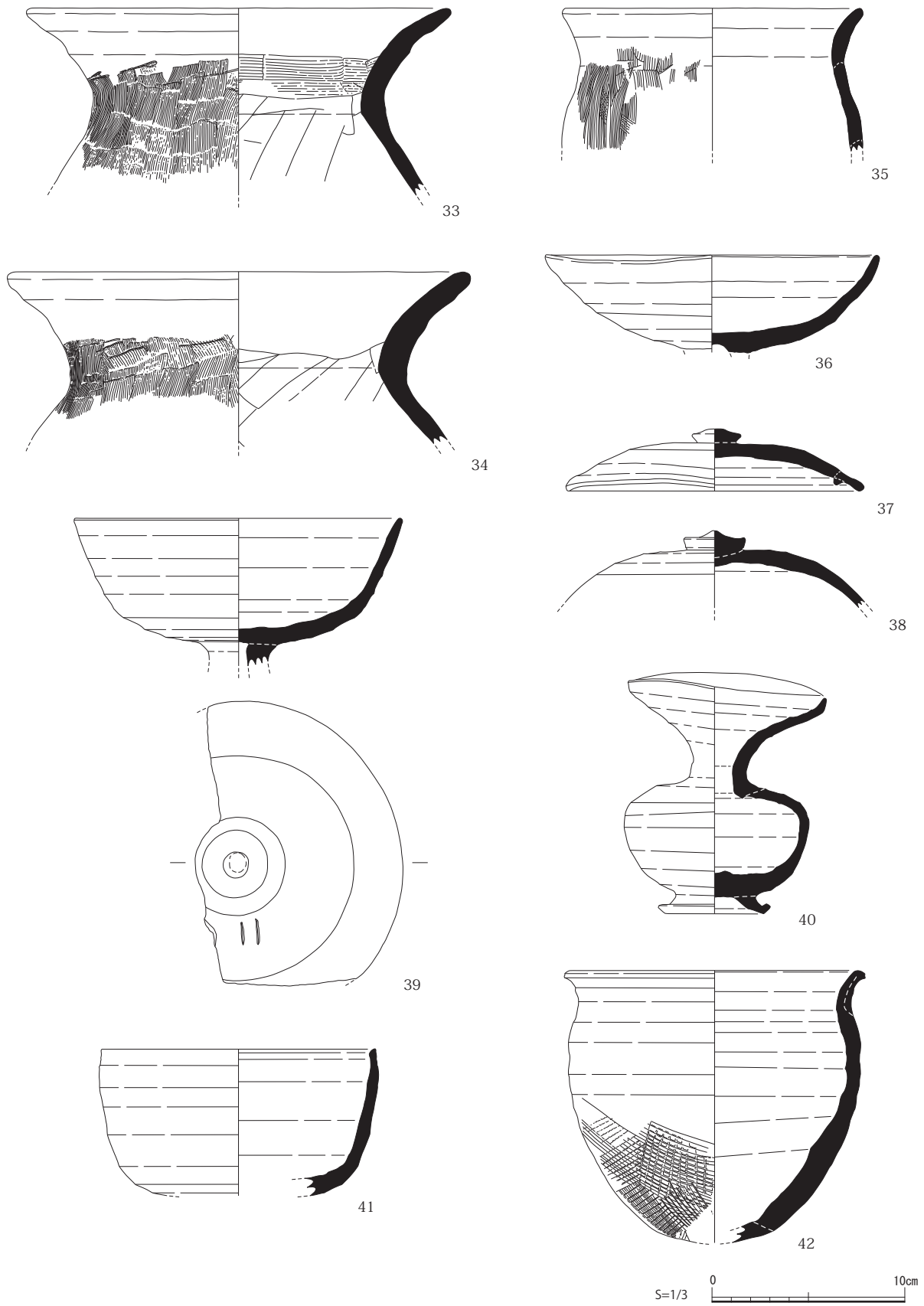


Fig.90 2区土坑SK002 (33~42) 出土遺物実測図-①

離し、中心部に脚貼り付け時の調整による窪みを残す。やや焼き歪みが残る。須恵器 蓋 (37) 天井部はわずかに平坦で、回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ整形を行う。口縁部は内面に突起状の退化したかえりが付く。天井頂部に宝珠状のつまみを貼り付ける。当該器種は、41の鉢に伴う蓋の可能性が高い。蓋 (38) 天井部は丸みを有し、現存している部位からは口縁部までなだらかに下る。天井部は回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ整形を行う。天井頂部に宝珠状のつまみを貼り付ける。無蓋高杯 (39) 杯部の口縁は、なだらかに上外方に伸び端部へと至る。端部は丸く仕上げられている。外面底部は回転ヘラ削り調整が施される。底部中央には基部の比較的細い脚が接合される。底部にはヘラにより二本の線が刻まれる。長頸壺 (40) 口頸部は基部が細く、外湾気味に上方に伸び、端部近くで角度を変え短く上方へ伸びる。体部最大径は上位に求められる。体部の一部が欠損しているため臆である可能性もある。体部最大径部にまで回転ヘラ削り整形、他は回転ナデ整形を行っている。なお、口頸部に焼き歪みが認められる。鉢 (41) 直立する体部は口縁部付近でやや内湾し、端部で内面に稜を有し尖る。底部は回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ整形。甕 (42) 短く外反する口縁部は端部に稜を有し、やや角ばった形状をなす。体部は最大径を上位に有し緩やかに底部へ至り、丸底を呈する。外面には格子目叩きを有するが、内面は横ナデにより当て具痕は残らない。

平瓦 (43) 凹面は布目圧痕で、側縁に布の重なりによる圧痕が残る。凸面は格子目叩きを呈する。側縁部は直角に切られナデる。羽口 (44) 羽口の約 1/3 が残存する。燃烧面接続部は鉛色に変化、変色している部分が顕著に見られる。装着角度は 26° を測る。羽口 (45) 小片であるが、実測図左側に燃烧部接合面を有する。

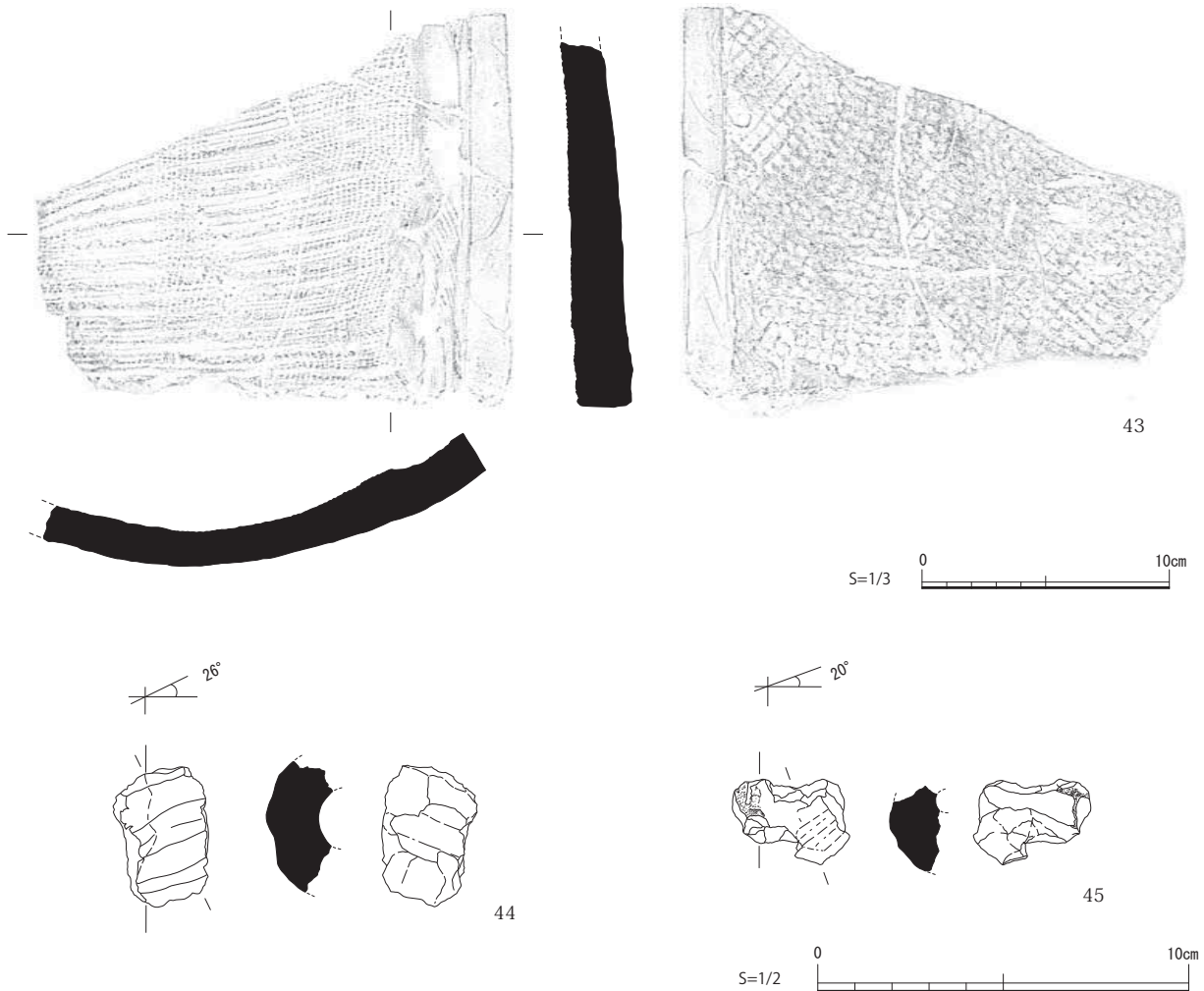


Fig.91 2区土坑 SK002 (43～45) 出土遺物実測図一②

燃烧部に面する部分は一部鉛色に表面が溶け、その周りを赤化状態から同心円状に色調の変化が見られる。装着角度は20°を測る。

土坑SK003出土遺物 (Fig.92) (46～51) 須恵器 こね鉢 (46) 体部基部のひと回り大きな底部を有し、安定感を持たせる。体部は上方外へ伸び端部は内面に稜を有し、やや角張る。底部は円形で台状を呈し、中央部に外面から内面に向かい3か所の穿孔を施す。蓋 (47) 天井部近くで丸みを帯びる体部は、外面に回転ヘラ削り調整、他は横ナデ整形を施す。口縁部は緩やかに端部に至り、丸く収める。内面に突起状の退化した返しが付く。また、外面天井に宝珠形つまみが付く。杯 (48) 底部のみの部位で、内面にヘラ記号を施す。外面底部は回転ヘラ削り調整、他は横ナデ整形を施す。

羽口 (49) 使用によって破損した羽口の先端部。炉内で鉛色に変化した範囲が、内面にまで見られる。赤化した範囲が同心円状に広がる。装着角度は4°と推測される。羽口(50)先端部は完形で残り基部は欠損する。

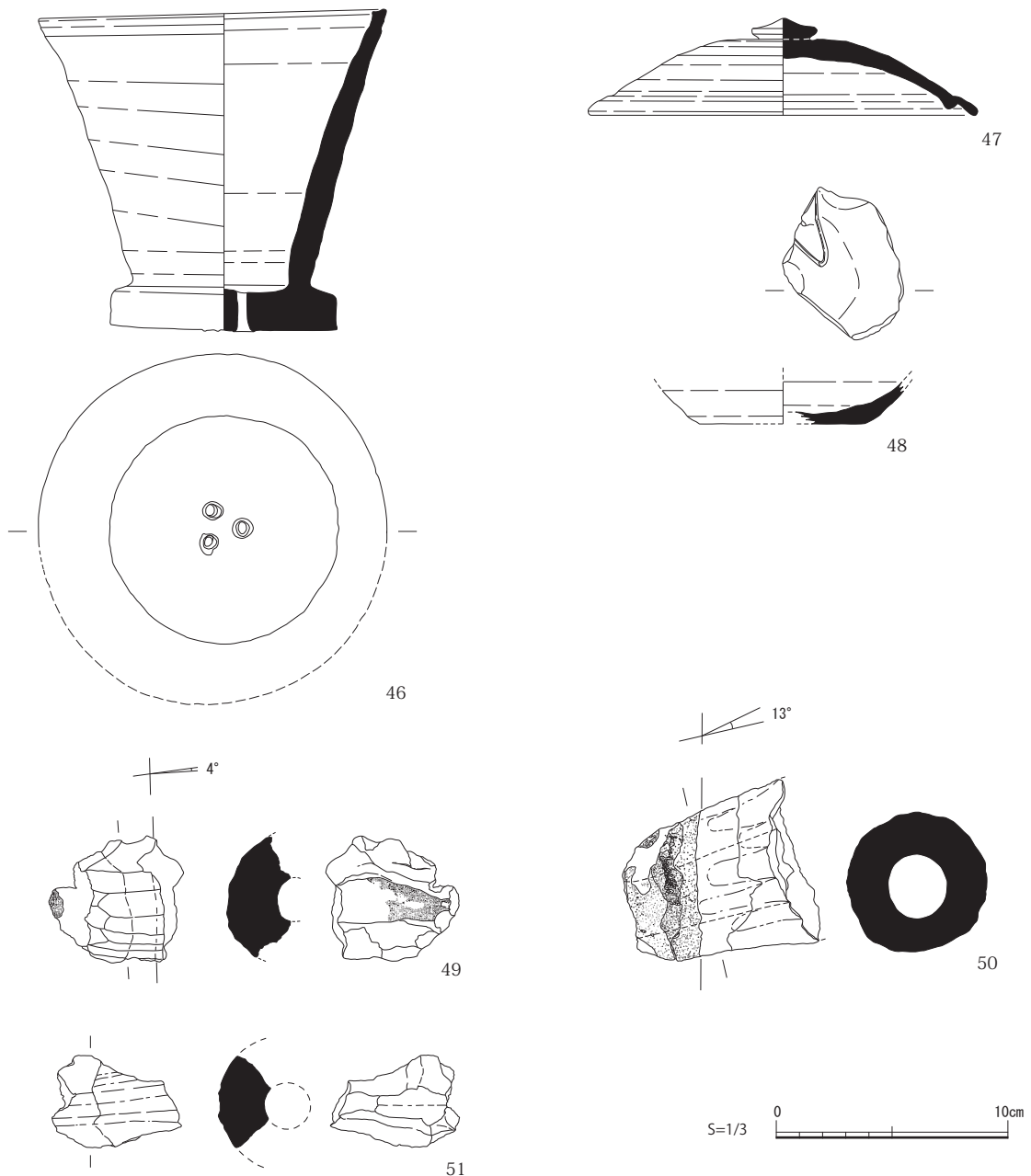


Fig.92 2区土坑 SK003 (46～51) 出土遺物実測図

内部の送風孔は装着口と基部側で幅が違うことから先端部が細くなるように整形したものと見られる。先端部は焼により銑色に変色し、その外側は赤化した部分が同心円状に広がる。装着角度は13°と推測される。羽口（51）使用によって破損した羽口の先端部に近い部位にあたる。外面は赤化した面がわずかに残る。装着角度は不明。

土坑SK004出土遺物（Fig.93） 須恵器 高杯（52） 脚部欠損のため、杯部のみ出土。外面底部には脚部を貼り付けた後、透かしを入れた切り込み痕が1か所につき2本、計3か所見られる。いずれも鋭利な刃物痕を残す。中心は脚接合後の調整によりやや窪む。杯部はほかに見られる蓋杯の杯と同様の手法で整形される。立ち上がりは低く内傾して端部に至る。端部は丸く仕上げる。受部はわずかに内湾し端部は丸い。底部は浅く、丸みを帯びない。外面底部は回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ整形による。

土坑SK005出土遺物（Fig.93） 土師器 甕（53） 長胴で頸部が緩やかでやや伸びた「く」字状に広がり、口縁部で外反する。端部は丸く収める。外面は頸部までは明瞭な刷毛目調整を残すが、口縁部になると刷毛目をナデ消す。内面は胴部にはヘラ削りが縦横に残り、頸部に横刷毛目、口縁部はナデ整形となる。

土坑SK013出土遺物（Fig.93） 須恵器 蓋杯 杯（54） 立ち上がりは低く内傾して端部に至る。端部は丸く仕上げる。受部はわずかに肥厚し水平に短く伸び、丸く収まる。底部は浅いが、丸みを帯びる。外面底部は回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ整形による。

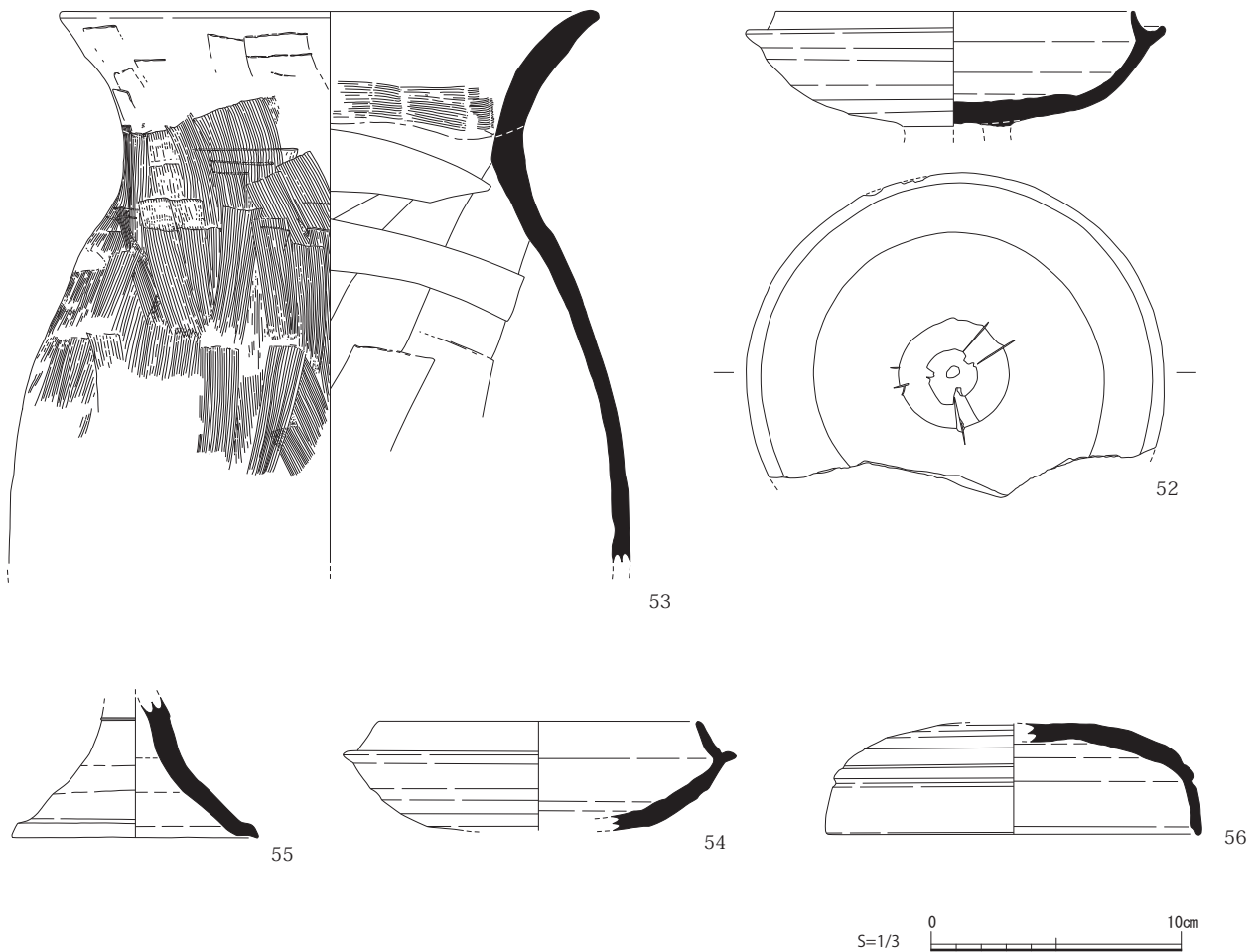


Fig.93 2区土坑 SK004(52)・SK005(53)・SK013(54)・SK014(55)・SK015(56)出土遺物実測図

土坑SK014出土遺物 (Fig.93) 土師器 高杯 (脚部) (55) 細くなる杯部との接点から下部にかけての部位。横ナデにより整形され底部でわずかに折れ、端部に至る。杯部との接点となる基部のやや下に1条の沈線が巡る。

土坑SK015出土遺物 (Fig.93) 須恵器 蓋 (56) 天井は比較的平らで、口縁部との境は丸みを帯びるが稜を巡らせている。口縁部はなだらかに下がり、端部は内傾する凹面をなす。天井部には回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ整形を行う。各部位とも前時代の同器種に比べ、丸みを帯びる。

調査区出土遺物① (Fig.94)

F-33Grid出土遺物 土師器 壺 (57) 球体をなす体部を呈し、頸部で急激にすぼまり、頸部を経て口縁部にかけて緩やかに外反する。端部は外面に稜を有し沈線状の窪みを呈する。外面体部は平行叩き痕が頸部下から残るが、内面は当て具痕等はナデ整形により残らない。胴部と頸部との境は、横ナデにより断面にわずかに稜が残る。

F-34Grid出土遺物 甕 (58) 最大径部を下方に有する土器。口縁は頸部で「く」字状に屈曲する。体部外面は縦方向を主体とする刷毛目調整で、底部近くで密に施す。内面は下から上へを基本とするヘラ削りを施し、その結果頸部での「く」字状を明瞭に作り出している稜を形づくる。断面に粘土紐輪積み痕が残る。

杯 (59) 外面底部、回転ヘラ削り後ナデ整形、他は回転ナデ整形。高台は比較的長く、開き気味に伸びる。高台外の体部にわずかに横ナデ整形時の粘土の盛り上がりが残る。高台付き杯 (60) 外面底部、回転ヘラ削り後ナデ整形、他は回転ナデ整形。口縁端部は内面を押えやや薄くなり尖る。高台付き椀 (61) 外面底部、回転ヘラ削り後ナデ整形、他は回転ナデ整形。底部から体部にかけての屈曲部から1条の回転ヘラ削りを施す。口縁端部は内面を押えやや薄くなり尖る。高台付き杯 (62) 丸みを帯びる底部から体部にかけて外に開く高台が付く。高台は比較的断面三角形を呈する。

E-34Grid出土遺物 土錘 (63～66) 狭い範囲から出土している。粘土を細い棒に巻き付け成形した漁労用刺し網の錘と考えられる。両端部は完全に形を残すものは少なく、中心が膨らみ粘土のバランスにより上部にあたる端部が欠損していることが多く、使用による破損であると考えられる。

調査区出土遺物② (Fig.95) 須恵器 蓋 (67) 天井部近くで丸みを帯びる体部は、外面に回転ヘラ削り整形、他は横ナデ整形を施す。口縁部は緩やかに端部に至り、丸く収める。内面に突起状の退化した返しが付く。また、外面天井に宝珠形つまみが付く。

F-33・34Grid 10層出土遺物 須恵器蓋杯 身 (68) 立ち上がりは低く、わずかに内傾し端部に至る。端部は丸く仕上げる。受部はわずかに肥厚し水平に短く伸び、丸く収まる。底部は浅く、丸みを帯びない。外面底部は回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ整形による。

F-33Grid 14層出土遺物 須恵器蓋杯 身 (69) 立ち上がりは比較的長く、わずかに内傾して端部に至る。端部は丸く仕上げる。受部は短い水平に伸び、端部は丸い。底部は深く、丸みを帯びる。底部は欠損のため調整は不明だが、他は回転ナデ整形。(70) 立ち上がりは長く、わずかに内傾し端部に至る。端部内面で横ナデによりわずかに稜を形成する。端部は丸く仕上げる。受部はわずかに内湾し伸び、端部は丸く収まる。底部は欠損のため調整は不明だが、他は回転ナデ整形。

E-33Grid 17層出土遺物 須恵器蓋杯 身 (71) 立ち上がりは比較的長く、わずかに内傾しながら端部に至る。端部は丸く仕上げる。受部は短い水平に伸び、端部は丸い。底部は浅いが、丸みを帯びる。底部は欠損のため調整は詳細は不明だが、回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ整形。

F-12・13Grid出土遺物 提瓶 (72) 口径部から体部の大半までは欠損。体部は扁平な球体をなし、両端にわずかに丸みを持ち、中心部付近に回転カキ目調整を行う。体部両側肩にかぎ形をなす退化した把手を貼り付けする。

須恵器蓋杯 蓋 (73) 口縁部は内湾気味に下がり端部に至る。口縁端部は尖り、わずかに丸みを帯びる。天井部は比較的高く平らに近い。天井部外面は回転ヘラ削り、他は回転ナデ整形。

蓋杯 身 (74) 立ち上がりは比較的短くわずかに内傾して端部に至る。端部は丸く仕上げる。受部は短い、

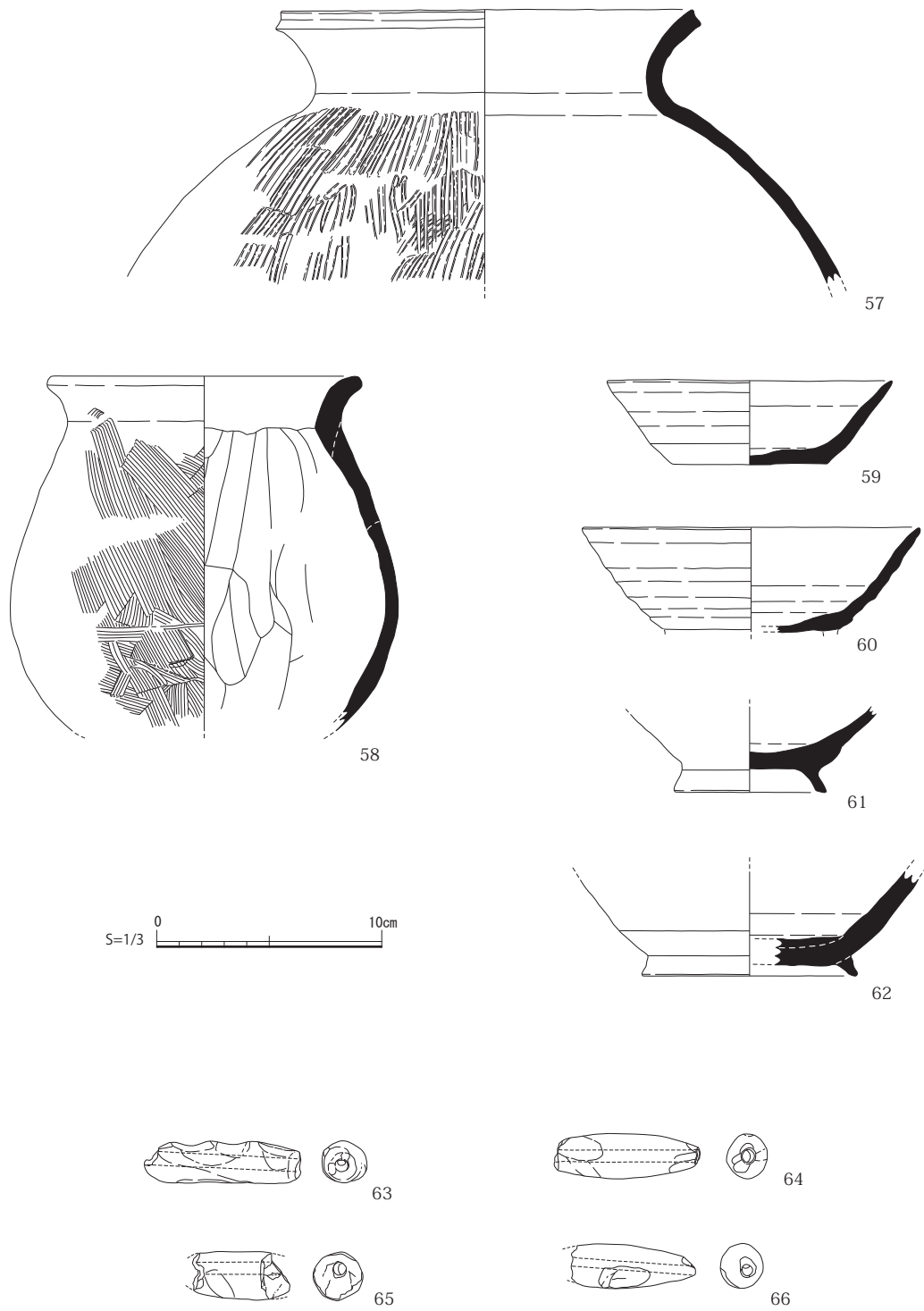


Fig.94 2区調査区出土遺物実測図(57-66)一①

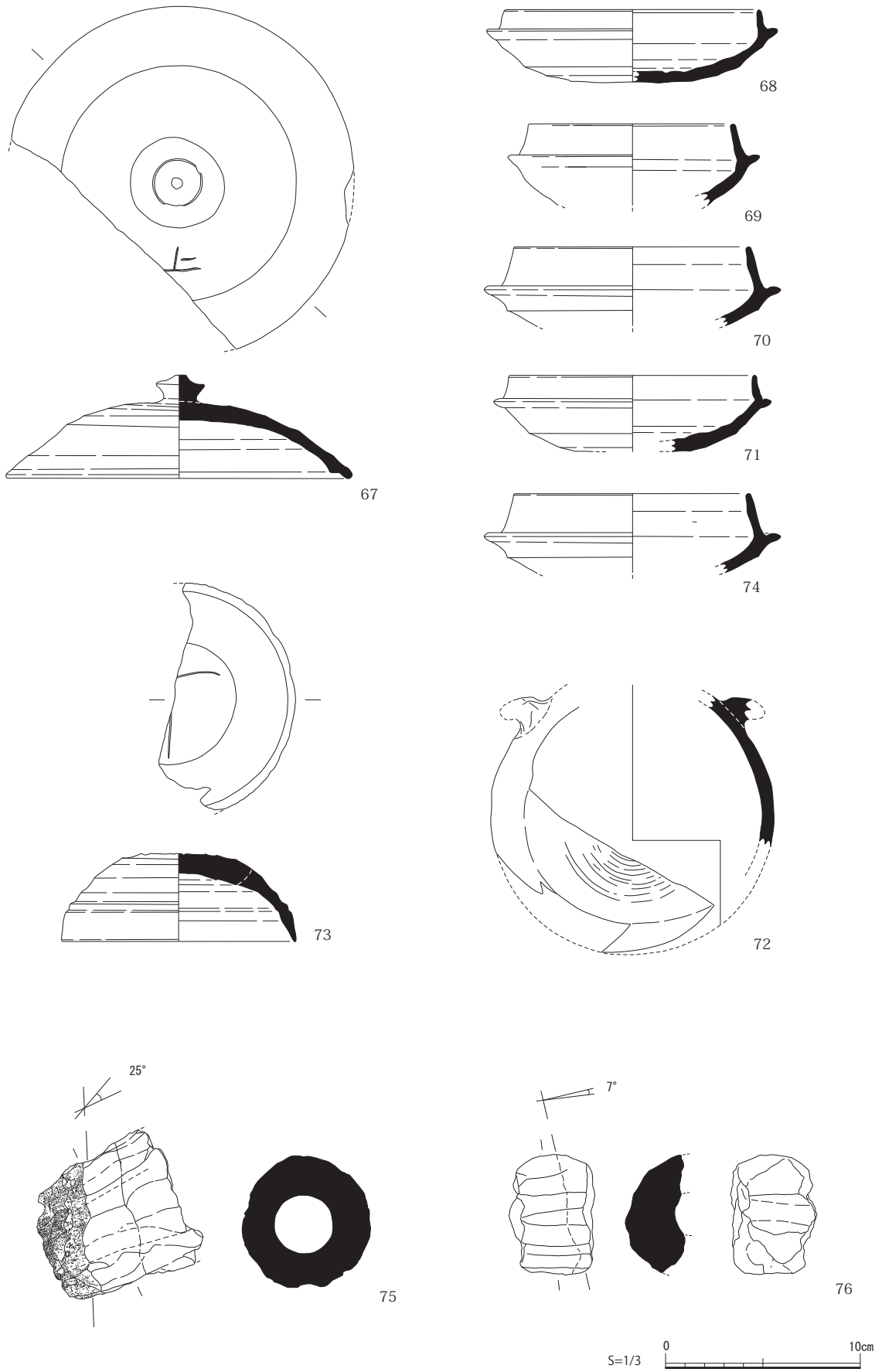


Fig.95 2区調査出土遺物実測図 (67-76)-②

水平に伸び端部は丸い。底部は浅く、やや扁平気味。底部外面は回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ整形。
 羽口 (75) 先端部は完形で残り基部は欠損する。内部の送風孔は装着口と基部側で幅が違うことから先端部が細くなるように整形したものと見られる。先端部は燃烧により飴色に変色し、その外側は赤化した部分が同心円状に広がる。装着角度は25°と推測される。(76) 使用によって破損した羽口の先端部に近い部位にあたる。外面は赤化した面がわずかに残る。装着角度はおよそ7°と推測する。

3 3区出土遺物 (Fig.96)

須恵器 蓋杯 身 (77) 立ち上がりは比較的高くわずかに肥厚する。端部は横ナデにより外端部が尖り、内面にわずかに稜を残す。受部は短く上部に稜が巡る。底部は浅く、やや扁平気味。外面底部は回転ヘラ削り、他は回転ナデ整形。

石製品 砥石 (78) 材質は砂岩で、平坦部を呈する面はすべて中央部が擦り痕により窪むまで使用痕が残る。また、刃部を削るように深く短い線状の擦り痕も多く残る。

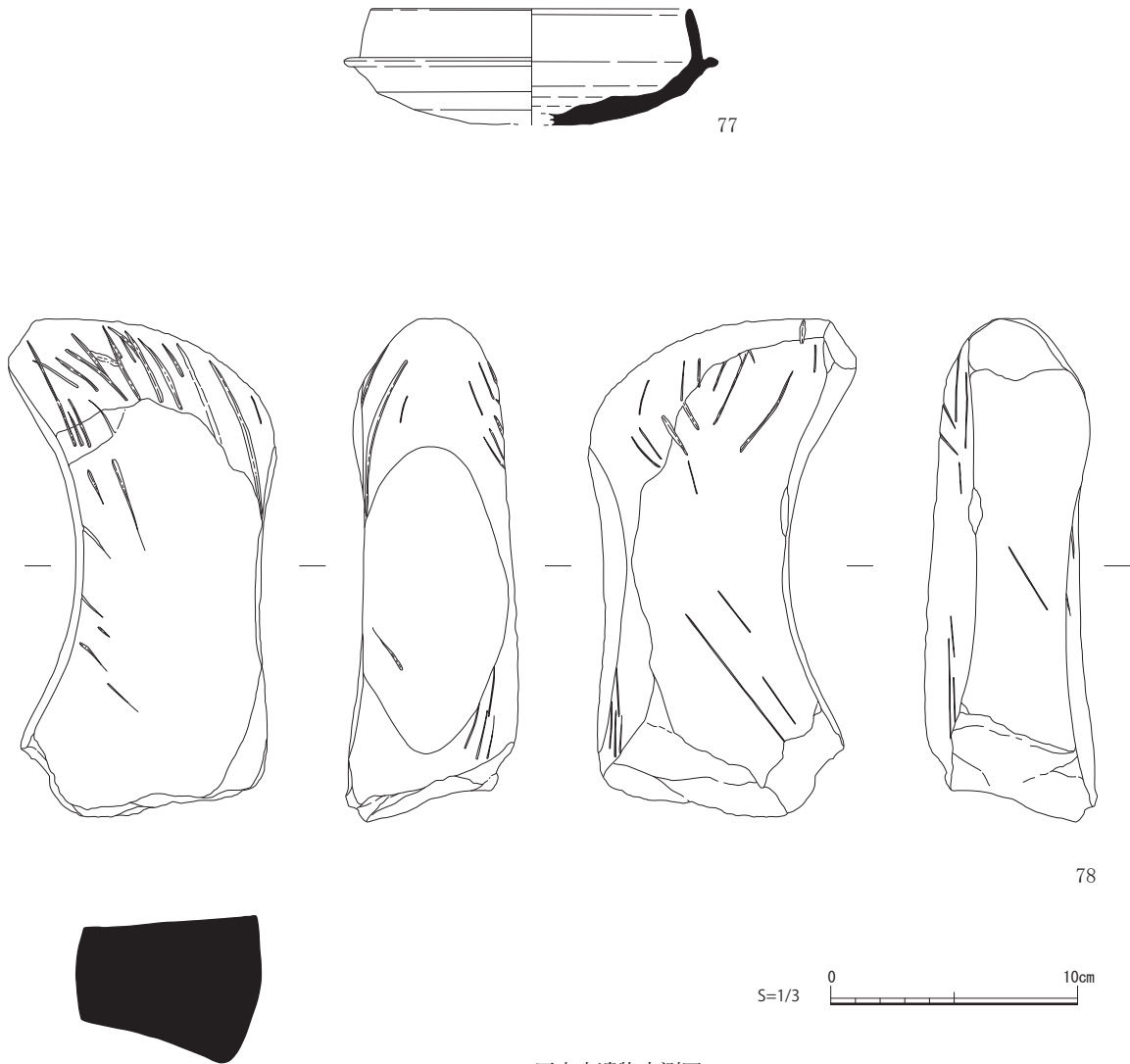


Fig.96 3区出土遺物実測図

宮地観行寺遺跡 遺物観察表

宮地観行寺遺跡 出土遺物観察表

遺物番号	Fig No	PL No	調査区	種別	器種	出土地点				法量 (cm)				色調			
						遺構番号	層	注記	グリッド	口径	底径	最大口径	残存高	外器面	内器面		
1	84	40	1区	土師器	蓋	SK001	-	-	F-28	(17.1)	-	-	(2.7)	灰白N7/0	灰白N7/0		
2			1区	土師器	杯	SK003	-	No4	F-27	12.9	5.9	-	4.2	橙2.5YR6/8	橙5YR7/6		
3			1区	土師器	高台付杯	SK003	-	No3	F-27	15.2	6.5	-	7.2	橙5YR6/8	橙5YR6/8		
4			1区	土師器	杯	SK003	-	-	F-27	-	(6.0)	-	(3.2)	にぶい黄橙10YR6/3	にぶい黄橙10YR7/4		
5		1区	土師器	皿	SK003	-	No2	F-27	17.4	8.6	-	3.2	浅黄橙10YR8/3	浅黄橙10YR8/3			
6		1区	土師器	皿	SK003	-	No1	F-27	17.4	8.1	-	2.6	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6			
7		1区	須恵器	蓋	SK003	-	No5	F-27	(13.8)	-	-	5.8	灰N6/0	灰N6/0			
8		1区	須恵器	杯	SK003	-	-	F-27	(12.8)	(8.2)	-	4.2	灰白2.5Y7/1	灰白2.5Y7/1			
9		1区	須恵器	杯	SK003	2層	-	F-27	(12.3)	(8.2)	-	3.7	灰10Y5/1	灰10Y5/1			
10		1区	須恵器	高杯	SK003	2層	-	F-27	(16.1)	-	-	(5.55)	灰7.5Y6/1	灰7.5Y6/1			
11		1区	土師器	壺	SK004	-	-	F-27	(13.1)	-	16.9	(10.0)	明赤褐2.5YR5/8	赤褐5YR4/8			
12	1区	土師器	鉢	SK004	-	-	F-27	(11.7)	-	-	(5.6)	橙7.5YR6/6	にぶい黄橙10YR6/4				
13	1区	須恵器	杯	SK004	-	-	F-27	(11.0)	5.9	-	4.95	灰白10YR7/1	灰白10YR7/1				
14	85	47	1区	土師器	杯	-	4層	-	-	(7.6)	-	(2.2)	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6			
15			1区	土師器	杯	-	4層	-	-	(12.3)	5.7	-	3.5	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6		
16		41	1区	土師器	高杯	-	4層	-	-	21.7	-	-	(15.4)	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6		
17			1区	土師器	高台付杯	-	6層	-	-	(17.1)	9.7	-	7.3	淡橙5YR8/3	にぶい橙5YR7/4		
18		40	1区	須恵器	高台付杯	-	3層	-	-	(15.5)	(8.9)	-	5.6	灰N6/0	灰N6/0		
19			1区	須恵器	蓋	-	4層	-	-	(12.0)	-	-	2.0	灰5Y5/1	黄灰2.5Y5/1		
20		1区	須恵器	蓋	-	4層	-	-	16.0	-	-	2.4	青灰5B6/1	青灰5B6/1			
21		1区	須恵器	杯	-	5層	-	-	12.6	8.2	-	4.0	灰N6/0	灰5Y6/1			
22		1区	須恵器	杯	-	5層	-	-	12.3	3.0	-	4.4	灰N5/0	灰5Y6/1			
23		1区	須恵器	杯	-	5層	-	-	12.7	4.0	-	4.2	灰5Y6/1	灰5Y6/1			
24		1区	須恵器	高杯	-	4層	-	-	(12.3)	-	-	(6.4)	灰N6/0	灰N6/0			
25	1区	須恵器	高杯	-	6層	-	-	(13.3)	-	-	(5.0)	明青灰5B7/1	明青灰5B7/1				
26	86	41	1区	須恵器	中空門面碗	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
27	87	41	1区	土師器	甕	-	4層	-	-	(25.1)	-	-	(6.3)	橙5YR7/4	橙7.5YR7/6		
28			1区	土師器	甕	-	5層	-	-	(28.9)	-	-	(12.7)	にぶい橙7.5YR6/4	にぶい橙7.5YR6/4		
29	88	41	1区	土師器	釜	-	4-5層	-	-	-	-	-	(21.0)	赤褐2.5YR4/8	赤褐2.5YR4/6		
30			2区	土師器	椀	SD003	-	No1	E-33-34	(15.0)	(6.3)	-	5.3	橙2.5YR7/8	橙5YR7/8		
31	89	41	2区	土師器	椀	SD003	-	-	R-33-34	(16.9)	-	-	5.6	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4		
32			2区	須恵器	杯	SK001	-	-	F-34	14.0	-	-	3.9	青灰10BG6/1	青灰10BG6/1		
33	90	41	2区	土師器	壺	SK002	-	No11	F-34	(21.6)	-	-	(9.7)	明赤褐2.5YR5/8	明赤褐2.5YR5/8		
34			2区	土師器	壺	SK002	-	No19	F-34	23.4	-	-	8.9	赤褐5YR4/8	明赤褐5YR5/6		
35		2区	土師器	甕	SK002	-	No24	F-34	(15.3)	-	-	(7.4)	にぶい赤褐5YR4/4	暗赤褐5YR3/3			
36		2区	土師器	無蓋高杯	SK002	-	No22	F-34	(17.2)	-	-	5.05	浅黄7.5YR8/6	橙5YR7/6			
37		41	41	2区	須恵器	蓋	SK002	-	-	F-34	15.1	-	-	3.2	灰白2.5Y7/1	灰白2.5Y8/1	
38				2区	須恵器	蓋	SK002	-	-	F-34	-	-	-	(4.0)	灰N6/0	灰N6/0	
39		47	41	2区	須恵器	無蓋高杯	SK002	-	-	F-34	16.8	-	-	7.6	青灰5B5/1	灰N4/0	
40		41	41	2区	須恵器	長頸壺	SK002	-	No3	F-34	10.2	5.8	9.6	11.9	黒N2/0	暗灰N3/0	
41				2区	須恵器	鉢	SK002	-	-	F-34	14.2	-	-	(7.6)	灰N4/0	灰N4/0	
42		2区	須恵器	甕	SK002	-	-	F-34	(15.0)	-	(15.1)	(14.2)	暗灰N3/0	暗灰N3/0			
43		91	41	2区	瓦	平瓦	SK002	-	-	-	-	-	-	-	-		
44	2区			土製品	羽口	SK002	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
45	92	42	2区	土製品	羽口	SK002	-	-	-	-	-	-	-	-			
46			2区	須恵器	こね鉢	SK003	6層	-	F-34	15.0	9.8	-	13.9	灰白N7/1	灰白10Y7/1		
47		47	42	2区	須恵器	蓋	SK003	-	-	F-34	(16.7)	-	-	4.2	灰N4/0	灰青10BG5/0	
48				2区	須恵器	杯	SK003	9層	-	F-34	-	-	-	(1.8)	灰白10YR7/1	灰白10YR7/1	
49		42	42	2区	土製品	羽口	SK003	-	-	-	-	-	-	-	-		
50				2区	土製品	羽口	SK003	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
51		93	42	2区	土製品	羽口	SK003	-	-	-	-	-	-	-	-		
52				2区	須恵器	高杯	SK004	1層	-	F-33	14.3	-	-	(4.5)	暗赤灰10R4/1	にぶい赤褐2.5YR5/3	
53			41	42	2区	土師器	甕	SK005	14層	-	F-33	21.1	-	-	(22.0)	赤褐5YR4/8	明赤褐5YR5/6
54					2区	須恵器	杯	SK013	-	-	F-33	(12.8)	-	-	(4.4)	灰N6/0	灰N6/0
55			2区	土師器	高杯	SK014	-	-	F-33	-	-	9.8	(5.6)	橙5YR7/8	橙5YR7/8		
56	2区		須恵器	蓋	SK015	-	-	E-F-33	14.8	-	-	4.4	灰白N7/0	灰白N7/0			
57	2区		土師器	壺	-	-	-	F-33	(18.3)	-	-	(14.7)	-	-			
58	2区		土師器	甕	-	-	-	F-34	(14.0)	-	(17.2)	(15.7)	にぶい橙7.5YR7/4	浅黄橙7.5YR8/3			
59	2区		土師器	杯	-	-	-	-	(12.6)	(6.85)	-	3.7	橙5YR6/8	明赤褐5YR5/8			
60	2区		土師器	高台付杯	-	-	-	-	(14.9)	-	-	4.7	橙5YR7/8	橙5YR7/8			
61	2区		土師器	高台付鉢	-	-	-	-	-	6.6	-	(3.8)	浅黄橙7.5YR8/4	浅黄橙7.5YR8/4			
62	2区	土師器	高台付杯	-	-	-	-	-	(9.6)	-	(4.6)	橙5YR7/8	橙5YR7/8				
63	94	41	2区	土製品	土鐘	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
64			2区	土製品	土鐘	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
65	95	41	2区	土製品	土鐘	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
66			2区	土製品	土鐘	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
67		42	42	2区	須恵器	蓋	SK016	-	No9	F-33	17.5	-	-	5.3	灰N4/0	灰N5/0	
68				2区	須恵器	杯	-	10層	-	E-33-34	(13.0)	-	-	3.7	灰N5/0	オリープ灰2.5GY6/1	
69		2区	須恵器	杯	-	14層	-	F-33	(10.4)	-	-	(4.2)	灰オリープ7.5Y5/3	灰7.5Y5/1			
70		2区	須恵器	杯	-	14層	-	F-33	(12.0)	-	-	(4.1)	オリープ灰5GY6/1	オリープ灰5GY5/1			
71		2区	須恵器	杯	-	17層	-	E-33	(12.6)	-	-	(3.9)	灰N5/0	灰N6/0			
72		2区	須恵器	提瓶	-	14層	-	F-33	-	-	-	(13.2)	灰白N7/0	灰白N7/0			
73		2区	須恵器	蓋	-	-	-	-	(12.0)	-	-	(4.5)	青黒5PB2/1	青灰5PB5/1			
74		2区	須恵器	杯	-	-	-	-	12.9	-	-	(3.7)	灰N6/0	灰N6/0			
75		96	42	2区	土製品	羽口	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
76	2区			土製品	羽口	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
77	96	42	3区	須恵器	杯	-	6層	-	-	(12.8)	-	-	4.7	灰白N7/0	灰白N7/0		
78			3区	石製品	砥石	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		

Tab.12

	胎 土	調 整				備 考	清物 番号
		外 器 面	内 器 面	外 底 面	内 底 面		
長石、角閃石	横ナテ	横ナテ	—	—		1	
長石	横ナテ	横ナテ	回転ヘラ削り	横ナテ		2	
長石	横ナテ、回転ヘラ削り	横ナテ	手持ちヘラ削り	横ナテ		3	
石英、長石、角閃石	回転ヘラ削り	横ナテ	ヘラ切り後ナテ	横ナテ	ヘラ書きあり	4	
石英、角閃石、赤色酸化粒	横ナテ	横ナテ	回転ヘラ削り、手持ちヘラ切り	横ナテ	焼き歪みあり	5	
長石、角閃石、石英、金雲母	横ナテ	横ナテ	回転ヘラ削り	横ナテ	焼き歪みあり	6	
長石、石英	回転ヘラ削り、横ナテ	横ナテ、横ナテ後ナテ	—	—	つまみあり、蓋のつまみ部分は貼り付けた後、横ナテ後ヘラ削り	7	
長石、輝石	回転ヘラ削り後横ナテ、 回転ヘラ削り	回転ヘラ削り後横ナテ	ヘラ切り後ナテ	回転ヘラ削り後横ナテ		8	
石英	横ナテ	ナテ	ナテ	ナテ		9	
長石、輝石	回転ヘラ削り後横ナテ回 転ヘラ削り	回転ヘラ削り後横ナテ	—	—	全体6分の1残存 脚注～裾部なし	10	
長石、輝石、金雲母	横ナテ、ナテ	横ナテ、削り	—	—		11	
長石、輝石、金雲母	ナテ	横ナテ、ナテ	—	—	煤付着	12	
長石	横ナテ	横ナテ	ヘラ削り	横ナテ後ナテ	外部に自然釉	13	
長石、輝石	ナテ	ナテ	ヘラ切り	ナテ	ヘラ書き「大」	14	
石英、長石	横ナテ	横ナテ	ヘラ削り	横ナテ		15	
石英、長石、角閃石	ヘラ削り後ナテ、ナテ、 回転ヘラ削り	横ナテ	—	—	赤色顔料	16	
石英、雲母、角閃石	横ナテ	横ナテ	ナテ	横ナテ	外底面に板状圧痕とヘラ記号 器表面赤彩	17	
長石	横ナテ	横ナテ	ヘラ切り後ナテ	横ナテ後ナテ		18	
長石	ヘラ削り、横ナテ	横ナテ	—	—	つまみあり 蓋の裏にヘラで無造作に撫でた跡あり	19	
長石、黒色粒	横ナテ、ヘラ切り後ナテ	横ナテ後ヘラ調整	—	—	つまみあり 少し焼き歪みがある	20	
長石	ヘラ削り、横ナテ	横ナテ	ヘラ切り、ナテ	横ナテ	口縁部に煤付着 少し焼きゆがみがある 6mm次の小石を含む	21	
長石	横ナテ	横ナテ	ヘラ切り、ナテ	横ナテ	全体に焼き歪みあり 口縁部に煤付着	22	
長石	横ナテ、ヘラ削り	横ナテ	回転ヘラ削り	横ナテ	底部中央にヘラ痕あり	23	
長石	横ナテ、回転ヘラ削り	横ナテ	—	横ナテ後ナテ	(杯部外・脚部内)自然釉。口縁部を下にして焼成	24	
長石	ナテ、回転ヘラ削り	ナテ	—	—		25	
					*別表(硯)参照	26	
長石、石英、輝石、雲母	横ナテ、ハケ目	横ナテ、ヘラ削り	—	—	外面はハケ目の痕があるが摩耗してはつきりしない	27	
石英、長石、角閃石、雲母	横ナテ、ハケ目	ナテ、ヘラ削り後ナテ	—	—		28	
長石、雲母	ヘラ削り後ナテ	ヘラ削り	ヘラ削り後ナテ	ヘラ削り		29	
長石	横ナテ	横ナテ	ナテ	横ナテ		30	
長石	横ナテ、ヘラ削り	横ナテ	ヘラ削り後ナテ	横ナテ	貼付高台	31	
長石	横ナテ、ヘラ削り	横ナテ	—	—		32	
石英、雲母	横ナテ、ヘラ削り後ハケ目	口縁部ハケ目ナテ、ヘラ削り	—	—		33	
石英、雲母	横ナテ、ヘラ削り後ハケ目	横ナテ、ヘラ削り	—	—		34	
石英、雲母	ナテ、ハケ目	ナテ、ヘラ削り後ナテ	—	—		35	
長石	横ナテ、回転ヘラ削り	横ナテ	—	横ナテ、ナテ	焼き歪みあり 黒斑あり	36	
長石	回転ナテ、ヘラ削り	ヘラ削り後ナテ、ナテ	—	—	つまみあり 口縁部粘土貼付 焼き歪みあり	37	
長石	横ナテ、ヘラ削り	横ナテ	—	—	つまみあり 蓋のつまみ部分は貼付	38	
長石	横ナテ、回転ヘラ削り	横ナテ、ナテ	—	—	(杯部外)ヘラ記号	39	
黒色粒	横ナテ、ヘラ削り	横ナテ	横ナテ	—	自然釉 底部、眼、口縁部と別々に作り後付 焼き歪みあり	40	
長石	横ナテ、ヘラ削り	横ナテ	—	—	焼き歪みあり	41	
黒色粒	タタキ、回転ナテ	回転ナテ	—	—	格子目と平行タタキあり	42	
					*別表(瓦)参照	43	
					*別表(鞆の羽口)参照	44	
					*別表(鞆の羽口)参照	45	
長石	横ナテ	横ナテ	ナテ	ナテ	底部の穴は底部の方から穿孔し上面をヘラで削りを施してある 底部と胴部は別々に作って後に合わせてある	46	
長石	横ナテ、ヘラ削り	横ナテ	—	—	つまみあり 内部に石か何かの痕か、それをヘラで掻き消した痕がある	47	
長石、石英	横ナテ	—	—	—	ヘラ記号あり	48	
					別表(鞆の羽口)参照	49	
					別表(鞆の羽口)参照	50	
					別表(鞆の羽口)参照	51	
長石	横ナテ、ヘラ削り	横ナテ	—	ナテ	脚部に透しを施したと見られる痕が3方向に見られる高杯の脚部接合の様に杯部の見込みに直径10cm内のナテ痕が見られる	52	
長石、雲母	ハケ目、ナテ	横ナテ、ヘラ削り	—	—	内外面の胴部に黒斑あり 外器面ヘラ調整後ハケ目	53	
長石	横ナテ、回転ヘラ削り	横ナテ	—	—		54	
長石	横ナテ	ナテ、横ナテ	—	—	底部に歪みあり 外面部に黒い煤付着	55	
長石	横ナテ、ヘラ削り	横ナテ、横ナテ後ナテ	—	—		56	
						57	
長石、石英、角閃石	ナテ、ハケ目	ナテ、ヘラ削り	—	—	炭付着	58	
長石	横ナテ、ヘラ削り	横ナテ	手持ちヘラ削り	横ナテ	歪みあり	59	
長石	横ナテ	横ナテ	横ナテ	ナテ	(高台)剥がれている	60	
赤色酸化粒	横ナテ、ヘラ削り	横ナテ	ナテ	横ナテ	(底部)少し歪んでいる	61	
長石	横ナテ、ヘラ削り後ナテ	横ナテ	ナテ	横ナテ		62	
					*別表(土鐘)参照	63	
					*別表(土鐘)参照	64	
					*別表(土鐘)参照	65	
					*別表(土鐘)参照	66	
長石	回転ナテ、ヘラ削り	回転ナテ	—	—	(外)ヘラ書き「上」。口縁部に粘土の折り返し痕あり	67	
長石	横ナテ、ヘラ削り	横ナテ	ヘラ削り	—		68	
黒色粒	横ナテ	横ナテ	—	—	外底部に自然釉が付着している	69	
長石	横ナテ、回転ヘラ削り	横ナテ	—	—		70	
長石	横ナテ、ヘラ削り	横ナテ	ヘラ削り	—		71	
長石	前面に円状の掻き目	ナテ	—	—	前面に自然釉あり 上面は後乗せ	72	
長石	横ナテ	横ナテ	横ナテ	横ナテ	(外)ヘラ記号	73	
長石	横ナテ、回転ヘラ削り	横ナテ	—	—		74	
					*別表(鞆の羽口)参照	75	
					*別表(鞆の羽口)参照	76	
長石	横ナテ、回転ヘラ削り	横ナテ	—	ナテ		77	
					*別表(砥石)参照	78	

視観察表

遺物番号	Fig No	PL No	調査区	種別	器種	出土地点				法量 (cm)				色調		
						遺構番号	旧遺構	層	注記	グリッド	口径	底径	最大胴径	残存高	外面	内面
26	86	41	1区	須恵器	中空円面硯	-	-	6層	-	-	-	-	器長14.9	4.9	灰白N7/0	灰白N7/0

羽口観察表

遺物番号	Fig No	PL No	調査区	種別	器種	出土地点				法量 (cm)				色調	
						遺構番号	層	注記	グリッド	外径	孔径	長さ	装着角度	外面	内面
44	91		2区	土製品	羽口	SK002	6層	-	-	(6.8)	(2.7)	(3.9)	26°	橙5YR6/6	明赤褐5YR5/6
45			2区	土製品	羽口	SK002	-	No.2	-	-	-	(4.3)	-	灰N4/0	黒10YR2/1 橙7.5YR6/8
49	42	42	2区	土製品	羽口	SK003	13層	-	-	(6.4)	(2.6)	(5.8)	4°	暗赤灰2.5YR3/1	明赤褐5YR5/6
50			2区	土製品	羽口	SK003	6層	-	-	7.2	2.7	(8.0)	13°	黒7.5YR2/1 にぶい黄褐10YR5/3	赤褐2.5YR4/6
51			2区	土製品	羽口	SK003	13層	-	-	(6.2)	(2.0)	(5.5)	-	褐灰10YR4/1 赤褐5YR4/8	赤褐2.5YR4/8
75			2区	土製品	羽口		-	-	-	6.6	2.95	(7.7)	25°	橙2.5YR6/8	にぶい赤褐4/4
76			2区	土製品	羽口	包含	10層	-	E-33	(7.4)	(2.6)	(4.45)	7°	にぶい橙7.5YR7/4	橙2.5YR6/6

鉄滓観察表

遺物番号	Fig No	PL No	調査区	器種	遺構番号	出土地点			法量 (cm)		
						層	注記	グリッド	口径	底径	重量 (g)
79			1区	鉄滓	-	-	-	-	長軸 3.1	短軸 2.43	重さ 16.8
80			1区	鉄滓	-	-	-	-	長軸 2.3	短軸 1.86	重さ 7.7

磁石観察表

遺物番号	Fig No	PL No	調査区	器種	遺構番号	出土地点			法量 (cm)		
						層	注記	グリッド	長径	短径	重さ (kg)
78	96	42	3区	磁石	-	6層	-	-	20.2	7.5	1.8

瓦観察表

遺物番号	Fig No	PL No	調査区	器種	遺構番号	グリッド	層	注記	法量		
									長さ	幅	厚さ
43	91	41	2区	平瓦	SK002	-	-	-	(17.8)	1.4	-

土鐘観察表

遺物番号	Fig No	PL No	調査区	器種	出土地点				法量 (cm)			
					遺構番号	グリッド	層	注記	長径	幅	孔径(外)	
63	94		2区	土鐘	-	E-34	-	-	6.91	2.04	1.06	
64			2区	土鐘	-	E-34	-	-	6.36	1.99	1.09	
65			2区	土鐘	-	E-34	14層	-	-	(4.3)	2.1	-
66			2区	土鐘	-	E-34	14層	-	-	(5.5)	2.0	-

Tab.13

	調整		備考	遺物番号
	外器面	内器面		
	ナテ	-	頸部は胴部と別個に張り合わせてある 頸部縦方向にヘラ削りによる成形が施されている 胴部外底面は手持ちヘラによる成形が施されている	26

	胎土	調整		備考	遺物番号
		外器面	内器面		
	長石 赤色酸化粒	-	-		44
	長石	-	-		45
	長石	-	-	装着角度は変色部位がほぼ平行で4°しか確認できない	49
	長石	-	-		50
	長石	-	-		51
	長石	ヘラ削り後ナテ	-		75
	長石 赤色酸化粒	ヘラ削り後ナテ	-		76

	法量 (cm)	備考	遺物番号
	残存高		
	-		79
	-		80

	石材	備考	遺物番号
	リソライイト		78

	色調		胎土	調整		備考	遺物番号
	凹面	凸面		凹面	凸面		
	-	灰褐7.5YR5/2 灰5Y4/1	長石 赤色酸化粒	布目痕、ヘラ横ナ テ、ナテ	格子目タタキ		43

	法量 (cm)		備考	遺物番号
	孔径 (内)	重量 (g)		
	0.45	25.4		63
	0.51	22.7		64
	0.55	18.7		65
	0.45	19.4		66

附編

1. 各時代の様相

古墳時代

古墳時代の遺構は少ないが、遺物としてはひどく焼き歪みのある須恵器・融着した須恵器片が多く出土している。このような須恵器は窯が操業されていた近辺で見られることが多い。八代地域の須恵器窯の存在は昔から指摘されているが、明確な窯跡は発見されていない。焼き歪みや融着した須恵器片は各調査区の包含層に広く分布しており、出土も少量ずつであることなどを考慮すると、今回の調査区と直接関係があるというよりも、むしろ水無川によって運ばれてきたと考えるべきであり、水無川の上流に窯が存在する可能性が高いことを示していると考えられる。同様に八代丸山窯跡でも融着した須恵器が出土しており、共に八代地域で須恵器窯が操業されていた可能性を示唆するものとして注目される。

37区SA01（図.1）を含めた37・38区5層検出のピット群と39区SX01（図.1）はこの時期のものと考えられる。これは同一基準にて設置された遺構と思われ、古代の建物群とは明らかな相違が見られる。また37区SA01の側には遺構の軸がほぼ同一の柵列もしくは建物跡がみられ、ある程度継続的に、この軸を基調とした遺構が形成されていたと考えられる。39区SX01は配石遺構であるがその性格は不明である。これらの遺構が当時どのように機能していたかを理解するには資料が少なく困難であるが、36区で多く出土している鞆の羽口はこれを理解する資料となりえるかもしれない。

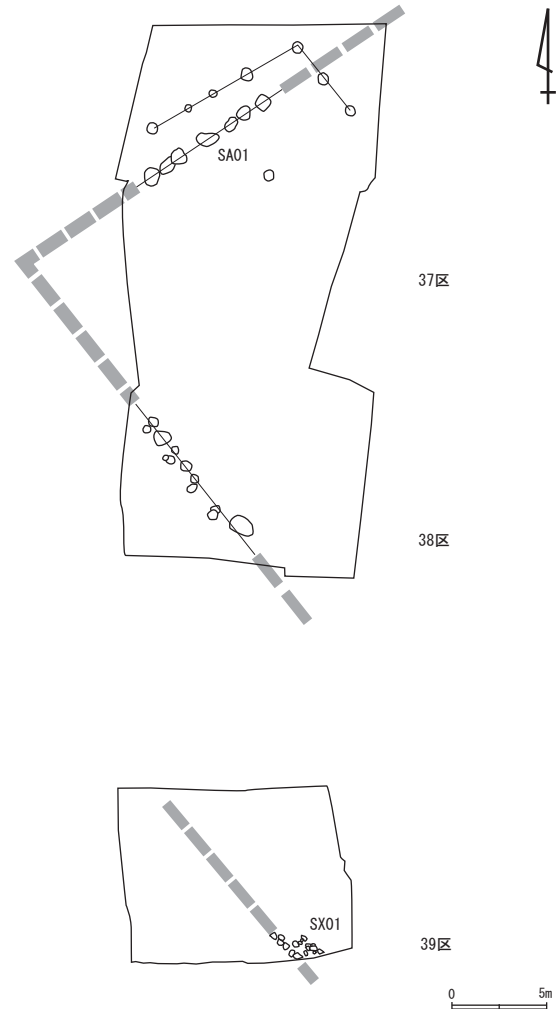


図.1 37～39区検出遺構（古墳時代）

奈良・平安時代

宮地地区付近には片野駅推定地があり、今回の調査でも官衙関係の遺構が検出されるのではないかと期待されていた。調査区が狭いこともあり、まとまった建物群等の検出にはいたらなかったが、建物跡や柱痕の残るピット群が検出され、その周辺からは、刻書土器、硯など当時の識字層の関与が考えられる遺物を多く出土している。刻書土器には「大舎」と書かれているものもあり、この周辺が官衙に関係があった地域の可能性が考えられる。本線部分で報告されている建物は34区SB02（図.5）、37区SB01（図.5）であり、建物になる可能性のあるピット群があるのは34区、35区、36区、37区、38区である。いずれの建物も軸は若干のブレはあるものの北西向きとなり、ほぼ一致する。また、37区SB01の西側には配石遺構が検出されている。この石敷きの遺構には掘り込みはなく、地山上に直接置かれた状態で検出された。詳細は不明であるがSB01に伴うものと考えられる。建物が検出された34区～37区を中心に刻書土器、硯の出土が集中する点、建物に付随する特殊遺構の存在などを考慮すると、34区～37区を中心として一連の建物群が展開さ

れていたことが想定される。また、これらの建物群は現在の町割とほぼ一致するため、すでにこの時期に現在の町割の基盤ができてきた可能性も考えられる。一方、宮地観行寺遺跡側道2区では多くの製鉄・精錬遺構の痕跡が検出されている。直接、炉が検出されているわけではないが、高熱による赤化した地山や、炭化物と赤化した土が薄く交互に堆積した土層、スラグ、鞆の羽口の出土などが特に多く見られたことは、このあたりに生産遺跡が存在したことを示唆する重要な資料である。

中世

中世になると、遺構の検出範囲はほぼ宮地小畑遺跡に限定される。今回検出されたのは建物と溝が主である。また29・30区の中世の遺構面からは貝塚も検出されている（宮地小畑遺跡29区）。貝塚は小規模、範囲は不定形で、窪みに投棄された状態であった。29区SD04（図.2）では現在の八代神社の参道に沿うように検出された。中世段階にはすでにこの位置に道があった可能性も示す資料である。またSD04は、一端東西方向に伸ばした溝を途中で石垣を組み流路北側に曲げた痕跡がみられ、溝自体も東側では削平され、プランは残っていない。これより上面においてほぼ同じ位置に道路遺構が南北方向に見られる。これは参道に接続する小路を設け、新たな宅地の空間を確保したと考えられるが、SD04においても同じ性格を持つと思われる。30区4層上で検出されたピット

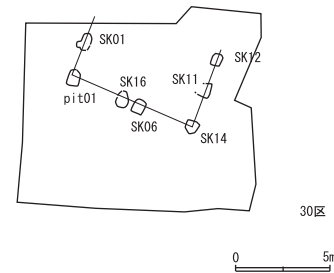
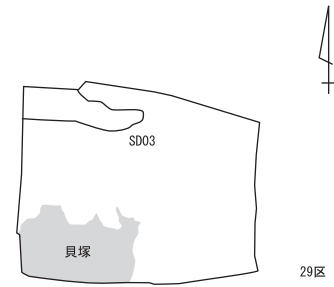


図.2 29・30区検出遺構（中世）

群においてもSK01・pit01・SK16・SK06・SK14・SK11・SK12（図.2）で建物を構成する可能性があり、その軸は29区SD04とほぼ同じものである。現在においても調査に入る前には小路が存在しており、この時期に新たにつくられた町割のプランはほぼそのままの状況で現在にまで残っている。

34区SB01（図.3）も29区で検出されたSD04にほぼ直交する軸をとる中世の遺構である。直接SD04とは関連はないと思われるが、34区東側には遺構のない空間が存在しており、34区においても小路が存在した可能性も考えられる。また34区SB01は柱穴が方形プランで0.8m弱あり、大型の建物が想定される。35区SA01（図.3）もこの時期の建物の可能性が高い。柱穴のプラン・規模とも34区SB01（図.3）とほぼ同様のもので、建物の軸もほぼ一致する。34区SB01と同様に大型建物が想定される。36区SD01（図.3）は時期不明の遺構であるが、検出された遺構面の時期からこの溝も中世の遺構であると考えられる。溝の南側は空白地となり、道である可能性もある。現在も36区南側には道があり、中世段階にこの道が形成された可能性が考えられる。37区pit01～pit10（図.5）で構成する建物は、検出された遺構面は古代の面であるが削平を受けた可能性があり、中世段階の建物跡である可能性もある。この建物跡は現在の道と古代の遺構である37区SB01とほぼ同じ軸を取る。同様に34区～36区で検出された古代の建物跡と他の中世の建物跡の軸はほぼ一致しており、かつこれらの遺構は現在の町割ともほぼ一致している。以上のことから、このあたりの町割は古代に形成された町割を再構成しつつも、踏襲していた可能性が十分に考えられる。

八代神社（妙見宮・下宮）が今の位置に移されたのが12世紀であり、古代の町割をベースに、この時期に再編成が行なわれた可能性が高い。それ以後、現在に至るまで大きな変化はなく、宮地地区の現在の景観は中世段階にほぼ完成されたといえるであろう。

また、下宮の周辺には、それに関連する施設・またそこに従事していた人の住居があったことが想定されるが、今回の調査で巨大なピット群が多数見つかっており、それらが建物を構成する可能性は十分あり、関連施設の存在の可能性を示す重要な資料となった。

近世以降

近世以降の遺構は激しい攪乱や造成のために検出が困難であり、29区の道路状遺構が見られるほかは極めて少ない。

前述の通り、現在の景観がすでに中世段階でほぼ完成されていたとすれば、近世以降の遺構は現在の集落（建物）とほぼ同じ位置に存在すると考えられる。そのため、改築時に遺構が破壊されて検出が困難であったのではないだろうか。

結び

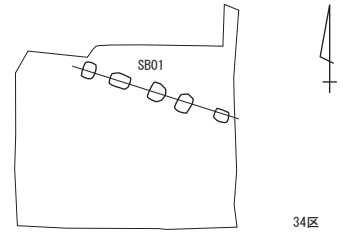
今回の調査において古墳～中世にかけて建物跡を検出することができ、それぞれの建物の軸から宮地地区の町割の変遷を解明できる可能性が出てきた。それによると古墳時代から古代に至る時期に建物の軸が変化し、それ以降は大きく変化することがない。この状況は現在の町割にも当てはまり、古代から現在まで大きく変更されることなく現在に至っている。

この地域は文献資料も豊富に残っていることから、これらの資料と発掘調査によって得られた資料をすり合わせることにより、今後、更なる詳細な調査が期待される。（宇田）

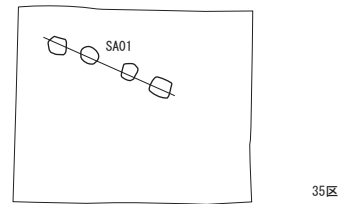
参考・引用文献

「生産遺跡基本調査報告 Ⅱ」熊本県文化財報告 第48集 1980

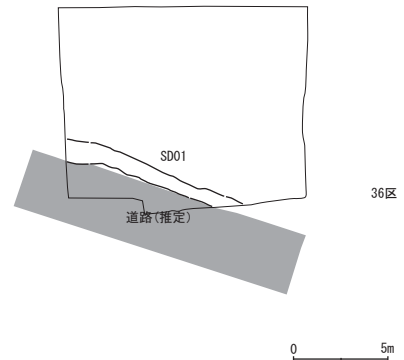
この中では須恵器生産の拠点の一つとして八代地域を八代窯跡群として認識しているが、平原瓦窯跡・八代丸山窯跡の2例しかなく、一方は瓦窯、もう一方は窯体自体が未検出である、など八代窯跡群として設定する物証が乏しい



34区



35区



36区

図. 3 34～36区検出遺構（中世）

2. 宮地小畑・観行寺遺跡で検出された建物の官衙的要素について

今回の調査区は、古代官道である西海道ルートと推定される地域に含まれる。また現在の八代神社付近は片野駅の推定地の一つとして考えられているが、今回の調査で直接それらに関係のある成果はみられなかった。しかし、興味深い成果が多くみられたのも事実である。これらのことを踏まえつつ、新幹線建設に伴う宮地地区の発掘調査がもたらした成果と今後の課題を述べる。

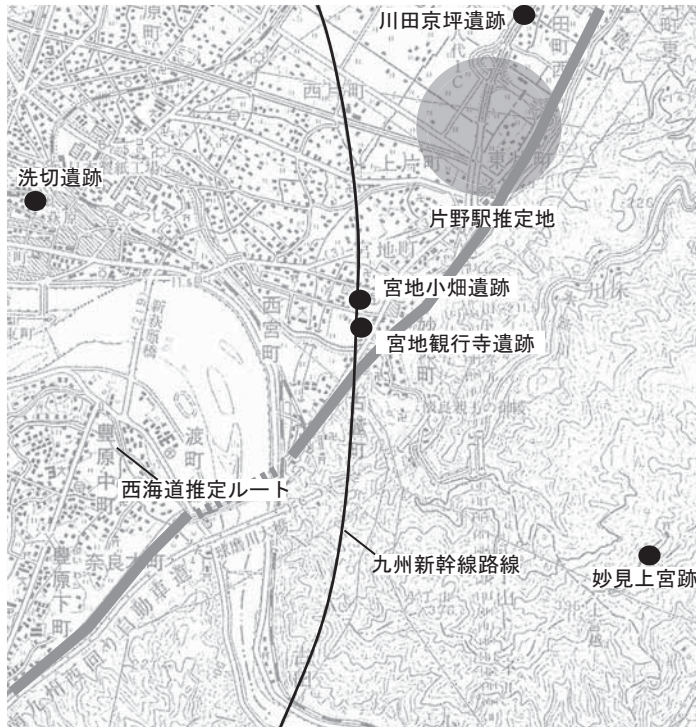


図. 4 西海道推定ルートと周辺遺跡

古代西海道の推定ルート

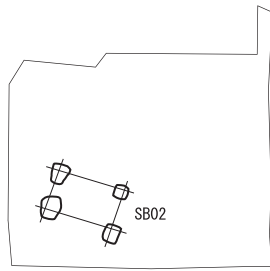
古代官道は現在的高速道路の路線と一致する事例が多い。八代地区においても推定ルートは九州道もしくは国道3号線に沿って伸びると考えられる。高速道路は各都市間を最短距離で結ぶことを前提に設計されるが、官道が国衙と国衙との間を最短距離で結ぼうとした意図と一致している。そのためルートが類似するのは当然のことであろう。その一方で、このあたりの当時の海岸線は山際近くまで来ていたと思われ、本格的に有明海の干拓が行われる以前の遺跡は山際周辺に集中している。このような地形的な制約が大きい中、当然、官道を建設する候補地に当たってもそれほど選択肢はなかったと考える。現在的高速道路は安定地盤を選択し建設されているが、これも官道のルートと一致する由縁であろう。

すでに推定ルートは多くの研究者によって研究されている。それに拠れば、現在の八代ICあたりに片野駅が設置され、そこから今回の調査区を通り古麓町から球磨川を抜け豊原中町へ至り、3号線と山際軌道を辿る。このルートでは今回の地区が西海道のすぐ西側を抜ける場所に位置する。

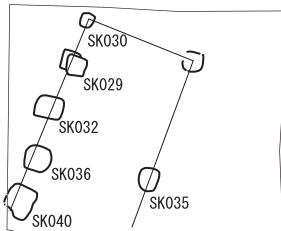
検出された建物群について

このように、今回の調査区が西海道の推定ルートに非常に近く、関連性が高いであろうことは調査前から容易に推測でき、西海道そのものの検出、片野駅またはその関連施設の検出の2点が期待された。西海道のルートに関してはすでに述べたように推定ルートそのものが調査区を抜けるわけではなく、若干西側に外れるため西海道自体の検出は困難であるが、それに伴う小規模な道などが検出される可能性も考えられた。一方、片野駅に関しては現在の八代IC付近を推定地とする場合や、八代神社北側付近を推定地とする場合とがあるなどはっきりと場所の特定ができていない。そのため、八代神社に近い今回の調査区においても、官衙関係の建物跡検出の可能性が非常に高かったのである。

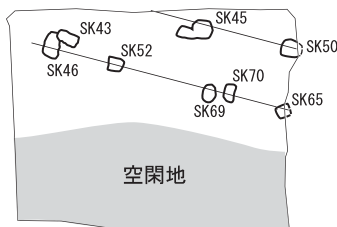
今回検出された古代の建物跡等はおおよそ8世紀中頃から末の時期のもので、34区SB02、35区4層下から検出された土坑群、36区6層土坑群、37区の列に伸びる配石遺構SX01とそれに伴う掘立柱建物群SB01やピット群などがあげられる。これらはいずれも北から70度程度東へ軸が振れており、一定の規則性が見られる。



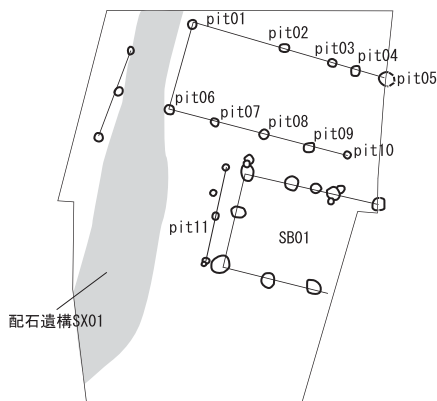
34区



35区



36区



37区

なお35区SK29・30・32・35・36・40（図.5）、36区SK43・45・46・50・52・65・69・70（図.5）などの土坑群は一列に並び、規模も34区SB02とほぼ同一であるため、これも柱穴である可能性が高いと考えられる。

34区SB02（図.5）は2間×2間が残った状態で検出され、建物の長軸は北東方向を向く。しかし、後世の攪乱のため他の柱穴が失われた可能性もあり、その規模は不明である。35区SK29・30・32・35・36・40の土坑群が構成する建物は4間以上×2間の建物である。建物の長軸は北西方向を向く。この建物は調査区外にさらに広がる可能性がある。36区SK43・45・46・50・52・65・69・70の土坑群はSK45・50とSK46・52・65・69・70がそれぞれ一直線に並び、構成される2線は平行になる。この状態では建物とはいい難いが、その可能性は十分考えられるものである。これらが建物を構成するならば、その長軸は北東方向を向く。また35区・36区の建物群として認識すれば「コ」字状の配置をする可能性も考えられる。「コ」字状の建物配置は官衙的な要素が強く、35区を中心として施設が存在した可能性を示唆するものである。

37区ではSB01とpit01～pit10で構成する建物の2棟の建物群が検出されている。SB01で検出された柱穴は2間×3間であり、さらに西側に伸びる。また、その東側には2間の柵列が検出された。pit01～pit10は1間×4間の建物を構成し、さらに西側に伸びている。どちらの建物も調査区外に伸びているため、その規模は不明である。また建物の東側に配石遺構SX01が検出されその関連性が注目される。このSX01の東側にはさらに柵列がみられ、東側にも建物群が広がる可能性を窺わせる。

なお34～36区と37区の建物の柱穴は若干の相違がみられ、36区南側には遺構が見られない空き地が存在する。そこから北と南で柱穴の大きさ、プランが変化しているのである。柱穴の規模は34～36区のものと比較すると小さく、プランも34～36区で検出された柱穴は方形であるのに対し、37区では円形に近い形状となっている。これは建物の規模に拠るものと考えられるが、36区の遺構空き地を境にこの様な相違が見られることは非常に興味深い。また37区から北側に伸びるSX01はそのまま一直線に伸びれば36区においても検出されるはずであるが、36区側では検出されていない。これも36区と37区の間

図.5 34区～37区建物検出状況（古代）



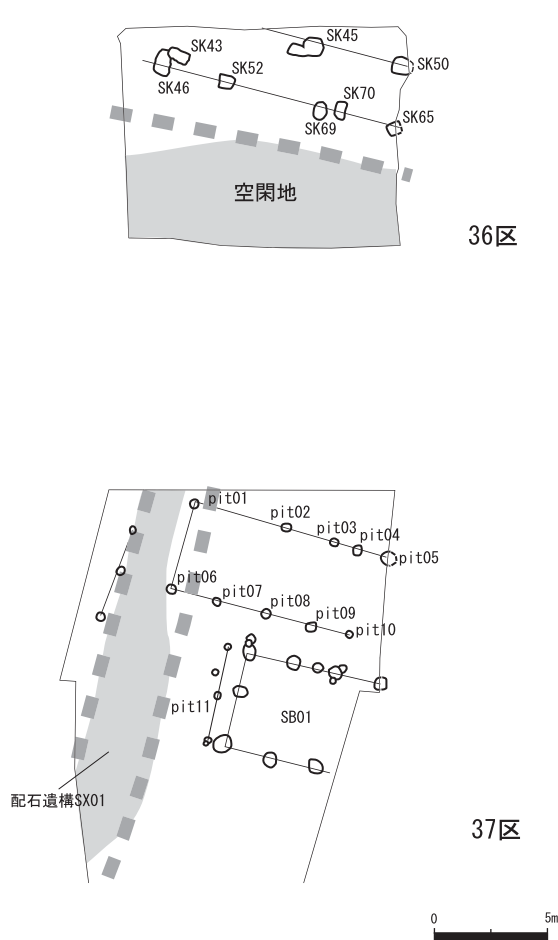


図. 6 34区～37区建物検出状況（古代）

的な差異があることを示している事象であろう。

36区南側で見られた遺構空閑地について

このような空閑地の出来る要因として、下部構造を必要としない構造物の存在が考えられる。まず考えられるのは道の存在であろう。36区と37区との間には現在も道路が存在する。この道路に対し建物跡の軸もほぼ一致しており、36区4層（遺構空閑地が検出された上面）では道路の側溝と思われるSD01が検出されている。この溝は現在の道路と同じく北東－南西方向に伸びる。4層は中世の遺構面と考えられており、少なくともこの場所には中世の段階において道路が存在していたことがわかる。中世の道路もこの古代に作られたものを踏襲する形で形成したとすれば、この空閑地が道路として使用されていたと考えることができる。この場合37区SX01はその道路に当て収束させたこととなる。他にこの空閑地に土塀のようなもの構造物が存在した可能性も考えられる。いずれにせよ37区との建物規模の相違がその空閑地を境に変化するという事は道路ないし土塀によって空間を意図的に区別されたことによる現象であると考えられる。つまり36・37区間の道路ないし土塀によりそれより北側は官衙的な空間、南側は集落的な空間という区別がなされたということである。

ある。36区以南の調査区で鞆の羽口の出土が多く見られることを考慮すれば、36区以南は工房的な空間であるとも考えられる。この点に関しては茨城県石岡市鹿の子C遺跡において国衙に付属した大規模な官営工房跡が検出されているが宮地地区においても同様な官衙付属の工房の存在の可能性も念頭に置いておくべきであろう。いずれにせよこの空閑地によって空間の性格的差異を意図的にもたらしめていると考えられる。37区SX01はこの空閑地に直交する形となるが、これも、大路に対する小路の痕跡と考えれば、この空閑地に土塀が設置されていても土塀の南側には道路が敷設されていたと解釈することができる。この場合、敷設された道路は現在の道路と位置がほぼ一致する可能性もあり、非常に興味深い。

なお37区pit01～pit10で構成する建物はSB01よりもさらに小規模である。また、ピットが浅く削平を受けているため、上面からの掘り込みである可能性も考えられる。とすれば古代の遺構ではなく、配石遺構がこれらのピット群付近で不自然に細くなることもこれに起因するものと考えられる。つまり、もともとは左図に破線で示した範囲に配石されていたが、建物を建てる際に除去されたということである。破線の範囲がもともとのSX01の範囲であるならば、幅3m程度の細長い空間が浮かび上がる。SX01は掘り込みがなく地山上に配石された遺構であるが、この配石によって作られた空間についても36区南側の空閑地と同様これは道路もしくは塀として使用されていた痕跡ではないかと考えられる。

出土遺物について

今回の調査では多くの刻書土器が出土し、墨書土器・硯も出土している。これらは識字可能な人間の存在を示唆している。また平瓦も若干、出土しており、遺物からここに特殊な建物が存在していたことを示唆している。今回出土した刻書・墨書土器は29・30区・33～40区と今回の調査区においてほとんどの調査区で出

土しているといえる。今回出土した刻書土器・墨書土器は全体で82個体あり、約46%の刻書土器が37区で出土している。また全体の約24%を「秋女」または「秋」「女」と刻まれた土器が占める。ついで「宣」「福得」の文字が刻まれた土器が多く見られている。また川田京坪遺跡でも出土が確認された「川大」も4点出土している。「川大」に関しては高田郡との関係性を考える説もあり、今回の出土した「川大」の刻書土器も同様に解釈することも可能であるが他の文字が示す意味は今のところ不確定な点が多くはっきりしない。ただ建物を意味する文字を含んだ「大舎」が刻まれた土器も見られ、ここが官衙に無関係でないことを示唆している。出土した硯に関しては獸脚円面硯・圈足円面硯・特殊硯（風字硯・中空円面硯）・転用硯とバリエーションは多い。この中の獸脚円面硯は希少性が高く、中央官衙級の性格を持つ遺跡の可能性があると考えられるが、これは今回の調査区に伴うものではなく、妙見宮（上宮）に関係していると考えた方が自然であろう。それ以外の他の出土した硯も遺構内から出土したものではないが看過できない遺物である。このような硯が出土する遺跡の場合、地方官衙的性格を帯びる可能性があるからである。

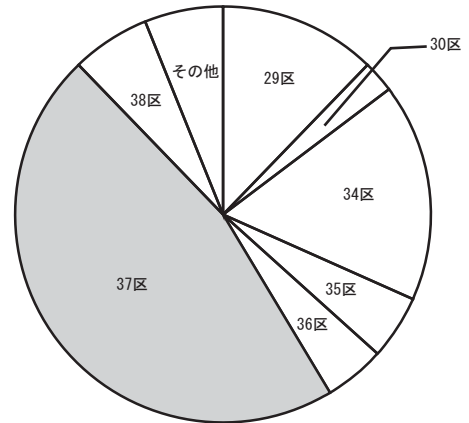


図. 7 刻書・墨書土器の出土地区別の割合

まとめ

調査開始時は便宜上遺跡名を変え宮地小畑遺跡・宮地観行寺遺跡としたが、調査の結果この遺跡名の違いがそのまま遺跡の性格の違いとなる可能性が出てきた。36区空閑地を境に遺跡の状況が変化するのは先にも述べたが、その空閑地に道路が敷設されていたとすれば約6m弱の大きなものとなる。その大路は西海道に接続し、その大路北側により大型建物が形成された景観は、非常に官衙的なものを連想させる。刻書土器がその大路よりも南側の37区で多く出土している点はさらに熟考の余地があるが、37区SX01も大路に対する小路の可能性もあり、何らかの機能を備えた空間であるとも考えることもできる。また40区～43区ではいったん遺構密度が減少し、44区以南で遺構密度が増加する傾向がある。ここで見つかる遺構は今までの遺構とは性格が異なるものであり、一旦40区周辺で集落が途切れているのではないだろうか。現在の宮地地区においても36区・37区間の道路から南側では田畑として土地を利用しており、古代においても同じような景観を持っていたのであろう。

現在の集落と今回の調査で検出された遺構の軸が一致することは各時代で共通して見られた。つまり、中世の建物跡の軸、古代の建物跡の軸、また現在の町割りの軸はあまり変化がない。29区SD04・30区4層のピット群（建物を構成する可能性が高い）、34区SB01、35区SA01・36区SD01などが中世の遺構として挙げられるが、これらの軸は古代の遺構と比較しても相違ない。古代官道が土地開発の基線となっていたことはよく知られるが、宮地地区においても官道が周辺の土地開発の基線となった可能性が十分考えられる。古代において側を通る西海道を基線として利用し現在の町割の基盤がすでに形成されていたのであろう。

記録に残るほど風水害が多いこの地域において、幾度も建物の倒壊、水没等の災害に見舞われていると思われるが、それにもかかわらず、前時代の町割を踏襲し、土地を再開発していくという点はこの地域の特殊性を示す事例の一つと考えられる。おそらく妙見宮（下宮）が現在の位置に移動した頃には土地も安定していたと思われるが、それでもなお、新たな町割プランを立てることがなかったのは古代において計画された町割が非常にこの地域にとって都合によいものであったのかもしれない。

くしくも今回の調査区は八代神社に直線距離で300m弱と非常に近い位置にあり、この付近に片野駅が存在したとすれば、今回の調査で検出された遺構は駅家に関連する遺構である可能性が高いといえる。しかし、残念ながら調査区が狭く、建物の規模を測ることはできず、まとまった建物群を検出できたと断言はできない。また、片野駅の存在がはっきりしない状況では官衙的な性格を持つ建物群が形成されていた可能性があ

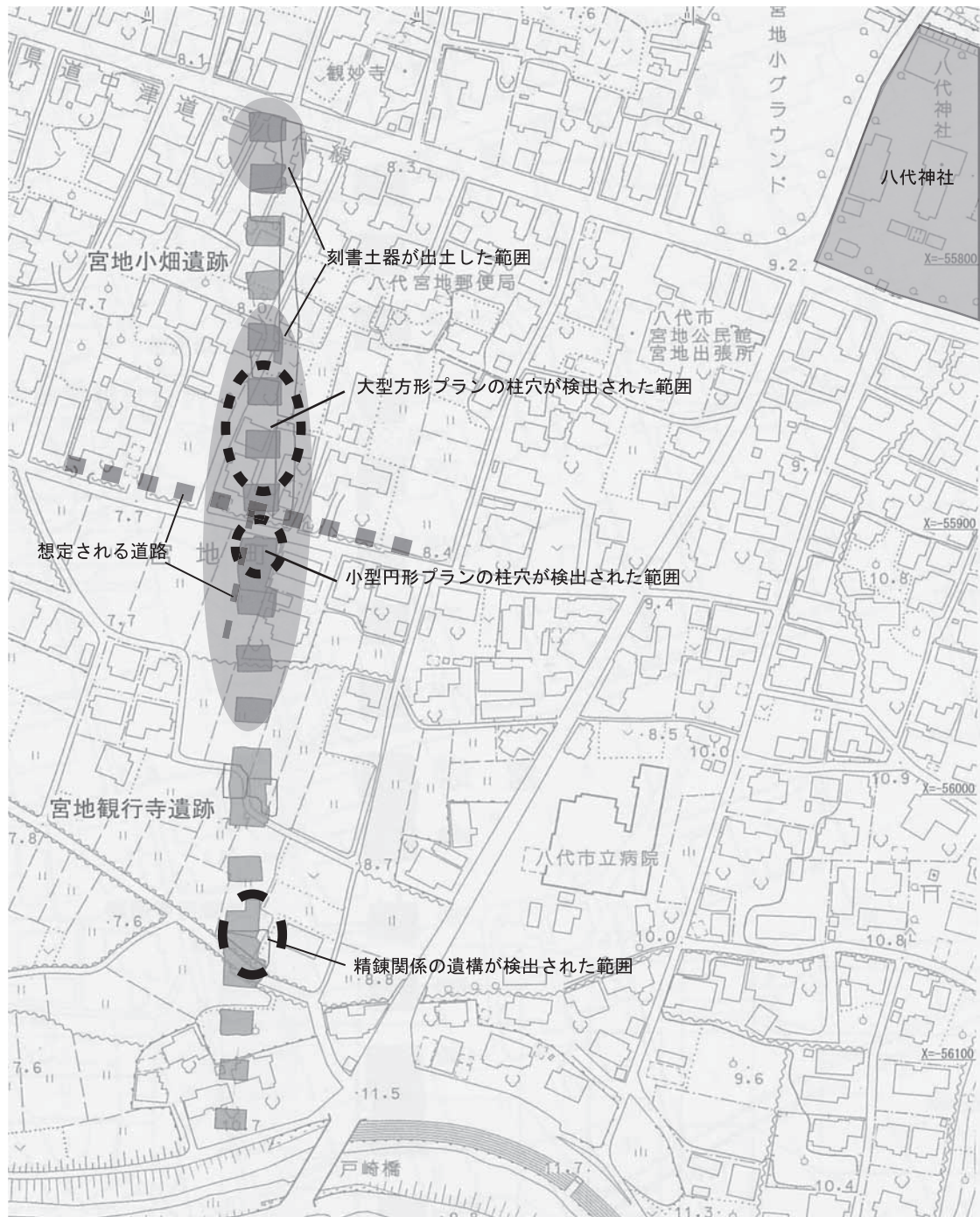


図 8 宮地小畑・観行寺遺跡各調査区の遺構の性格（古代）

ということだとどめておくほかない。この周辺の都市計画が本当に西海道を基線としたのかという点においても、未だ西海道自体の検出がない以上、更なる同時代の調査事例と精査が必要である。

古代官道は9世紀になると8世紀代の道路を移転、改廃、道幅の変更などの再編成が行われている。今回の調査区で見られたように、古代から変化が少ないという特徴を持つ状況で、この事態がどのように関係してくるのかということも非常に重要な問題である。

以上、筆者の力量不足もあり、問題点や不明な点も多いが、この場所においてまとまった建物群が見られることは推定地の位置や周辺の当時の状況を考える上で貴重な資料となったことは間違いない。(宇田)

参考・引用文献

- 佐藤浩司 「墨書土器、ヘラ書き土器と硯に関する一考察」『古文化談叢 第30集（下）』九州古文化研究会 1993
- 村上豊喜 「川田遺跡の歴史的背景」『川田京坪遺跡 熊本県文化財調査報告 第46集』熊本県教育委員会 1980
- 鶴崎俊彦 「肥後国」『日本古代道路事典』古代交通研究会 2004
- 町田 章 「古代の宮殿と寺院」『古代史復元8』1989
- 木下正史 「国衙・群衙・郷衙遺跡の配置計画」『考古学ジャーナル No.420』1997
- 木下 良 「古代日本の計画道路 ―世界の古代道路とも比較して―」『地学雑誌 110巻1号』2001

八代宮地地区における
自然科学分析業務報告

パリノ・サーヴェイ株式会社

2004年

八代宮地地区における自然科学分析

<目次>

はじめに	p.141
1. 試料	p.141
2. 分析方法	
(1) 放射性炭素年代測定	p.141
(2) テフラ分析	p.141
(3) 珪藻分析	p.144
3. 結果	
(1) 放射性炭素年代測定	p.144
(2) テフラ分析	p.144
(3) 珪藻分析	p.144
4. 考察	p.158
引用文献	p.159

<図表・図版一覧>

表 1. 分析試料一覧	p.142
表 2. 放射性炭素年代測定結果	p.145
表 3. 暦年較正結果	p.145
表 4. テフラ分析結果	p.145
表 5. 164870地点の珪藻分析結果	p.150
表 6. 183600地点の珪藻分析結果	p.152
表 7. 197960地点の珪藻分析結果	p.154
表 8. 226570地点の珪藻分析結果	p.157
図 1. 各地点の柱状図および試料採取位置	p.143
図 2. 164870地点の主要珪藻化石群集の層位分布	p.146
図 3. 183600地点の主要珪藻化石群集の層位分布	p.147
図 4. 197960地点の主要珪藻化石群集の層位分布	p.148
図 5. 226570地点の主要珪藻化石群集の層位分布	p.149
図版 1 火山ガラス	p.161
図版 2 珪藻化石 (1)	p.162
図版 3 珪藻化石 (2)	p.163

八代宮地地区における自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

今回器械ボーリングによる地質調査が行われた八代宮地地区は、八代平野南東部の標高6～8mほどの沖積低地に位置する。調査地点の南東方約500mには、比奈久断層の断層崖からなる九州山地の縁辺が迫っており、また、南西方約2kmには、球磨川の九州山地から八代平野への出口があり、山地をほぼ南北方向に流れていた流路が、平野に出たところでほぼ東西方向へと大きく蛇行している。宮地地区は、蛇行する球磨川のカーブの外側に位置している。

八代宮地地区の地質調査は、100m前後の間隔を開けてほぼ南北方向に深度30m程度の10数本の器械ボーリングにより行われた。熊本県教育委員会では、その調査結果と得られたコア試料を保管し、熊本県内における沖積低地の構造および形成史に関わる資料の作成を進めている。今回、放射性炭素年代測定、テフラ（火山灰）の検出同定、珪藻分析の各分析調査に実施が要望された。本報告は、これらの分析結果について報告するものである。

1. 試料

試料は、八代宮地地区で行われたボーリング調査のコアより採取した。熊本県教育委員会では、コア試料の観察から、153010、164870、183600、197960、226570の5地点の試料を選択している。今回の分析では、これらについて、当社技師2名による観察を行い、分析に適すと考えられるシルト～粘土質の堆積物の層位を中心として適宜採取した。採取した試料は、5地点で計34点であり、便宜的に試料番号1～34を付した。このうち、試料番号1～7は、153010地点から採取したものであるが、熊本県教育委員会との協議により、今回の分析では、この地点の試料については対象としない。今回対象とする164870、183600、197960、226570の各地点の柱状図および各試料の採取位置を図1に示す。

今回の分析のうち、放射性炭素年代測定については、コアの詳細な観察から、微細な植物片または炭化粒が含まれている層位を見出し、4点の試料を抽出して測定した。また、テフラ分析については、コアの観察から、テフラの主体となる砕屑物（スコリア、火山ガラス、軽石など）が含まれていると思われる層位より4点の試料を抽出し、分析に供した。さらに珪藻分析については、珪藻化石が多く含まれていると考えられるシルト質の堆積層を中心に、21点の試料を抽出した。各分析の試料を抽出した地点および試料番号は、一覧にして表1に示す。

2. 分析方法

(1) 放射性炭素年代測定

測定は株式会社加速器分析研究所の協力を得て、AMS法により行った。なお、放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma）に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV4.4 (Copyright 1986-2002 M Stuiver and PJ Reimer)を用いた。

(2) テフラ分析

適量を蒸発皿に取り、水を加え泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂分を乾燥させた後、実体顕微鏡下にて観察する。観察は、テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象とし、その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。

火山ガラスは、その形態によりバブル型・中間型・軽石型の3タイプに分類した。各型の形態は、バブル型は薄手平板状、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは破砕片状などの塊状ガラスであり、軽石型は小気泡を非常に多く持った塊状および気泡の長く伸びた繊維束状のものとする。

表1. 分析試料一覧

地点名	試料番号	深度(m)	形状(長さ)	土質名	色調	備考1	14C	テフラ	珪藻	備考2
153010	1	22.75-22.95	柱状(15cm)	シルト混じり砂礫	暗青灰					
	2	25.85-25.95	柱状(9cm)							
	3	26.65-26.90	柱状(25cm)	固結粘性土	黒灰	細礫混じり砂質シルト				
	4	27.00-27.30	塊状							
164870	5	27.45-27.60	柱状(16cm)	粘土質砂礫	暗褐	細礫混じり砂質シルト				
	6	28.50-28.70	柱状(16cm)	シルト質砂礫	暗褐	不淘汰な礫				
	7	30.00-30.50	塊状	砂	暗褐	粗砂				
	8	22.15-22.45	塊状	粘性土	暗灰	シルト、極微量炭化物		●	●	
	9	26.75-26.85	柱状(10cm)						●	
	10	27.60-27.75	柱状(12cm)	砂、粘性土互層	暗褐～黒褐	シルト質砂			●	
	11	28.80-28.90	柱状(6.5cm)			上部シルト下部砂礫			●	
183600	12	29.55-29.60	柱状(7.5cm)	砂、粘性土互層	暗青灰～黄灰	砂質シルト			●	
	13	18.15-18.45	塊状						●	
	14	18.50-18.65	柱状(14cm)						●	
	15	19.55-19.75	柱状(25cm)	粘性土	暗灰	砂質シルト	●		●	14Cは植物遺体
	16	19.55 (貝殻片)	塊状				貝殻片ではなく現代のビニールかプラスチック			
	17	20.25-20.45	塊状					●	●	
	18	25.85-25.95	柱状(10cm)						●	
	19	26.15-26.45	塊状	粘性土	黒褐	細礫混じりシルト				
197960	20	26.85-27.00	塊状						●	
	21	27.15-27.45	塊状						●	
	22	27.60-27.80	柱状(15.5cm)	粘土質砂礫	灰黄褐	基質は細砂			●	
	23	12.00-12.30	塊状	砂質シルト	暗灰				●	
	24	16.00-16.50	塊状							
	25	16.60-16.70	柱状(10cm)	粘性土	暗灰	シルト	●		●	14Cは炭化物
	26	17.00-17.50	塊状							
	27	17.80-17.90	柱状(9cm)	粘土混じり砂	暗灰	シルト質砂			●	
	28	18.70-18.80	柱状(11cm)				●		●	14Cは植物遺体?
	29	19.60-19.70	柱状(11cm)	粘性土	暗灰	シルト			●	
226570	30	20.00-20.50	塊状					●	●	
	31	20.15-20.45	塊状	粘性土	暗灰	砂質シルト		●	●	テフラ?は白色薄層
	32	20.75-20.85	柱状(11cm)				●		●	14Cは微細な炭化物
	33	21.15-21.45	塊状	砂混じり粘性土	暗灰	細礫混じり砂質シルト			●	
	34	21.70-21.85	柱状(11cm)						●	
						点 数	4	4	4	21

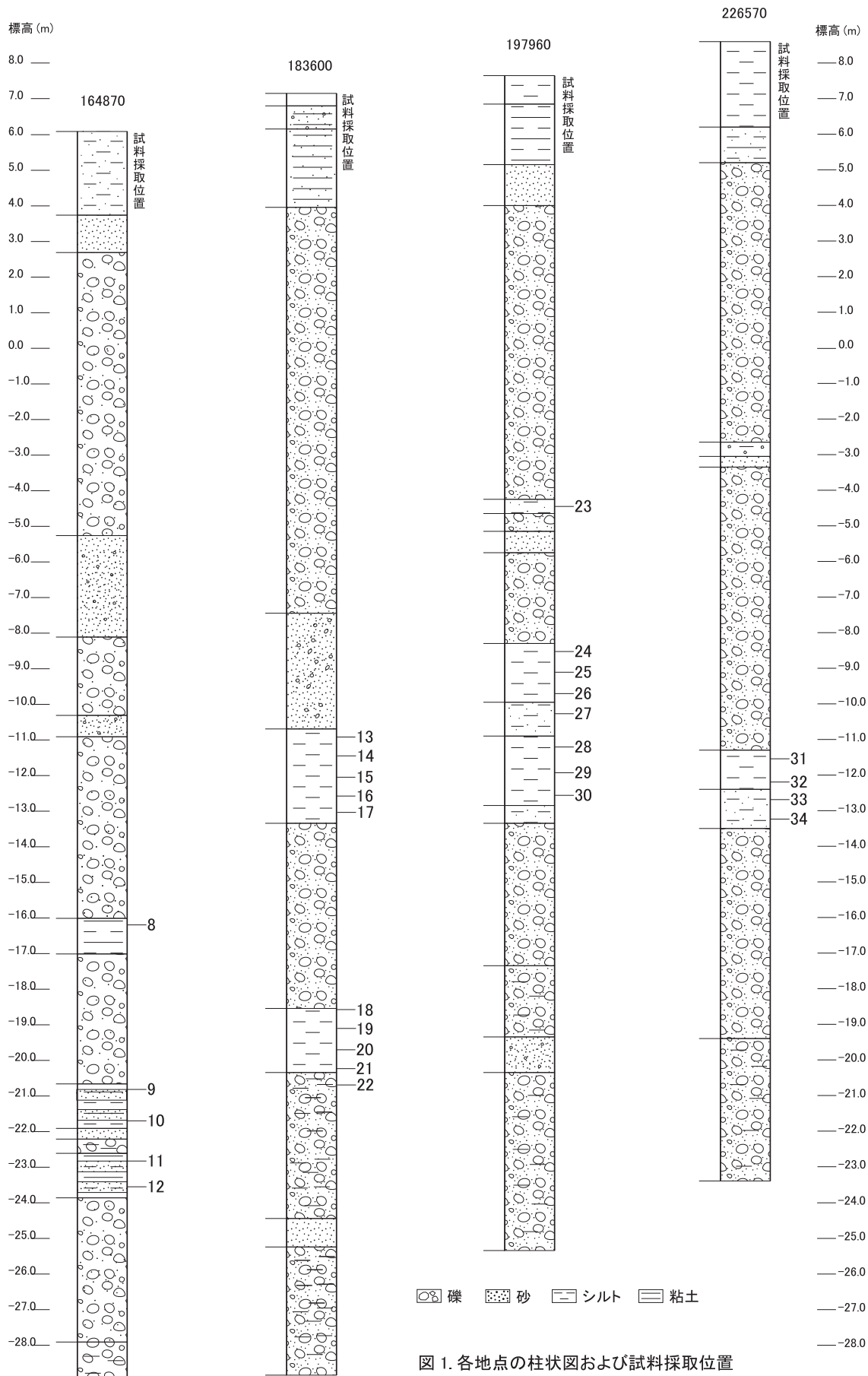


図 1. 各地点の柱状図および試料採取位置

なお、火山ガラス質テフラが検出された場合は、テフラ同定の精度を上げるために、火山ガラスの屈折率の測定も行う。測定は、古澤（1995）のMAIOTを使用した温度変化法を用いた。

（3）珪藻分析

試料を湿重で7 g前後秤量し、過酸化水素水、塩酸処理、自然沈降法の順に物理・化学処理を施して、珪藻化石を濃集する。検鏡に適する濃度まで希釈した後、カバーガラス上に滴下し乾燥させる。乾燥後、プレウラックスで封入して、永久プレパラートを作製する。検鏡は、光学顕微鏡で油浸600倍あるいは1,000倍で行い、メカニカルステージでカバーガラスの任意の測線に沿って走査し、珪藻殻が半分以上残存するものを対象に200個体以上同定・計数する（化石の少ない試料はこの限りではない）。種の同定は、原口ほか（1998）、Krammer（1992）、Krammer & Lange-Bertalot（1986,1988,1991a,1991b）、Witkowski *et al.*（2000）などを参照する。

同定結果は、海水生種、海～汽水生種、汽水生種、淡水～汽水生種、淡水生種の順に並べ、その中の各種類をアルファベット順に並べた一覧表で示す。なお、淡水生種はさらに細かく生態区分し、塩分・水素イオン濃度（pH）・流水に対する適応能についても示す。また、環境指標種についてはその内容を示す。そして、産出個体数100個体以上の試料については、産出率2.0%以上の主要な種類について、主要珪藻化石群集の層位分布図を作成する。また、産出化石が現地性か異地性かを判断する目安として、完形殻の出現率を求める。堆積環境の解析は、海水～汽水生種については小杉（1988）、淡水生種については安藤（1990）、陸生珪藻については伊藤・堀内（1991）、汚濁耐性については、Asai & Watanabe（1995）の環境指標種を参考とする。

3. 結 果

（1）放射性炭素年代測定

結果を表2に示す。4点の試料の測定年代（同位体補正年代）は7000～7300年前の範囲に入る。この年代は、栗畑（1997）などに示される南九州の考古編年では縄文時代早期に相当する。また、各試料の暦年較正を行った年代を表3に示す。いずれも測定年代より概ね1000年ほど古く、7900～8200年前の範囲に入る。

（2）テフラ分析

結果を表4に示す。164870地点試料番号8および197960地点試料番号30には極めて微量、183600地点試料番号17には微量、226570地点試料番号31には少量の、それぞれ火山ガラスが認められた。火山ガラスは、いずれの試料においても無色透明のバブル型が多く、極めて微量の褐色を帯びたバブル型も認めることができた。226570地点試料番号31の火山ガラスの屈折率を測定したところ、 $n_{1.499} \sim 1.500$ に集中し、微量の $n_{1.510}$ 前後を示す高屈折率の火山ガラスの混在も認められた。

なお、スコリアおよび軽石は、いずれの試料からも全く認められない。

（3）珪藻分析

・164870地点

結果を表5、図2に示す。全般的に珪藻化石の産出が少なく、試料番号8からが産出したが、試料番号10-12は無化石であった。試料番号8は、海水～汽水生種と汽水生種が多産しており、両者を合計すると全体の約80%を占める。これに付随して海水生種、淡水生種がそれぞれ約10%産出した。完形殻の出現率は、約30%と化石の保存状態が悪い。産出分類群数は、10属16分類群である。産出種の特徴は、内湾指標種群（小杉,1988）の*Cyclotella striata*-*C. stylorum*が約30%と優占し、汽水付着性で海水泥質干潟指標種群（小杉,1988）の*Nitzschia granulata*、*N. cocconeiformis*、内湾指標種群の*Paralia sulcata*等が10-20%と多産したことである。内湾指標種群とは、塩分濃度35～26‰の内湾水中で浮遊生活することからそのような環境を指標することのできる種群、海水泥質干潟指標種群とは、塩分濃度30～12‰の泥底の泥に付着生育するこ

表2. 放射性炭素年代測定結果

地点名	試料番号	深度 (m)	試料の質	補正年代 BP	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	測定年代 BP
183600	15	19.55-19.75	微細な植物遺体	7400 ± 50	- 30.38	7490 ± 50
197960	25	16.60-16.70	微細な炭化物	7060 ± 40	- 24.92	7060 ± 40
197960	28	18.70-18.80	微細な植物遺体	7340 ± 40	- 27.88	7390 ± 40
226570	32	20.75-20.85	微細な炭化物	7540 ± 50	- 29.12	7610 ± 50

- 1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。
- 2) BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
- 3) 付記した誤差は、測定誤差 σ (測定値の68%が入る範囲)を年代値に換算した値。

表3. 暦年較正結果

地点名	試料番号	補正年代 (BP)	暦年較正年代 (cal)		相対比
			cal BC	cal BP	
183600	15	7404 ± 47	cal BC 6,377 - cal BC 6,309	cal BP 8,327 - 8,259	0.519
			cal BC 6,300 - cal BC 6,287	cal BP 8,250 - 8,237	0.078
			cal BC 6,267 - cal BC 6,220	cal BP 8,217 - 8,170	0.403
197960	25	7061 ± 38	cal BC 5,988 - cal BC 5,940	cal BP 7,938 - 7,890	0.547
			cal BC 5,929 - cal BC 5,889	cal BP 7,879 - 7,839	0.453
197960	28	7341 ± 38	cal BC 6,229 - cal BC 6,201	cal BP 8,179 - 8,151	0.348
			cal BC 6,191 - cal BC 6,161	cal BP 8,141 - 8,111	0.322
			cal BC 6,136 - cal BC 6,106	cal BP 8,086 - 8,056	0.329
226570	32	7538 ± 48	cal BC 6,444 - cal BC 6,378	cal BP 8,394 - 8,328	0.814
			cal BC 6,308 - cal BC 6,300	cal BP 8,258 - 8,250	0.051
			cal BC 6,286 - cal BC 6,267	cal BP 8,236 - 8,217	0.135

計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV4.4 (Copyright 1986-2002 M Stuiver and PJ Reimer)を使用。
 計算には表に示した丸める前の値を使用している。
 付記した誤差は、測定誤差 σ (測定値の68%が入る範囲)を年代値に換算した値。

表4. テフラ分析結果

地点名	試料番号	深度 (m)	スコリア	火山ガラス		軽石
			量	量	色調・形態	量
164870	8	22.15 - 22.45	-	(+)	cl·bw >> br·bw	-
183600	17	20.25 - 20.45	-	+	cl·bw >> br·bw	-
197960	30	20.00 - 20.50	-	(+)	cl·bw >> br·bw	-
226570	31	20.15 - 20.45	-	++	cl·bw > br·bw	-

凡例

- : 含まれない. (+) : きわめて微量. + : 微量. ++ : 少量. +++ : 中量. ++++ : 多量.
 cl : 無色透明. br : 褐色. bw : バブル型. md : 中間型. pm : 軽石型.

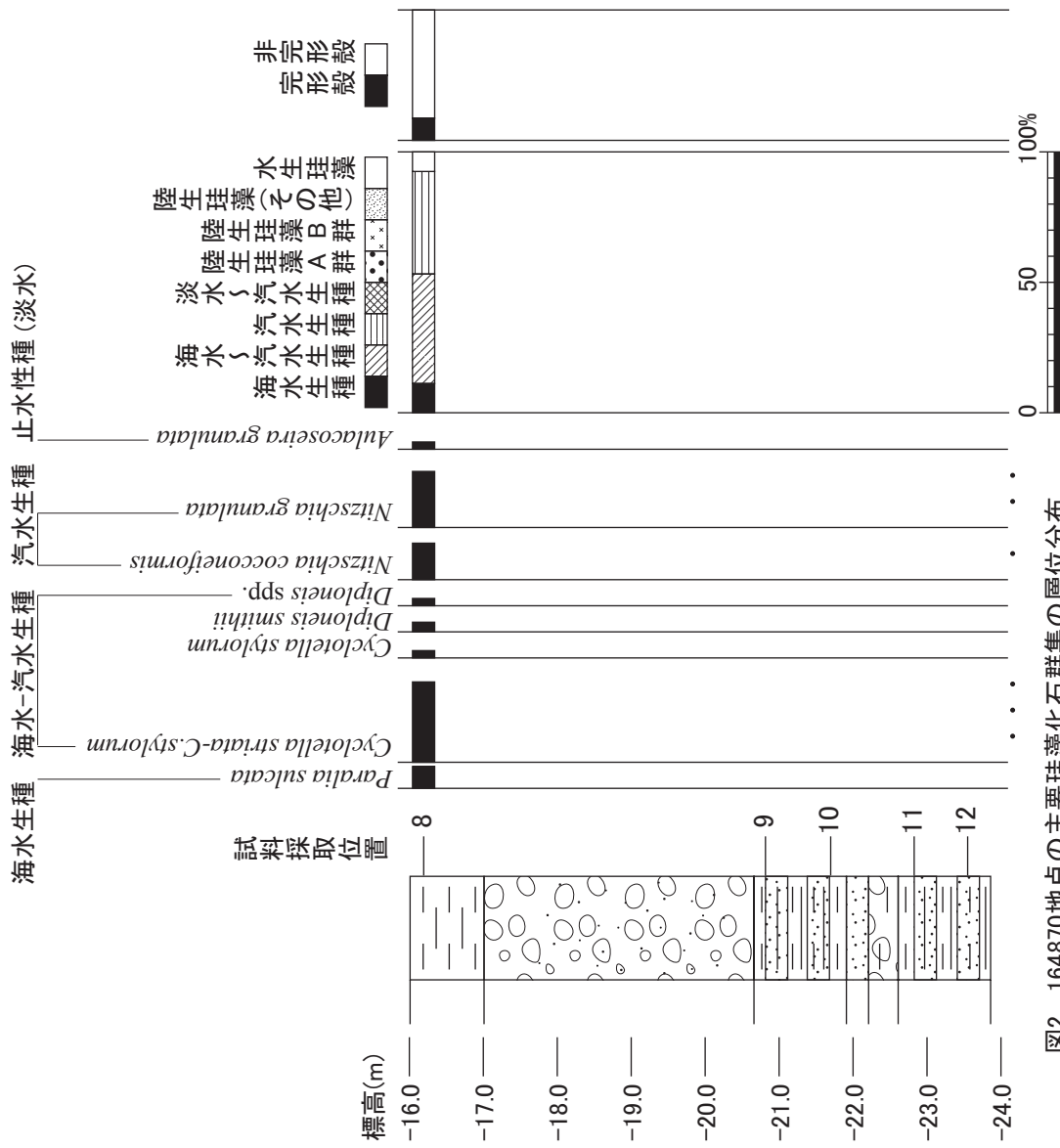


図2. 164870地点の主要珪藻化石群集の層位分布
 海水-汽水-淡水生種産出率・各種産出率・完形殻産出率は全体を基数として百分率で算出した。いずれも100個体以上検出された試料について示す。

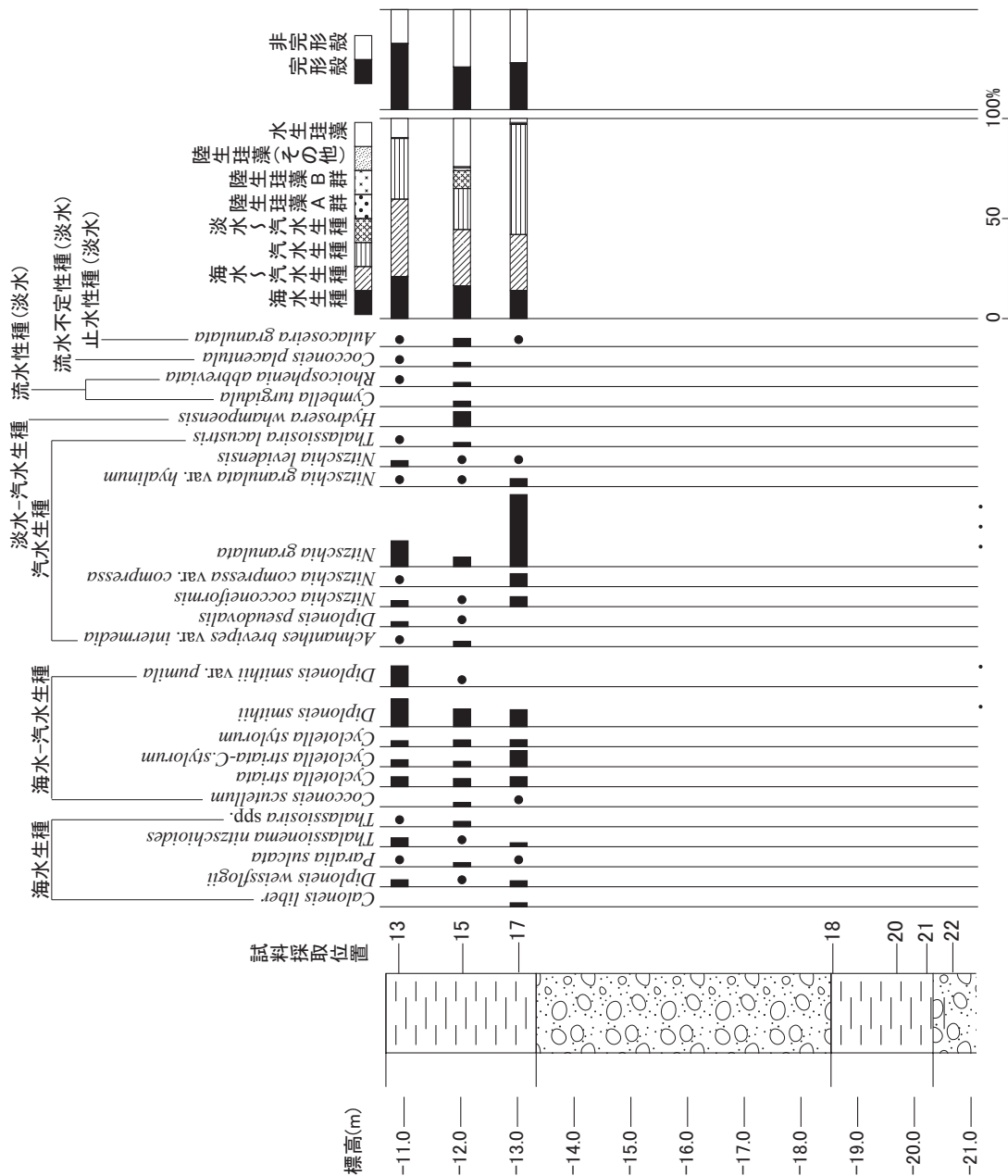


図3. 183600地点の主要珪藻化石群集の層位分布
 海水-汽水-淡水性種産出率・各種産出率・完形産出率は全体を基数として百分率で算出した。
 いずれも100個体以上検出された試料について示す。なお、●は2%未満の産出を示す。

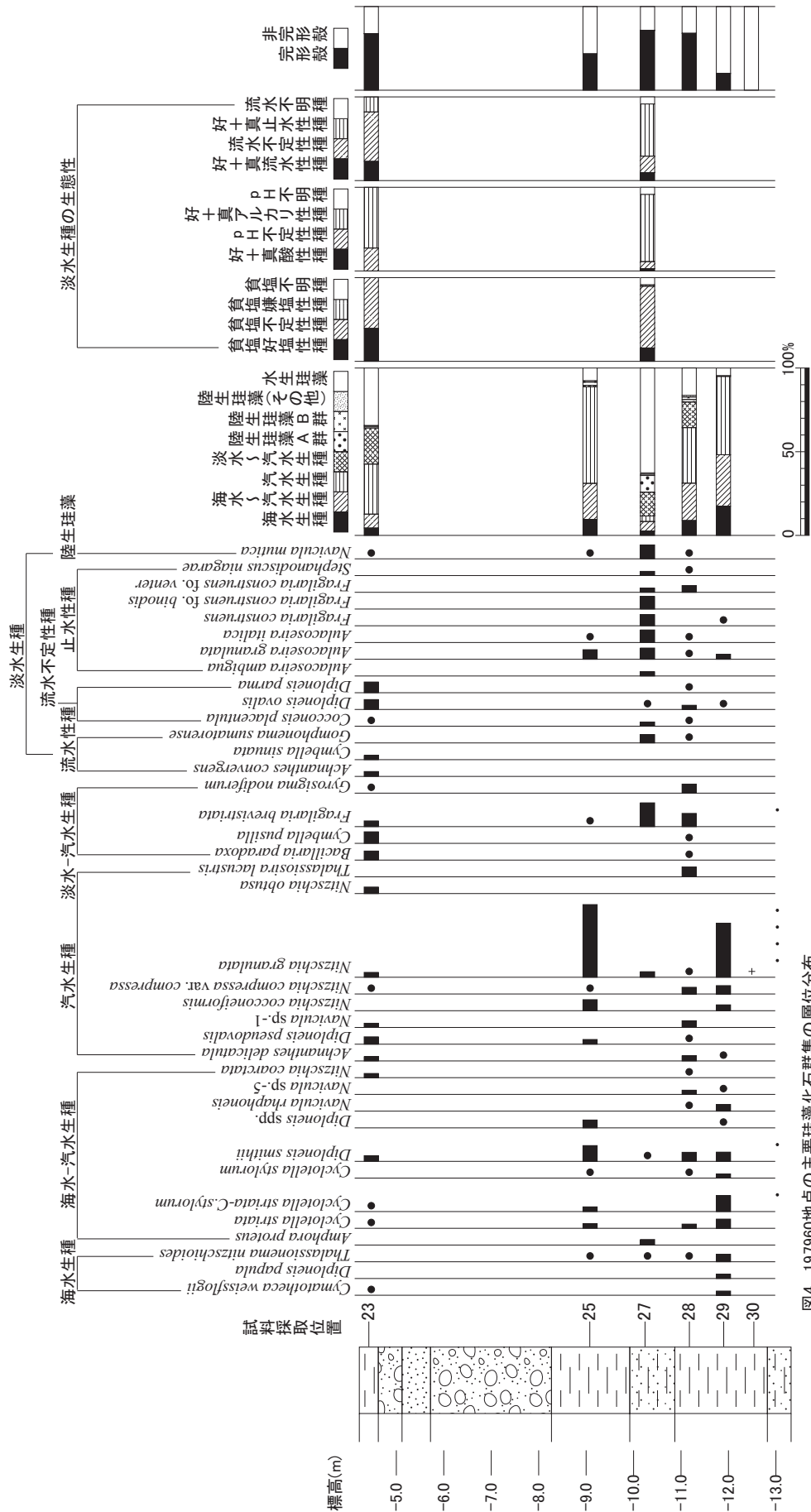


図4. 197960地点の主要珪藻化石群集の層位分布
 海水-汽水-淡水生種産出率・各種産出率・完形殻産出率は全体基数、淡水生種の生態性の比率は淡水生種の合計を基数として百分率で算出した。
 いずれも100個体以上検出された試料について示す。なお、●は2%未満、+は10%未満の試料について検出した種類を示す。

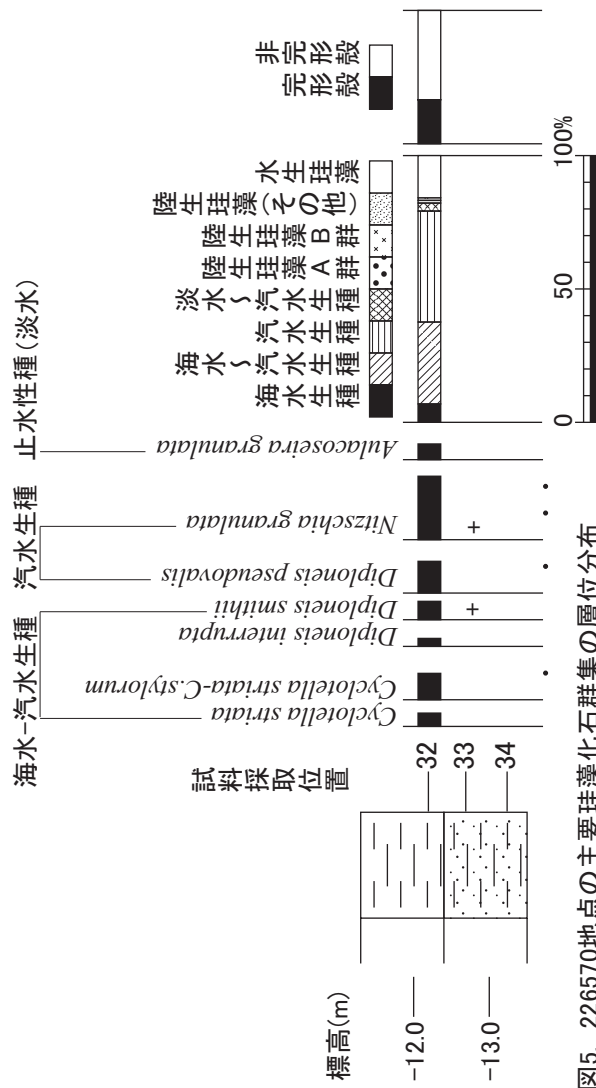


図5. 226570地点の主要珪藻化石群集の層位分布
 海水-汽水-淡水生種産出率・各種産出率・完形殻産出率は、全体を基数として百分率で算出した。
 いずれも100個体以上検出された試料について示す。

表5. 164870地点の珪藻分析結果

種 類	生態性			環境 指標種	8	9	10	11	12
	塩分	pH	流水						
Coscinodiscus spp.	Euh				1	—	—	—	—
Diploneis weissflogii (A.Schmidt) Cleve	Euh				1	—	—	—	—
Paralia sulcata (Ehr.) Cleve	Euh			B	9	—	—	—	—
Thalassionema nitzschioides (Grun.) Grunow	Euh			A,B	1	—	—	—	—
Cyclotella striata (Kuetz.) Grunow	Euh-Meh			B	2	—	—	—	—
Cyclotella striata-C. stylorum	Euh-Meh			B	33	—	—	—	—
Cyclotella stylorum Brightwell	Euh-Meh			B	3	—	—	—	—
Diploneis smithii (Breb.) Cleve	Euh-Meh			E1	4	—	—	—	—
Diploneis spp.	Euh-Meh				3	—	—	—	—
Caloneis permagna (Bailey) Cleve	Meh				2	—	—	—	—
Nitzschia cocconeiformis Grunow	Meh			E1	15	—	—	—	—
Nitzschia compressa var. elongata (Grun.) Lange-Bertalot	Meh			E1	1	—	—	—	—
Nitzschia granulata Grunow	Meh			E1	23	—	—	—	—
Nitzschia granulata var. hyalinum	Meh				1	—	—	—	—
Achnanthes crenulata Grunow	Ogh-ind	al-bi	l-ph	T	1	—	—	—	—
Aulacoseira ambigua (Grun.) Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-bi	N,U	1	—	—	—	—
Aulacoseira granulata (Ehr.) Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-bi	M,U	3	—	—	—	—
Cyclotella distinguenda var. unipunctata (Hust.) Hak.& Ca.	Ogh-ind	al-il	l-bi		2	—	—	—	—
Fragilaria construens var. triundulata Reichelt	Ogh-ind	al-il	l-ph		1	—	—	—	—
海水生種					12	0	0	0	0
海水～汽水生種					45	0	0	0	0
汽水生種					42	0	0	0	0
淡水～汽水生種					0	0	0	0	0
淡水生種					8	0	0	0	0
珪藻化石総数					107	0	0	0	0

凡例

H.R. : 塩分濃度に対する適応性	pH : 水素イオン濃度に対する適応性	C.R. : 流水に対する適応性
Euh : 海水生種	al-bi : 真アルカリ性種	l-bi : 真止水性種
Euh-Meh : 海水生種～汽水生種	al-il : 好アルカリ性種	l-ph : 好止水性種
Meh : 汽水生種	ind : pH不定性種	ind : 流水不定性種
Ogh-hil : 貧塩好塩性種	ac-il : 好酸性種	r-ph : 好流水性種
Ogh-ind : 貧塩不定性種	ac-bi : 真酸性種	r-bi : 真流水性種
Ogh-hob : 貧塩嫌塩性種	unk : pH不明種	unk : 流水不明種
Ogh-unk : 貧塩不明種		

環境指標種群

A : 外洋指標種, B : 内湾指標種, E1 : 海水泥質干潟指標種(小杉, 1988)
M : 湖沼浮遊性種, N : 湖沼沼沢湿地指標種(安藤, 1990)
S : 好汚濁性種, U : 広域適応性種, T : 好清水性種(以上はAsai and Watanabe, 1995)
R : 陸生珪藻(RA : A群, RB : B群, RI : 未区分、伊藤・堀内, 1991)

とからそのような環境を指標することのできる種群のことである（小杉,1988）。

• 183600地点

結果を表6、図3に示す。試料番号13、15、17から珪藻化石が産出したが、試料番号18、20-22は無化石であった。完形殻の出現率は50-70%と化石の保存状態は比較的良かった。産出分類群数は、合計で35属93分類群である。主要種の消長は、試料ごとに違いが見られた。

試料番号17は、汽水生種が約50%、海水～汽水生種が約30%、海水生種が約15%産出した。主な産出種は、海水泥質干潟指標種群の*Nitzschia granulata*が約40%と優占し、内湾指標種群の*Cyclotella striata*、*Cyclotella striata*-*C. stylorum*、海水泥質干潟指標種群の*Diploneis smithii*、*Nitzschia compressa* var. *compressa*、*N. cocconeiformis*等を伴う。

試料番号15は、海水生種、海水～汽水生種、汽水生種、淡水生種が約20%前後産出した。とくに多産するものはなく、海水泥質干潟指標種群の*Diploneis smithii*、淡水～汽水生種の*Hydrosera whampoensis*が約10%産出し、内湾指標種群の*Cyclotella striata*、*C. stylorum*、海水泥質干潟指標種群の*Nitzschia granulata*等を伴う。

試料番号13は、海水生種、海水～汽水生種、汽水生種が約20-30%前後産出した。海水泥質干潟指標種群の*Diploneis smithii*、その変種の*Diploneis smithii* var. *pumila*、*Nitzschia granulata*が10%前後産出し、海水底生の*Diploneis weissflogii*、外洋指標種群または内湾指標種群の*Thalassionema nitzschioides*、内湾指標種群の*Cyclotella striata*、*C. stylorum*等を伴う。外洋指標種群とは、塩分濃度が約35‰の外洋水中で浮遊生活を営む種のことである（小杉,1988）。

• 197960地点

結果を表7、図4に示す。試料番号23、25、27-29から珪藻化石が産出したが、試料番号30からは、殆ど産出しなかった。完形殻の出現率は、試料番号23、27、28が70%前後と高かったが、試料番号25、29は40%以下と低かった。産出分類群数は、合計で38属136分類群である。主要種の消長は、試料ごとに違いが見られた。

試料番号29は、海水生種、海水～汽水生種、汽水生種の合計が約95%と産出種の大部分を占め、中でも汽水生種の割合が高い。主な産出種は、海水泥質干潟指標種群の*Nitzschia granulata*が約30%と優占し、内湾指標種群の*Cyclotella striata*-*C. stylorum*、*Cyclotella striata*、海水泥質干潟指標種群の*Diploneis smithii*、*Nitzschia cocconeiformis*、*Nitzschia compressa* var. *compressa*等を伴う。

試料番号28は、海水生種、海水～汽水生種、汽水生種、淡水～汽水生種、淡水生種の全てのカテゴリーにわたって珪藻化石が産出した。主な産出種は、海水～汽水生種の*Diploneis smithii*、汽水生種の*Nitzschia compressa* var. *compressa*、*Thalassiosira lacustris*、淡水～汽水生種の*Fragilaria brevistriata*、*Gyrosigma nodiferum*、淡水生種で好止水性の*Fragilaria construens* fo. *venter*等が産出した。

試料番号27は、淡水生種が約60%と多産した。これに付随して、淡水～汽水生種、陸上のコケや土壌表面など多少の湿り気を保持した好気的環境に耐性のある陸生珪藻等が産出した。淡水性種の生態性（塩分濃度、水素イオン濃度、流水に対する適応能）の特徴は、貧塩不定性種（少量の塩分には耐えられる種）、真+好アルカリ性種（pH7.0以上のアルカリ性水域に最もよく生育する種）、真+好止水性種（止水域に最もよく生育する種）が優占した。とくに多産するものはなく、淡水～汽水生で偶来性浮遊性種（本来、付着性種であるが、波等の物理的影響を受けて基物から剥離した後は、浮遊生活を営む種）の*Fragilaria brevistriata*、種の淡水浮遊性で湖沼浮遊性種群の*Aulacoseira granulata*、*Aulacoseira italica*、偶来性浮遊性種の*Fragilaria construens*とその変種の*Fragilaria construens* fo. *binodis*等が産出した。陸生珪藻では、耐乾性の高い陸生珪藻A群（伊藤・堀内,1991）の*Navicula mutica*が産出した。

表6. 183600地点の珪藻分析結果

種 類	生態性			環境 指標種	13	15	17	18	20	21	22
	塩分	pH	流水								
Actinoptychus senarius (Ehr.) Ehrenberg	Euh			A	1	-	1	-	-	-	-
Amphora marina W.Smith	Euh				1	-	-	-	-	-	-
Caloneis liber (W.Smith) Cleve	Euh				-	-	4	-	-	-	-
Chaetoceros spp.	Euh				2	-	-	-	-	-	-
Coscinodiscus radiatus Ehrenberg	Euh			A	-	-	1	-	-	-	-
Coscinodiscus spp.	Euh				1	1	1	-	-	-	-
Cymatotheca weissflogii (Grun.) Hendey	Euh			B	3	1	-	-	-	-	-
Diploneis litoralis (Donk.) Cleve	Euh				-	1	-	-	-	-	-
Diploneis papula (A.S.) Cleve	Euh				2	-	3	-	-	-	-
Diploneis weissflogii (A.Schmidt) Cleve	Euh				7	2	6	-	-	-	-
Grammatophora macilenta W.Smith	Euh				-	-	1	-	-	-	-
Navicula cancellata Donkin	Euh				-	1	-	-	-	-	-
Nitzschia acuminata (W.Smith) Grunow	Euh			E1	2	1	1	-	-	-	-
Nitzschia cf. carnicobarica Desikachary & Prema	Euh				-	1	-	-	-	-	-
Nitzschia lanceola Grunow	Euh				-	-	2	-	-	-	-
Nitzschia pandriformis Gregory	Euh			E2	-	1	-	-	-	-	-
Paralia sulcata (Ehr.) Cleve	Euh			B	2	3	3	-	-	-	-
Pleurosigma aestuarii (Breb.) W.Smith	Euh				2	-	-	-	-	-	-
Pleurosigma normanii Ralfs	Euh				1	2	-	-	-	-	-
Rhizosolenia alata Brightwell	Euh				2	1	-	-	-	-	-
Rhizosolenia bergonii Peragallo	Euh				2	-	-	-	-	-	-
Rhizosolenia setigera Brightwell	Euh				1	-	1	-	-	-	-
Surirella fastuosa (Ehr.) Kuetzing	Euh				1	1	-	-	-	-	-
Thalassionema nitzschioides (Grun.) Grunow	Euh			A,B	9	2	4	-	-	-	-
Thalassiosira oestrupii (Osten.) Proskina-Lavrenko	Euh			A	1	1	-	-	-	-	-
Thalassiosira spp.	Euh				1	4	-	-	-	-	-
Trachyneis aspera (Ehr.) Cleve	Euh				1	1	-	-	-	-	-
Amphora proteus Gregory	Euh-Meh				1	-	-	-	-	-	-
Cocconeis scutellum Ehrenberg	Euh-Meh			C1	-	3	2	-	-	-	-
Cyclotella caspia Grunow	Euh-Meh				-	2	-	-	-	-	-
Cyclotella striata (Kuetz.) Grunow	Euh-Meh			B	10	6	10	-	-	-	-
Cyclotella striata-C. stylorum	Euh-Meh			B	7	4	16	-	-	-	-
Cyclotella stylorum Brightwell	Euh-Meh			B	6	5	7	-	-	-	-
Diploneis interrupta (Kuetz.) Cleve	Euh-Meh				-	-	1	-	-	-	-
Diploneis smithii (Breb.) Cleve	Euh-Meh			E1	28	13	17	-	-	-	-
Diploneis smithii var. pumila (Grun.) Hustedt	Euh-Meh			E1	21	2	-	-	-	-	-
Diploneis smithii var. rhombica Mereschkowsky	Euh-Meh				1	1	-	-	-	-	-
Diploneis spp.	Euh-Meh				-	-	1	-	-	-	-
Navicula alpha Cleve	Euh-Meh			D2	1	-	-	-	-	-	-
Navicula formenterae Cleve	Euh-Meh				-	-	1	-	-	-	-
Navicula rhapsoneis Ehrenberg	Euh-Meh				-	1	1	-	-	-	-
Nitzschia grossestriata Hustedt	Euh-Meh				2	-	-	-	-	-	-
Nitzschia sigma (Kuetz.) W.Smith	Euh-Meh			E2	-	1	-	-	-	-	-
Pinnularia elegans (W.Smith) Krammer	Euh-Meh				-	2	-	-	-	-	-
Rhoicosphenia marina (W.Sm.) M.Schmidt	Euh-Meh				1	1	-	-	-	-	-
Achnanthes brevipes Agardh	Meh			D1	-	2	-	-	-	-	-
Achnanthes brevipes var. intermedia (Kuetz.) Cleve	Meh			D1	1	4	-	-	-	-	-
Amphora ventricosa Gregory	Meh				1	-	-	-	-	-	-
Caloneis westii (W.Smith) Hendey	Meh				1	2	3	-	-	-	-
Caloneis spp.	Meh				1	-	-	-	-	-	-
Campylodiscus echeneis Ehrenberg	Meh				1	1	-	-	-	-	-
Diploneis pseudovalis Hustedt	Meh				5	2	-	-	-	-	-
Fragilaria fasciculata (Agardh) Lange-B.	Meh				-	2	-	-	-	-	-
Navicula cruciculoides Brockmann	Meh				-	1	-	-	-	-	-
Navicula peregrina (Ehr.) Kuetzing	Meh				4	1	2	-	-	-	-
Nitzschia cocconeiformis Grunow	Meh			E1	6	1	10	-	-	-	-
Nitzschia compressa var. compressa	Meh			E1	1	-	13	-	-	-	-
Nitzschia compressa var. elongata (Grun.) Lange-B.	Meh			E1	1	-	1	-	-	-	-
Nitzschia constricta (Kuetz.) Ralfs	Meh				-	1	-	-	-	-	-
Nitzschia granulata Grunow	Meh			E1	26	7	72	-	-	-	-

種 類	生態性			環境 指標種	13	15	17	18	20	21	22
	塩分	pH	流水								
Nitzschia granulata var. hyalinum	Meh				3	1	8	-	-	-	-
Nitzschia levidensis (W.Smith) Grunow	Meh				6	1	1	-	-	-	-
Nitzschia levidensis var. salinarum Grunow	Meh				1	-	-	-	-	-	-
Nitzschia littoralis Grunow	Meh				2	-	-	-	-	-	-
Synedra tabulata Agardh	Meh				-	1	-	-	-	-	-
Thalassiosira lacustris (Grun.) Hasle	Meh				1	3	-	-	-	-	-
Bacillaria paradoxa Gmelin	Ogh-Meh	al-bi	l-ph	U	-	2	-	-	-	-	-
Hydrosera whampoensis (Schwartz) Deby	Ogh-Meh	al-il	r-ph	U	-	11	-	-	-	-	-
Navicula capitata var. hungarica (Grun.) Ross	Ogh-Meh	al-il	r-ph	U	-	-	1	-	-	-	-
Achnanthes crenulata Grunow	Ogh-ind	al-bi	l-ph	T	3	2	1	-	-	-	-
Achnanthes minutissima Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	U	1	-	-	-	-	-	-
Amphora pediculus (Kuetz.) Grunow	Ogh-ind	al-bi	ind	T	-	1	-	-	-	-	-
Aulacoseira ambigua (Grun.) Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-bi	N,U	1	2	1	-	-	-	-
Aulacoseira granulata (Ehr.) Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-bi	M,U	1	6	2	-	-	-	-
Aulacoseira italica (Ehr.) Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	-	1	-	-	-	-	-
Cocconeis placentula (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	U	4	3	-	-	-	-	-
Cocconeis placentula var. euglypta (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	2	1	-	-	-	-	-
Cyclotella distinguenda Hustedt	Ogh-ind	al-il	l-bi		1	-	-	-	-	-	-
Cymbella silesiaca Bleisch	Ogh-ind	ind	ind	T	-	1	-	-	-	-	-
Cymbella sinuata Gregory	Ogh-ind	ind	r-ph	K,T	1	-	-	-	-	-	-
Cymbella tumida (Breb. ex Kuetz.) V.Heurck	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	2	-	-	-	-	-
Cymbella turgidula Grunow	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,T	-	4	-	-	-	-	-
Diploneis ovalis (Hilse) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	T	1	2	-	-	-	-	-
Epithemia adnata (Kuetz.) Brebisson	Ogh-ind	al-bi	ind		-	1	-	-	-	-	-
Eunotia biserioides H.Kobayasi	Ogh-ind	ind	ind	RA	-	1	-	-	-	-	-
Fragilaria construens (Ehr.) Grunow	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	-	1	-	-	-	-	-
Fragilaria construens var. triundulata Reichelt	Ogh-ind	al-il	l-ph		1	-	-	-	-	-	-
Gomphonema angustum Agardh	Ogh-ind	al-il	ind		-	1	-	-	-	-	-
Gomphonema clevei var. inaequilongum H.Kobayasi	Ogh-ind	ind	r-ph		1	1	-	-	-	-	-
Gyrosigma acuminatum (Kuetz.) Rabenhorst	Ogh-ind	al-il	ind		-	1	-	-	-	-	-
Gyrosigma spencerii (W.Smith) Cleve	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	-	1	-	-	-	-	-
Navicula mutica Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	RA,S	-	-	1	-	-	-	-
Navicula symmetrica Patrick	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	1	-	-	-	-	-
Orthoseira roeseana (Rabh.) O'Meara	Ogh-ind	ind	ind	RA	-	1	-	-	-	-	-
Pinnularia appendiculata (Ag.) Cleve	Ogh-hob	ind	ind	RB	1	-	-	-	-	-	-
Rhoicosphenia abbreviata (Ag.) Lange-B.	Ogh-hil	al-il	r-ph	K,T	1	3	-	-	-	-	-
Rhopalodia gibba (Ehr.) O.Muller	Ogh-ind	al-il	ind		1	-	-	-	-	-	-
Stauroneis obtusa Lagerstedt	Ogh-ind	ind	ind	RB	-	1	-	-	-	-	-
海水生種					42	24	28	0	0	0	0
海水～汽水生種					78	41	56	0	0	0	0
汽水生種					61	30	110	0	0	0	0
淡水～汽水生種					0	13	1	0	0	0	0
淡水生種					20	38	5	0	0	0	0
珪藻化石総数					201	146	200	0	0	0	0

凡例

H.R. : 塩分濃度に対する適応性 pH : 水素イオン濃度に対する適応性 C.R. : 流水に対する適応性
Euh : 海水生種 al-bi : 真アルカリ性種 l-bi : 真止水性種
Euh-Meh : 海水生種-汽水生種 al-il : 好アルカリ性種 l-ph : 好止水性種
Meh : 汽水生種 ind : pH不定性種 ind : 流水不定性種
Ogh-Meh : 淡水-汽水生種 ac-il : 好酸性種 r-ph : 好流水性種
Ogh-hil : 貧塩好塩性種 ac-bi : 真酸性種 r-bi : 真流水性種
Ogh-ind : 貧塩不定性種 unk : pH不明種 unk : 流水不明種
Ogh-hob : 貧塩嫌塩性種
Ogh-unk : 貧塩不明種

環境指標種群

A : 外洋指標種, B : 内湾指標種, C1 : 海水藻場指標種, D1 : 海水砂質干潟指標種,
D2 : 汽水砂質干潟指標種, E1 : 海水泥質干潟指標種, E2 : 汽水泥質干潟指標種 (以上は小杉, 1988)
K : 中～下流性河川指標種, M : 湖沼浮遊性種, N : 湖沼沼沢湿地指標種 (以上は安藤, 1990)
S : 好汚濁性種, U : 広域適応性種, T : 好清水性種 (以上はAsai and Watanabe, 1995)
R : 陸生珪藻 (RA : A群, RB : B群, RI : 未区分、伊藤・堀内, 1991)

表 7. 197960地点の珪藻分析結果

種 類	生態性			環 境 指 標 種	23	25	27	28	29	30
	塩分	pH	流水							
Bacteriastrum sp.	Euh				-	-	-	-	1	-
Caloneis egena (A.Schmidt) Cleve	Euh				-	-	-	1	-	-
Coscinodiscus spp.	Euh				-	1	-	1	1	-
Cymatotheca weissflogii (Grun.) Hende	Euh			B	2	-	-	-	5	-
Diploneis papula (A.S.) Cleve	Euh				-	-	-	-	5	-
Diploneis litoralis (Donk.) Cleve	Euh				-	-	1	-	-	-
Diploneis vacillans (A.S.) Cleve	Euh				-	-	-	2	-	-
Diploneis weissflogii (A.Schmidt) Cleve	Euh				-	1	-	1	2	-
Hyalodiscus stelliger Baile	Euh				-	-	-	1	-	-
Navicula cancellata Donkin	Euh				1	-	-	-	-	-
Navicula granulata Bailey	Euh				-	-	-	1	-	-
Nitzschia antillarum (Cleve) Meister	Euh				1	-	-	-	-	-
Nitzschia acuminata (W.Smith) Grunow	Euh			E1	-	1	-	3	1	-
Nitzschia lanceola Grunow	Euh				-	-	-	1	1	-
Nitzschia pandriformis Gregory	Euh			E2	1	-	-	-	-	-
Nitzschia sicula (Castracane) Hustedt	Euh				1	-	-	2	-	-
Paralia sulcata (Ehr.) Cleve	Euh			B	1	2	1	1	3	-
Pleurosigma aestuarii (Breb.) W.Smith	Euh				-	-	-	-	3	-
Rhizosolenia alata Brightwell	Euh				-	-	-	-	1	-
Rhopalodia dubia (H.& M.Peragallo) Paddock & Sims	Euh				2	-	-	-	-	-
Surirella fastuosa (Ehr.) Kuetzing	Euh				-	1	-	-	-	-
Thalassionema nitzschioides (Grun.) Grunow	Euh			A,B	-	2	1	2	9	-
Thalassiosira eccentrica (Ehr.) Cleve	Euh			A	-	-	-	1	-	-
Thalassiosira spp.	Euh				-	2	-	1	3	-
Amphora proteus Gregory	Euh-Meh				-	-	4	-	-	-
Cocconeis scutellum Ehrenberg	Euh-Meh			C1	-	-	-	1	1	-
Cyclotella caspia Grunow	Euh-Meh				-	-	-	-	-	-
Cyclotella striata (Kuetz.) Grunow	Euh-Meh			B	1	3	-	5	11	-
Cyclotella striata-C. stylorum	Euh-Meh			B	2	3	-	-	19	-
Cyclotella stylorum Brightwell	Euh-Meh			B	-	2	-	4	5	-
Diploneis bombus (Ehr.) Cleve	Euh-Meh				-	-	-	1	-	-
Diploneis smithii (Breb.) Cleve	Euh-Meh			E1	7	10	2	11	11	-
Diploneis smithii var. pumila (Grun.) Hustedt	Euh-Meh			E1	-	-	-	2	2	-
Diploneis smithii var. rhombica Mereschkowsky	Euh-Meh				1	-	-	3	-	-
Diploneis spp.	Euh-Meh				-	5	-	-	1	-
Navicula formenterae Cleve	Euh-Meh				-	-	1	2	-	-
Navicula raphoneis Ehrenberg	Euh-Meh				-	-	-	3	8	-
Navicula sp.-5	Euh-Meh				-	-	-	5	4	-
Nitzschia coarctata Grunow	Euh-Meh				5	-	-	3	-	-
Nitzschia fasciculata (Grun.) Grunow in Van Heurch	Euh-Meh				1	-	-	-	-	-
Nitzschia grossestriata Hustedt	Euh-Meh				-	-	-	1	-	-
Rhoicosphenia marina (W.Sm.) M.Schmidt	Euh-Meh				-	-	-	4	-	-
Achnanthes brevipes Agardh	Meh			D1	-	-	-	1	-	-
Achnanthes brevipes var. intermedia (Kuetz.) Cleve	Meh			D1	1	-	-	3	-	-
Achnanthes delicatula Kuetzing	Meh			D1	5	-	-	6	3	-
Amphora cf. borealis Kuetzing	Meh				-	-	-	1	-	-
Amphora coffeaeformis Agardh	Meh				-	-	-	-	2	-
Amphora strigosa Hustedt	Meh				-	-	-	1	-	-
Campylodiscus echeneis Ehrenberg	Meh				-	-	-	-	1	-
Caloneis rhombica H.Kobayashi	Meh				4	-	-	-	-	-
Caloneis westii (W.Smith) Hende	Meh				-	2	-	3	2	-
Diploneis pseudovalis Hustedt	Meh				9	3	-	2	-	-
Fragilaria fasciculata (Agardh) Lange-B.	Meh				-	-	-	1	-	-
Navicula comoides (Dillwgn) Peragallo	Meh			D2	4	-	-	4	-	-
Navicula peregrina (Ehr.) Kuetzing	Meh				1	-	-	-	-	-
Navicula sp.-1	Meh				5	-	-	8	-	-
Nitzschia calida Grunow	Meh				1	-	-	-	-	-
Nitzschia cocconeiformis Grunow	Meh			E1	-	7	-	-	7	-
Nitzschia compressa var. compressa	Meh			E1	1	1	-	8	10	-
Nitzschia compressa var. balatonis (Grun.) Lange-Bertalot	Meh			E1	2	-	-	1	-	-

種 類	生態性			環 境 指 標 種	23	25	27	28	29	30
	塩分	pH	流水							
Nitzschia compressa var. elongata (Grun.) Lange-Bertalot	Meh			E1	—	—	—	1	1	—
Nitzschia compressa var. vexans (Grun.) Lange-Bertalot	Meh			E1	1	—	—	—	—	—
Nitzschia constricta (Kuetz.) Ralfs	Meh				2	—	—	—	—	—
Nitzschia granulata Grunow	Meh			E1	6	46	4	3	65	1
Nitzschia granulata var. hyalinum	Meh				—	2	—	1	3	—
Nitzschia hungarica Grunow	Meh			E1	—	—	—	1	—	—
Nitzschia levidensis (W.Smith) Grunow	Meh				1	—	—	3	—	—
Nitzschia levidensis var. salinarum Grunow	Meh				2	—	—	2	—	—
Nitzschia littoralis Grunow	Meh				1	—	—	3	—	—
Nitzschia lorenziana Grunow	Meh			E2	2	—	—	—	—	—
Nitzschia obtusa W.Smith	Meh				8	—	—	—	—	—
Nitzschia tryblionella Hantzsch	Meh			E2	1	—	—	—	—	—
Pseudopodosira kosugii Tanimura et Sato	Meh			E2	3	—	—	—	—	—
Rhopalodia musculus (Kuetz.) O.Muller	Meh				—	—	—	1	—	—
Stauroneis cf. submarina Hustedt	Meh				1	—	—	—	—	—
Synedra tabulata Agardh	Meh				—	—	—	1	—	—
Thalassiosira lacustris (Grun.) Hasle	Meh				—	—	—	12	—	—
Amphora fontinalis Hustedt	Ogh-Meh	al-il	ind		1	—	—	—	—	—
Bacillaria paradoxa Gmelin	Ogh-Meh	al-bi	l-ph	U	11	—	—	1	—	—
Cymbella pusilla Grunow	Ogh-Meh	al-il	ind		14	—	—	1	—	—
Fragilaria brevistriata Grunow	Ogh-Meh	al-il	l-ph	U	7	1	17	16	—	—
Gyrosigma nodiferum (Grun.) G.West	Ogh-Meh	al-il	ind		3	—	—	11	—	—
Hydrosera whampoensis (Schwartz) Deby	Ogh-Meh	al-il	r-ph	U	1	—	—	1	—	—
Navicula capitata var. hungarica (Grun.) Ross	Ogh-Meh	al-il	r-ph	U	—	—	—	1	—	—
Navicula pygmaea Kuetzing	Ogh-Meh	al-il	ind	U	1	—	—	—	—	—
Nitzschia capitellata Hustedt	Ogh-Meh	al-il	ind	S	1	—	—	—	—	—
Rhopalodia gibberula (Ehr.) O.Muller	Ogh-Meh	al-il	ind		4	—	—	—	—	—
Surirella brebissonii var. kuetzingii Krammer & Lange-Bertalot	Ogh-Meh	al-il	ind		1	—	—	—	—	—
Achnanthes convergens H.Kobayasi	Ogh-ind	ind	r-ph	T	6	—	—	—	—	—
Achnanthes crenulata Grunow	Ogh-ind	al-bi	l-ph	T	1	1	1	1	1	—
Achnanthes lanceolata (Breb.) Grunow	Ogh-ind	ind	r-ph	K,T	1	—	1	1	—	—
Achnanthes peragalli Brun et Heribaud	Ogh-ind	ind	l-ph		—	—	1	—	—	—
Achnanthes silvahercynia Lange-Bertalot	Ogh-ind	ac-il	ind		—	—	1	—	—	—
Achnanthes subhudsonis Hustedt	Ogh-ind	ind	r-ph	T	4	—	—	2	—	—
Amphora affinis Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	U	—	—	1	—	—	—
Amphora pediculus (Kuetz.) Grunow	Ogh-ind	al-bi	ind	T	2	—	—	—	—	—
Aulacoseira alpigena (Grun.) Krammer	Ogh-hob	ac-il	l-bi	N,U	—	—	1	—	—	—
Aulacoseira ambigua (Grun.) Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-bi	N,U	—	—	3	—	—	—
Aulacoseira granulata (Ehr.) Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-bi	M,U	—	6	8	1	6	—
Aulacoseira italica (Ehr.) Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	—	1	9	1	—	—
Caloneis angustivalva Petit	Ogh-unk	unk	unk	RI	—	—	1	—	—	—
Caloneis bacillum (Grun.) Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	1	—	1	1	—	—
Cocconeis placentula (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	U	1	—	3	4	—	—
Cocconeis placentula var. euglypta (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	—	—	—	2	—	—
Cyclotella spp.	Ogh-unk	unk	unk		—	—	1	—	—	—
Cymbella silesiaca Bleisch	Ogh-ind	ind	ind	T	2	—	—	1	—	—
Cymbella sinuata Gregory	Ogh-ind	ind	r-ph	K,T	5	—	—	—	—	—
Cymbella tumida (Breb. ex Kuetz.) V.Heurck	Ogh-ind	al-il	ind	T	4	—	—	—	—	—
Cymbella turgidula var. nipponica Skvortzow	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	3	—	—	—	—	—
Cymbella spp.	Ogh-unk	unk	unk		—	—	1	—	—	—
Diploneis ovalis (Hilse) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	T	12	—	2	5	1	—
Diploneis parva Cleve	Ogh-ind	ind	ind		13	—	—	1	—	—
Epithemia adnata (Kuetz.) Brebisson	Ogh-ind	al-bi	ind		—	—	1	—	—	—
Eunotia duplicoraphis H.Kobayasi	Ogh-hob	ac-il	l-ph		—	—	1	—	—	—
Fragilaria construens (Ehr.) Grunow	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	—	—	8	—	1	—
Fragilaria construens fo. binodis (Ehr.) Hustedt	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	—	—	9	—	—	—
Fragilaria construens fo. venter (Ehr.) Hustedt	Ogh-ind	al-il	l-ph	S	—	—	3	8	—	—
Fragilaria construens var. triundulata Reichelt	Ogh-ind	al-il	l-ph		—	—	1	—	—	—
Fragilaria elliptica (Schumann) Carlson	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	—	—	1	—	—	—
Frustulia vulgaris (Thwait.) De Toni	Ogh-ind	al-il	ind	U	1	—	—	—	—	—

種 類	生態性			環 境 指 標 種	23	25	27	28	29	30
	塩分	pH	流水							
Frustulia weinholdii Hustedt	Ogh-ind	al-il	ind		1	-	-	-	-	-
Gomphonema clevei Fricke	Ogh-ind	al-bi	r-ph	T	-	-	-	1	-	-
Gomphonema parvulum Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	U	-	-	-	1	-	-
Gomphonema sumatorensis Fricke	Ogh-ind	ind	r-bi	J	-	-	6	1	-	-
Gyrosigma acuminatum (Kuetz.) Rabenhorst	Ogh-ind	al-il	ind		-	-	-	1	-	-
Gyrosigma scalproides (Rabh.) Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph		1	-	-	-	-	-
Gyrosigma spencerii (W.Smith) Cleve	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	2	-	-	-	-	-
Hantzschia amphioxys (Ehr.) Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA,U	-	-	2	-	-	-
Navicula capitatoradiata Germain	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,T	2	-	-	-	-	-
Navicula contenta Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA,T	1	-	-	-	1	-
Navicula cryptocephala Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	U	2	-	-	-	-	-
Navicula decussis Oestrup	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,T	-	-	2	-	-	-
Navicula ignota var. palustris (Hust.) Lund	Ogh-ind	ind	ind	RB	-	-	1	-	-	-
Navicula mutica Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	RA,S	1	2	10	3	-	-
Navicula mutica var. ventricosa (Kuetz.) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	RI	-	-	-	1	-	-
Navicula symmetrica Patrick	Ogh-ind	al-il	ind	T	1	-	-	-	-	-
Navicula viridula var. rostellata (Kuetz.) Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,U	1	-	-	-	-	-
Navicula spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	2	-	-	-
Nitzschia brevissima Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RB,U	1	1	-	2	-	-
Pinnularia schroederii (Hust.) Krammer	Ogh-ind	ind	ind	RI	-	-	-	1	-	-
Pinnularia spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	2	-	-	-
Rhoicosphenia abbreviata (Ag.) Lange-B.	Ogh-hil	al-il	r-ph	K,T	2	-	-	-	-	-
Sellaphora bacillum (Ehr.) Mann	Ogh-ind	al-il	ind	U	1	-	-	-	-	-
Sellaphora pupula (Kuetz.) Mereschkowsky	Ogh-ind	ind	ind	U	1	-	-	-	-	-
Stauroneis obtusa Lagerstedt	Ogh-ind	ind	ind	RB	-	-	-	1	-	-
Stephanodiscus niagarae Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	l-bi	M	-	-	3	1	-	-
Stephanodiscus spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	2	-	-	-
海水生種					9	10	3	18	35	0
海水～汽水生種					17	23	7	45	62	0
汽水生種					61	61	4	67	94	1
淡水～汽水生種					44	1	17	31	0	0
淡水生種					73	11	89	41	10	0
珪藻化石総数					204	106	120	202	201	1

凡例

H.R. : 塩分濃度に対する適応性	pH : 水素イオン濃度に対する適応性	C.R. : 流水に対する適応性
Euh : 海水生種	al-bi : 真アルカリ性種	l-bi : 真止水性種
Euh-Meh : 海水生種－汽水生種	al-il : 好アルカリ性種	l-ph : 好止水性種
Meh : 汽水生種	ind : pH不定性種	ind : 流水不定性種
Ogh-Meh : 淡水－汽水生種	ac-il : 好酸性種	r-ph : 好流水性種
Ogh-hil : 貧塩好塩性種	ac-bi : 真酸性種	r-bi : 真流水性種
Ogh-ind : 貧塩不定性種	unk : pH不明種	unk : 流水不明種
Ogh-hob : 貧塩嫌塩性種		
Ogh-unk : 貧塩不明種		

環境指標種群

A : 外洋指標種,	B : 内湾指標種,	C1 : 海水藻場指標種,	D1 : 海水砂質干潟指標種,
D2 : 汽水砂質干潟指標種,	E1 : 海水泥質干潟指標種,	E2 : 汽水泥質干潟指標種 (以上は小杉, 1988)	
K : 中～下流性河川指標種,	M : 湖沼浮遊性種,	N : 湖沼沼沢湿地指標種 (以上は安藤, 1990)	
S : 好汚濁性種,	U : 広域適応性種,	T : 好清水性種 (以上はAsai and Watanabe, 1995)	
R : 陸生珪藻 (RA : A群, RB : B群, RI : 未区分、伊藤・堀内, 1991)			

表8. 226570地点の珪藻分析結果

種 類	生態性			環 境 指標種	32	33	34
	塩分	pH	流水				
Coscinodiscus spp.	Euh				1	—	—
Diploneis suborbicularis (Greg.)Cleve	Euh			E1	1	—	—
Diploneis weissflogii (A.Schmidt)Cleve	Euh				2	—	—
Nitzschia lanceola Grunow	Euh				1	—	—
Paralia sulcata (Ehr.)Cleve	Euh			B	1	—	2
Thalassionema nitzschioides (Grun.)Grunow	Euh			A,B	1	1	—
Trachyneis spp.	Euh				—	—	2
Cyclotella striata (Kuetz.)Grunow	Euh-Meh			B	5	—	—
Cyclotella striata-C. stylorum	Euh-Meh			B	10	—	—
Cyclotella stylorum Brightwell	Euh-Meh			B	2	—	2
Diploneis interrupta (Kuetz.)Cleve	Euh-Meh				3	—	—
Diploneis smithii (Breb.)Cleve	Euh-Meh			E1	7	14	—
Diploneis smithii var. pumila (Grun.)Hustedt	Euh-Meh			E1	—	1	—
Diploneis smithii var. rhombica Mereschkowsky	Euh-Meh				1	—	—
Diploneis spp.	Euh-Meh				2	5	—
Navicula alpha Cleve	Euh-Meh			D2	1	—	—
Navicula sp.	Euh-Meh				—	1	—
Caloneis westii (W.Smith) Hendey	Meh				2	—	—
Caloneis spp.	Meh				1	—	—
Campylodiscus echeneis Ehrenberg	Meh				1	—	—
Diploneis pseudovalis Hustedt	Meh				12	—	—
Nitzschia compressa var. elongata (Grun.)Lange-Bertalot	Meh			E1	1	—	—
Nitzschia granulata Grunow	Meh			E1	24	3	—
Nitzschia granulata var. hyalinum	Meh				1	—	—
Gyrosigma nodiferum (Grun.)G.West	Ogh-Meh	al-il	ind		2	—	—
Navicula capitata var. hungarica (Grun.)Ross	Ogh-Meh	al-il	r-ph	U	1	—	—
Achnanthes crenulata Grunow	Ogh-ind	al-bi	l-ph	T	—	1	—
Achnanthes lanceolata (Breb.)Grunow	Ogh-ind	ind	r-ph	K,T	—	1	—
Achnanthes inflata (Kuetz.)Grunow	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	1	—	—
Amphora pediculus (Kuetz.)Grunow	Ogh-ind	al-bi	ind	T	1	—	—
Aulacoseira ambigua (Grun.)Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-bi	N,U	1	—	—
Aulacoseira granulata (Ehr.)Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-bi	M,U	6	—	—
Cocconeis placentula (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	U	—	1	—
Cocconeis placentula var. euglypta (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	1	—	—
Cymbella tumida (Breb. ex Kuetz.)V.Heurck	Ogh-ind	al-il	ind	T	—	1	—
Diploneis ovalis (Hilse)Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	T	—	1	—
Diploneis parma Cleve	Ogh-ind	ind	ind		1	—	—
Diploneis spp.	Ogh-unk	unk	unk		1	—	—
Fragilaria construens fo. venter (Ehr.)Hustedt	Ogh-ind	al-il	l-ph	S	2	—	—
Fragilaria exigua Grunow	Ogh-hob	ac-il	l-ph		1	—	—
Gomphonema sumatrense Fricke	Ogh-ind	ind	r-bi	J	—	1	—
Hantzschia amphioxys (Ehr.)Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA,U	—	2	—
Navicula contenta Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA,T	—	1	—
Navicula contenta fo. biceps (Arnott)Hustedt	Ogh-ind	al-il	ind	RA,T	—	1	—
Navicula mutica Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	RA,S	—	2	—
Nitzschia brevissima Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RB,U	1	—	—
Orthoseira roeseana (Rabh.)O'Meara	Ogh-ind	ind	ind	RA	1	—	—
Stephanodiscus spp.	Ogh-unk	unk	unk		0	—	—
Synedra ulna (Kuetz.)Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	ind	U	—	2	—
海水生種					7	1	3
海水～汽水生種					31	21	2
汽水生種					42	3	1
淡水～汽水生種					3	0	1
淡水生種					18	14	1
珪藻化石総数					101	39	4

凡例 H.R. : 塩分濃度に対する適応性 pH : 水素イオン濃度に対する適応性 C.R. : 流水に対する適応性
 Euh : 海水生種 al-bi : 真アルカリ性種 l-bi : 真止水性種
 Euh-Meh : 海水生種－汽水生種 al-il : 好アルカリ性種 l-ph : 好止水性種
 Meh : 汽水生種 ind : pH不定性種 ind : 流水不定性種
 Ogh-Meh : 淡水－汽水生種 ac-il : 好酸性種 r-ph : 好流水性種
 Ogh-hil : 貧塩好塩性種 ac-bi : 真酸性種 r-bi : 真流水性種
 Ogh-ind : 貧塩不定性種 unk : pH不明種 unk : 流水不明種
 Ogh-hob : 貧塩嫌塩性種 Ogh-unk : 貧塩不明種

環境指標種群

A : 外洋指標種, B : 内湾指標種, D2 : 汽水砂質干潟指標種, E1 : 海水泥質干潟指標種(以上は小杉, 1988),
 M : 湖沼浮遊性種, N : 湖沼沼沢湿地指標種(以上は安藤, 1990), S : 好汚濁性種, U : 広域適応性種,
 T : 好清水性種(以上はAsai and Watanabe, 1995), R : 陸生珪藻(RA : A群, RB : B群, RI : 未区分、伊藤・堀内, 1991)

試料番号25は、試料番号29に群集が近似しており、汽水生種が約60%と最も多く、海水～汽水生種が約20%、海水生種が約10%産出した。主な産出種は、海水泥質干潟指標種群の*Nitzschia granulata*が約45%と優占し、海水泥質干潟指標種群の*Diploneis smithii*、*Nitzschia cocconeiformis*等を伴う。

試料番号23は、汽水生種、淡水～汽水生種、淡水生種が20～30%産出した。とくに多産するものではなく、海水泥質干潟指標種群の*Diploneis smithii*、汽水底生の*Diploneis pseudovalis*、淡水～汽水生種の*Bacillaria paradoxa*、*Cymbella pusilla*、*Fragilaria brevistriata*、好流水性で付着性の*Achnanthes convergens*、中～下流性河川指標種群（安藤,1990）の*Cymbella sinuate*、流水不定性の*Diploneis ovalis*、*Diploneis parma*等が産出した。中～下流性河川指標種群とは、河川中～下流部や河川沿いの河岸段丘、扇状地、自然堤防、後背湿地などに集中して出現することから、その環境を指標することができる種群のことである（安藤,1990）。

・226570地点

結果を表8、図5に示す。試料番号32から珪藻化石が産出したが、試料番号33、34は少なかった。化石が産出した試料番号32の完形殻の出現率は、約40%と化石の保存状態は良くはない。産出分類群数は、合計で22属42分類群である。試料番号32は、海水～汽水生種が約30%、汽水生種が約40%、淡水生種が約20%産出した。産出種の特徴は、海水泥質干潟指標種群の*Nitzschia granulata*が約25%と優占し、汽水底生の*Diploneis pseudovalis*、内湾指標種群の*Cyclotella striata*、*Cyclotella striata*-*C. stylorum*、海水泥質干潟指標種群の*Diploneis smithii*等を伴うことである。

4. 考 察

分析の対象とした4箇所のボーリング試料で認められたシルト質の堆積層は、放射性炭素年代からは約7000～7500年前頃の年代観が得られた。しかし、テフラ分析からは、火山ガラスが検出されたものの年代指標になり得るほどのテフラ層といえる状態ではなかった。また、検出された火山ガラスは、その形態と屈折率から、始良Tn火山灰（町田・新井,1976）に由来すると考えられ、混在する高屈折率の火山ガラスは、阿蘇4火山灰（Aso-4：町田ほか,1985）に由来する可能性がある。おそらく、極めて微量認められた褐色を帯びたバブル型火山ガラスもAso-4に由来すると考えられる。なお、ATの噴出年代については、80年代後半から90年代にかけて行われた放射性炭素年代測定（例えば松本ほか（1987）、村山ほか（1993）、池田ほか（1995）、宮入ほか（2001）など）から、放射性炭素年代ではおよそ2.5万年前頃にまとまる傾向にある。一方、最近の海底コアにおけるATの発見から、その酸素同位体ステージ上における層準は、酸素同位体ステージ2と3との境界付近またはその直前にあるとされ、その年代観は2.5～3.2万年前におよぶとされている（町田・新井,2003）。町田・新井（2003）は、ATの放射性炭素年代を暦年に換算することがまだ困難であると述べているが、上述の海底コアの年代観も考慮すれば、暦年ではおそらく2.6～2.9万年前頃になるであろうとしている。また、Aso-4の噴出年代は、層位学的に8.5～9万年前頃とされている（町田・新井,2003）。したがって、各箇所のシルト質堆積層から検出された火山ガラスは、いずれも陸上に堆積していたテフラ層に由来する碎屑物であり、それを含む堆積層は、そのテフラの噴出年代以降の堆積年代であることは確実であるが、堆積年代自体はわからない。ところで、九州地方の完新世における第一級の指標テフラとして鬼界アカホヤ火山灰（K-Ah：町田・新井,1978）があげられる。今回検出された火山ガラスの中でAso-4に由来するとした高屈折率かつ褐色を帯びた火山ガラスは、K-Ahの火山ガラスにも共通するものである。しかし、八代平野付近におけるK-Ahの分布（例えば町田・新井,2003）を考慮すれば、K-Ah降灰以降の堆積物中に、K-Ahの火山ガラスが微量でATの火山ガラスが多量という状況は考えにくい。さらに、K-Ahの噴出年代は、放射性炭素年代で約6300年前、暦年代で約7300年前とされている（町田・新井,2003）ことと今回のシルト質堆積物における植物遺体等の放射性炭素年代を考慮すれば、シルト質堆積物の堆積は、K-Ahの降灰より以前

であった可能性が高い。すなわち、今回の各地点におけるシルト質堆積物の堆積年代は、概ね7000～7500年前（放射性炭素年代）頃の堆積層であったと考えて良い。

一方、珪藻分析では、各地点のシルト質堆積層から、内湾指標種群または海水泥質干潟指標種群を多産する海水～汽水生種および汽水生種によって特徴付けられる群集が得られた。上記においてシルト質堆積物の年代とした7000～7500年前頃は、いわゆる縄文海進とよばれる高海面期である。一般に、縄文海進の高頂期は、放射性炭素年代で約6000年前、暦年代で7000～7300年前とされている（米倉ほか編,2001）から、今回のシルト質堆積層は、高頂期に向かう海面の上昇期に堆積した海成層であると考えられる。ここで、各地点のシルト質堆積物の上面高度をみると、いずれも標高-10m以下にある。これは、下山ほか（1999）が述べたように、九州西海岸地域における12.5万年前から現在に至るまで地殻が沈降傾向にあることを反映していると考えられる。

ところで、各地点のシルト質堆積物の下部では、珪藻化石の産出が不良であった。これは、シルト質堆積物の下部がいずれも上部に比べて砂分の多いやや粗粒の堆積物であることが原因と考えられる。すなわち、珪藻化石は死後シルト粒子以下の微細な碎屑物と挙動を共にする（小杉,1989）と言われていることから、砂が堆積するような流速の速い環境では下流側に流下してしまい、化石が残らなかったと考えられる。

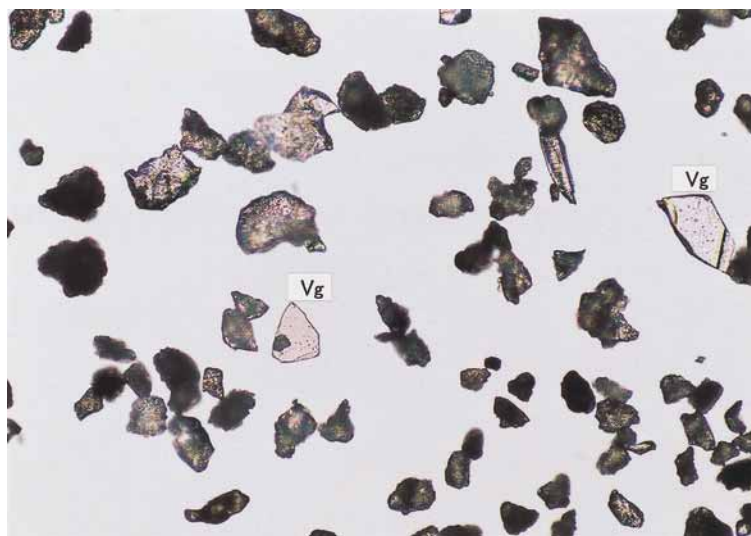
なお、19796地点のシルト質砂からなる試料番号27は、群集的に見て他地点との連続性に欠ける。本試料は、結果でも述べたように海水～汽水生種も産出したが、淡水生種（浮遊性種を含む止水性種が多産）を主体とした群集から構成されていた。これは、一時的に河道が接近するなど陸側からの淡水の影響が高かったことを示唆していると考えられる。

引用文献

- 安藤 一男,1990,淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用.東北地理,42,73-88.
- Asai, K. & Watanabe, T.,1995,Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution (2) Saprophyllous and saproxenous taxa. *Diatom*,10, 35-47.
- 古澤 明,1995,火山ガラスの屈折率測定および形態分類とその統計的な解析に基づくテフラの識別.地質学雑誌,101,123-133.
- 原口 和夫・三友 清史・小林 弘,1998,埼玉の藻類 珪藻類.埼玉県植物誌,埼玉県教育委員会,527-600.
- 池田晃子・奥野 充・中村俊夫・筒井正明・小林哲夫,1995,南九州、始良カルデラ起源の大隅降下軽石と入戸火砕流中の炭化樹木の加速器質量分析法による¹⁴C年代.第四紀研究,34,377-379.
- 伊藤 良永・堀内 誠示,1991,陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用.珪藻学会誌,6,23-45.
- 小杉 正人,1988,珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用.第四紀研究,27,1-20.
- 小杉 正人,1989,珪藻化石群集の形成過程と古生態解析.日本ベントス研究会誌,35/36,17-28.
- Krammer, K.,1992,PINNULARIA.eine Monographie der europäischen Taxa.BIBLIOTHECA DIATOMOLOGICA BAND26. J.CRAMER,353p.
- Krammer, K. & Lange-Bertalot, H.,1986,*Bacillariophyceae.1.Teil : Naviculaceae. In : Suesswasserflora von Mitteleuropa.Band2/1. Gustav Fischer Verlag,876p.*
- Krammer, K. & Lange-Bertalot, H.,1988,*Bacillariophyceae.2.Teil : Epithemiaceae,Bacillariaceae,Suirellaceae. In : Suesswasserflora von Mitteleuropa.Band2/2. Gustav Fischer Verlag,536p.*
- Krammer, K. & Lange-Bertalot, H.,1991a,*Bacillariophyceae.3.Teil : Centrales,Fragilariaceae,Eunotiaceae. In : Suesswasserflora von Mitteleuropa.Band2/3. Gustav Fischer Verlag,230p.*
- Krammer, K. & Lange-Bertalot, H.,1991b,*Bacillariophyceae.4.Teil : Achnantheaceae,Kritische Ergaenzungen zu Navicula (Lineolatae) und Gomphonema. In : Suesswasserflora von Mitteleuropa.Band2/4. Gustav Fischer Verlag,248p.*

- 桑畑光博・東 和幸,1997,南九州の火山灰と考古遺物.月刊地球19,208-214.
- 町田 洋・新井房夫,1976,広域に分布する火山灰-始良Tn火山灰の発見とその意義.科学,46,339-347.
- 町田 洋・新井房夫,1978,南九州鬼界カルデラから噴出した広域テフラ-アカホヤ火山灰.第四紀研究,17,143-163.
- 町田 洋・新井房夫,2003,新編 火山灰アトラス.東京大学出版会,336p.
- 町田 洋・新井房夫・百瀬 貢,1985,阿蘇 4 火山灰-分布の広域性と後期更新世示標層としての意義-.火山,30,49-70.
- 松本英二・前田保夫・竹村恵二・西田史朗,1987,始良Tn火山灰の14 C 年代.第四紀研究,26,79-83.
- 宮入陽介・吉田邦夫・宮崎ゆみ子・小原圭一・兼岡一郎,2001,始良Tn火山灰のC-14年代のクロスチェック (演旨).地球惑星科学関連学会合同大会予稿集 (CD-ROM) ,2001,Qm-010.
- 村山雅史・松本英二・中村俊夫・岡村 真・安田尚登・平 朝彦,1993,四国沖ピストンコア試料を用いた AT火山灰噴出年代の再検討-タンデトロン加速器質量分析計による浮遊性有孔虫の14 C 年代-.地質学雑誌,99,787-798.
- 下山 正一・木下 裕子・宮原 百々・田中 ゆかり・市原 季彦・竹村 恵二,1999,旧汀線高度からみた九州の後期更新世地殻変動様式,地質学雑誌,105,5,311-331.
- Witkowski, A., & Lange-Bertalot, H. & Metzeltin, D.,2000, *Iconographia Diatomologica 7. Diatom flora of Marine coast I*. A.R.G.Gantner Verlag K.G., 881p
- 米倉伸之・貝塚爽平・野上道男・鎮西清高,2001,日本の地形 1 総説.東京大学出版会,349p.

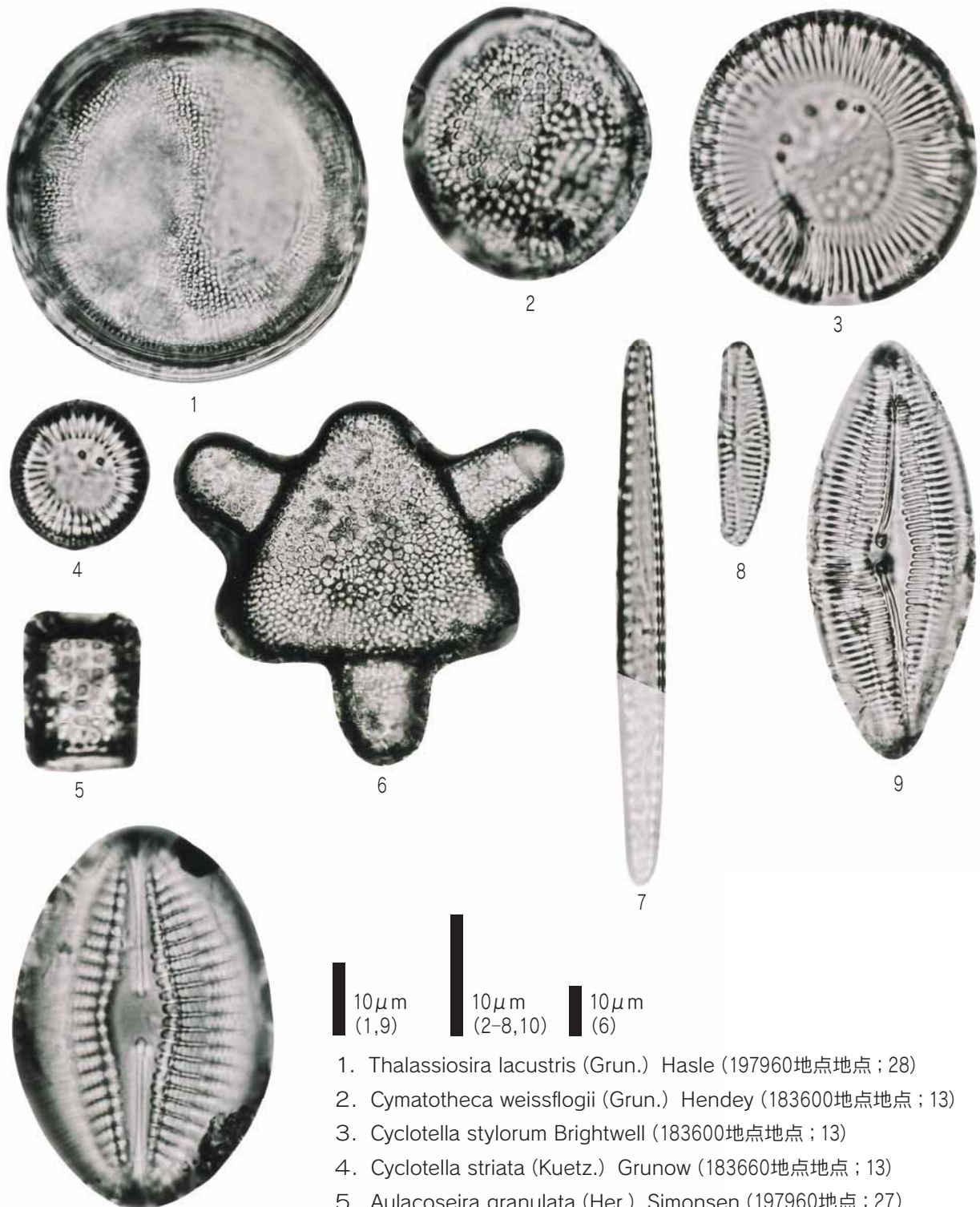
図版1 火山ガラス



1. 226570地点 ; 31 Vg : 火山ガラス

0.5mm

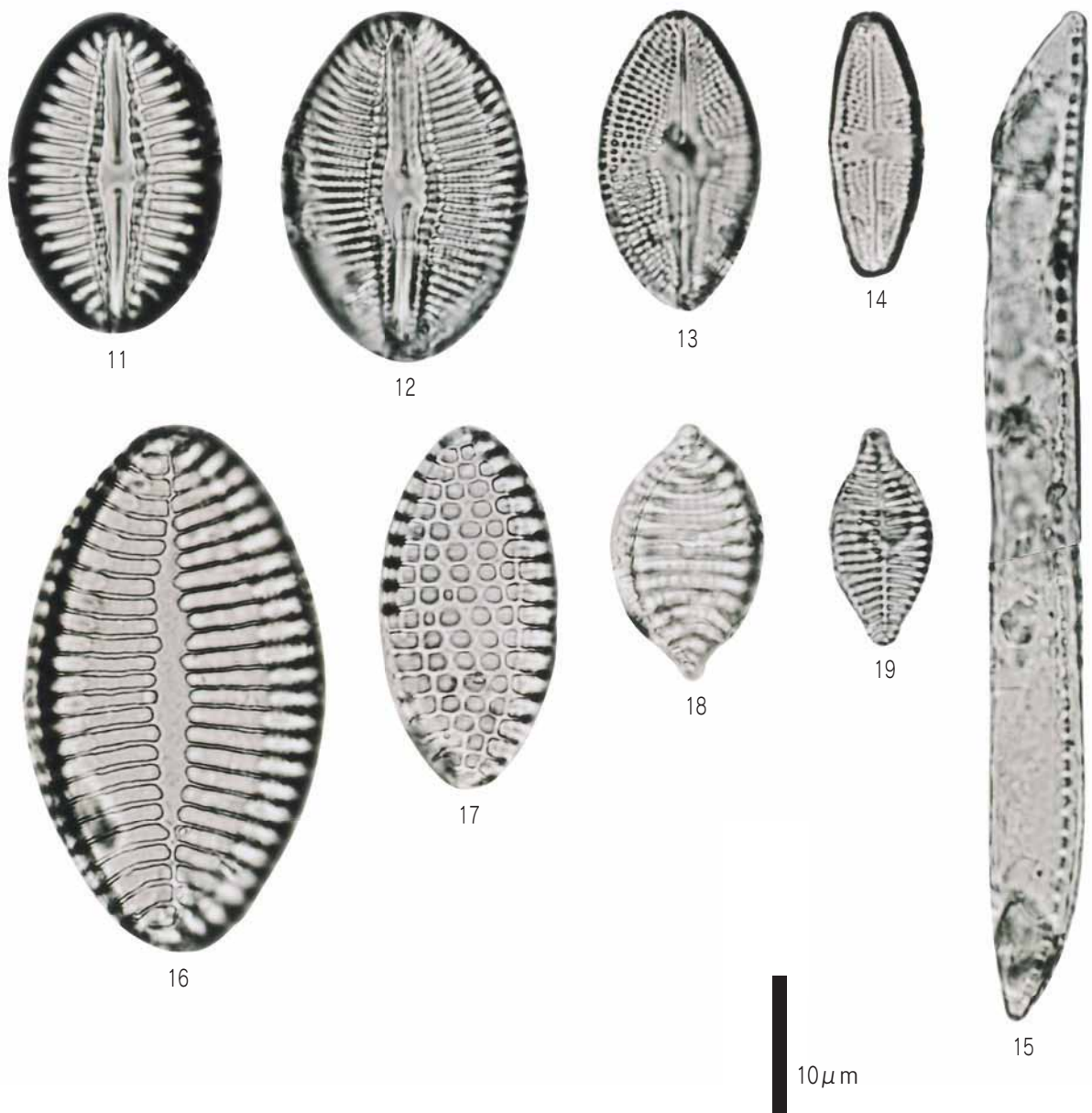
图版2 珪藻化石(1)



10 μm (1,9) 10 μm (2-8,10) 10 μm (6)

1. *Thalassiosira lacustris* (Grun.) Hasle (197960地点地点; 28)
2. *Cymatotheca weissflogii* (Grun.) Hendey (183600地点地点; 13)
3. *Cyclotella stylorum* Brightwell (183600地点地点; 13)
4. *Cyclotella striata* (Kuetz.) Grunow (183660地点地点; 13)
5. *Aulacoseira granulata* (Her.) Simonsen (197960地点; 27)
6. *Hydrosera whampoensis* (Schwartz) Deby (183600地点; 15)
7. *Thalassionema nitzschioides* (Grun.) Grunow (183600地点; 13)
8. *Cymbella pusilla* Grunow (197960地点; 23)
9. *Caloneis westii* (W.Smith) Hendey (183600地点; 17)
10. *Diploneis smithii* (Breb.) Cleve (183600地点; 13)

图版3 珪藻化石(2)



11. *Diploneis pseudovalis* Hustede (197960地点; 23)
12. *Diploneis parma* Cleve (197960地点; 23)
13. *Navicula* sp.-1 (197960地点; 23)
14. *Navicula mutica* Kuetzing (197960地点; 27)
15. *Nitzschia obtusa* W.Smith (197960地点; 23)
16. *Nitzschia cocconeiformis* Grunow (164870地点; 8)
17. *Nitzschia granulata* Grunow (164870地点; 8)
18. *Nitzschia compressa* (Bailey) Boyer var. *compressa* (183600地点; 17)
19. *Achnanthes delicatula* (Kuetz.) Grunow (197960地点; 23)

PLATE
写真図版

撮影機材及び使用フィルム
カメラ リンホフスーパーテヒニカ
レンズ Nikon90mm SW・W125mm
フィルム kodak T-max100、kodak E100G
(PL. 9を除く)



1. 四百町開旧堤防全景(上空より) 2. 四百町開旧堤防 石積み検出状況



宮地小畑遺跡 E・F-11・12Grid 5層 遺構 1. 検出状況 2. 完掘状況



1. 宮地小畑遺跡 溝SD001完掘状況

3. 宮地小畑遺跡 土坑SK003・SK004遺物出土状況

2. 宮地小畑遺跡 F・G-14・15Grid 5層遺物出土状況

4. 宮地小畑遺跡 G-15Grid 5層遺構完掘状況



1. 宮地小畑遺跡 7層遺構検出状況

3. 宮地小畑遺跡 土坑SK030・SK033・SK034遺構検出状況

2. 宮地小畑遺跡 土坑SK029遺物出土状況

4. 宮地小畑遺跡 土坑SK031・SK032完掘状況



1. 宮地小畑遺跡 土坑SK030検出調査状況
3. 宮地小畑遺跡 土坑SK033遺物出土状況

2. 宮地小畑遺跡 土坑SK030土層断面
4. 宮地小畑遺跡 土坑SK033遺物出土状況



1. 宮地小畑遺跡 土坑SK035遺物出土狀況
3. 宮地小畑遺跡 土坑SK044遺物出土狀況

2. 宮地小畑遺跡 土坑SK036遺物出土狀況
4. 宮地小畑遺跡 土坑SK048完掘狀況



1. 宮地小畑遺跡 墓ST001検出調査状況
3. 宮地小畑遺跡 墓ST001、pit2完掘状況

2. 宮地小畑遺跡 墓ST001遺物出土状況
4. 宮地小畑遺跡 不明遺構SX001遺物出土状況



宮地小畑遺跡 7層上面(古代)完掘状況



宮地小畑遺跡 土坑SK051～SK054 1. 検出状況 2. 完掘状況



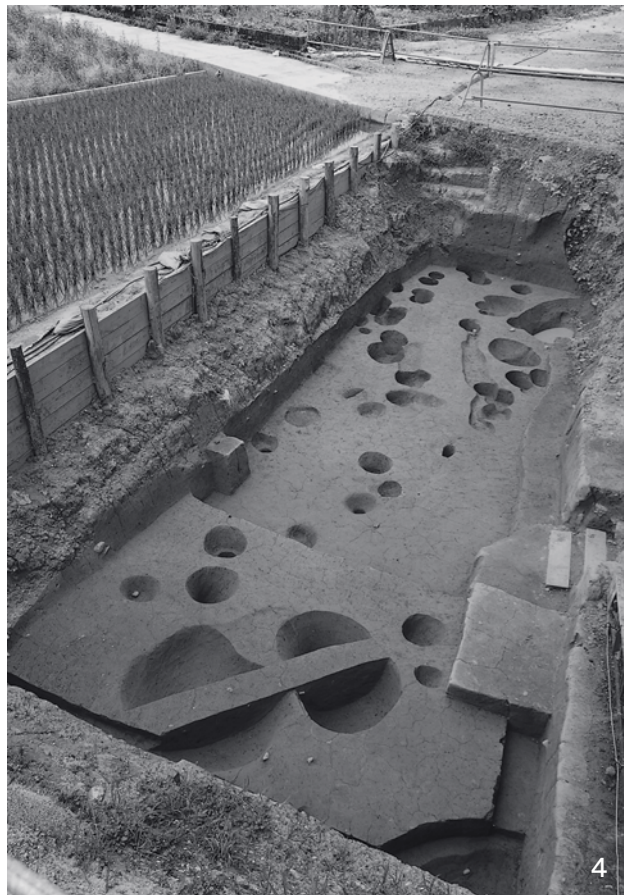
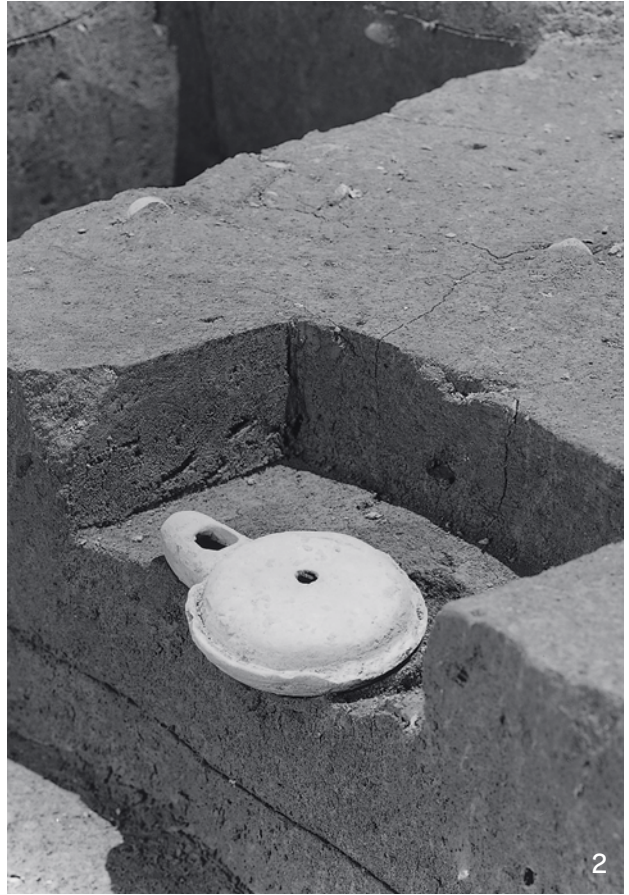
宮地小畑遺跡 G-14・15Grid土層断面、検出状況



1. 宮地観行寺遺跡1区 4層遺構完掘状況

2. 宮地観行寺遺跡1区 5層遺構検出状況

3. 4. 宮地観行寺遺跡1区 土坑SK003土器出土状況



1. 宮地観行寺遺跡 1区 土坑SK004土層断面
3. 宮地観行寺遺跡 1区 7層検出状況

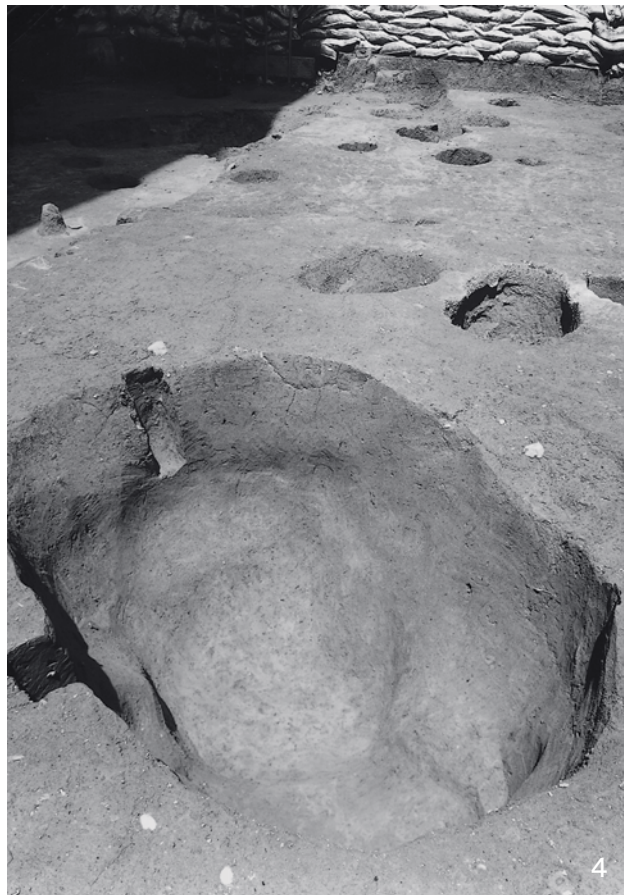
2. 宮地観行寺遺跡 1区 5層遺物出土状況(中空円面碗)
4. 宮地観行寺遺跡 1区 7層完掘状況



宮地観行寺遺跡2区 4層遺構 1. 検出状況 2. 完掘状況



宮地観行寺遺跡 2区 溝SD002 1. 2. 礎出土状況 3. 土層断面 4. 完掘状況



宮地観行寺遺跡2区 土坑SK002 1. 3. 遺物出土状況 2. 土層断面 4. 完掘状況



1. 宮地観行寺遺跡 2区 溝SD004磔列出土状況

3. 宮地観行寺遺跡 2区 作業風景

2. 宮地観行寺遺跡 2区 溝SD004磔出土、SK009完掘状況

4. 宮地観行寺遺跡 2区 古代完掘状況



宮地観行寺遺跡 2区 溝SD004 1. 検出状況 2. 土層断面 3. 礫出土状況 4. 完掘状況



1. 宮地小畑遺跡 溝SD002出土遺物

2. 宮地小畑遺跡 土坑SK027出土遺物



1. 宮地小畑遺跡 土坑SK030出土遺物

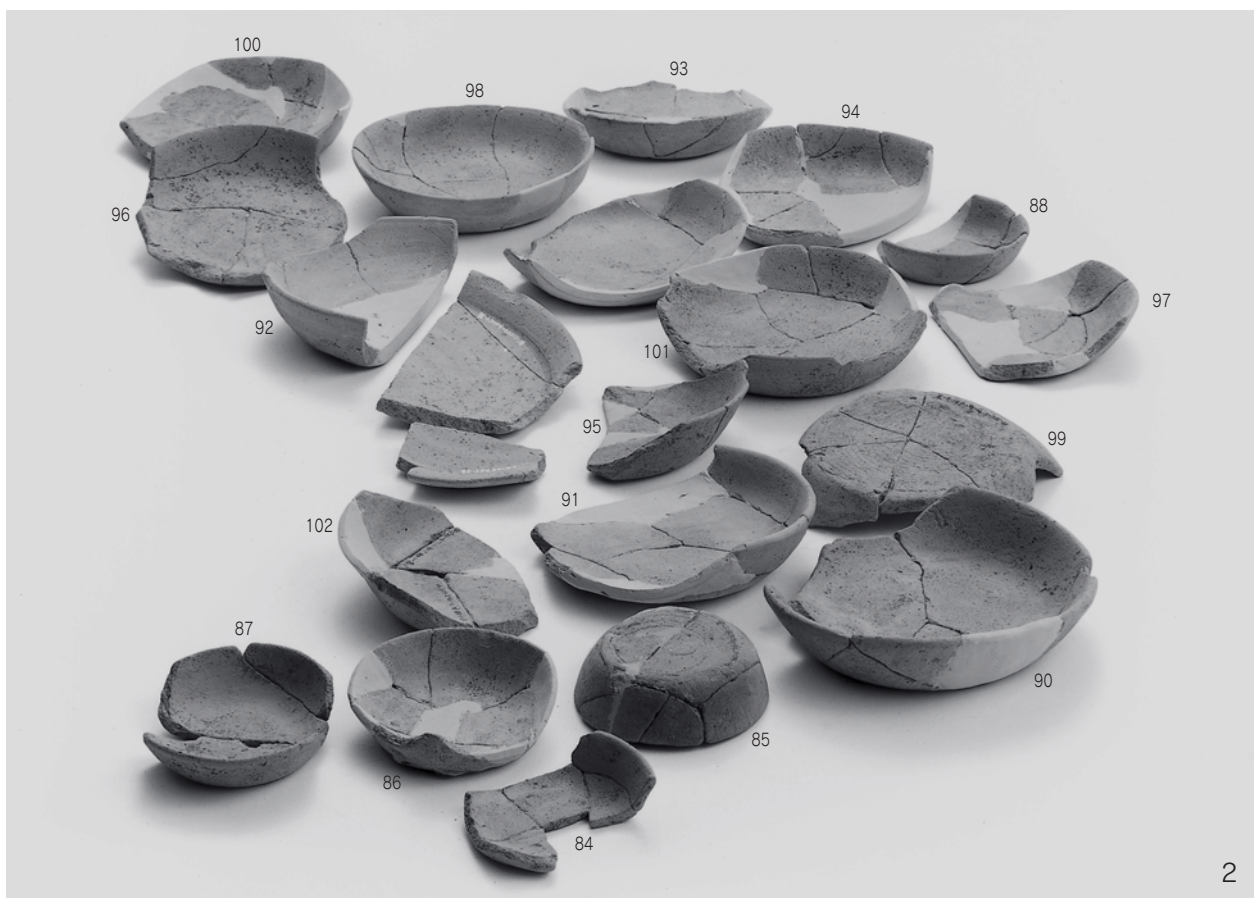
2. 宮地小畑遺跡 土坑SK033出土遺物



1. 2. 宮地小畑遺跡 土坑SK035出土遺物

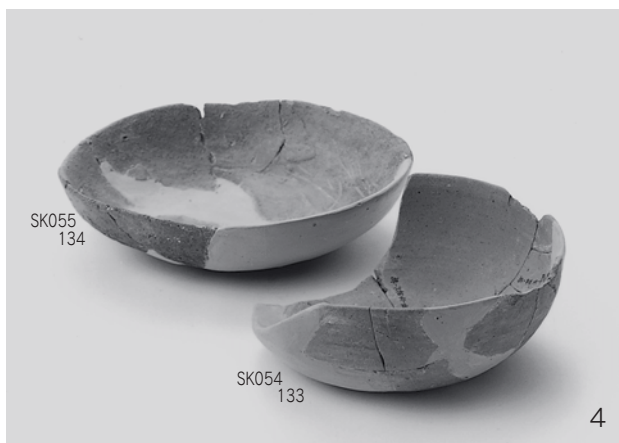


1

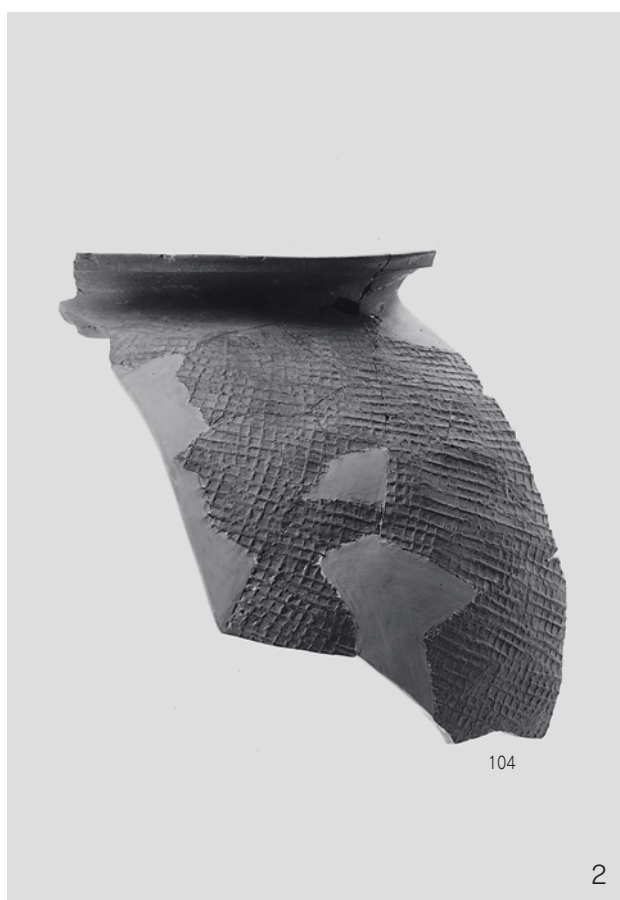


2

1. 宮地小畑遺跡 土坑SK036出土遺物 2. 宮地小畑遺跡 土坑SK044出土遺物

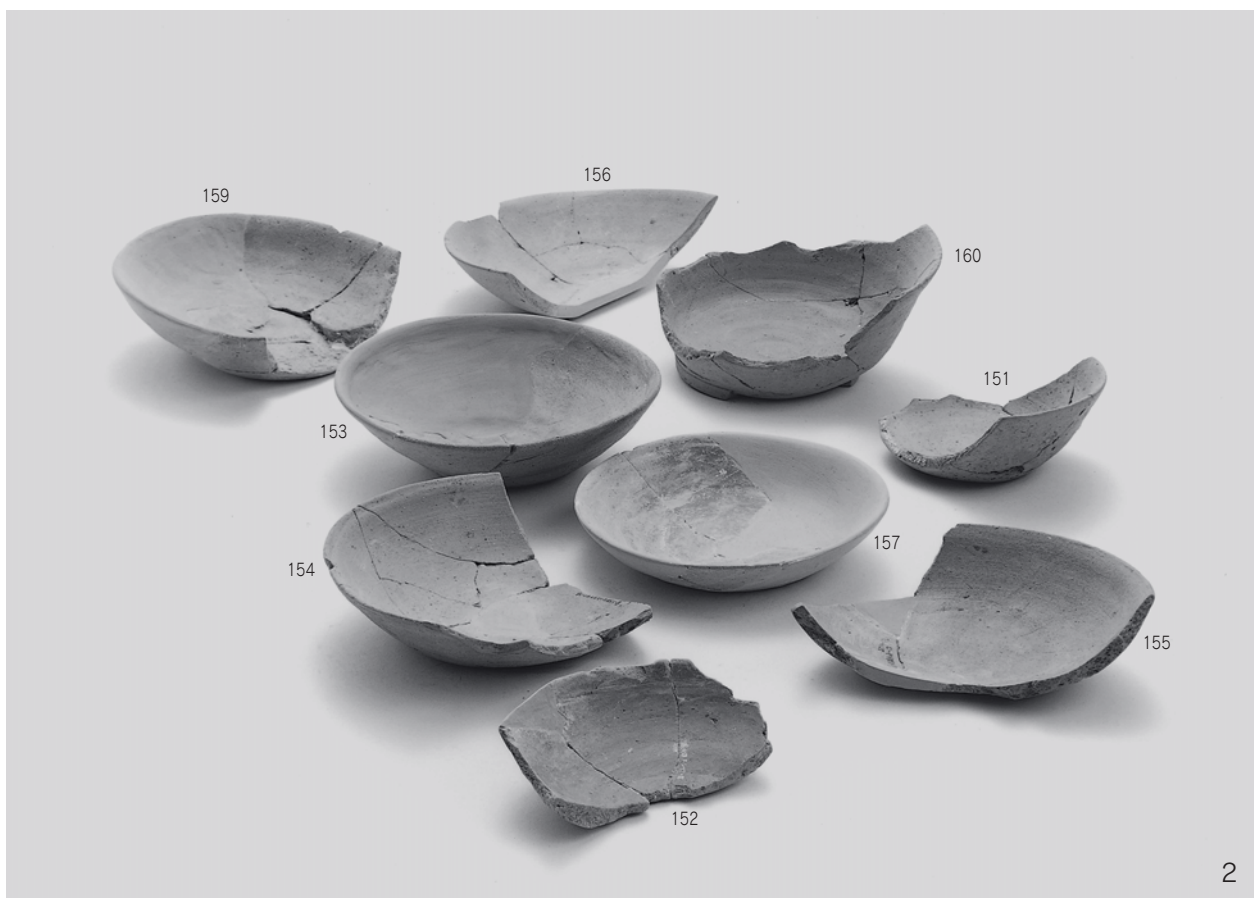


1. 宮地小畑遺跡 土坑SK027出土遺物
2. 宮地小畑遺跡 土坑SK050出土遺物
3. 宮地小畑遺跡 土坑SK036出土遺物
4. 宮地小畑遺跡 土坑SK054・SK055出土遺物



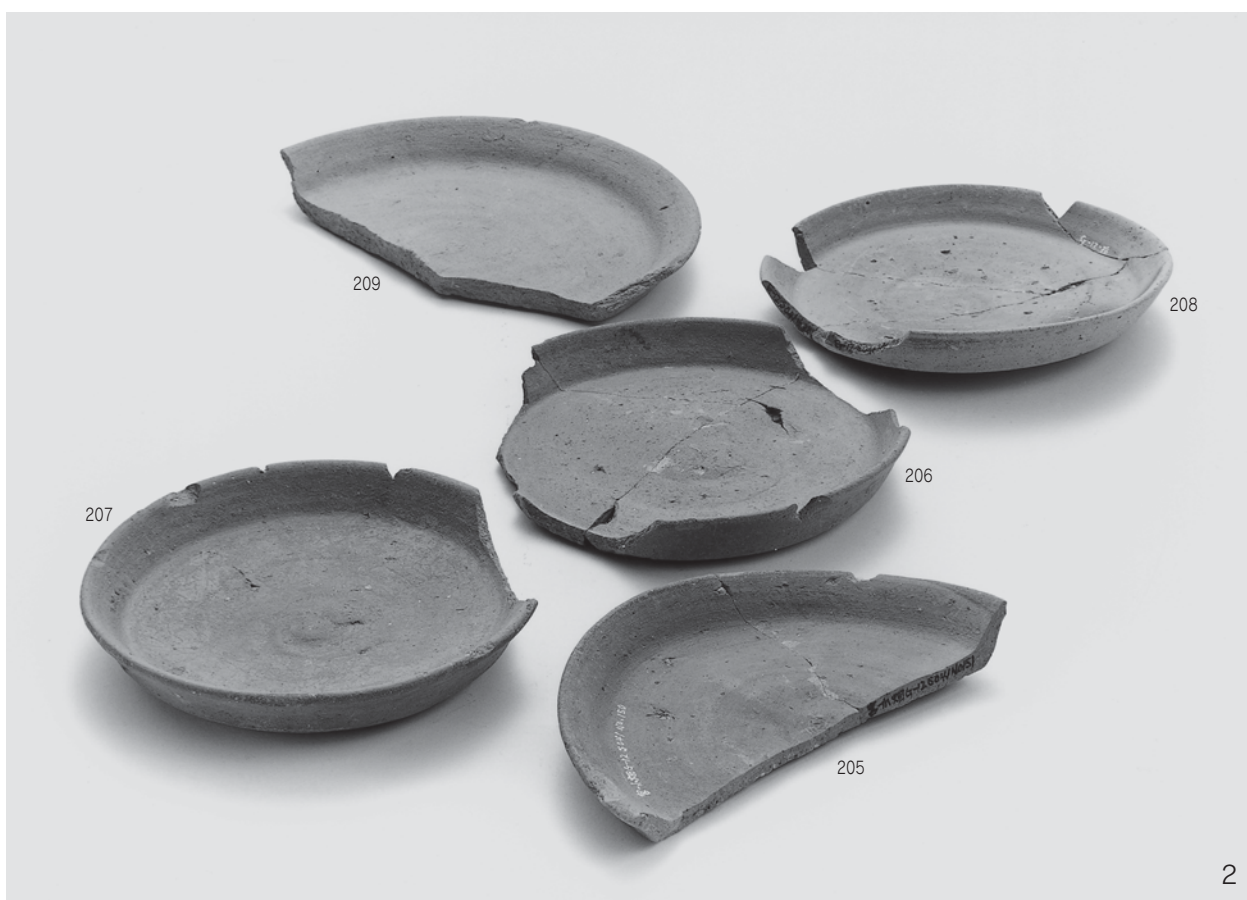
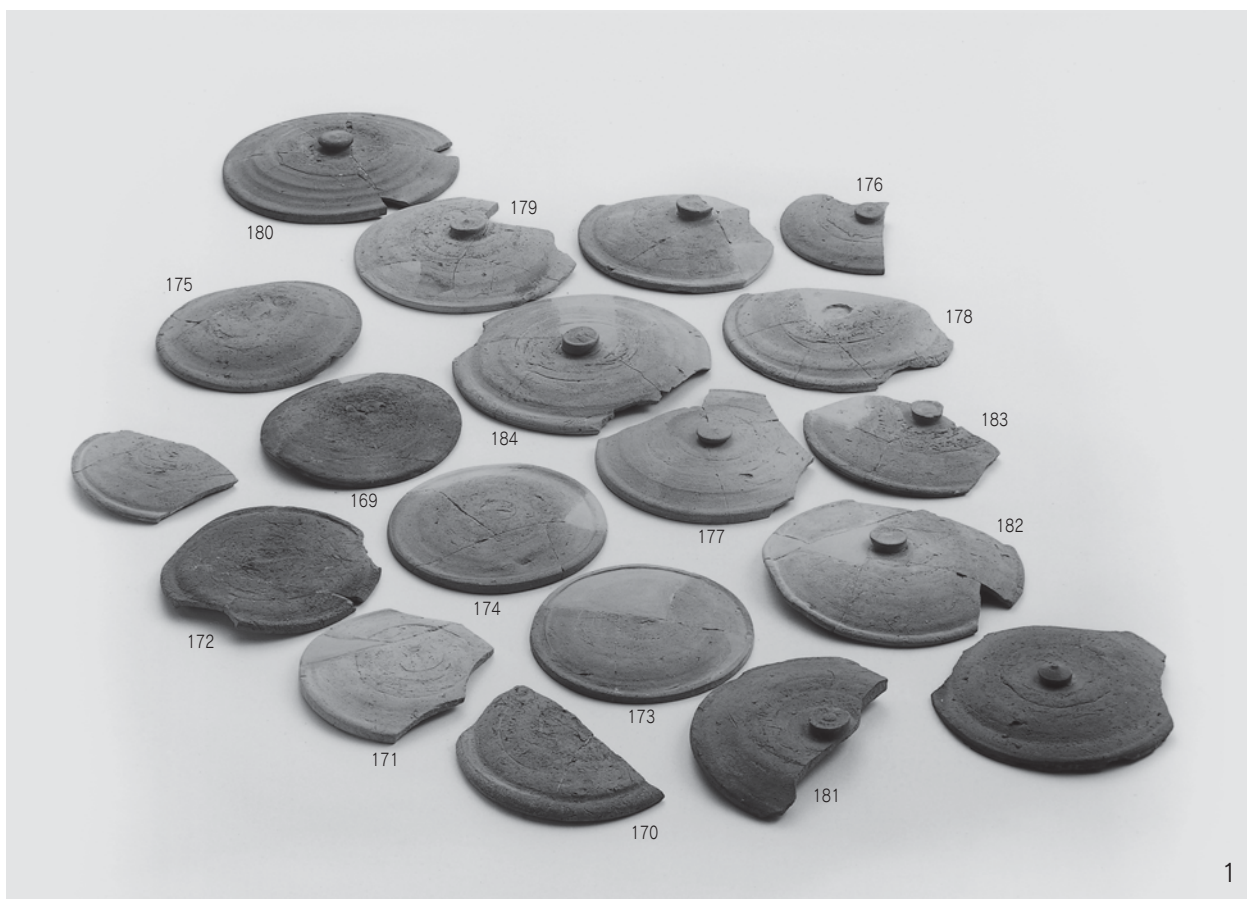
1. 宮地小畑遺跡 土坑SK051出土遺物
2. 宮地小畑遺跡 土坑SK045出土遺物

3. 宮地小畑遺跡 土坑SK056出土遺物
4. 宮地小畑遺跡 土坑SK054出土遺物



1. 宮地小畑遺跡 土坑SK041(80)・不明遺構SX001出土遺物

2. 宮地小畑遺跡 不明遺構SX001出土遺物



1. 2. 宮地小畑遺跡 不明遺構SX001出土遺物



1. 宮地小畑遺跡 不明遺構SX001出土遺物 2. 宮地小畑遺跡 不明遺構SX002出土遺物

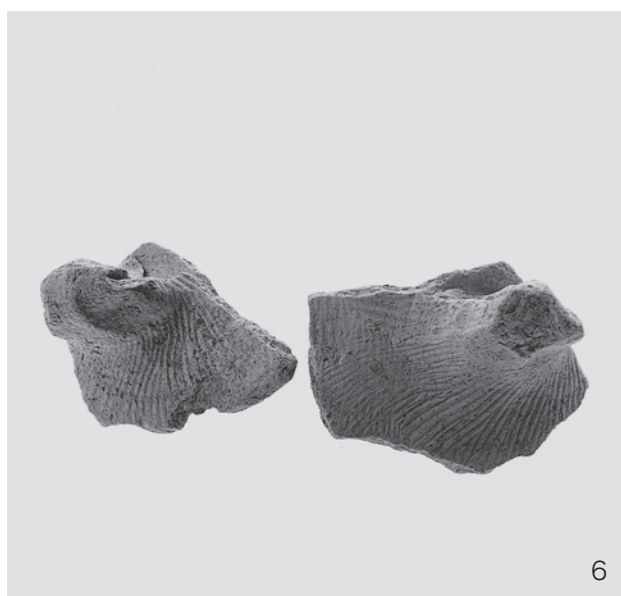
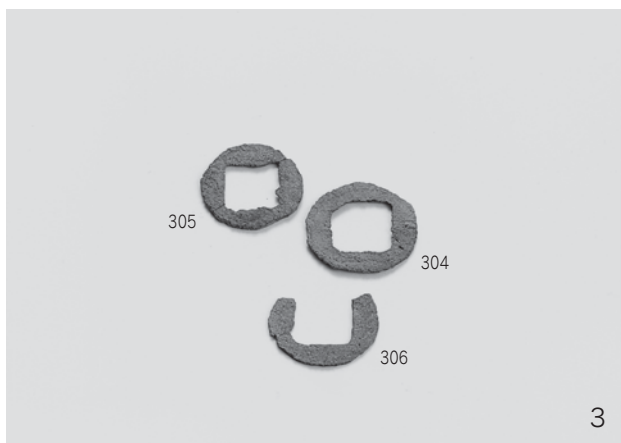
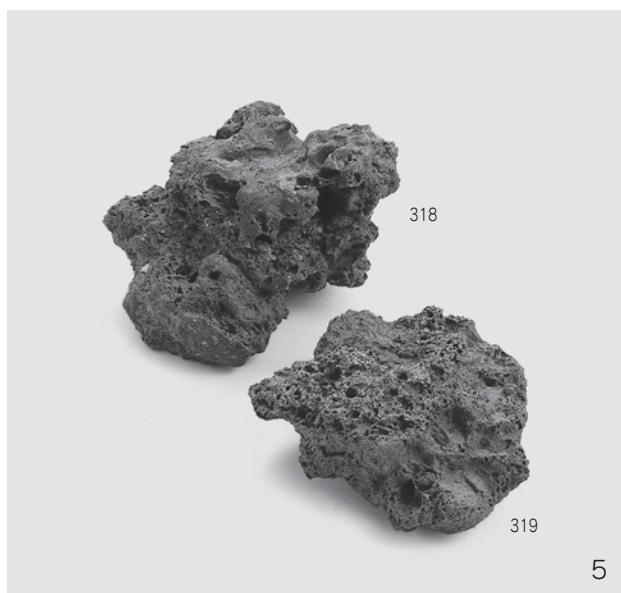


1. 宮地小畑遺跡 不明遺構SX002出土遺物
2. 宮地小畑遺跡 不明遺構SX001出土遺物

3. 宮地小畑遺跡調査区出土遺物
4. 宮地小畑遺跡F・G-13Grid出土遺物



1. 宮地小畑遺跡 調査区出土遺物(転用碗) 2. 宮地小畑遺跡 土坑SK030(37)・調査区出土遺物(瓦)



1. 宮地小畑遺跡 調査区出土(鉄製品)
2. 宮地小畑遺跡 土坑 SK012・SK026出土遺物
3. 宮地小畑遺跡 土坑 SK005出土遺物(模造銭)

4. 宮地小畑遺跡 土坑 SK019出土遺物(軒丸瓦)
5. 宮地小畑遺跡 調査区出土遺物(鉄滓)
6. 宮地小畑遺跡 調査区出土遺物(甑・胴部)



1. 宮地小畑遺跡 調査区出土遺物(紡錘車) 2. 宮地小畑遺跡 調査区出土遺物(砥石)



1. 宮地小畑遺跡 調査区出土遺物(土錘)

2. 宮地小畑遺跡 調査区出土遺物



1. 宮地観行寺遺跡 1区 土坑SK001(1)・調査区出土遺物

2. 宮地観行寺遺跡 1区 土坑SK003出土遺物



1. 宮地観行寺遺跡 1 区 土坑SK003・調査区出土遺物
3. 宮地観行寺遺跡 2 区 土坑SK002・SK016出土遺物

2. 宮地観行寺遺跡 1 区 調査区出土遺物(中空円面碗)



1. 2. 宮地観行寺遺跡 2区 土坑SK003出土遺物

3. 宮地観行寺遺跡 2区 土坑SK004出土遺物

4. 宮地観行寺遺跡 2区 調査区出土遺物

5. 宮地観行寺遺跡 3区 調査区出土遺物



参考資料(江上コレクションより 八代市立博物館 未来の森ミュージアム所蔵)



宮地小畑遺跡 出土遺物（ヘラ書き）-①



宮地小畑遺跡 出土遺物（ヘラ書き・ヘラ記号）一②



宮地小畑遺跡 出土遺物（ヘラ書き）-③



1. 宮地小畑遺跡 出土遺物（墨書） 2. 3. 宮地観行寺遺跡 出土遺物（ヘラ書き・ヘラ記号）



宮地小畑遺跡出土遺物（靈符焼・窯道具）

報 告 書 抄 録

ふ り が な	やつしろへいやかんたくいせきぐん みやじおばたけいせき みやじかんぎょうじいせき							
書 名	やつしろへいやかんたくいせきぐん 八代平野干拓遺跡群 (高田手永旧堤防 四百町開旧堤防) みやじおばたけいせき 宮地小畑遺跡 宮地観行寺遺跡							
副 書 名	九州新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告							
巻 次								
シ リ ー ズ 名	熊本県文化財調査報告							
シ リ ー ズ 番 号	第 2 5 4 集							
編 著 者 名	宮地小畑遺跡・宮地観行寺遺跡 長谷部善一・宇田員将 八代平野干拓遺跡群 坂口圭太郎							
編 集 機 関	熊本県教育委員会							
所 在 地	〒862-8609 熊本市水前寺 6 丁目 18 番 1 号 Tel.096-333-2706							
発 行 年 月 日	2010年(平成22年) 3月31日							
所 収 遺 跡 名	所在地	コ ー ド		北 緯	東 経	調 査 期 間	調 査 面 積	調 査 要 因
		市町村	遺跡番号					
高田手永旧堤防	熊本県 (43)	八代市(202) 千丁町(462)新牟田	004	座標数値No.1 32° 32' 04.28845"	座標数値No.1 130° 37' 42.84865"	平成15年 1月14日) 平成15年 3月31日	240㎡	九 州 新 幹 線 建 設 工 事
四百町開旧堤防		八代市(202) 鏡町(463)両出	015	座標数値No.1 32° 33' 05.16500"	座標数値No.1 130° 38' 38.54634"	平成16年11月 5日) 平成16年12月24日	60㎡	
宮地小畑遺跡	熊本県 (43)	八代市(202) 宮地町字小畑348 ほか14筆	230	座標数値No.1 32° 29' 59.30203"	座標数値No.1 130° 38' 18.54634"	平成15年 6月23日) 平成15年 9月30日	1,111㎡ (× 3面)	
宮地観行寺遺跡		八代市(202) 宮地町観行寺	229	座標数値No.1 32° 29' 52.15891"	座標数値No.1 130° 38' 18.38322"	平成15年 5月 1日) 平成15年 8月25日	352.4㎡ (× 2面)	
所 収 遺 跡 名	種別	主な年代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
高田手永旧堤防	堤防	近世(文政2年) 1819年～	石列 1条	—		—		
四百町開旧堤防	堤防	近世(寛政11年) 1799年～	石列 2条 溝状遺構 1条	染付椀(椀、皿)		—		
宮地小畑遺跡	集落 散布地	古墳後期 (6世紀後半) 奈良・平安時代 (8世紀から9世紀初頭)	掘立柱建物、土坑、溝、 用途不明遺構、 土石流跡	土師器、須恵器、緑釉陶器、 青磁、白磁、軒丸瓦、平瓦等		本線部調査に引き続き、東側側道部の調査を実施。本線部で検出した土坑群を検出。大型掘立柱建物跡の可能性もあるが、調査区が限定されることから詳細は不明。		
宮地観行寺遺跡			製鉄(小鍛冶)関連遺構、 礫敷溝、土坑(炭窯)			1区古代の遺物包含層中から「中空円面硯」が出土。 2区では、粘土を張り込んだ溝を検出。また、隣接する土坑墓からは製鉄用(小鍛冶)の炭窯と見られる土坑を検出。製鉄関連の遺構と考えられる。		

本表中、北緯・東経は日本測地系で表記している。

印刷仕様

- 判型 / A 4 判
 - 頁数 / 222頁・A 3 折
 - 組版 / 写真写植（13級 小塚明朝Pro）
 - 製版 / スクリーン線数200線で製版
 - 用紙 / 表紙（アートポスト220kg）
本文（上質紙110kg）
写真図版（特アートSA金藤4/6判135kg）
 - 製本 / 左糸懸り
-

熊本県文化財調査報告 第254集

八代平野干拓遺跡群

（高田手永旧堤防・四百町開旧堤防）

宮地小畑遺跡・宮地観行寺遺跡

平成22年3月31日

編集・発行 熊本県教育委員会
〒862-8609 熊本市水前寺6丁目18番1号

印刷 白木メディア株式会社

21 教委 教文

② 009

この電子書籍は、熊本県文化財調査報告第 254 集を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名： 八代平野干拓遺跡群（高田手永旧堤防 四百町開旧堤防） 宮地小畑遺跡
宮地観行寺遺跡群

発行：熊本県教育委員会

〒862-8609 熊本市中央区水前寺 6 丁目 18 番 1 号

電話： 096-383-1111

URL： <http://www.pref.kumamoto.jp/>

電子書籍制作日：2015 年 12 月 8 日